

中木津遺跡・西木津遺跡調査報告

—高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う調査—

2014年3月

高岡市教育委員会

中木津遺跡・西木津遺跡調査報告

—高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う調査—

2014年3月

高岡市教育委員会

序

現在、高岡市におきましては341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で構成された文化は、ご先祖から代々受け継がれ、現代へとつながっています。本市におきましては、長年にわたりこれらの保護を実施して参りました。

このたび報告いたしますのは、平成20年度から平成23年度にかけて屋外本発掘調査を実施した、高岡市木津土地区画整理事業に伴う中木津遺跡と西木津遺跡の発掘調査成果です。

調査の結果、中木津遺跡では、縄文後期から晩期の石囲遺構や土坑が検出されました。また、古代の集落跡や佐野台地一帯を流れる溝の一部が見つかりました。これにより、東木津遺跡や石塚遺跡の北側に古代と中世後半から近世の集落があることが判明しました。西木津遺跡では、中世の集落を検出しています。

本書を郷土における歴史探求や学術研究にご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

高岡市教育委員会
教育長 水見 哲正

例 言

- 1 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した、中木津遺跡と西木津の発掘調査の調査報告書である。
- 2 当調査は高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴い実施したものである。
- 3 屋外発掘調査は、平成22年度及び23年度において実施した。報告書の編集・作成作業は平成24年度及び平成25年度に高岡市教育委員会にて行った。屋外調査、及び一部の整理発掘調査についての体制は、高岡市教育委員会が監理し、高岡市木津土地区画整理組合、事業代行者の株式会社松原建設、そして発掘調査会社で4者協定を締結し実施した。
- 4 高岡市教育委員会の調査関係者は以下のとおりである。

課 長	大巻 宏治（22年度）
	高田 克宏（23～25年度）
課長補佐	富山 尚樹（24・25年度）
主 幹	中野 由美子（22・23年度）
主 査	根津 明義（22～25年度）
主 事	田上 和彦（24・25年度）
事 務 員	田上 和彦（23年度）
嘱託職員	田上 和彦（22年度）
	道振 弘明（22年度）
	阿原 智子（23年度）
	江口 雅子（23～25年度）
	千田 友子（23年度）
	宮野 美重子（23年度）
	杉山 大晋（24・25年度）
	中野 由美子（24・25年度）

- 5 報告書作成において、以下の各氏により御教授、御支援を賜った。（順不同・敬称略）
安念幹倫、酒井重洋（富山県埋蔵文化財センター）、久田正弘（石川県埋蔵文化財センター）、新宅輝久（株式会社アーキジオ）、岡田・広（株式会社エイ・テック）、鈴木景二（富山大学）
- 6 本書は、各担当地区的発掘調査会社の概要を基に杉山が主体となり加筆・編集を実施した。
- 7 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。

凡 例

- 1 本書に掲載した遺構図の方針は座標北であり、水平基準は海拔高である。
- 2 座標は世界測地系を使用し、各地区にてグリッド番号による表記を行っている。
- 3 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。
S A : 樽址 S B : 挖立柱建物 S D : 溝状遺構 S E : 井戸址 S K : 土坑
S X : 四辯及び性格不明遺構
- 4 遺構図における平面図及び上層断面図の縮尺は、それぞれの図版に記載している。
- 5 遺構図の断面や平面図、遺物図面のアミカケは、下記の通りである。

 地山  須恵器  珠潤  赤彩  黒色処理  赤漆

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 遺跡の位置と分布状況

第1節 遺跡の位置	(杉山) 1
第2節 遺跡の分布状況	(杉山) 4

第2章 調査にいたる経緯と経過

(根津) 6

第3章 中木津遺跡試掘調査

第1節 水津区画整理地内試掘調査	(杉山) 8
1. 調査概要 2. 遺構 3. 出土遺物 4. 小結	

第4章 中木津遺跡本調査

第1節 区画整理1区	(杉山) 10
1. 調査概要 2. 遺構 3. 出土遺物 4. 小結	
第2節 区画整理2区	(杉山) 21
1. 調査概要 2. 遺構 3. 出土遺物 4. 小結	
第3節 区画整理3区	(杉山) 30
1. 調査概要 2. 遺構 3. 出土遺物	

第5章 西木津遺跡本調査

第1節 区画整理区	(杉山) 35
1. 調査概要 2. 遺構 3. 出土遺物 4. 小結	

第6章 結語

(杉山) 38

挿図目次

第1図 庄川扇状地と中木津遺跡位置図	3
第2図 遺跡分布図	4
第3図 調査地区位置図	6
第4図 区画整理1区調査地区設定図	10
第5図 区画整理1区下層確認トレンチ位置図	11
第6図 区画整理1・2区基本層序図	13
第7図 区画整理3区調査地区設定図	30

第 8 図 区画整理 3 区基本層序図	31
第 9 図 区画整理区基本層序図	35
第 10 図 主要遺構概念図	40

図面目次

- 遺構実測図（試掘報告）木津神社遺跡（中木津遺跡）
- 図面 01 遺構実測図 主要遺構図（1／2500）
- 図面 02 遺構実測図 D 区 遺構全体図（1／400）
- 図面 03 遺構実測図 D 区 土坑 SX07 実測図（1／40・1／60）
- 遺構実測図 中木津遺跡
- 図面 04 遺構実測図 区画整理 1 区遺構全体図（1／1000）
- 図面 05 遺構実測図 区画整理 1 区遺構概略図 1（1／400）
- 図面 06 遺構実測図 区画整理 1 区遺構概略図 2（1／400）
- 図面 07 遺構実測図 区画整理 1 区遺構概略図 3（1／400）
- 図面 08 遺構実測図 区画整理 1 区遺構概略図 4（1／400）
- 図面 09 遺構実測図 区画整理 1 区 挖立柱建物 SB01 実測図（1／100・1／40）
- 図面 10 遺構実測図 区画整理 1 区 挖立柱建物 SB02 実測図（1／80・1／40）
- 図面 11 遺構実測図 区画整理 1 区 挖立柱建物 SB03 実測図（1／80・1／40）
- 図面 12 遺構実測図 区画整理 1 区 棚列 SA01・02・03 実測図（1／100・1／80）
- 図面 13 遺構実測図 区画整理 1 区 溝 SD202・204・206・210・222・223 土層断面図（1／60）
- 図面 14 遺構実測図 区画整理 2 区 地区全体図 1（1／800）
- 図面 15 遺構実測図 区画整理 2 区 地区全体図 2（1／800）
- 図面 16 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 1（1／400）
- 図面 17 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 2（1／400）
- 図面 18 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 3（1／400）
- 図面 19 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 4（1／400）
- 図面 20 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 5（1／400）
- 図面 21 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 6（1／400）
- 図面 22 遺構実測図 区画整理 2 区 遺構概略図 7（1／400）
- 図面 23 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB01 実測図（1／80・1／40）
- 図面 24 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB02 実測図（1／100・1／40）
- 図面 25 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB03 実測図（1／100・1／40）
- 図面 26 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB04 実測図（1／100・1／40）
- 図面 27 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB05 実測図（1／80・1／40）
- 図面 28 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB06・07 実測図（1／80・1／40）
- 図面 29 遺構実測図 区画整理 2 区 挖立柱建物 SB08 実測図（1／100・1／40）
- 図版 30 遺構実測図 区画整理 2 区 溝 SD11 実測図（1／400・1／100）

- 図面 31 遺構実測図 区画整理 2 区 溝 SD48 実測図 (1/250・1/80)
図面 32 遺構実測図 区画整理 2 区 溝 SD107・111 実測図 (1/400・1/40)
図面 33 遺構実測図 区画整理 3 区 遺構全体図 (1/1200)
図面 34 遺構実測図 区画整理 3 区 遺構概略図 1 (1/400)
図面 35 遺構実測図 区画整理 3 区 遺構概略図 2 (1/400)
図面 36 遺構実測図 区画整理 3 区 遺構概略図 3 (1/400)
図面 37 遺構実測図 区画整理 3 区 遺構概略図 4 (1/400)
図面 38 遺構実測図 区画整理 3 区 挖立柱建物 SB01 実測図 (1/80・1/40)
図面 39 遺構実測図 区画整理 3 区 溝 SD14・SD21 実測図 (1/80)
図面 40 遺構実測図 区画整理 3 区 溝 SD 5・6・7・18・19 (1/100・1/40・1/50)
遺構実測図 西木津遺跡
図面 41 遺構全体図 区画整理区 遺構全体図 (1/400)
図面 42 遺構実測図 区画整理区 G 地点遺構概略図 (1/200)
図面 43 遺構実測図 区画整理区 F 地点遺構概略図 (1/200)
図面 44 遺構実測図 区画整理区 溝 S D 65、土坑 S K 31・33・39、柱穴 S P 67・69 実測図
(1/100・1/40)
遺物実測図 中木津遺跡
図面 45 遺物実測図 1 区 溝 SD204〔1〕出土遺物
図面 46 遺物実測図 1 区 溝 SD204〔2〕出土遺物
図面 47 遺物実測図 1 区 溝 SD204〔3〕出土遺物
図面 48 遺物実測図 1 区 溝 SD203・SD204〔4〕、NR01 出土遺物 (1/3・2/3)
図面 49 遺物実測図 1 区 溝 SD206、SD210〔1〕出土遺物 (1/3)
図面 50 遺物実測図 1 区 溝 SD210〔2〕、SD214・237、SX505、SP1119 出土遺物 (1/3)
図面 51 遺物実測図 1 区 遺構外出土遺物〔1〕
図面 52 遺物実測図 1 区 遺構外出土遺物〔2〕、下層トレンチ、試掘 SX07 他出土遺物 (1/3)
図面 53 遺物実測図 2 区 建物・溝出土遺物 (1/3)
図面 54 遺物実測図 2 区 溝 SD11・43・48・51・107 出土遺物 (1/3)
図面 55 遺物実測図 2 区 溝 SD57 出土遺物 (1/3)
図面 56 遺物実測図 2 区 不明土坑 SX03 出土遺物 (1/3)
図面 57 遺物実測図 3 区 溝 SD14 出土遺物 (1/3・1/6)
図面 58 遺物実測図 3 区 柱穴 SP43・50・51、土坑 SK7・27、溝 SD6・18・21・33
出土遺物 (1/3)
遺物実測図 西木津遺跡
図面 59 遺物実測図 区画整理区 溝 SD65〔1〕出土遺物 (1/3)
図面 60 遺構実測図 区画整理区 溝 SD65〔2〕、他柱穴・土坑・溝出土遺物 (1/3)

図版目次

木津神社遺跡（中木津遺跡）

- 図版 01 遺構写真 D区
1. 第4トレンチ北東遺構検出状況（南）
2. 第4トレンチ土坑SX07検出状況（北）
3. 第4トレンチ土坑SX07縄文土器出土状況（南）
- 図版 02 遺構写真 D区
1. 第8トレンチ土層確認断面（西）
2. 第8トレンチ縄文土器出土状況1（西）
3. 第8トレンチ縄文土器出土状況2（西）

中木津遺跡

- 図版 03 遺構写真 区画整理1区
1. 遺跡遠景（南）
2. 区画整理1-1区全景（南東）
- 図版 04 遺構写真 区画整理1区
1. 区画整理1-2区全景（南）
2. 区画整理1-3区西側全景（北西）
- 図版 05 遺構写真 区画整理1区
1. 挖立柱建物SB01全景（南）
2. 挖立柱建物SB02全景（南東）
- 図版 06 遺構写真 区画整理1区
1. 溝SD201全景（北）
2. 溝SD210全景（北）
- 図版 07 遺構写真 区画整理1区
1. 溝SD201全景（東）
2. 溝SD206全景（南）
- 図版 08 遺構写真 区画整理1区
1. 溝SD204南側全景（北西）
2. 溝SD204西側全景（南西）
- 図版 09 遺構写真 区画整理1区
1. 溝SD204遺物出土状況（西）
2. 溝SD204遺物出土状況（北西）
3. 溝SD204遺物出土状況（南）
- 図版 10 遺構写真 区画整理2区
1. 調査区北側垂直写真（上が北東）
2. 調査区南側垂直写真（上が北西）
- 図版 11 遺構写真 区画整理2区
1. 挖立柱建物SB02～04南側拡張部全景（北東）
2. 挖立柱建物SB01～04全景（南東）
- 図版 12 遺構写真 区画整理2区
1. 挖立柱建物SB01完掘状況（西）
2. 挖立柱建物SB02完掘状況（西）
3. 挖立柱建物SB02拡張部完掘状況（西）
- 図版 13 遺構写真 区画整理2区
1. 挖立柱建物SB03完掘状況（西）
2. 挖立柱建物SB04完掘状況（西）
3. 挖立柱建物SB05完掘状況（北）
- 図版 14 遺構写真 区画整理2区
1. 挖立柱建物SB06完掘状況（北）
2. 挖立柱建物SB07完掘状況（南）
3. 溝SD11完掘状況（南）

- 図版 15 遺構写真 区画整理 2 区 1. 溝 SD43 完掘状況（東）
2. 溝 SD43 分岐部完掘状況（南）
3. 溝 SD48 全景（北）
- 図版 16 遺構写真 区画整理 3 区 1. 調査区全景（南西）
2. A 地点垂直写真（上が南西）
3. 調査区北側全景（北東）
- 図版 17 遺構写真 区画整理 3 区 1. B 地点垂直写真（上が北東）
2. C 地点垂直写真（上が南西）
3. E 地点垂直写真（上が南東）
- 図版 18 遺構写真 区画整理 3 区 1. C 地点握立柱建物 SB01 完掘状況（北東）
2. A 地点溝 SD 4・5・6 完掘状況（南西）
3. A 地点溝 SD16・17 完掘状況（南）
- 図版 19 遺構写真 区画整理区 1. B 地点溝 SD14・21 完掘状況（南西）
2. E 地点土坑 SK27・28・29 完掘状況（北東）
3. E 地点北壁土層断面（南）
- 西木津遺跡
- 図版 20 遺構写真 西木津遺跡 区画整理区 1. 遺跡遠景（北）
2. F・G 地点垂直写真（上が南東）
3. G 地点土坑 SK39 完掘状況（南）
- 図版 21 遺構写真 西木津遺跡 区画整理区 1. F 地点土坑 SK52 遺物出土状況（南）
2. F 地点溝 SD65 完掘状況（西）
3. F 地点溝 SD65 遺物出土状況（北東）
- 図版 22 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 古代須恵器
- 図版 23 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 古代須恵器・土師器
- 図版 24 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 古代須恵器・土師器 中世珠洲
- 図版 25 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 繩文土器 古代土師器 石製品他
- 図版 26 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 古代墨書き土器・軸用硯・製塙土器
- 図版 27 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 繩文土器 古墳～古代土師器
- 図版 28 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 繩文土器 古代須恵器・土師器 中世陶磁器
土製品
- 図版 29 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 土器類 繩文土器 弥生土器 土製品 製塙土器
- 図版 30 遺物写真 木津神社遺跡（中木津遺跡） 試掘 D 区 土器類 繩文土器
- 図版 31 遺物写真 木津神社遺跡（中木津遺跡） 試掘 D 区 土器類 繩文土器
- 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 石製品
- 図版 32 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 1 区 木製品 金属製品
- 中木津遺跡 区画整理 2 区 土器類 繩文土器 古代須恵器 近世陶磁器
- 図版 33 遺物写真 中木津遺跡 区画整理 2 区 土器類 土師器 古代須恵器 中世珠洲

図版 34	遺物写真	中木津遺跡	区画整理2区	土器類	古代須恵器	中世珠洲・土師器	近世陶磁器 土製品
図版 35	遺物写真	中木津遺跡	区画整理2区	土器類	中世陶器	近世陶磁器	
図版 36	遺物写真	中木津遺跡	区画整理2区	土器類	近世陶磁器	木製品	
図版 37	遺物写真	中木津遺跡	区画整理3区	土器類	縄文土器	古代須恵器・土師器	
図版 38	遺物写真	中木津遺跡	区画整理3区	土器類	古代須恵器・土師器	中世磁器	中世土師器
図版 39	遺物写真	中木津遺跡	区画整理3区 西木津遺跡	土器類	縄文土器	古代須恵器・土師器	中世土師器 瓦器
図版 40	遺物写真	西木津遺跡	区画整理区	土器類	中世珠洲		

表目次

表 1 漢分類案

表 2 遺構一覧

表 3 遺物一覧

第1章 遺跡の位置と分布状況

第1節 遺跡の位置

福田と佐野 高岡市街地の南西郊外は、かつての佐野村、福田村の地である。中木津遺跡は佐野地区木津集落の南側、福田地区石塚集落の西側に位置する。

木津集落とその周辺 庄川扇状地を形成する支流の1つに千保川がある。千保川は江戸時代までは庄川の本流となっており、寛文10（1670）年から正徳4（1714）年にかけて実施された加賀藩による河川改修によって現在の流路となった。千保川を小矢部川との合流地点から約3.0km遡った左岸に木津集落が位置する。木津集落は佐野台地の北東端部に位置し、ここより北東方は千保川の氾濫源となる。この氾濫源の対岸は高岡台地（現市街地中心部）である。

木津地区は江戸時代から明治22年までは木津村であり、その後は北部が高岡市に、南部は佐野村に所属した。佐野村は、佐野・西藤平蔵・十二町島・北嶽新・中坪新・木津新・上関新の7箇村と鷺島新・木津・鶴島・上関・上黒田・下黒田の一部が合併したものである。昭和17年に佐野村が高岡市と併合することに伴い、高岡市の大字となり現在に至っている。佐野村は射水郡二上莊に属し、佐野郷として鎌倉時代の文献にみられる。佐野郷、佐野村は射水郡に含まれてきた地域である。高岡市においては中央部にあたり、北側は旧射水郡高岡町、東側は旧射水郡二塚村、南側は旧砺波郡戸出町、西側は旧砺波郡福田村の地域である。佐野地区の南および西の境界で旧射水郡と旧砺波郡の境となり、古代の郡界もこの付近に推定され、ここまでが射水郡とされている。

佐野地区は庄川扇状地の豊富な伏流水の湧水帯にあたり、特に木津地区では昭和2年に高岡市上水道計画における水源地として指定された。近年、佐野地区では大型の宅地化が進み、北側には南星町、中央部には泉ヶ丘団地など造成が行われている。佐野地内の東部には高岡を起点とする国道156号が南北に走り、砺波・五箇山を通り岐阜県岐阜市に達している。

石塚集落とその周辺 庄川扇状地を形成する支流の一つに祖父川がある。祖父川を小矢部川との合流地点から約1.5km遡った右岸に石塚集落が位置する。石塚集落には県道高岡環状線が貫き、祖父川の対岸には近世北陸道にあたる県道鴨島立野線が走る。県道高岡環状線と県道鴨島立野線は北接する集落である上北島集落で合流する。石塚の名は砺波郡吉積莊に属する村として「石塚村」が南北朝時代の文献に見えるものである。石塚集落の北側は上北島（旧上北島村）、東側は佐野（旧佐野村）、南側は辻（旧辻村）、西側は六家（旧六家村）である。

石塚地区は江戸時代から明治22年までの石塚村であり、その後は明治22年に成立した福田村に所属した。福田村は、佐野・福田新・上北島・石塚・辻・蔵野町・荒見崎の7箇村を合併したものである。昭和24年に福田村が高岡市と併合することに伴い、高岡市の大字となり現在に至っている。福田の地名は福田郷・福田荘として鎌倉時代から戦国時代の文献に見えるものである。福田郷の惣社は、延喜式内社とされる崩波神社である。福田村は砺波郡、郡の分割後は西砺波郡に含まれてきた地域である。高岡市においては中央部にあたり、北側は旧射水郡横田村、東側は旧射水郡佐野村、南側は旧砺波郡戸出町、西側は旧砺波郡東五位村の

地域である。福田地区の北および東の境界で旧射水郡と旧砺波郡の境となり、古代の郡界もこの付近に推定され、ここまでが砺波郡とされている。福田地内の西側には北東から南西方向に国道8号が走り、また並行して近世北陸道である県道立野鴨島線が走る。また、近世城端道である県道高岡環状線は上北島地内で県道立野鴨島線から分岐し、戸出・砺波方面へ延びている。

地勢

庄川扇状地 庄川は、飛騨高地の中央部、岐阜県莊川村鳥帽子岳に発し、庄川町金屋で平野部へ出て、砺波平野の東端を北流し、新瀬市六渡寺で富山湾へ注ぐ全長132kmの川である。庄川町金屋で平野部に出ると、北西方向に拡がる扇状地を形成し、この扇状地は砺波平野の主要部となる。現在の庄川は庄川扇状地の東端部を北流しているが、これは寛文10（1670）年から正徳4（1714）年にかけて実施された加賀藩による河川改修と疏路の開拓によるもので、それ以前は千保川筋が庄川本流であった。この加賀藩の河川改修では、高岡市能町地区で小矢部川と合流していた。明治29（1896）年に伏木地区で相次いで洪水し、また伏木港の建設のため、小矢部川と庄川を分流する工事が行われ、明治45（1912）年に工事が完了し現在のように富山湾へ直接注ぐようになった。現在は庄川の上流部には幾多のダムが建造され、また砺波平野の灌漑用水源として利用されているため、河床の低下が著しくなっている。

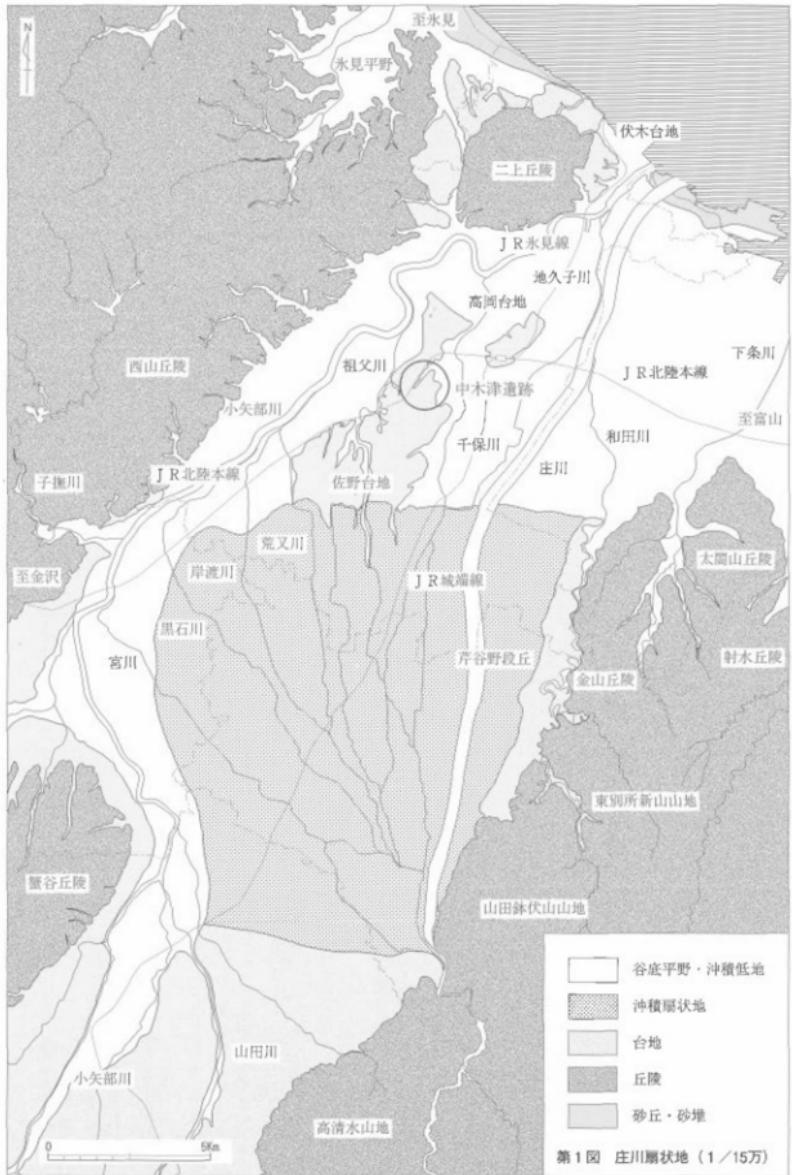
庄川扇状地を形成する庄川の支流は、いずれも扇状地の西端部を北流する小矢部川に注ぎ込む。小矢部川は、石川県と富山県との境の大門山に発し、福光町網掛で平野部へ出る。砺波平野と共に続く射水平野の西側を緩やかに曲流した後、二上山の南麓から東麓へ走り、高岡市伏木より富山湾へと注ぐ、全長67kmの川である。大小いくつもの川がこの小矢部川へ流れ込み、排水河川として機能している。

祖父川 庄川の支流で小矢部川へと流れ込む川の1つに祖父川がある。祖父川は庄川扇状地扇尖部の砺波市三郎丸で舟戸口用水から流れ出し、高岡市早川にて小矢部川へ注ぎ込む全長13.9kmの川である。舟戸口用水は庄川扇状地の扇頂部にあたる庄川町金屋から砺波市三郎丸までの灌漑用水であり、三郎丸にて祖父川と千保川に分流する。祖父川は高岡市南西部の灌漑用水、また伏流水などの排水路として機能している。

千保川 庄川の支流で小矢部川へと流れ込む川の1つに千保川がある。千保川は庄川扇状地の扇頂部にあたる庄川町金屋で庄川から流れ出し、高岡市街地の中央部を縦断し、高岡市四屋にて小矢部川へ注ぎ込む全長18kmの川である。江戸中期までは庄川の本流であり、小矢部川との合流点は木町として、初期高岡町の港津として発展したが、庄川が現在の流路になると小矢部川の流量が減り、港津の機能は伏木へと移った。

佐野台地 佐野台地は往古の庄川が形成した扇状地の扇端部で、西は小矢部川、東は千保川の浸食によつて段丘化した標高10~20mの台地である。千保川の対岸には高岡台地があり、本台地と高岡台地は連続する台地であったと考えられている。本台地の中央部には祖父川が北流し2分している。本台地では庄川の伏流水による湧水が非常に豊富で、台地の端には伏流水がつくる小河川によって浸食谷が形成されている。

本台地上では縄文時代後期から人々の定住が確認され、弥生時代中期以降は台地の端部に中核的集落が形成される。現在は半島状に突出した部分は高岡市街地となり、それ以外は田園地帯が広がっている。



第2節 遺跡の分布状況

中木津遺跡と西木津遺跡 高岡市街地の南西郊外、祖父川と千保川に挟まれた標高11~12mの微高地に中木津遺跡と西木津遺跡が立地する。ここは往古の庄川が形成した扇状地の末端に当たり、佐野台地と呼ばれている。当遺跡の西側には和田川とその周辺の谷状低地部が走り、微高地を大きく2分している。

中木津遺跡は、旧称は木津神社遺跡であり、昭和62年の遺跡分布調査で確認された。平成20年度に木津土地区画整理事業に伴う試掘調査を実施し、遺跡範囲および名称の変更を実施した。縄文時代晚期以来の複合集落跡である。西木津遺跡は、同じく昭和62年の遺跡分布調査で確認された。平成20年度の同土地区画整理事業に伴う試掘を実施している。中世から近世にかけての集落跡である。



第2図 遺跡分布図 (1/2万5千)

11. 中木津遺跡、12. 東木津遺跡、13. 小竹B遺跡、14. 小竹C遺跡、15. 中保A遺跡、16. 中保B遺跡、17. 中保C遺跡、18. 椿塚遺跡
19. 止瀬跡、20. 蔵野町遺跡、21. 志野町東遺跡、22. 芦見崎北遺跡、23. 芦見崎村内遺跡、24. 下北島住吉遺跡、25. 上北島遺跡
26. 石塚江之戸遺跡、27. 石塚五俵山遺跡、28. 石塚猪俣保遺跡、29. 石名森A墓跡、30. 西佐野千代通跡、31. 石名森B遺跡、32. 北木津遺跡
33. 西木津遺跡、34. 石塚遺跡、35. 球ヶ丘遺跡、36. 下佐野遺跡、37. 深訪遺跡、38. 上黒田遺跡、39. 石塚六方遺跡

祖父川沿いの遺跡

橋田地区の遺跡 佐野台地の北西部は半島状に突出しており、その付け根の位置に石塚遺跡が所在する。石塚遺跡は縄文時代後期以来の複合集落跡である。石塚遺跡の北側には下北烏住吉遺跡・上北烏住吉遺跡が所在する。石塚集落の北側には湧水による浸食谷が東西方向に走り、谷の北側台地上に石塚江之戸遺跡が所在し、縄文土器（晩期）が出土し、中世の遺構・遺物が確認されている。石塚遺跡の南西側には石塚五俵田遺跡・石塚蜻蛉遺跡が所在し、縄文土器（後～晩期）が表採されている。石塚遺跡が南に拡張することが判明し、南接していた石塚屋敷田遺跡は石塚遺跡に含まれることになった。石塚遺跡の北東側には石名瀬B遺跡がある。

立野地区の遺跡 立野地区はJR西高岡駅周辺に位置し、ここでは祖父川が大きく蛇行している。この蛇行部では佐野台地が半島状に西へ突出しており、この突出部に辻遺跡が所在する。祖父川を挟んで辻遺跡の対岸には桶詰遺跡が所在する。祖父川が大きく北西方向に張り出す部分の右岸微高地に中保A遺跡・中保C遺跡が所在する。祖父川を挟んで中保A遺跡の西側の対岸には中保B遺跡が所在する。中保B遺跡は平成6年度以来の調査にて、縄文時代後期からの複合遺跡であることが判明している。中保B遺跡の西側には立野地頭田遺跡があり、祖父川をやや通った位置に小竹A遺跡・小竹B遺跡・小竹C遺跡が所在する。佐野台地の西端部には駒形遺跡・高田新茅道遺跡・高田新西後遺跡が所在し、これらの遺跡は高岡工芸高等学校地理歴史クラブOB会により調査され、縄文時代後～晩期の遺跡であることが判明している。佐野台地の最西端には弥生時代後期の中核的集落遺跡である下老子笹川遺跡が所在する。

千保川沿いの遺跡

佐野地区の遺跡 佐野台地の北東部に中木津遺跡が所在する。中木津遺跡に南接する東木津遺跡は弥生時代以来の複合集落であり、特に奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されている。中木津遺跡の北側には西木津遺跡・北木津遺跡が所在する。東木津遺跡に南接して泉ヶ丘遺跡と下佐野遺跡がある。泉ヶ丘遺跡は昭和37年の泉ヶ丘団地の造成中に確認された遺跡であり、縄文土器（晩期）が採集されている。下佐野遺跡からは弥生時代終末期～古墳時代初期の周溝墓群と集落跡、古代の官衙的要素を持つ集落や中世の集落が確認されている。下佐野遺跡の西側には、石名瀬A遺跡があり、弥生時代中期以来の複合集落跡である。特に弥生中期～古墳前期の方形周溝墓や竪穴建物・掘立柱建物で構成される集落跡が特筆される。古代においては、下佐野遺跡や石名瀬A遺跡・東木津遺跡からは、斎申や人形などの木製祭祀具が出土している。加えて、人面墨書き土器や馬が書かれた墨画土器も出土することから古代祭祀に関連する遺物も多く確認される。祖父川と千保川の中間地点に荒見崎集落が位置し、集落の北東側に荒見崎北遺跡、北西側には藏野町遺跡、南東側には荒見崎村内遺跡がある。荒見崎村内遺跡は弥生時代中期を中心とし、昭和56・57年にかけて試掘調査が行われ荒見崎遺跡として報告されている。

高岡台地の遺跡

千保川を挟み佐野台地の対岸には高岡台地が広がる。東木津遺跡の北東3.0kmのところには、近世高岡の中心となった高岡城跡がある。この城は加賀前田家2代当主前田利長が築いた城である。この高岡城跡内には2つの縄文時代の遺跡がある。高岡城跡の南西部には大手町遺跡が所在し、北東部には小竹戸遺跡が所在する。高岡城跡の北方には中川遺跡・古定塚遺跡がある。中川遺跡は縄文時代晩期を中心とした遺跡であり、古定塚遺跡は旧石器の採集地である。

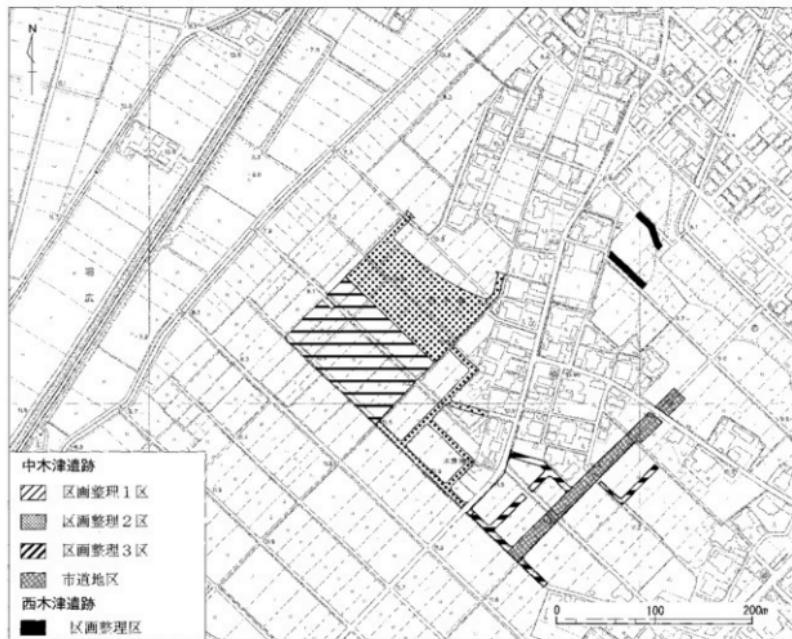
第2章 調査に至る経緯と経過

調査計画

平成20年、高岡市木津土地区画組合による総面積約40,000m²の区画整理事業が同地において計画され、高岡市教育委員会あてに埋蔵文化財保護に係る取り扱いが打診された。その後、両者間で協議を行い同年秋季より試掘調査を実施し、今後の調査計画や開発計画を検討することとした。

試掘調査の結果、多くの範囲において埋蔵文化財が所在することが判明し、また原因者側の意向も含めこのうち約25,000m²に対する本発掘調査を依頼される運びとなった。初年度は中木津遺跡の22,566m²を調査し、2年目は同遺跡の、2,401m²と、西木津遺跡の546m²を発掘調査を行った。

発掘調査の実施にあたっては、高岡市教育委員会のほか、原因者である高岡市木津土地区画整理組合、事業代行者の株式会社松原建設、そして民間発掘会社の4者にて協定を締結し実施した。



第3図 調査地区位置図 (1/5,000)

なお、調査経過及び担当した民間発掘調査会社は以下のとおりである。

平成20年度 試掘調査 本木津神社遺跡 担当調査会社：株式会社エイ・テック

調査対象面積：36,600m² 調査面積：4,140m²

西木津遺跡 担当調査会社：株式会社エイ・テック

調査対象面積：3,400m² 調査面積：360m²

平成20年度の試掘調査により、中木津遺跡の西側部分については埋蔵文化財が存在しないものと判断され、指定からは外すこととした。また存続した時代についても新たに縄文時代後期・晩期を追加するべきことが判明した。遺跡名についても平成22年に「木津神社遺跡」を改め、「中木津遺跡」と変更した。

平成22年度 本発掘調査 中木津遺跡 区画整理1区 担当調査会社：株式会社エイ・テック

調査対象面積：11,258m²

中木津遺跡 区画整理2区 担当調査会社：株式会社アーキジオ

調査対象面積：11,308m²

平成23年度 本発掘調査 中木津遺跡 区画整理3区 担当調査会社：株式会社アーキジオ

調査対象面積：2,401m²

西木津遺跡 区画整理区 担当調査会社：株式会社アーキジオ

調査対象面積：546m²

平成22年度 整理作業 中木津遺跡 区画整理1区 担当調査会社：株式会社エイ・テック

実施期間：平成22年4月14日～平成23年2月16日

遺物洗浄・注記・測量図編集・概要報告書作成を実施

中木津遺跡 区画整理2区 担当調査会社：株式会社アーキジオ

実施期間：平成23年10月～平成24年3月16日 整理調査 報告書原案作成

平成24年度・平成25年度 中木津遺跡 区画整理3区・西木津遺跡 区画整理区

整理作業 高岡市教育委員会直管で実施。

実施期間：平成24年4月～平成25年10月

遺物洗浄・注記・遺物実測・概要報告書作成・編集を実施

第3章 中木津遺跡試掘調査

第1節 木津区画整理地内試掘調査

1. 調査概要

調査対象地が土地区画整理事業による開発が予定されたため、事業計画地内における埋蔵文化財包蔵対象地について調査を実施した。発掘調査は平成20年5月19日～同年7月3日まで実施した。調査地区名は便宜上A～Eの区割を設定し、各地区内の水田、畑に各1～2本の幅2mの試掘坑を設定した。掘削前に、記録の作成を行い、窪地など一部の遺構は部分的に掘り下げ、内容の把握を行った。報告する縄文時代後期の遺構は、D区で検出された。ここで報告する遺構については、本調査にて出土した縄文土器を理解するのに必要と考え報告する。調査全体で確認された遺構と遺物は下記の通りである。

A区 検出遺構：掘立柱建物、ピット、土坑、溝、窪地

出土遺物：土師器、須恵器、青磁、珠洲、越中瀬戸、伊万里

B区 検出遺構：ピット、土坑、溝、窪地

出土遺物：土師器、須恵器、青磁、珠洲、越中瀬戸、伊万里、肥前

C区 検出遺構：ピット、土坑、溝、窪地、自然流路

出土遺物：縄文土器、土師器、須恵器、伊万里、肥前

D区 検出遺構：ピット、土坑、溝、窪地

出土遺物：縄文土器、土師器、須恵器、白磁、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、肥前、伊万里、石器

E区 検出遺構：ピット、土坑、溝、窪地

出土遺物：縄文土器、土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸、肥前、伊万里

2. 遺構

土坑SX07（図面02・03）

D区T4北端部の東壁際で一部検出した。1／2がトレンチ外に続いていること、周囲から縄文土器が多く検出されたことから、トレンチ北端部周囲を拡張して確認調査を行った。平面規模は直径約50cmの円形で、約20～30cmの川原石を周囲に配置している。遺構は未掘削であるが、被熱痕や焼土、炭化物など明確にはみられなかった。周辺からは縄文土器の小破片が検出面に貼り付いたかたちで、ややまとまって出土した。SX07周囲の検出面は、部分的に若干灰褐色の粘性のある土や、炭化物の粒が混じった土がみられた。

3. 出土遺物

C・D区出土遺物（図面52）

縄文土器は遺跡北西端部にあたるC区と南東部にあたるD区から出土した。そのうち、D区T4拡張区SX07周辺とD区T8サブトレンチ内で多くの遺物が出土した。156のみが晩期前業～中業の中屋式に属する。その他の縄文土器のすべては晩期中業～後業の下野式に属するものである。

中本津遺跡（旧木津神社遺跡）の北西端部にあたるC区からは、141と156の2個体を図化した。D区T4にあたるSX07からは、140・142・143・146・150・155・157の計7個体を図化した。D区T8で検出されたSX07周辺からは、139・144・145・147～149・151～154の計10個体を図化した。以下に器種別に記述する。

140～145、146～154、157は深鉢である。鉢の可能性がある遺物もこの分類に含む。139は口縁外面に、沈線による工字文風の文様帯をもつ。口縁はほぼ垂直に伸び、端部は外反する。140は口縁外面に沈線を施す。口縁は外反して開く。141は口縁外面に横方向、体部に斜め方向の二枚貝による条痕を施す。口縁端部内面には浅い沈線を1条施す。口縁はやや内湾気味に伸び、端部は直線的に開く。142は体部である。外面に沈線により、横位の綾杉状の文様を連続して施す。143は体部である。外面に斜め方向の二枚貝による条痕を施す。144は口縁外面に沈線による文様帯をもち、工字文を施す。口縁は直線的にやや口縁は外反して開く。146は口縁端部上面と内面を指で押さえて、やや波状口縁とする。口縁外面直下に貼り付け文様が剥離した状況が観察される。口縁は直線的に開く。147は口縁外面に沈線を2条施す。148は口縁外面に横方向、体部に斜め方向の条痕を施す。口縁端部内面には浅い沈線を1条施す。口縁は体部から直線的に開く。149は口縁外面に横方向の条痕を施す。150は口縁外面に横方向の条痕を施す。口縁は直線的に開く。151は口縁外面に斜め方向の条痕を施す。口縁は直線的に開き、端部はやや尖る。152は口縁外面に横方向の条痕を施す。口縁は波状に突起した部分を持ち、直線的に開く。端部は丸くおさめる。153は外面に沈線区画内に列点文を施す。154は体部である。外面に斜め方向の二枚貝による条痕を施す。157は底部である。平底で、器壁は薄い。155はC区で出土した精製の浅鉢である。外面に施した地縄文をミガキ消して、雲形文状の文様などを施す。外面は全面を赤彩する。内面はミガキを行う。体部から口縁まで内湾して開き、端部は丸くおさめる。145・156は器種不明の体部である。145は外面に沈線による工字文風の文様を施す。156は体部である。外面に沈線による文様帯が若干残存する。

4. 小結

試掘調査で出土した遺構・遺物の多くは本調査の結果、検出されて本章以降にて報告している。

SX07は縄文晚期の遺構と考えられ、中本津遺跡区画整理3区で検出されたSD14・21の南側の近い所に位置する。東西に流れる大溝からは、縄文後期～晚期の縄文土器が少量ながら出土していることから、SD14・21とSX07は同時期に存在した可能性が指摘できる。近隣において当該期にかかる石臼の炉の検出例はなく、焼土の痕跡も見られないことから土坑とした。住居・建物の存在は現状では確認できないことに加え、県内・隣県で石臼を持つ炉は確認されておらず^{*1}、上記の遺構の埋土の特徴から縄文晚期の墓などの埋葬に関連する遺構である可能性を指摘したい。

*1 石川県埋蔵文化財センター久田正弘氏の御教授による。

第4章 中木津遺跡本調査

第1節 区画整理1区

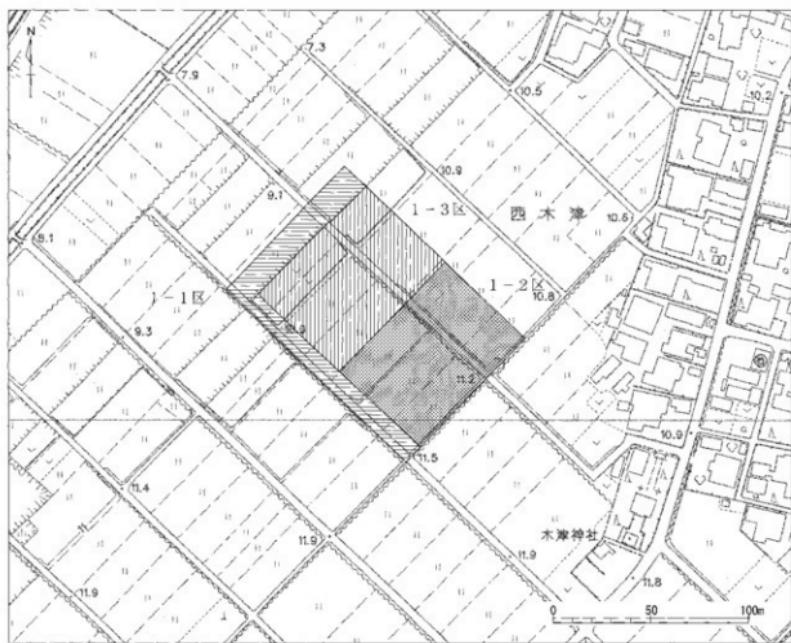
1. 調査概要

調査地区の設定

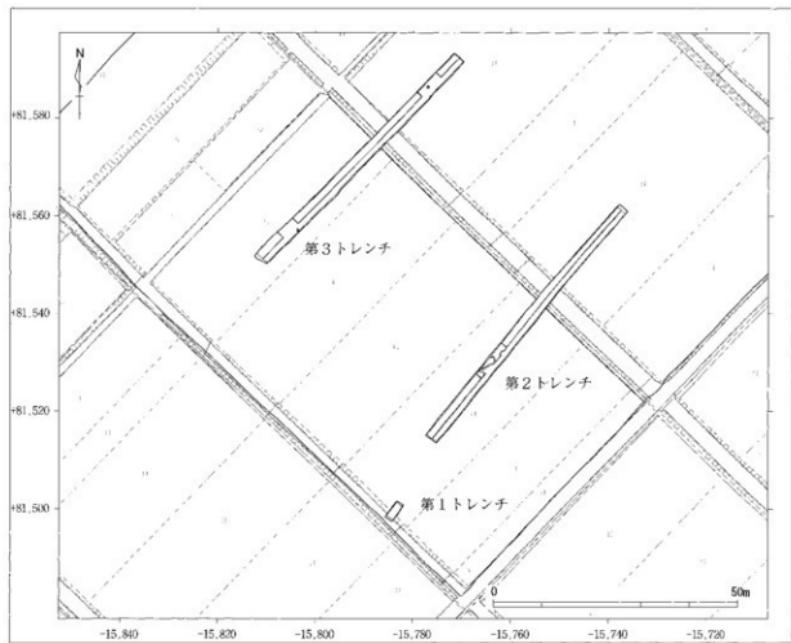
工事の進捗や航測撮影面積等を考慮し、地区を3つに細分し調査を実施した。調査地区名を作業する順に1-1～1-3地区とし、それぞれ調査終了後に空撮を実施した。

1-1地区は、調査対象地の南および西側のL字状の地区である。平成22年4月14日から同年5月21日まで実施した。東西方向では溝S D201～209、南北方向は自然流路N R01を検出した。S D204の肩部では縄文時代晚期の繩文土器が2個体がまとまって出土した。またS D204からは9世紀の土師器碗がまとまって出土した。5月19日と5月21日に空撮を実施した。5月21日に下層遺構確認を実施し、調査を終了した。

1-2地区は、調査地区の東半部である。平成22年5月11日から同年6月26日まで調査を実施した。中近世の掘立柱建物S B01、奈良平安時代の溝S D206・S D211、近世～近代の溝S D210等を検出した。



第4図 調査地区設定図 (1/2,500)



第5図 下層確認トレンチ位置図 (1/1,000)

1-3地区は、調査地区の西半部である。平成22年6月21日から同年8月19日まで実施した。1-3地区近現代の幅10~20cmの溝を多数確認した。6月26日に空撮を実施した。なお、1-3地区と同時に再度撮影をするため完掘状態を維持した。1-3地区の空撮が終了した8月9日~8月19日まで下層確認を実施しの北端部で黒褐色シルト層（第Ⅲ層）の地山を確認し、上面で遺構検出したが、明確な遺構が確認できず第Ⅲ層を除去しにぶい黄橙色細粒砂層（第Ⅳ層）まで掘削し、遺構検出を実施した。奈良平安時代の溝S D204が屈曲して検出され、溝の底面からは平安時代の土師器・須恵器が出土した。7月30日に中学生現地学習会を実施した。8月6日に空撮を実施した。8月9日~8月19日まで下層確認を実施し、調査を完了した。

基本層序

表土（第Ⅰ層）は耕作土で、10~30cmの厚さで堆積しており、その下はにぶい黄橙色シルト層（第Ⅱ層）が20~58cm堆積しており、第Ⅱ層上面が遺構検出面となる。その下には黒褐色シルト層（第Ⅲ層）が18~30cm堆積しており、上面および層中からは縄文時代晩期の遺物が少量含まれる。その下はにぶい黄橙色細粒砂層（第Ⅳ層）でこの層からは遺構・遺物は確認されない。

検出遺構

検出遺構は、掘立柱建物址3棟をはじめ、柵址2条、土坑5基、溝21条、門地1基である。年代的には古代、中世の2時期に区分できる。

出土遺物

出土遺物は以下のとおりである。縄文後期からの遺物があり、古代、中世、近世の遺物が確認されている。

土器類 縄文上器、土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、白磁、青磁、青花、越中瀬戸、関西系陶器
京焼、肥前、伊万里、製塩土器

土製品 土錐、フイゴの羽口、炉壁、焼成粘土塊、土人形

木製品 漆器、下駄、板材、楔、部材、棒材、曲物

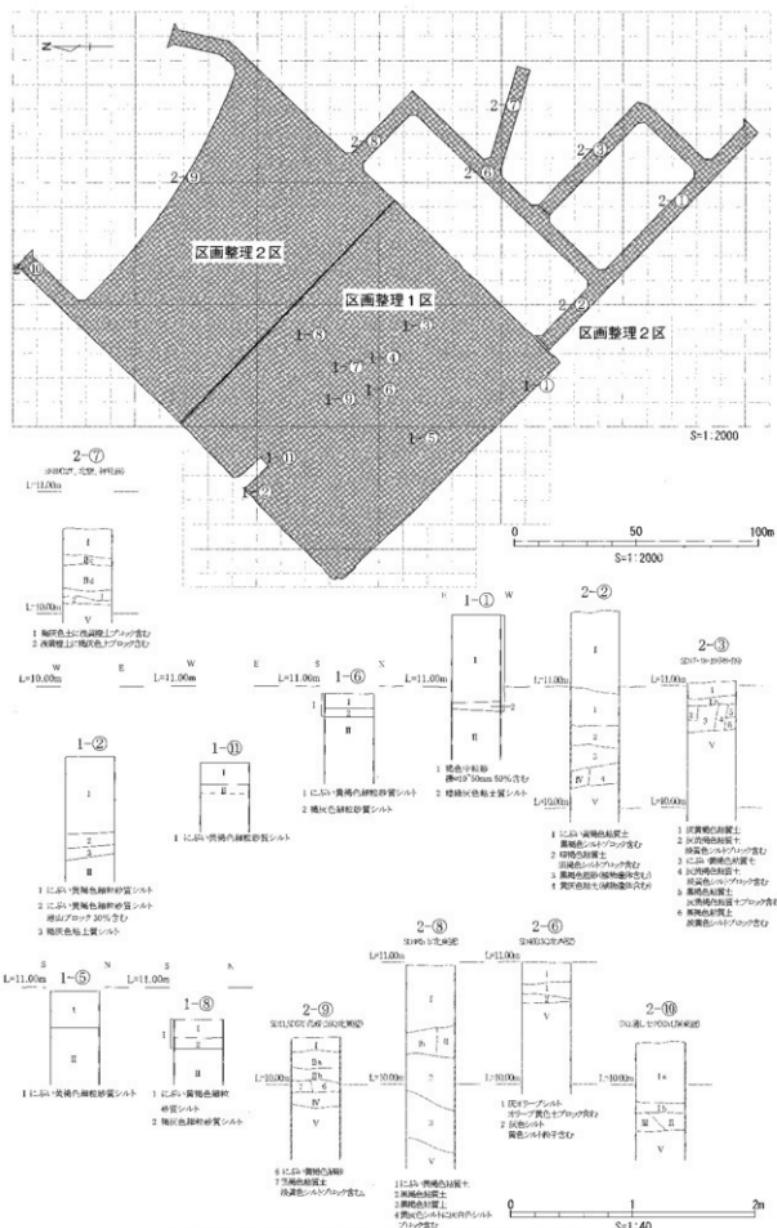
鉄製品 刀子、鉄滓

石製品 石鐵、打製石斧、砥石、測片、瑪瑙

グリッド

座標は世界測地系を使用し、平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ ・東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、X = 1、Y = 1の地点は、原点より西へ15.865km、北へ81.390km向かった位置である。一辺5m四方を一区画としてグリッドを割り付け、メッシュを表示した。

座標は公共座標（世界測地系）を基にX = 81,380、Y = -15,870を起点とするA0とし、調査範囲を網羅できる位置に設定した。グリッドは真北を基線として、10m四方を区画して設定し、グリッドの名称については東西方向にアラビア数字（西から1、2、3…）南北方向にはアラビア数字（南から1、2、3…）を用いてこの両者の組み合わせで表記した。



第6図 区画整理1・2区基本層序図 (1/2,000・1/40)

2. 遺構

掘立柱建物址

掘立柱建物址は3棟確認されている。総柱建物は2棟、側柱建物は1棟が検出された。掘り方（柱穴）については、南西隅の掘り方を基点に、東西方向をX軸に、南北方向をY軸に取り、何番目に当たるかを座標で示した。南西隅の掘り方をP 1 - 1と称する。

掘立柱建物址 S B01

調査地区の南東側（21～23、27～30）区で検出された。総柱の掘立柱建物址で、床面積は約47.7m²である。南北棟で、身舎は桁行4間（9.28m）×梁行2間（4.30m）で、北東側には下屋と推定できる庇が1間分ある。庇を入れた全長は10.96mを計る。建物方位はN - 16° - Eである。柱間は、桁行が南から2.10m・2.42m・2.48m・2.08mで、梁行が西から2.08m・2.22mである。庇は長さ1.68m、幅2.20mを計る。柱穴P 3 - 2とP 3 - 3の間には間柱がある。身舎の掘り方は、平面形が円形ないし不正円形で、長軸0.28～0.36m、短軸0.24～0.30m、深さ16～44cmを計る。庇の掘り方は、円形で、直径0.22～0.24m、深さ7～11cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B02

調査地区の中央部（15・16、34～36）区で検出された。総柱の掘立柱建物址で、床面積は約44.6m²である。南北棟で、桁行3間（7.20m）×梁行3間（6.14m）である。建物方位はN - 17° - Wである。柱間は、桁行が南から2.36m・2.80m・2.04mで、梁行が西から2.10m・2.26m・1.78mである。柱穴P 2 - 4は柱軸から外れており、P 4 - 3は検出できなかつた。掘り方は、不正円形ないし不正楕円形で、長軸0.28～0.66m、短軸0.16～0.54m、深さ7～46cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B03

調査地区的西側（10・11、34～36）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は、約23.9m²である。南北棟で、桁行2間（5.08m）×梁行2間（4.70m）である。建物方位はN - 13° - Eである。柱間は、桁行が2.54m均等で、梁行は西から2.62m・2.08mとなる。柱穴P 1 - 1はS K130に切られ、P 2 - 3は検出できなかつた。掘り方は平面形が円形ないし不正円形で、長軸0.42～0.62m、短軸0.38～0.54m、深さ24～42cmを計る。出土遺物は、P 3 - 1から土師器、須恵器が、P 3 - 3から須恵器が出土している。

柵址

柵址は、2条確認されている。掘り方（柱穴）については、南から北へないし西から東へ向かってP 1・P 2・P 3等と呼称する。

柵址 S A01

調査地区的西側（12、34～37）区で検出された。南北方向に伸びる柵址である。規模は7間（11.20m）で、柱間は不同で、南から2.04m・1.60m・1.52m・1.64m・1.36m・1.44m・1.60mを計る。S B03と方位を略同じとしておりN - 14.2° - Eとなる。掘り方は、楕円形乃至不正楕円形で、長軸0.28～0.36m、短軸0.24～0.30m、深さ16～44cmを計る。出土遺物は、P 5から土師器、砥石が出土している。

柵址 S A02

調査地区的西側（15、34・35）区で検出された。東西方向に伸びる柵址である。規模は2間（2.94m）で西側へ延びる可能性もある。柱間は不同で、西から1.60m・1.34mを計る。S B03と方位を略同じとしてお

りN-76.2°-Wとなる。掘り方は、楕円形ないし不正楕円形で、長軸0.28~0.66m、短軸0.16~0.54m、深さ7~46cmを計る。遺物は出土していない。

土坑

土坑は5基確認された。それ以外のものは近現代のカクランである。

土坑SK122

調査地区的中央部(14、35)区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸0.80m、短軸0.58m、深さ17cmを計る。遺物は出土していない。

土坑SK125

調査地区的中央部(16、36)区で検出された。平面形は不整形で、規模は長軸0.72m、短軸0.52m、深さ31cmを計る。遺物は出土していない。

土坑SK126

調査地区的中央部(13、34)区で検出された。平面形は不整形で、規模は長軸0.62m、短軸0.42m、深さ9cmを計る。遺物は出土していない。

土坑SK129

調査地区的西側(10・11、34・35)区で検出された。平面形は不整形で、規模は長軸1.28m、短軸1.12m、深さ39cmを計る。SB01を切り、SK130に切られる。出土遺物は瓦質土器である。

土坑SK130

調査地区的西側(10、34・35)区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸2.70m、短軸0.63m、深さ37cmを計る。SB01、SK129を切る。遺物は出土していない。

溝

溝は21条確認された。それ以外のものは近現代の暗渠等の溝である。

溝SD201

調査地区的東側(17~21、20・21)区で検出された。東西方向に走る溝である。規模は、長さ20.02m以上、幅1.46~1.70m、深さ33~55cmを計る。東側および南西側は調査地区外に延びる。SD204と同一溝になる可能性がある。出土遺物は弥生土器・刀子である。

溝SD202(図面10)

調査地区的東側(15~23、23~36)区で検出された。南西~北東方向に走る溝である。規模は、長さ82.64m以上、幅0.43~2.02m、深さ6~21cmを計る。南側および北側は調査地区外に延びる。SD223を分岐し、SD203と合流する。SD212と重複する。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、肥前、鉄製品である。

溝SD203

調査地区的東側(15~17、23~27)区で検出された。南西~北東方向に走る溝である。規模は、長さ20.77m以上、幅0.33~1.88m、深さ18cmを計る。南側は調査地区外に延びる。SD202と合流する。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸である。

溝 S D204

調査地区の南～西側（7～13、25～44）区で検出された。南東～北西方向へ屈曲しながら走る溝である。規模は、長さ124.16m以上、幅0.64～5.53m、深さ11～135cmを計る。南側および北西側は調査地区外に延びる。S D206と重複する。溝中に噴砂痕がある。溝中に4箇所深く掘削している。そのうち、（8・9、32）区では土師器碗が多量に出土している。溝の東側肩部から縄文土器が2個体出土している。出土遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、製塙土器、珠渦、白磁、青磁、青花、肥前、伊万里、土鍤、フイゴの羽口、炉壁、焼成粘土塊、石礫、打製石斧、砥石、剥片、瑪瑙である。

溝 S D206

調査地区の中央部（11～24、27～40）区で検出された。南北方向に走る溝である。規模は、長さ91.56m以上、幅1.04～2.24m、深さ17～47cmを計る。南側および北側は調査地区外に延びる。S D211を分流しS D204と重複する。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、越中瀬戸、瀬戸美濃である。

溝 S D207

調査地区的南側（13・14、24～26）区で検出された。南東～北西方向に走る溝である。規模は、長さ7.22m以上、幅0.28～0.49m、深さ8～14cmを計る。南東側は調査地区外に延びる。S D204と重複する。出土遺物は縄文土器、須恵器である。

溝 S D208

調査地区的西側（5～9、33～41）区で検出された。南北方向に走る溝である。規模は、長さ42.60m以上、幅0.25～1.50m、深さ4～31cmを計る。南側は調査地区外に延び、北側は段丘に切られる。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、肥前、伊万里、数珠玉である。

溝 S D209

調査地区的西側（4・5、33～35）区で検出された。南北方向～東西方向に屈曲する溝である。規模は、長さ8.14m以上、幅0.62～1.18m、深さ21～27cmを計る。南側は調査地区外に延びる。出土遺物は須恵器、越中瀬戸、京焼、伊万里、木製品（漆器・板材）である。

溝 S D210

調査地区的東側（27～31、27～34）区で検出された。南北方向に走る溝である。規模は、長さ31.66m以上、幅5.92～8.46m、深さ32～51cmを計る。南側および北側は調査地区外に延びる。S D246を分流しS D230・231と重複する。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、珠渦、瀬戸美濃、白磁、越中瀬戸、関西系陶器、京焼、肥前、伊万里、土鍤、土人形、漆器、下駄、板材、楔、部材、棒材、曲物、砥石、鉄滓である。

溝 S D211

調査地区的中央部（22～26、38・39）区で検出された。南西～北東方向に延びる溝である。規模は、長さ16.56m以上、幅0.76～1.28m、深さ14～30cmを計る。北東側は調査地区外に延びる。S D206から分流する。出土遺物は土師器、須恵器である。

溝 S D212

調査地区的中央部（22、35～37）区で検出された。南西～北東方向に延びる溝である。規模は、長さ10.22m、幅0.26～1.06m、深さ1～11cmを計る。北側は調査地区外に延びる。S D202と重複する。出土遺物は瀬戸美濃、青磁である。

溝 S D221

調査地区的東側（27、28・29）区で検出された。東西方向に延びる溝である。規模は、長さ1.70m、幅

0.46~0.90m、深さ22~26cmを計る。S D210と重複する。遺物は出土していない。

溝 S D223

調査地区的東側（19~21、29~34）区で検出された。南西~北東方向に延びる溝である。規模は、長さ22.28m、幅0.24~0.84m、深さ2~21cmを計る。S D202から分流する。出土遺物は土師器である。

溝 S D230

調査地区的東側（27・28、29~31）区で検出された。南北方向に延びる溝である。規模は、長さ12.18m、幅0.30~0.74m、深さ13~18cmを計る。S D210と重複する。遺物は出土していない。

溝 S D231

調査地区的東側（30・31、33）区で検出された。南北方向に延びる溝である。規模は、長さ1.94m、幅0.76~0.88m、深さ14~30cmを計る。S D210と重複する。遺物は出土していない。

溝 S D241

調査地区的中央部（24~27、32~38）区で検出された。南東~北西方向に延びる溝である。規模は、長さ32.64m、幅0.12~1.22m、深さ3~17cmを計る。遺物は出土していない。

溝 S D242

調査地区的中央部（22、36）区で検出された。南西~北東方向に延びる溝である。規模は、長さ1.86m、幅0.16~0.28m、深さ5cmを計る。遺物は出土していない。

溝 S D244

調査地区的中央部（15・16、25~27）区で検出された。南北方向に延びる溝である。規模は、長さ8.12m、幅0.40~0.97m、深さ21cmを計る。遺物は出土していない。

溝 S D246

調査地区的東側（29・30、29・30）区で検出された。南東~北西方向に延びる溝である。規模は、長さ0.68m以上、幅0.62~0.76m、深さ52cmを計る。S D210と重複する。遺物は出土していない。

溝 S D285

調査地区的西側（17・18、43・44）区で検出された。南西~北東方向に延びる溝である。規模は、長さ6.02m、幅0.28~0.36m、深さ3~7cmを計る。出土遺物は土師器である。

溝 S D286

調査地区的中央部（24・25、39~48）区で検出された。南北方向に延びる溝である。規模は、長さ8.60m、幅0.46~0.62m、深さ5~6cmを計る。S D202・212と同一の溝と推定できる。北側は調査地区外に延びる。遺物は出土していない。

自然流路・窪地

自然流路 N R01

調査地区的西側（1~14、35~50）区で検出された。南北方向に延びる流路と考えられる。規模は、長さ94.71m以上、幅6.78~6.85m、深さ47~220cmを計る。圃場整備前の自然流路である。南側および北側は調査地区外に延びる。出土遺物は土師器、須恵器、伊万里、砥石である。

窪地 S X503

調査地区的中央部（17~18、29）区で検出された。平面形は隅丸長方形で、規模は、長軸3.54m、短軸2.24~0.62m、深さ19cmを計る。遺物は出土していない。

3. 出土遺物

溝SD203出土遺物（図面48）

82は珠洲の櫛鉢底部である。底部は平坦で鉢目も若干観察できた。縁片のため時期は不明である。

溝SD204出土遺物（図面45～48）

SD204より出土の遺物は縄文時代晚期や奈良、平安時代の遺物を中心に出土している。遺構に属する時代の遺物は縄文時代の遺物は奈良、平安時代のものであり、縄文時代晚期の遺物は流れ込みと考えられるが、ここでは出土遺物として掲載する。

縄文時代晚期の遺物は絶じて粗製深鉢である。口縁部片は72・73、76は底部である。それ以外は胴部片となる。文様は貝殻条痕文を中心であり、ナデを施すもの（73）もある。口縁端部はすべて平坦面作りだし、72は内斜し、73は水平となる。77・78は石礫である。79は打製石斧である。石礫は無茎のもの（77）と基部が破損しているため基部の形状不明の石礫（78）がある。打製石斧は基端部は欠損し刃部は薄い作りとなる。

奈良、平安時代の遺物には須恵器杯A、杯B、蓋、甕、壺、瓶などが、土師器は椀と壺が見られ、そのうち土師器椀は定量出土している。黒色土器須恵器は杯A・Bの口径などは小さいものが主流を占め8世紀末～9世紀代の様相が顕著である。また大型器種は壺（31・33）、壺（36）短頸壺（34）、小型壺（35）、双耳瓶（32）などが出土している。壺（31）は頸部へのタキ痕の見られるものであり、頸部から口縁部へ外反しながら立ち上がる。短頸壺（34）は肩の張らない球形を呈するものであり、小型壺（35）は底部が平坦で、ヘラ切り痕が見られるロクロ成形のものである。胴部はナデ痕が観察できる。

土師器は椀を中心に壺も出土した。椀の底部は回転糸切り未調整の無高台椀（37～66）であり、1点だけ底部片で粘土板から削り出して高台を作り出したもの（67）がある。無高台椀の体部下半への手持ちヘラ削り痕は見られない。形状は底部付近でやや外反気味となるもの（48・52・54・55・58）もあるが、その多くは口縁端部へ内湾しながら立ち上がる。底部径は5cm前後のものがほとんどであり、明らかに赤彩されたものと考えられる遺物はなかった。煤痕は1点（66）見られた。黒色土器（68）は有高台椀であり、黒色の内面には横方向へのミガキ痕が見られる。高台はハの字となり端部は丸く収め接地する。甕は底部片であり、回転糸切り未調整である。内面はミガキの様に丁寧なナデが施され、外面底部周辺には手持ちヘラ削りの痕跡はなく、ロクロナデを施す。墨書きは2点出土している（37・65）。ともに土師器椀の体部外面で見られ、37は2文字であり、2文字目の部首部分が消えている為明確ではないが、「木津か」と考えられる。65は一字であった。また杯Bからの転用碗（27）なども見られる。

これら土器からSD204からの出土遺物は、須恵器などにやや古相のものが見られるものの、土師器椀や黒色土器などから、9世紀後半頃の遺物と考えられる。

その他の遺物としては、製塙土器は2点出土している（70・71）。ともに底部片であり、外面は非常に強い火熱を受けている。また砥石（82）や方形に加工され、一辺が火熱により焼けた痕跡がある石材（図版25）なども出土している。

溝SD206出土遺物（図面49）

SD206からは縄文時代晚期の遺物や古墳時代時代の土師器などが出土している。

縄文時代晩期の土器（83～88）はすべて粗製深鉢片であり、87・88以外はすべて口縁部の遺物である。口縁端部にはヘラ状工具による刻み（83・84）や指や棒状工具による刻み（84・86）などがある。胴部外面には条痕が施され、半裁竹管による条痕（83・87・88）や貝殻条痕文のもの（84～86）とに分類できる。内面にはミガキが施されたもの（83・85）や貝殻条痕による成形が施されたもの（86）も見られる。

古墳時代の遺物は壺の口縁部片（89・90）、底部片（91）が出土している。口縁部片は頸部から口縁端部へ内湾しながら立ち上がるもの（90）と外反するもの（89）の2種類が見られ、90は口縁部内面にはハケ調整が入り、頸部内面には横方向へのケズリ調整が見られる。89は口縁部外面上にヨコナデがあり、頸部内面には横方向へのケズリ調整が見られる。91は球形の底部に内外面ともにハケが見られる。

これらの遺物の時期は古府クルビ段階と考えられる。

溝SD210出土遺物（図面49・50）

SD210から出土した遺物は須恵器、珠淵、越前、土師器、木製品、土製品などが出土している。須恵器には杯A、杯B、蓋などが出土した。杯A（92・93）は底部から口縁端部に内湾しながら立ち上がり体部上位で角度を変え外反し端部に至る。杯Bは（94）高台は平坦で、底部から口縁端部に直線的に立ち上がる。蓋は山笠形（95）と扁平形（96～98）の2種類であり、95は擬宝珠形のつまみが付く。須恵器は総じて8世紀後半頃のものである。

中世・近世の遺物は珠淵の擂鉢（9・10）と、越前の擂鉢（11）が出土している。9は肥厚した口縁端部が内斜し面を作り、内面の鉗目は見えない。10は肥厚した口縁端部が水平に覆面を作る。鉗目は幅約2.5cmの中太の擂歯原体である。珠淵は総じて吉岡編年V期頃（吉岡 1994）の物と考えられる。11の越前は擂鉢であり、鉗目は10単位である。口縁は平坦で端部を丸く收める。土製品は土錐（12）が出土している。土師器は楕か皿の底部が見られた（99）。木製品には連歯下駄（104）が出土している。下駄の前蓋はほぼ中央に配し、後蓋は後歯の前に穿かれている。下駄の左側面がやや左へ弓なりとなり、親指の痕と考えられるものが見られる事から右用の下駄と考えられる。前蓋には使用痕が残り、南部分を作り出した時の崩刃痕や丸痕痕が残る。台表には漆を、台裏には赤漆を塗っている。

溝SD214・237、不明構造SX505、柱穴SP1119、自然流路NR01出土遺物（図面48・50）

SD214からは、無茎の石蟲（105）が1点出土している。先端部が破損し廃棄されたものと考える。SD237から出土した遺物は印加（焼印）が出土した。106は材質は銅製であり、印面には『榮』と入る。裏面には棒状の柄が入る円形の穴が見られる。SX505は須恵器の壺、瓶類の口縁部（108）である。SP1119とNR01からは砾石が出土した。

包含層出土遺物（図51・52）

ここでは区画整理1区の包含層出土の遺物を報告する。

地山直上からは縄文時代晩期の土器片や弥生土器、土製品、不明鉄製品などが出土している。

縄文時代晩期の土器は口縁部片は109・110、底部片が2点119・120でそれ以外は胴部片となる。109は4条の沈線を巡らし、端部は比較的薄く丸く收める。110は5条の沈線を施し、109と同様口縁端部は薄く丸く収めた形である。109・110ともに鉢類である。胴部片はすべて貝殻条痕文で施されている。115の胴部片下方には円形の穿穴が見られる。底部片の119は胴部に横方向への貝殻条痕文が施され、底部には網代痕が明瞭に残る。120は胴部への貝殻条痕文の施が見られ、底部には網代痕がある。121は弥生土器の壺である。全体的に摩耗が激しく明確でないが底部内面には連続刺突文が入る。122は製塩土器の先尖型の胴部で

ある。123は土錐であり、124は不明鉄製品である。柄状の突起した部位とそれに繋がる板状の部位から出来ており、板状の部位には刃は付かない。先端は欠損している。

遺構外Ⅲ層からは、縄文時代晚期の土器片が出土している。125・126は口縁部片で、残りは胴部片である。127は三叉文と入組文が縄文を擦消して入り、130は半裁竹管による条痕文である。その他は貝殻条痕文による施文であった。127などから中層Ⅰ～Ⅱ式頃、大洞B-C～C1期並行頃と考えたい。

下層確認を行うべく掘削した東側トレンチからは、縄文時代晚期の土器片が出土している。口縁部片は132・133で、残りは胴部片となる。すべて粗製深鉢片であり、133は半裁竹管による条痕文でそれ以外は貝殻条痕文であった。

4. 小結

縄文時代について

縄文時代の遺物は、縄文土器・石鎌・打製石斧等がある。遺構は、第Ⅲ層上面で自然地形の落ち込みやピット状の遺構らしきものは確認できたが、明確な遺構は確認されなかった。また第Ⅱ層上面でも縄文土器が一箇体で埋まって出土していることから当該期の遺構検出面に關しては今後検討していく必要がある。

第Ⅱ層上面は佐野台地上においては弥生時代中期以降の遺構検出面である。このことから、縄文時代晚期から弥生時代前期ないし中期初頭にかけて第Ⅱ層が堆積したことがわかる。

奈良平安時代について

奈良平安時代の遺構として溝S D204・206・211がある。S D204とS D206は出土遺物等から時期差が無く同時期に存在していると推定できる。

S D204内の土坑状遺構からは土師器焼が出土している。赤彩土器や墨書き土器があることなどからこの付近で律令祭祀が行われていた可能性がある。この土坑の北側には柵址S A01・02を保有する掘立柱建物址S B03がある。柱穴からは古代の遺物が出土しているが、建物の構造持つこととSB01と同軸であることから古代ないし中世の可能性がある。

出土土器は9世紀代を主体とし、8世紀後半～10世紀初頭まで見られる。当遺跡の南西側に位置する東木津遺跡と集落の存続時期は合致しており、関連性が想定できる。また溝出土遺物のうち、墨書き土器に”木津カ”とあることから、9世紀代には、中木津遺跡周辺を木津という地名として認識していたことが伺われる。

中近世について

中近世の遺構としては掘立柱建物址S B01・02、溝S D202・203・210等がある。S B01・02は、柱穴からの遺物は出土していないが、柱穴の規模や覆土等から当該期に位置づけた。

中世の遺物は11世紀後半～12世紀（珠洲I・II期）と14世紀後半～15世紀（珠洲IV・V期）の2時期に大分できる。当該期の遺構としてS B01・02が属する可能性はあるものの、主体となる他の遺構は確認できなかつた。近世の遺物は17世紀以降のものである。

第2節 区画整理2区

1. 調査概要

調査地区の設定

工事工程を考慮し、地区を4つに細分し調査を実施した。調査地区名を作業する順にL1～L4地区とし、それぞれ調査終了後に空撮を実施した。発掘調査は平成22年4月14日から同年10月20日まで実施した。

まず調査区全体の表土除去をバックホーにて実施した。調査区南側の調査区（L1・L3地区）にて遺構掘削等の調査を行い、7月5日に空撮を実施した。その後、区画整理1区に隣接する調査区北側の調査区（L2・L4地区）の遺構掘削等の調査を行い、9月30日に空撮を実施した。その後、下層遺構確認等を実施し、調査を終了した。

座標は公共座標（世界測地系）を基にX=81,380、Y=-15,870を起点とするAOとし、調査範囲を網羅できる位置に設定した。グリッドは真北を基線として、10m四方を区画して設定し、グリッドの名称については東西方向にアルファベット（西からA、B、C…）南北方向にはアラビア数字（南から1,2,3…）を用いてこの両者の組み合わせで表記した。

基本層序

中木津遺跡区画整理2区の基本層序は以下の通りである。

I層 a・b：灰褐色土～灰オリーブシルト（現耕作土・盛土）

II層 a・b・c・d：淡黄色土～にぶい黄褐色土（客土・床土）

III層：黒褐色粘質土（古代以降の遺構検出面）

IV層：淡黄色シルト（縄文時代晚期の土器包含層）

V層：黄褐色シルト（地山）

*1～7は遺構埋土

検出遺構

検出遺構は、掘立柱建物址10棟をはじめ、土坑82基、溝139条、穴147基、不明土坑5基である。年代的には縄文時代、古代、中世の3時期に区分できる。

出土遺物

土器類

縄文土器（後期、晚期）、土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前系磁器、肥前系陶器

土製品：土錐、土人形

木製品：下駄、漆器椀、板材、曲物、棒状木製品、

金属製品：古銭、和釘、用途不明鉄製品、

石製品：砥石

2. 遺構

掘立柱建物址

掘立柱建物址は10棟確認されている。いずれも調査区南側で集中している。総柱建物2棟、側柱建物6棟、構造不明建物2棟が検出された。そのうち、SB01～SB04は一連の建物群となることが想定される。

掘立柱建物址 S B01

調査地区的南東部（5、Q）区で検出された。総柱の掘立柱建物址で、床面積は約12.0m²である。南北棟で、身舎は桁行2間（2.8m）×梁行2間（3.8m）で、建物中央に東柱を持たせる倉庫と考えられる建物である。建物の桁行の続きが北東方面に延びる可能性がある。建物方位はN-26°-Eである。遺構は柱間は、桁行が北から1.3m・1.5mで、梁行が西から2.0m・1.8mである。柱穴P1とP5の間には間柱がある。P1はSD5を切り、P3から柱痕が検出された。身舎の掘り方は、平面形が長楕円形ないし不整楕円形で、長軸0.4～0.8m、短軸0.4～0.7m、深さ10～40cmを計り、10cm程度のものと、約40cmの2種類が認められる。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B02

調査地区的南東部（4、P）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約35m²である。S B03・S B04と同軸の北西—南東軸の棟で、桁行3間（7.0m）×梁行2間（4.6m）である。建物方位はW-35°-Nである。柱間は、桁行が東から2.3m・2.3m・2.4mで、梁行が北から2.1m・2.5mである。柱穴P2は柱痕が一部残在する。柱掘方と埋土は側柱ではなくすべてで検出できた。掘り方は平面形が隅丸方形ないし不正楕円形で、長軸0.8～1.2m、短軸0.6～0.9m、深さ25～45cmを計る。出土遺物は須恵器・蓋、木製品が出土した。

掘立柱建物址 S B03

調査地区的南東部（3・4、P・Q）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約37m²である。S B02・S B04と同軸の北西—南東軸の棟で、桁行4間（8.2m）×梁行2間（4.5m）である。建物方位はW-35°-Nである。柱間は、桁行は東から2.1m・2.0m・2.2m・1.9mで、梁行は北から2.2m・2.3mとなる。柱穴P1とP2はSD5に切り、P2-3は検出できなかった。掘り方は平面形が隅丸方形で、長軸0.4～0.7m、短軸0.3～0.5m、深さ10～35cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B04

調査地区的南東部（3、Q）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約29.0m²である。S B02・S B03と同軸の北西—南東軸の棟で、身舎は桁行3間（6.6m）×梁行2間（4.1m）で、建物中央に東柱を持たせる倉庫と考えられる建物である。建物の桁行の続きが北東方面に延びる可能性がある。建物方位はN-26°-Eである。遺構は柱間は、桁行が西から2.2m・2.1m・2.3mで、梁行が北から2.2m・1.9mである。柱穴P5はSD5を切り、P1はSD8に切られる。身舎の掘り方は、平面形が楕円形で、長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.5m、深さ15～30cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B05

調査地区的南東部（5、S）区で検出された。総柱の掘立柱建物址で、床面積は推定も含め約12m²である。東西棟で、桁行2間（3.5m）×梁行2間（3.4m）で、梁行の続きが東方向に延びる。建物中央に東柱を

持たせる倉庫と考えられる建物である。建物の建物方位はN-13°-Eである。柱間は、桁行が北から1.9m・1.6mで、梁行が西から1.7m・1.1mである。柱穴P2はSB6-P1を切り、柱穴P4・P5はSK82を切る。SB06より新相となる。掘り方は平面形が隅丸方形で、長軸0.4~0.95m、短軸0.4~0.7m、深さ30~65cmを計る。出土遺物は土師器細片が出土した。

掘立柱建物址SB06

調査地区的南東部(6, S)区で検出された。柱列は1列のみ確認されており、建物の大部分は調査区域外へ広がる掘立柱建物址である。桁行2間×梁行2間と推定される。建物方位はN-13.7°-Eである。柱間は約2.0mとなる。柱穴P1はSB05-P2に切られ、SB05より古段階となる。掘り方は平面形が隅丸方形で、長軸0.5~0.9m、短軸0.5~0.8m、深さ35~40cmを計る。出土遺物は、P2の2層から土師器細片が出土している。

掘立柱建物址SB07

調査地区的南東部(6, S)区で検出された。柱列は1列のみ確認されており、建物の大部分は調査区域外へ広がる掘立柱建物址である。桁行2間×梁行2間と推定される。桁行2間(5.1m)×桁行2間(4.7m)である。建物方位はSB05と同軸と推定される。柱間は約1.5mとなる。柱穴P1はSD138とSP141・SP144を切り、P2の東側は調査区域外に続く。掘り方は平面形が隅丸方形で、長軸0.3~0.6m、短軸0.3~0.4m、深さ約15cmを計る。出土遺物は、P1から土師器細片が出土している。

掘立柱建物址SB08

調査地区的東部(7, S・T)区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約13.2m²である。桁行3間×梁行2間と推定される。桁行2間(5.3m)×梁行2間(2.5m)である。建物方位はSB05と同軸と推定される。柱間は、桁行が約1.6m、約2.1mで、梁行は約1.4mで均等となり、柱通りは悪い。柱穴SP148・SP149はSD26に切られる。掘り方は平面形が不整梢円形で、長軸0.2~0.4m、短軸0.2~0.3m、深さ15cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址SB09

調査地区的東部(8, 9, M・N)区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約24.5m²以上である。建物方位はN-25°-Eである。桁行3間×梁行2間以上と推定される。桁行3間(7.2m)×梁行2間(3.4m以上)である。建物方位はSB10と同軸と推定される。柱間は、桁行が約2.1~2.7mで、梁行は約1.9mである。柱穴SP43・44はSD31を切り、柱穴SP53はSD30を切る。掘り方は平面形が不整梢円形で、長軸0.2~0.3m、短軸0.2m程度、深さ15~20cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址SB10

調査地区的東部(8, 9, M・N)区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約11.2m²以上である。建物方位はN-21°-Eである。SB09と同様の構造と想定され、桁行3間×梁行2間と推定され、確認できるのは桁行2間(5.5m)×梁行1間(2.1m以上)である。建物方位はSB09と同軸と推定される。柱間は、桁行が約2.2~2.5mで、梁行は約1.4mで、やや柱通りは悪い。柱穴SP54はSD30に切る。掘り方は平面形が不整梢円形で、長軸0.2~0.3m、短軸約0.2m程度、深さ15cmを計る。遺物は出土していない。

土坑

土坑は82基確認された。平面形は不整形や隅丸方形など様々な形状を呈す。不明造構は4基確認された。ここでは特に遺物が多く出土したS X 3に加えて、関連性が高いSK 12、SK 13、SK 14について記述する。

土坑SK 12

調査地区の西部（16・17-T）区で検出された。平面形は椭円形で、SK 13とS X 3を切る。規模は長軸1.4m、短軸1.0m、深さ27cmを計る。出土遺物は、陶磁器・皿などのほか、軽石・木製品が出土した。出土遺物は散発的に出土している。

土坑SK 13

調査地区の西部（15・16-T）区で検出された。平面形は不正楕円形で、SD 51を切り、SK 12に切られる。規模は長軸1.2m、短軸0.7m、深さ32cmを計る。出土遺物は、磁器（図面53-162）が出土した。

土坑SK 14

調査地区的中央西部（15・16-S・T）区で検出された。平面形は不整楕円形で、SD 51を切る。規模は長軸1.4m、短軸0.6m、深さ20cmを計る。遺物は出土していない。

土坑SK 24

調査地区的西側（10・34・35）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸2.70m、短軸0.63m、深さ37cmを計る。SB 01、SK 129を切る。遺物は出土していない。

土坑SK 129

調査地区的西側（10・11・34・35）区で検出された。平面形は不整形で、規模は長軸1.28m、短軸1.12m、深さ39cmを計る。SB 01を切り、SK 130に切られる。出土遺物は瓦質土器である。

土坑SK 130

調査地区的西側（10・34・35）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸2.70m、短軸0.63m、深さ37cmを計る。SB 01、SK 129を切る。遺物は出土していない。

溝

溝は139条確認された。覆土の種類は4種類確認され、灰色・灰褐色・茶褐色・黒色となる。帰属する時期は、灰色・茶褐色は中近世、灰褐色は近現代、そして黒色は古代・中世であると考えられる。

溝SD 11

調査地区的北東側（13~25、M~S）区で検出された。南北方向に走る溝で、区画整理1区では、SD 210にて報告している。確認された規模は、1・2区合わせた長さは約130m以上、幅4.0~6.0m、深さ約20~80cmを計り、北側に向かって深さを増す。北側の21グリッド付近にて北東方面と北方向の2方向に分岐し、間は中州状となる。切り合は左岸側をSD 57に切られ、それ以外の土坑・溝を切る。このことから後述するSD 57と同様に新しい時期まで開口していたと考えられる。1区SD 204と同一溝になる可能性がある。出土遺物は縄文土器、須恵器、珠洲である。出土する遺物は、縄文後期から近世までの時期幅がある。

溝S D43

調査地区的南東側（11・12、P～S）区で検出された。西～北東方向に走る溝である。規模は、長さ35m以上、掘り方を含む上幅約2.5～3.6m、深さ約30～40cmを計る。1区S D201と同一溝になる可能性がある。東側のPグリッド付近で北東方面と東方面に分岐する。出土遺物は縄文土器、珠洲、陶器片が出土している。上層より縄文土器と珠洲が、下層から陶器片が出土していることから、上層の遺物は流れ込みと考えられる。

溝S D48

調査地区的東側（13・14、R・S、17・18、S）区で検出された。北東～南北方向に走る溝である。規模は、長さ南北方面約50m以上、幅は上幅3.2m、深さ1.41cmを計る。S D44とS D45に切られる。造構は南端は東方向に直角に屈曲し、北端においても東方向に屈曲するものと北方向にのびる溝と想定される。溝の堆積状況や層厚などから、人為的に埋められたと考えられる。これらのことと、東側のS X 3と主軸が類似することから、堀跡の性格を持つ溝の可能性がある。S D48とS X03付近において一連の造構群の存在が指摘できる。出土遺物は土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、越中瀬戸、陶磁器である。

溝S D51

調査地区的東側（16・17、T・U）区で検出された。東西方向に走る溝である。規模は、長さ13.0m以上、幅は上幅1.0m、深さ26cmを計る。S K12・13・14に切られる。輪はS D48とはほぼ同軸ないし直交することから、S X03などの一連の造構群と考えられる。出土遺物は、須恵器、珠洲、越中瀬戸、磁器、陶器、木製品、石製品である。

溝S D57

調査地区的北東側（17～25、P・Q）区で検出された。南北方向に走る溝で、区画整理1区では途中途切れているものの、S D230につながる可能性がある。確認された規模は、長さは約80m以上、幅1.6m、深さ約17cmを計る。切り合いは右岸側のS D11を切り、それ以外の土坑・溝を切る。このことから新しい時期まで開口していたと考えられる。S D204と同一溝になる可能性がある。出土遺物は瀬戸美濃、肥前系陶磁器、唐津、珠洲、越中瀬戸、信楽、漆器、木製品である。

溝S D107

調査地区的北側（23～27、L～P）区で検出された。南東～北西方向へ走る溝である。規模は、長さ約58.0m以上、幅2.5m、深さ0.99cmを計る。南側に並行してS D111が見られ、S D111を切る。（27、K）グリッドに折状の落ち込みがあり、木杭で護岸や水流の調節する性格を持つ施設がある。S D11やS D57が上流にあり、下流である北東方向の自然流路N R O 1に接続する。出土遺物は縄文土器、須恵器、瀬戸美濃（図面54-191・192）、珠洲、白磁、青磁、青花、磁器、陶器、信楽、木製品、鉄製品、平瓦である。

溝S D111

調査地区的北側（23～28、L～P）区で検出された。南東～北西方向へ走る溝である。規模は、長さ約46.0m以上、幅1.0m、深さ0.68cmを計る。北側に並行してS D107が見られ、S D107に切られる。。S D11やS D57が上流にあり、S D114と合流点で屈曲し下流である北東方向の自然流路N R O 1に接続する。堆積土は人為的に埋められたと考えられ、新規のS D107に流路変更があったと推定される。出土遺物は須恵器、珠洲、陶器、磁器、木製品である。

自然流路・不明遺構

自然流路N R01

調査地Xの西側で検出された。南北方向に延びる流路で、闡場整備前の自然流路である。南側は区画整理1区より、北側は調査地区外に延びる。出土遺物は土師器、須恵器、伊万里、磁石である。詳細は、区画整理1区にて報告している。

不明遺構S X03

調査地区的西部(16, T)区で検出された。平面形は溝丸方形と不整規円形の2つの掘り方があり、SK12・SK13とSD51を切り、SK14に切られる。北側にはSD52があり、本遺構に注ぎ込むように溝が取り付く。覆土は3~5層の薄い堆積層と6層の厚い堆積層に分けられる。特に3層では近世の遺物が大量に出土し、廐棄行為の跡があることから、近世のゴミ穴の可能性を考えられる。また、SD48と軸が類似する。規模は長軸6.8m、短軸4.7m、深さ約90cmを計る。出土遺物は、陶器・皿などのほか、軽石・木製品が出土した。出土遺物は肥前系磁器、唐津、越中瀬戸、漆器、木製品が出土している。いずれも、18世紀代の遺物である。

3. 出土遺物

掘立柱建物址SB02出土遺物(図面53)

SB02~P3からは棒状木製品(158)が出土している。樹皮ではなく、加工痕も読み取れない。用途不明である。

土坑SK02出土遺物(図面53)

SK02から出土の遺物は縄文時代晩期の土器が出土している。159は深鉢洞部で、外面には貝殻条痕文が入る。160は縄文の中に沈線が見える。破片資料のため全体像は不明であるが、この時期の遺物から三叉文の一部が現れている可能性も考えられる。161は細片で、幸うして縄文が確認できる。

土坑SK13-24-78出土遺物(図面53)

SK13からは磁器(短器)の碗(162)が出土した。高台裏、疊付けには「宣明年製」の文字が見え、外面の高台には2条の線が入り、体部外面には草花文を配する。

SK24からは須恵器杯B(163)が出土した。内面は使用痕が顕著に見られ、高台は外斜して接地する。時期は8世紀後半頃と考えられる。

SK78からは不明土師器(164)、須恵器杯A(165)が出土している。土師器は外面はヨコナデを施し、壺の体部か。杯Aは分厚い粘土板に体部を水挽するように作られ、体部の器厚は薄い。9世紀頃代か。

溝SD10出土遺物(図面53)

SD10からは珠洲の壺の口縁部(166)や縄文土器(167・168)が出土している。166は、くの字形に屈曲し端部はやや甘い方頭状を呈す。吉岡編年のⅢ期頃と考えられる。縄文土器は縄文時代晩期の土器であり、167は口縁部に半裁竹管の平行沈線を巡らし、端部は薄く上方に外反する。168は外面条痕文が施される。

溝SD11出土遺物(図面53-54)

SD11からは、縄文土器、須恵器、珠洲が出土している。縄文土器は縄文時代晩期の土器であり、167・169は深鉢の口縁部である。167には半裁竹管の平行沈船と1条の沈線が配されている。169は端部にはユピオサエによる産みが見られ、胴部外面には貝殻条痕文が施されている。168は底部付近の破片であり、外面にはやはり貝殻条痕文が施されている。内面には煤痕が残る。古代の出土遺物は、須恵器杯A、杯B、

鉢が出土している。170は杯A、171～174は杯Bである。杯Bは総じて高台は平坦に接地するものであり、高台から底部、底部から口縁部への形状は間隔を空けず立ち上がるが多い。172などの比較的怪の大きい身の浅いタイプなども見られるが、須恵器の時期は8世紀後半～9世紀初頭頃と考えられる。鉢（175）は口縁部と底部が欠損しているものの、ロクロにより内、外面ともに丁寧なつくりである。

中世の出土遺物は珠洲は壺、甕、擂鉢が出土している。壺（176～178）は口縁端部や頭部の形状が、頭が長く端部は平直に面を取るもの（176）や、頭部が深く折り返し端部は平直で面を取るもの（177）などが見たものの（180）などが見られる事から吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期頃と考える。186は土鍤である。

溝S D43・48・51出土遺物(図面54)

SD43より出土した遺物は繩文時代晩期の鉢類の口縁部片である。187は外面は無紋、口縁端部にはヘラ状刻みが連続して入る。

SD48からは瀬戸の陶器皿（188）と越中瀬戸の皿（189）が出土している。188は内外面ともに灰釉が施釉される。189は底部が回転糸切り未調整となり、底部から口縁部へ緩やかに内湾しながら、端部付近でやや角度を変え緩やかに外反する。釉薬は内面は全面、外面は体部上位まで鉄釉を施釉し、底部付近には、施釉工程時に付いた指の痕が残る。また内面の見込み付近には重ね焼き痕が観察出来る。

SD51からは越中瀬戸の匣鉢が出土している。190の底部は回転糸切り未調整であり、平坦な形状である。底部から口縁部へ直立し筒状を呈する。釉薬は内外面ともに全面鉄釉を施釉する。

溝S D57出土遺物(図面55)

SD57からは瀬戸美濃、肥前系陶磁器、越中瀬戸、白磁、信楽、珠洲、漆器、連齒下駄などが出土している。195は瀬戸美濃の磁器（炻器）広東碗である。体部外面には草花文が見られ、高台部分には一条線が入る。内面には見込みの中心に草花文が見られ、さらに一条の線が巡る。時期は19世紀代である。196は唐津の陶胎染付碗である。体部下半は露胎となり、高台は削りだしである。18世紀以降である。197は瀬戸美濃の陶器碗である。体部上半と内面全面には鉄釉を施釉する。高台は削りだしである。198は越中瀬戸の托か皿である。底部は回転糸切り未調整であり、体部外面の下半から口縁部までと内面全面に鉄釉を施釉する。時期は17世紀以降である。199は碗である。高台は削りだしであり、灰釉が高台裏以外全面にかかる。200は肥前系器の香炉、201は瓶類の底部である。仏花瓶か。202は肥前系白磁の三足香炉である。203は信楽系の皿である。小皿の内面には円筒形の仕切が設けられ、灯明受皿の可能性が考えられる。遺物の欠損範囲が大きいいため、油漬などは確認できない。内面に灰釉がかかり、外面は露胎である。底部はヘラ削り調整を施す。18世紀～19世紀代と考えられる。204は越中瀬戸の擂鉢である。内外面鉄釉がかかり、鉗目は全面に入る。17世紀以降と考えられる。205は珠洲の擂鉢である。口縁部には8条の波状文が巡り、口縁端部内端面が広がり嘴状に挽き上げられる。吉岡編年のⅥ期頃と考えられる。木製品の漆器は椀が出土している（206～208）。206は高台脇から口縁部へ緩やかに内湾しながら立ち上がる。高台の厚みは非常に薄く、高台裏は緩やかな弧を描く。内外面ともに漆を塗る。207は高台脇から口縁端部へ球形を呈し立ち上がる。高台は欠損しており不明であるが、内外面ともに漆を塗る。208は高台脇から口縁部へ球形を呈しながら立ち上がる。高台の厚みは非常に薄く、内面は赤漆が、外面は黒漆がそれぞれ塗られている。連齒下駄も出土している。木口は平坦であり、前壺は中心よりやや右に寄る。指圧痕は前壺周りで確認できるものの、親指の形状は判然としない。後壺は欠損しているため後歯ともに不明である。台裏の前歯の断面形状が、左側が減っている様になっている。前壺が左よりである事から右用の下駄と考えられる。

溝S D107出土遺物(図面54)

SD107からは両器の皿、椀が出土している。191は瀬戸美濃の皿である。高台以外は全面灰釉がかかる。内面には重ね焼き時につけた円錐ピンの痕が見られる。底部は削りだし高台であり、高台幅約1.4cmほどの幅を持ち端面は面取りを行う。19世紀代と考えられる。192は瀬戸美濃の陶器の広東碗である。見込みの中に呉須による草花文が見られる。内外面灰釉がかかる。193は信楽系の丸碗である。底部高台付近は露胎し、高台付近以外の外面と内面には灰釉がかかる。

土坑SX3出土遺物(図面56)

SX3より出土の遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、唐津、越中瀬戸、漆器、迷巣下駄などが出でた。210・211は肥前系磁器の碗である。210は腰張り型でコンニャク印判による团鶴文と桐文が描かれている。高台裏にも文字的なものが見られるものの、解読不明である。□□年製であろうか。高台の端部以外透明釉がかかる。時期は18世紀代である。211は舟形の絵柄が描かれている。破片部分には漆塗り痕が残る。212は刷毛目唐津の碗であり、18世紀代と考えられる。213は越中瀬戸皿である。底部は回転糸切り未調整であり、外面体部下位から口縁部、内面は見込み周辺まで鉄釉が掛かる。口縁端部に煤痕が見られる事から灯明皿として使用されたものである。17世紀以降と考えられる。214は肥前系磁器の皿である。見込みの中にはコンニャク印判による梅文を配し、内面側面にも草花文が入る。体部外面も全体に草花文を配する。高台の端部には砂が付着する。時期は18世紀後半～19世紀代と考えられる。215は刷毛目唐津の大皿である。内面には刷毛状工具による文様が入る。18世紀代である。216は越中瀬戸の水注であり、217は小盞である。216は底部が回転糸切り未調整であり、小さい注口と口縁部の前後には玄用の耳が付く。内外面ともに鉄釉が掛かる。時期は17世紀以降、18世紀代のものである。217は底部が回転糸切り未調整、体部外面下半まで鉄釉がかかる。見込みには強い穂輪目が残る。時期は17世紀以降である。218は越中瀬戸の匣鉢である。底部は回転糸切り未調整であり、底部、体部内外面ともに鉄釉が掛かる。

木製品には漆器椀と差歎下駄が出土した。219～222は漆器椀である。219は高台部分が削り取られた形で出土した。口縁端部は強く内済し故意に曲げた作りとなる。全面に黒漆が塗られているが、体部中央には○に九の文字が赤漆で書かれている。屋号であろうか。220は高台部分が削り取られた形で欠損している。体部外面は黒漆、内面は赤漆が塗られている。221は非常に残存状態の悪い椀である。高台厚は非常に薄く、内外面ともに黒漆を塗る。222は非常に残存状態の悪い椀である。高台は欠損なく、体部外面に赤漆で何か書かれていると思われるが、解読不明である。223は差歎下駄である。前壺は、ほぼ中央に配置し、後壺は左側が欠損していて不明である。台壺の前壺周辺には指圧痕が残り、木口は右側が左側よりやや弧を描く様な作りとなっている。台壺の歯の差し込み部分は平坦に作られ鋸などの刃痕は見られず、盤により削ったものと考えられる。SX3から出土した遺物の多くは、ほぼ18世紀～19世紀代の範疇に入るもので占められ、造構の時期もその頃には既没過程に入ったものである事が考えられる。

遺構外 出土遺物(図面54)

遺構外では擾乱より須恵器が出土している。194は杯Bである。8世紀後半頃のものと考えられる。

4. 小結

縄文時代について

縄文時代の遺物は、縄文土器・石器・打製石斧等がある。遺構は、第Ⅱ層上面で自然地形の落ち込みやピット状の遺構らしきものは確認できたが、明確な遺構は確認されなかった。また第Ⅱ層上面でも縄文土器が一個体で纏まって出土していることから当該期の遺構検出面に関しては今後検討していく必要がある。

第Ⅱ層上面は区画整理1区と同じく、弥生時代中期以降の遺構検出面である。

秦良平安時代について

調査区南部に掘立柱建物7棟が検出された。いずれの建物からも時期を判断できる遺物は出土していないが、建物の軸からおおまかに2様相の建物群が想定できる。1つはSB01とSB02~04である。側柱建物が北東~南西を軸にして並び、特にSB02の掘り方は大型で柱頭も残る。総柱建物であるSB01から北東側に、建物が存在すると想定される。時期は8世紀後半と考えられる。2つ目はSB05である。前述の建物群より西に振る角度が浅く、軸を異にするため別の建物群となる可能性が高い。またSB05南側に複数の建物が存在することから、調査区外にも建物群が広がることが明らかとなった。

出土土器は8世紀後半~10世紀初頭の遺物が出土している。当遺跡の南西側に位置する東木津遺跡と集落の存続時期はおおむね合致している。多くの建物が総柱でないことから、近隣遺跡で検出される官衙関連遺跡の建物群の一部の可能性がある。

中近世について

中近世の遺構としては掘立柱建物址SB08、溝SD11・57等がある。中世の遺構では、SB08は遺物はないものの、建物構造が柱通りの悪い中世の様相を示す。溝は1区で多く検出された溝に接続する同一の溝が多く検出された。調査区全体を貫く大きい溝としてSD11がある。遺物は縄文・古代・中世・近世のものが出土している。SD48は南端が屈曲した溝で、規模の大きい区画溝の可能性が指摘でき、軸線は現木津神社や地割にほぼ沿う。SD48と同軸の細い溝も多く存在することから大溝と中小の溝群による区画の存在が考えられる。

近世は、SX03などの土坑や溝が検出された。下駄や漆器などの木製品も定量出土している。SD11北側で分流するSD57からは近世の遺物が多く出土することから、SD11よりも新相を示すことが考えられる。

中世の遺物は区画整理1区同様に11世紀後半~12世紀（珠洲Ⅰ・Ⅱ期）と14世紀後半~15世紀（珠洲Ⅳ・V期）の2時期に大分できる。近世の遺物は17世紀以降のものである。

第3節 区画整理3区

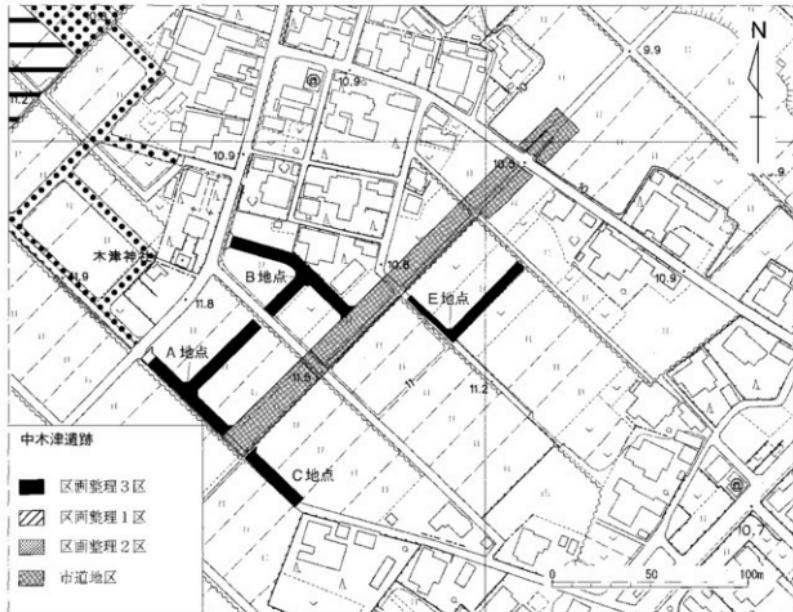
1. 調査概要

調査地区の設定

工事の進捗や航測撮影面積等を考慮し、地区を4つに細分し調査を実施した。調査地区名を作業する順にA・B・C・E地区とし、A地点、B・C地点、E地点の3地区に分けて調査終了後に順次空撮を実施した。

調査期間は、平成23年12月1日から平成24年3月9日である。A地区から順に調査を着手し、A地点は1月17日、B・C地点は2月15日、E地点は3月8日に空撮を実施した。3月9日に現地事務所を撤収し、調査を終了した。

座標は公共座標（世界測地系）を基にX=81,300、Y=-15,650を起点とするA0とし、調査範囲を網羅できる位置に設定した。グリッドは真北を基線として、10m四方を区画して設定し、グリッドの名称については東西方向にアラビア数字（西から1、2、3…）南北方向にはアルファベット（南からA,B,C…）を用いてこの両者の組み合わせで表記した。このグリッドは中木津遺跡[区画整理3区]と西木津遺跡で設定・使用している。本報告では調査地点が複数にわたるため、調査時の地点名を明記しながら記述してゆく。



第7図 調査地区設定図 (1/2,500)

基本層序

中木津遺跡区画整理3区の基本層序は以下の通りである。

I層：暗褐色粘質土（現耕作土・盛土）

II層：I層の床土

III層：黄橙色～淡黄色シルト（古代以降の遺構検出面・上層地山）

IV層：黒褐色シルト（縄文時代晚期の土器包含層）

V層：黄色～黄褐色シルト（下層地山）

*1~7は遺構埋土

検出遺構

検出遺構は、掘立柱建物1棟をはじめ、土坑29基、溝51条、柱穴60基、不明土坑3基である。年代的には古代、中世の2時期に区分できる。

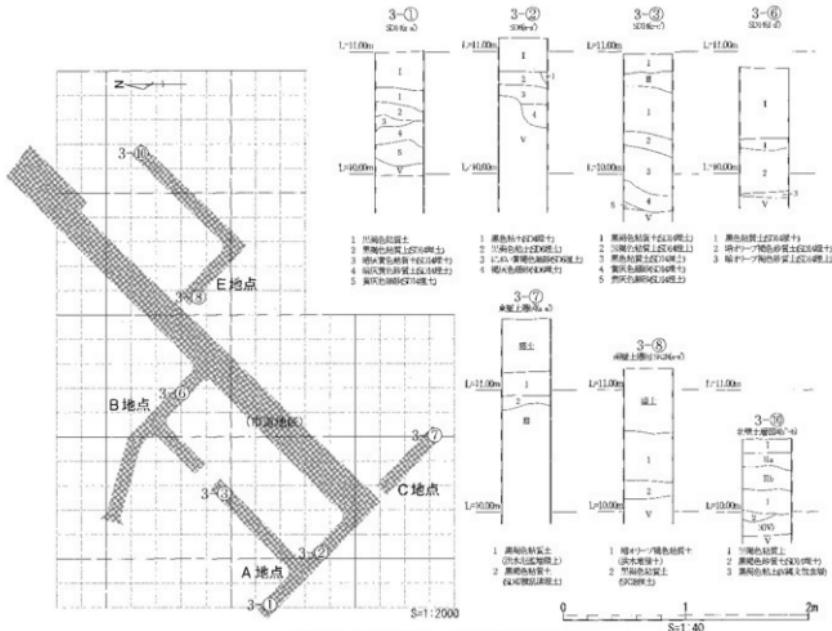
出土遺物

土器類：縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、青磁、越中瀬戸、

肥前系磁器、肥前系陶器、瓦器、瓦

土製品：土鍤

木製品：板状木製品、棒状木製品



第8図 基本層序図 (1/2,000・1/40)

2. 遺構

掘立柱建物

掘立柱建物は3棟確認されている。全ての建物が側柱建物である。

掘立柱建物址 S B01

調査地区的南東部（O、3・4）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約10.6m²以上である。東西棟で、身舎は桁行2間（約2.8m）×梁行1間（約3.8m）である。建物の桁行の続きが北東方面に延びる可能性がある。建物方位はN-26°-Eである。遺構は柱間は、桁行は1.32m均等で、梁行は3.8mである。S P37はS D25に切られる。身舎の掘り方は、平面形が円形ないし楕円形で、長軸約0.3m、深さ25~30cmを計る。柱穴より木製品が出土している。

掘立柱建物址 S B02

調査地区的南東部（O、3・4）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約5.2m²である。南北棟で、身舎は桁行2間（約2.9m）×梁行1間（約1.8m）である。建物方位はN-46°-Eである。遺構は柱間は、桁行は1m、1.9mである。身舎の掘り方は、平面形が円形ないし楕円形で、長軸は最大で約0.3m、深さ5~10cmを計る。遺物は出土していない。

掘立柱建物址 S B03

調査地区的南東部（F、1）区で検出された。側柱の掘立柱建物址で、床面積は約14.2m²である。北西一南東棟で、身舎は桁行1間（約4.3m）×梁行1間（約3.3m）である。建物方位はN-42°-Wである。遺構は柱間は、桁行は4.3m、梁行は3.3mと広い。身舎の掘り方は、平面形が円形ないし楕円形で、長軸約0.3m程度、深さ21~35cmを計る。遺物は出土していない。

土坑

土坑は29基確認された。それ以外のものは近現代のカクランである。

土坑SK7

B地点で検出された。平面形は長楕円形である。規模は長軸0.8m以上、短軸0.7m、深さ32cmを計る。出土遺物は、陶器が出土した。出土遺物はいずれも散発的に出土している。

土坑SK27・28・29

E地点で検出された。平面形は隅丸方形・長方形である。規模は、最も大きいSK29は長軸4.6m、短軸0.6m、深さ7cmを計る。長軸は北西から南東を軸とし長軸を合わせて、連続して検出される。市道地区においても調査区北東側にて同様の遺構が検出されている。SK27からは土師器高坏脚部を転用した土錘が、SK28からは須恵器壺または瓶が出土している。

溝

溝は51条確認されている。調査区全域で検出され、溝の流路は東西方向と南北方向に大別される。幅員の大きいSD14・21が調査区中央を東西方向に流れ、おおよそ9世紀~13世紀の流路と想定される。ほぼ同種の幅員の溝が数条確認できる。

溝SD5

A地点で検出された。SD5はSD37（市道地区）に続く。SD6に並行してほぼ東-西の方向に延びる溝である。幅は約1.6mを計る。SD5の断面は浅い皿状である。遺物は出土していない。

溝SD6

A地点で検出された。SD36b（市道地区）に続く。SD5と並行してほぼ東・西の方向に延びる溝である。幅は0.6~1.0mを計る。SD6の断面は深い皿状の底面から急傾斜して立ち上がりそこから緩やかに上方に開いて上がる。出土遺物は土師器、越中瀬戸である。

溝SD14・21

A地点、B地点、E地点で検出された。SD14はSD30b（市道地区）に続く。両溝は緩やかに蛇行しながらも並行して、北東（東）-南西（西）の方向に延びる。幅はSD14が約2.5~5.0mを計る。SD14の断面形は深い皿状で凹凸のある底面から上方へ開いて立ち上がる。急傾斜して上方へ立ち上がる箇所もみられる。埋土は下層の細砂層から上層の黒褐色粘質土層へと堆積している。出土遺物は、縄文土器、古代から中世にかけての土師器碗、須恵器杯・杯蓋、輸入陶磁器の青磁碗、土錐が出土している。縄文土器は縄文晩期の遺物包含層（IV層）からの混入と考えられる。

溝SD18・19

A地点で検出された。SD18はSD36a（市道地区）に、SD19はSD36c（市道地区）に続き、SD36として合流する。両溝は並行して東・西の方向に延びる。幅はSD18が約2.0m、SD19が約0.7mを計る。SD18の断面は深い皿状の底面から急傾斜して立ち上がりそこから緩やかに上方に開いて上がる。SD19の断面形は浅い皿状である。途中、枝分かれしてSD21に通じている。SD18から、土師器が出土している。

溝SD21

A地点、B地点、E地点で検出された。SD21はSD35（市道地区）に続く。両溝は緩やかに蛇行しながらも並行して、北東（東）-南西（西）の方向に延びる。幅はSD14が約2.5~5.0m、SD21が約1.0mを計る。SD14の断面形は深い皿状で凹凸のある底面から上方へ開いて立ち上がる。急傾斜して上方へ立ち上がる箇所もみられる。埋土は下層の細砂層から上層の黒褐色粘質土層へと堆積している。SD21の断面形は浅い皿状である。埋土はSD14と同じく下層の黄灰色砂層から上層の黒褐色粘質土層へと堆積している。出土遺物はSD14からは、縄文土器、古代から中世にかけての土師器碗、須恵器杯・杯蓋、輸入陶磁器の青磁碗、土錐が出土している。縄文土器は縄文晩期の遺物包含層（IV層）からの混入と考えられる。SD21からは、縄文土器、土師器、須恵器甕・杯Aが出土している。

溝SD28

B地点で検出された。東西方向に走る溝で、SD36（市道地区）に続く。確認された規模は、長さは約3.5m以上、幅0.5m、深さ約16cmを計る。切り合いはない。市道地区においては、SD14・21と本遺構の間にピット群が存在し、建物の存在が想定される。出土遺物はなかった。

溝SD42・43

E地点で検出された。南北方向に走る溝で、SD30（市道地区）の東側の南北方向の溝に続くとみられる。SD42の確認された規模は、長さは約8.4m以上、幅0.7m、深さ約6~12cmを計る。切り合いはないが、SD45やSD50が平行して流れるとみられる。市道地区においては、SD14・21と本遺構の間にピット群が存在し、建物の存在が想定される。SD42とSD43は近世肥前陶磁（唐津）の碗・皿などが出土している。

柱穴

柱穴は60基確認された。古代～中世に帰属し、いずれも平面径は小さい。ピット群としてのまとまりは、B地点SB01・02周辺とC地点南側、E地点中央に確認でき、小規模な掘立柱建物等の存在が考えられる。

柱穴SP43・50・61

柱穴S P43はE地点で検出された。出土遺物は珠洲である。柱穴S P50はC地点で検出された。出土遺物は須恵器が出土した。柱穴S P61はE地点で検出された。遺物は須恵器が出土した。

3. 出土遺物

溝SD14出土遺物(図面57)

S D14からは縄文土器、須恵器杯・大甕、古代土師器・甕、中世土師器、土鍤などが出土している。縄文時代晚期の土器である224・225は粗製深鉢片、226は有文深鉢片である。224・225の口縁部はヘラ工具による刻みと、胴部外側には横向方向の貝殻条痕文が施される。226は口縁部外側に2条の沈線と、区画内に押し引き列点文を施す。いずれも下野式とみられる。奈良、平安時代の遺物は、須恵器杯A・杯B・蓋・甕、土師器杯A・鉢・甕が、時期不明なものは土製品、木製品が出土している。227～234・244は須恵器である。227～230は蓋である。228は内面にかえりが付く。7世紀末頃に比定される。229は口縁端部は丸みを持つ。234は杯Aで口縁部は体部上部で外反し丸く収める。244は大甕で、体部外側は平行タタキ目、内面は同心円状押し具による青海波が施され、口縁部は外反する。248は不明土師器。250は土師器の甕で、体部外側はケズリ、内面は細かいハケメが施される。235～236・238～243は古代土師器の甕で、235・236・240は無台甕、242・243は柱状高台である。237は古代の有台黒色土器で、内面のみ黒色処理される。245～247は古代の土師器の甕の体部で、すべて墨痕がある。積文はいずれも不明である。252～255は古代土師器の皿である。同軸台七輪器で古代末に比定される。242は口縁端部が上方に肥厚し、外縁面は直立する。260は土鍤である。木製品は、6点出土しており、そのうち3点を国化した。256・257は棒状木製品、258は板状木製品である。

溝SP43・SP50・SP61出土遺物(図面58)

S P43からは、珠洲・甕が出土している。261は珠洲の甕の口縁である。262は須恵器の蓋か瓶である。263は須恵器の杯Aである。

溝SD6・SD18・SD21・SD33・SD46出土遺物(図面58)

SD6からは古代土師器、越中瀬戸が出土している。272は越中瀬戸の皿である。底部は露胎しており、底部削り出し高台である。273は土師器の瓶である。SD18からは古代土師器・甕が出土している。266・267は土師器甕である。古代の長胴甕の口端部を上面につまみあける。胎土には、海綿骨針が含まれる。SD21からは、縄文土器、須恵器杯A・甕が出土している。268は須恵器の杯Aである。269は縄文後期の中屋式の深鉢である。口縁部外側に2条の沈線と口唇部にヘラ刻み目が配される。270は須恵器の大甕の口縁である。頸部付近に格子タタキメの工具の接触痕がある。SD33からは近世肥前陶磁(唐津)が出土している。278は唐津の皿で、底部外側は露胎、内面は蛇の目釉はぎ、内外面は灰釉が施釉される。SD34からは中世土師器が出土し、柱痕が検出された。274は中世土師器である。外側ヨコナデで口縁部に厚くタールが付着する。

包含層出土遺物(図面58)

ここでは区画整理3区の包含層出土の遺物を報告する。275は須恵器の蓋である。276は近世唐津の皿である。内面は銅線釉を施釉、底部は蛇の目釉はぎ。削り出し高台で底部は露胎する。277は肥前陶磁の皿である。内外面に透明釉を施釉、内面側面に草花文が入る。279は近世唐津の甕である。256・257は棒状木製品、258・259は板状木製品である。全て木取りは板目である。256は片側に抉りが確認できる。257は先端を尖らせる。259は薄い板状木製品で、遺存する右端上端は切り欠きがある。

第5章 西木津遺跡本調査

第1節 区画整理区

1. 調査の概要

調査地区的設定

調査地区名を作業する順にF・G地区とし、それぞれ調査終了後に空撮を実施した。

調査対象地の南側のF地区と、北側のG地区的調査を行った。期間は平成23年2月21日から同年3月8日まで実施した。5月19日と5月21日に空撮を実施した。5月21日に下層遺構確認を実施し、調査を終了した。

座標は中木津遺跡区画整理3区と同様に公共座標（世界測地系）を基にX=81,300、Y=-15,650を起点とするAOとして、調査範囲を網羅できる位置に設定した。グリッドは真北を基線として、10m四方を区画して設定し、グリッドの名称については東西方向にアラビア数字（西から1、2、3…）南北方向にはアルファベット（南からA,B,C…）を用いてこの両者の組み合わせで表記した。

基本層序

西木津遺跡区画整理区の基本層序は以下の通りである。

I層：暗褐色粘質土（現耕作土）

II層：黄橙色～淡黄色シルト（古代以降の遺構検出面・上層地山）

V層：黄色～黄褐色シルト（下層地山）

検出遺構

検出遺構は、土坑24基をはじめ、溝11条、穴24基がある。その他近世から近代の落ち込みや溝がある。

出土遺物

出土遺物は以下のとおりである。古代からの遺物があり、中世、近世の遺物が確認されている。

土器類：土器部、須恵器、中世土器、珠洲、瀬戸美濃、越中瀬戸、肥前系磁器、肥前系陶器、瓦器



第9図 基本層序図 (1/2,000・1/40)

2. 遺構

土坑 S K39

G地点で検出された。平面は不整円形で、長軸2.8m、短軸2.4mを計る。断面は深い皿状を呈し、深さ60cmを計る。ブロック状堆積が確認でき人為的に埋め戻した可能性が高いと考えられる。青磁碗、土師器が出土している。

溝SD65・SD65a

F地点で検出された。SD65aは、SD37（市道地図）から続くと考えられる。SD65は東西方向に、SD65aは南北方向に延びる溝で、調査区南端部で直交して延びる。SD65・SD65aの断面は深い皿状の底面から急傾斜して立ち上がり、緩やかに上方に開く。SD65・SD65aの下層で須恵器蓋と珠洲壺が出土し、合流地点では漆器碗が出土している。上層と下層と区別して遺物は取り上げているが、下層でも古代～中世の遺物が混在して出土していることから、長期間機能した溝と考えられる。

ピット群

F地点の北側では、S P67等の柱穴も定量検出されている。試掘調査の結果にてF地区の北側のトレーンチで多くのピットや土坑、溝が検出されることから、集落がF・G地点東側に広がることが判明した。周辺から出土する遺物は中世が主体であり、柵列や掘立柱建物の存在が想定される。G地区の南側でも土坑や溝がまとまって検出されている。

3. 出土遺物

土坑 S K39出土遺物（図面60）

S K39からは須恵器、中世土師器、土師器、青磁が出土している。305は青磁の碗である。見込み部に片彫りの文様が一部残り、底部は露胎である。306は須恵器の杯Aである。307は中世土師器の皿である。内外面はヨコナデで、ヤキムラがある。308は土師器の壺である。外面は黒色処理される。

土坑 S K52出土遺物（図面60）

S K52からは珠洲が出土している。309は珠洲の擂鉢である。内面に単目13条1単位が8方向にから施される。底部は板状圧痕が残る。

柱穴 S P67・73出土遺物（図面60）

S P67からは中世土師器が出土している。310・311は中世土師器の皿である。310は焼成時の黒斑が残る。311は内外面回転ナデを施す。S P73からは中世土師器が出土している。

溝 S D62・66出土遺物（図面60）

S D62からは土師器杯が出土している。312は外面・内面は赤彩が施される。

S D66からは中世土師器が少數出土している。313・314は内外面ヨコナデを施す。

溝 S D65出土遺物（図面59・60）

S D65からは須恵器、土師器、珠洲、中世土師器、青磁、瓦器が出土している。280は須恵器の蓋である。281～284は須恵器の杯Bである。285は須恵器の鉢か。291～304は珠洲。291～293はすり鉢で、292・293は片口鉢である。吉岡編年Ⅱ～Ⅲ期に帰属するか。294・298は壺。外面は平行タタキメ、内面はユビオサエとナデで調整する。297は外面に自然釉がかかる。吉岡編年Ⅳ期に帰属する。295～297・299～304は壺である。295・297は吉岡Ⅱ期、299・300はⅢ期、296はV～VI期に相当する。286～288は中世土師器。287は灯明皿で

口縁外外面にタールが付着する。289は青磁の碗である。太宰府編年胞泉窯系小碗Ⅲ類か。290は瓦器の鉢か。

包含層出土遺物（図面60）

包含層からは、縄文時代晚期の縄文土器を挙げる。315は縄文晚期の鉢。口唇部に刻み目、外面に沈線1条を施し、外面は被熱痕が残る。

4. 小結

ここでは中木津遺跡区画整理3区・市道地区と西木津遺跡の調査成果と合わせて概観してみたい。

これまで西木津遺跡の遺跡範囲は点的な把握にとどまっていたが、中木津遺跡で確認された溝SD30が西木津遺跡の溝SD65aの方向に向かっており、また溝SD65も中木津遺跡から西木津遺跡に延びることから、西木津遺跡と中木津遺跡は一つの遺跡のまとまりである可能性が指摘できる。

調査成果の一つとして、溝群の検出があげられる。中木津遺跡市道地区のSD30b・SD35、SD36a・SD36c、SD36b・SD37、中木津遺跡区画整理3区のSD14・SD21、SD18・SD19、SD5・SD6、西木津遺跡区画整理地区のSD65・SD65aである。

これらの溝群の時期については、出土遺物、遺構の切り合い・配置・形状・軸方向から大きく3時期の変遷があると考えられる。新旧関係はA群、C群、B群の順に新しくなると考えられる。出土遺物はA群としたSD30、SD30bともに古代～中世初期段階のものが中心であり、須恵器杯、土師器椀・皿、白磁IV類、青磁などである。B群としたSD36a・SD36cとC群に相当するSD36b・SD37からは12世紀代の土師器皿などが溝底面砂層から出土していて、9世紀後半・末頃～11世紀代の遺物は出土しない。SD65の下層から珠洲甕（吉岡IV期：14世紀前半～後半）が出土している。SD30bと同時期に存在していたと考えられるSD65（＝SD30）はSD65aと直交するが、出土遺物の様相からSD30（＝SD65）よりも新しい時期まで存在していたと考えられる。

流路の方向はA群・B群・C群の軸方向はともに東・西を指向し、A群とC群はやや北に振れ、B群は南に振れる。出土遺物や軸方向からA群より新しいとしたB群・C群の中でB群に切られるC群はA群の配置に影響した形で12世紀段階に新たに設置した溝と考えられる。A群とB群の間は約40m～50mの空間が、SD30とSD30bの直交地点とSD30（SD65a）とSD65の直交地点の間は約200mの距離がある。これらの溝が蛇行しながらも、軸をやや北・南に振る東西とやや東に振れる北南を指向していることが見てとれる。これらの溝が区画溝として機能していたとすれば、中世において広範囲に及ぶ大きな区画を伴う開発が考えられる。

	区画整理3区	市道地区	深さ	幅	軸方向
A群	SD14	SD30b	深い	広い	東西
（2条1対・並行）	SD21	SD35	浅い	狭い	東西
B群	SD18	SD36a	深い	広い	東西
（2条1対・並行）	SD19	SD36c	浅い	狭い	東西
C群	SD6	SD36b	深い	狭い	東西
（2条1対・並行）	SD5	SD37	浅い	狭い	東西
D群	SD65a	SD30	やや深い	広い	南北
（直交）	SD65		深い	狭い	東西

第1表 溝分類案

第6章 結語

今回の調査では佐野台地北側の様相が明らかとなった。下記に各遺跡の状況をまとめてみたい。

1. 中木津遺跡について

縄文時代後期～晩期

縄文時代後期から晩期の土器と石窯遺構が試掘調査にて確認された。遺構・遺物は調査区南側に多く確認される。試掘調査D区S X7では、石匂いを持つ土坑が検出された。県内と周辺においては当該期建物の炉は地床炉であることから、埋葬に関連する土坑の可能性が指摘されている。近隣の石塚鶴保遺跡でも同時期の土器や包含層が確認されている。また、区画整理2区のⅢ層上層にて部分的に検出された遺構とⅢ層にあたる黒褐色土が確認された。この土層は從来から佐野台地に広く分布する縄文後期～晩期の遺構・遺物を伴う土層であることが指摘されていることから、今後の調査においても注意したい。

古代

古代の建物群が区画整理2区・3区で、また台地を南北方向に流れる溝が区画整理1・2区にて確認された。建物群は、総柱建物と個柱建物が東西軸で確認できる。その南北方向に建物が部分的に検出されたことから、規格性を持った建物配置がされていた可能性を示唆する。遺物は一般的な須恵器・土師器が出土するが、製塙土器が溝SD204とその周辺より少量出土している。佐野台地の遺跡群でも東木津遺跡・中保B遺跡など官衙関連遺跡で製塙土器の出土が報告されていることから、いくつかの開発拠点に製塙土器が運ばれた事を伺わせる。文字資料に関しては、「木津カ」の墨書き器や須恵器の転用鏡などが出土しており、近傍での文書事務が行われたことを示唆する。しかし、中木津遺跡・西木津遺跡で検出された掘立柱建物の規模は小さく、高級陶器の出土がほぼ確認できないことから、佐野台地の開発の拠点は南に隣接する東木津遺跡や「曹子」の墨書き器が出土した下佐野遺跡を中心であると考える。また、1区SD204や2区SD11は佐野台地北端を貰く溝の一部であることが指摘でき、同軸の流路は下佐野遺跡や石名瀬A遺跡の調査で検出されている。多量の古代土器は、これらの周辺遺跡の流れ込みを含むものであるが、おおむね中木津遺跡の集落存続時期を示すものと考えたい。3区と西木津遺跡でも東西軸のSD14・21が検出されていて、主な出土遺物の時期はほぼ同時期である。

中世・近世

中世～近世の遺構として掘立柱建物や土坑、また調査区全域で多くの溝群が検出された。掘立柱建物は1区SB01・02や2区SB08があり、いずれも小規模である。溝は2区SD48のような屈曲を持つ溝や同軸の中小の溝群があり、時期は中世後半～近世である。中木津3区や西木津遺跡の調査区では東西方向を主軸とする多くの溝が検出され、正方位を意識した溝である可能性が調査担当者から指摘される。近隣の石塚遺跡にて掘立柱建物と同軸の溝状遺構が検出される事例もあることから、中木津遺跡においても広範囲に区画溝を含む集落が存在していた可能性が高まった。近世の遺構として2区SX03がある。土器類や木製品・漆器などのが出土しており肥前陶磁や伊万里などの生活用品が出土している。前述した2区SD48との関連が想定される。

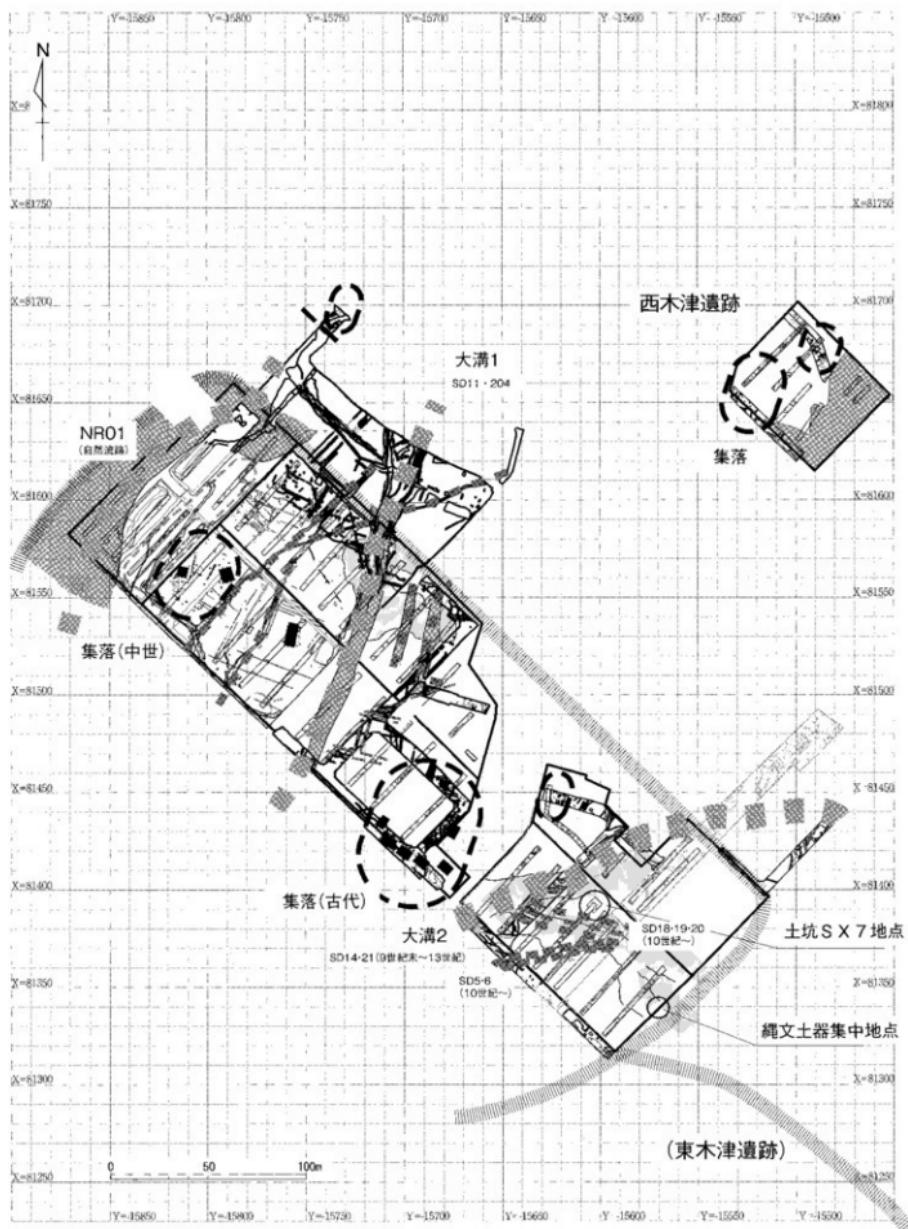
2. 西木津遺跡について

主に中世の遺構が検出され、古代・中世の遺物が出土した。F地点南側のSD65では中世の遺物が出土し、集落はその北側に広がると考えられる。G地点でも土坑や溝などが検出され、遺構分布も北側に拡がる。このことから段丘の境界付近に中世の集落の所在があると想定される。

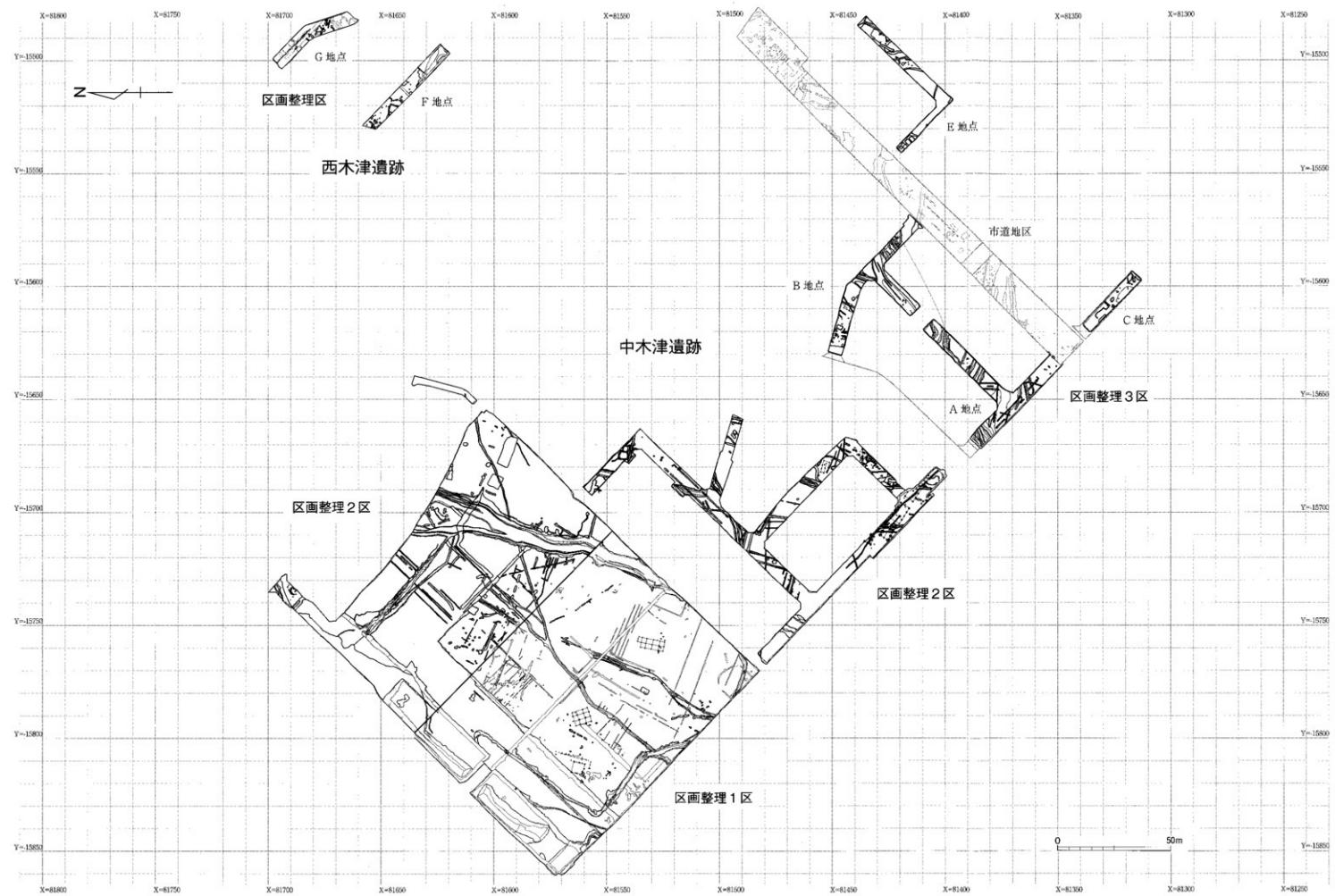
3. 佐野台地上の遺跡・遺構と文献等の問題

中世においては、文献史料にて周辺は福田庄であることが想定される。同庄の成立年代は不明であるが、『妙法院文書』「寛元3年（1245）4月17日条」にその記述がみられることから、当該期に成立していたとみられる。その後、1339年から1392年にかけ、越中守行國主である源大寺公能（の弟）による私領支配が行われた。1342年に宗良親王による支配が文献から伺え、南北合一後の14世紀末以降は大館氏の支配下におかれることになる。越中石黒党の福田二郎範高に關係する建物の可能性を提起されている（高岡市教委2007）。

上述した時期の明確な遺構は確認されないが、中世～近世の堀跡の性格を持つ溝や横列を配する掘立柱建物などが存在する。これらの遺構や小規模の溝で区画のありかたなどの分析を行うことで中世の集落のようが明らかになると思われる。今後同庄における上記の中世莊園に關係する遺構のさらに詳細な整理を行い検討したいと考える次第である。



第10図 遺跡概念図 (1 / 2, 500)



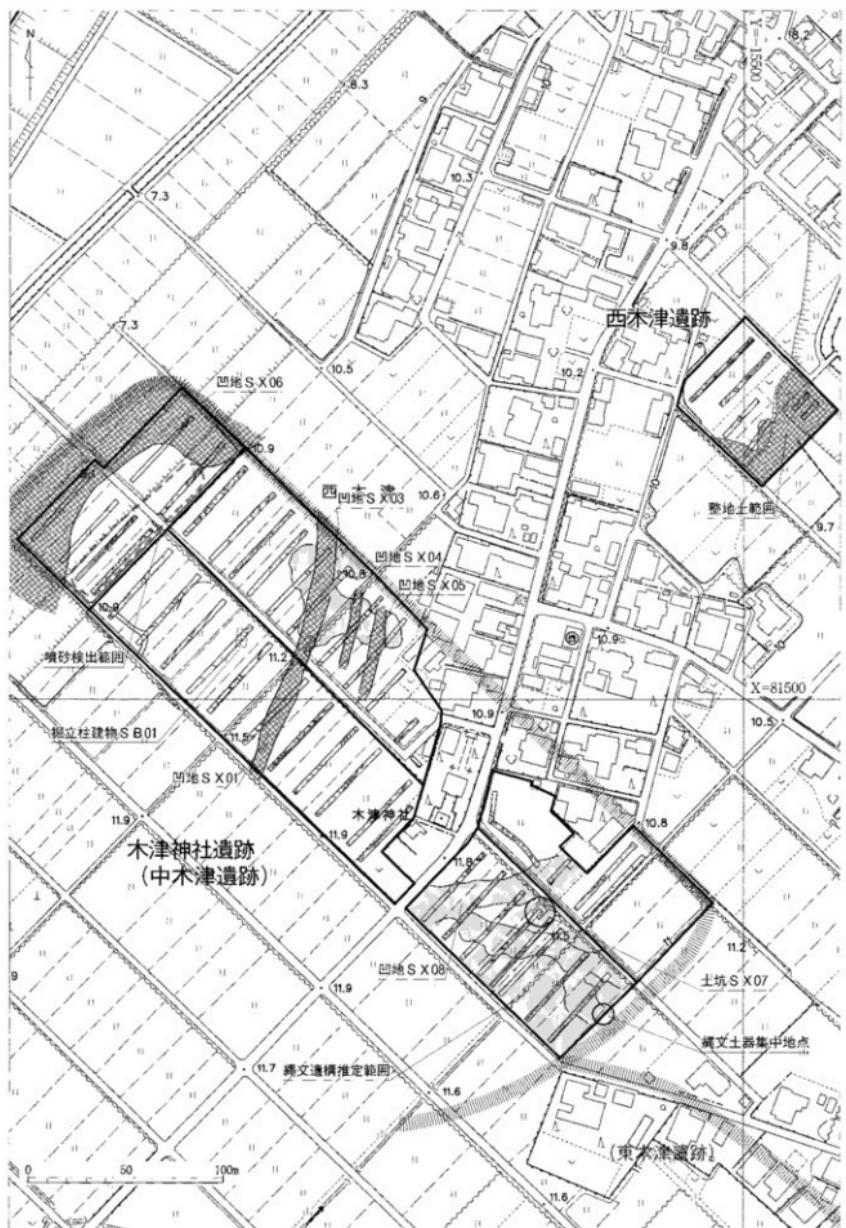
第11図 遺構全体図 縮尺1/1,500

引用・参考文献

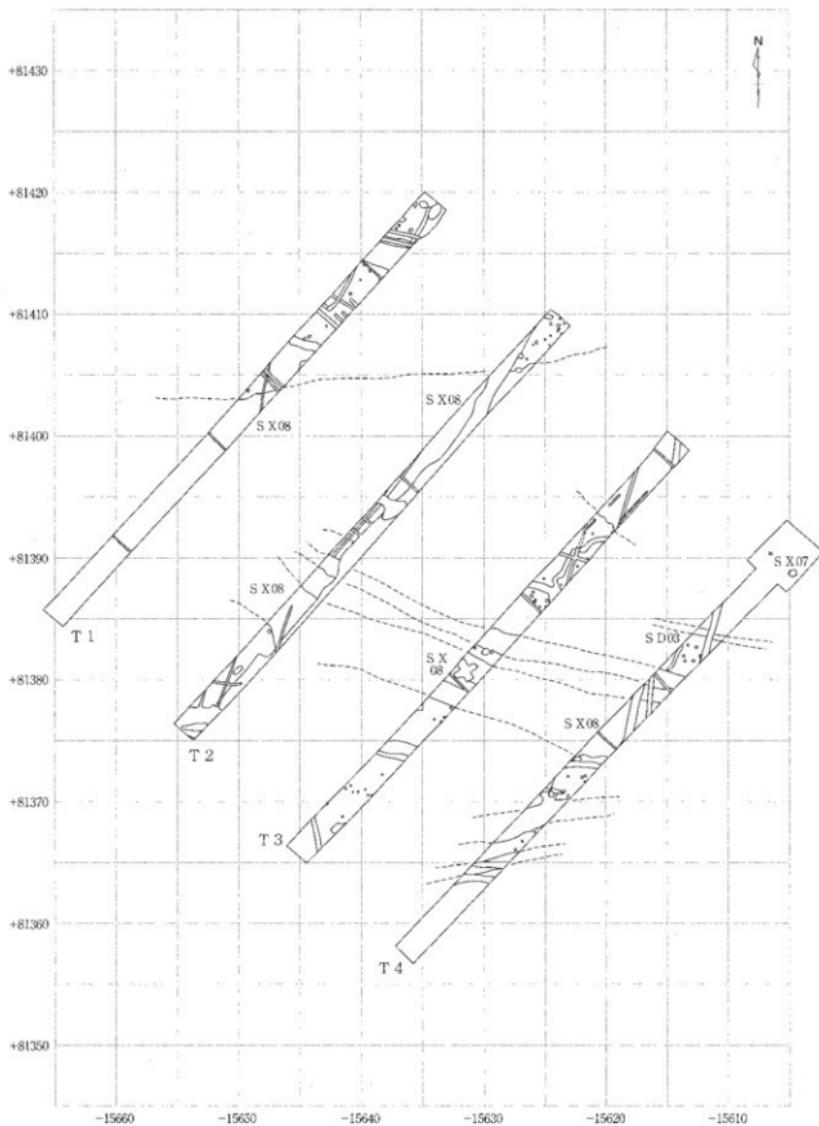
- 高岡市 「高岡市史」上巻 1959
- 高岡市 「たかおか歴史との出会いー」 1991
- 竹内理三編 「日本地名大辞典 16富山県」角川書店 1979
- 久保尚文 「補論（三）越中石黒氏について」「勝興寺と越中一向一揆」桂書房 1983
- 能都町教育委員会 「真盛遺跡」 1986
- 北陸古代土器研究会編『シンボジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 1988
- 高岡市児童文化協会編 「越中たかおかかるさと誌料抄」 1990
- 奈良国立文化財研究所 「木器集成図録 近畿原始編」 1993
- 吉岡康暢 「中世須恵器の研究」真陽社 1994
- 中世土器研究会 「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社 1995
- 越前慎子 「IV考察 1 梅原護摩堂遺跡出土中世土器器皿の編年」
『梅原護摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』 1996
- 太宰府市教育委員会 「太宰府条坊跡X V」 2000
- 高岡市教育委員会 「高岡市埋蔵文化財分布調査概報I」 1990
- 高岡市教育委員会 「木津神社遺跡、福井地区」「市内遺跡調査概報VI」 1997
- 高岡市教育委員会 「中保B遺跡調査報告」 2003
- 高岡市教育委員会 「石塚遺跡調査報告」 2007
- 高岡市教育委員会 「下佐野遺跡調査報告」 2007
- 高岡市教育委員会 「下佐野遺跡調査報告II」 2011
- 高岡市教育委員会 「石名瀬A遺跡調査報告」 2012
- 高岡市教育委員会 「石塚廃保遺跡調査報告」 2013
- 高岡市教育委員会 「中木津遺跡（都市計画道路地区）」「市内遺跡調査概報XX II」 2013
- 富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 「梅原護摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）」 1996
- 富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 「下老子笠川遺跡発掘調査報告」 2006
- 富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 「下黒田遺跡・下佐野遺跡・諫訪遺跡・藏野町東遺跡・
藏野町追跡・駒方南遺跡 発掘調査報告」2013
- 富山県埋蔵文化財センター 「富山県高岡市下佐野遺跡発掘調査報告書」 2011
- 砺石川県埋蔵文化財センター 「松任市乾遺跡発掘調査報告書 A・C区下層編」 2001
- 砺石川県埋蔵文化財センター編 「環日本海交流史研究集会「縄文後晩期の低湿地集落」」 2003
- 小矢部市教育委員会「桜町遺跡発掘調査報告書I」 2004
- 上野章 「越中の7世紀の須恵器変遷について」「ふくおかの飛鳥時代を考える」
- 福岡町教育委員会・富山考古学会 2006
- 町田賢一 「X考察 “条痕文の編年”」「下老子笠川遺跡発掘調査報告」 2006
- 根津明義 「古代越中における官衙的様相と在地社会」「古代の越中」高志書院 2009

圖 面

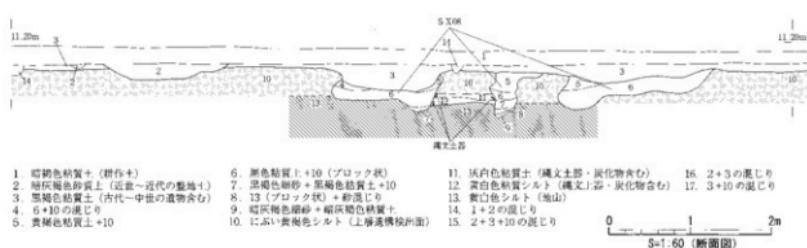
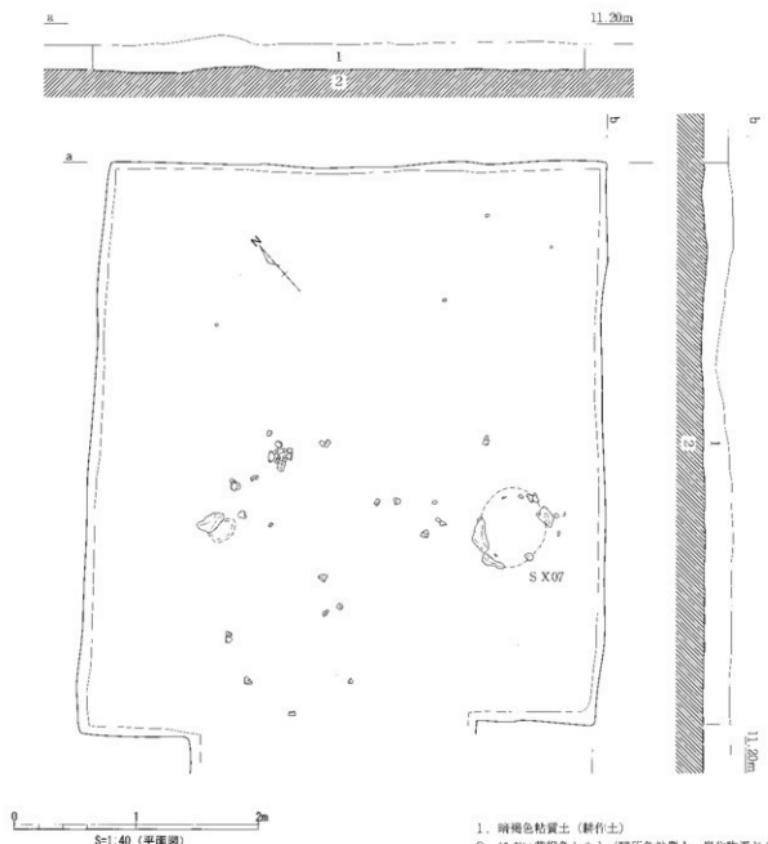
図面〇一 遺構実測図 木津神社遺跡（中木津遺跡）試掘調査



図面〇二 造構実測図 木津神社遺跡（中木津遺跡）試掘調査



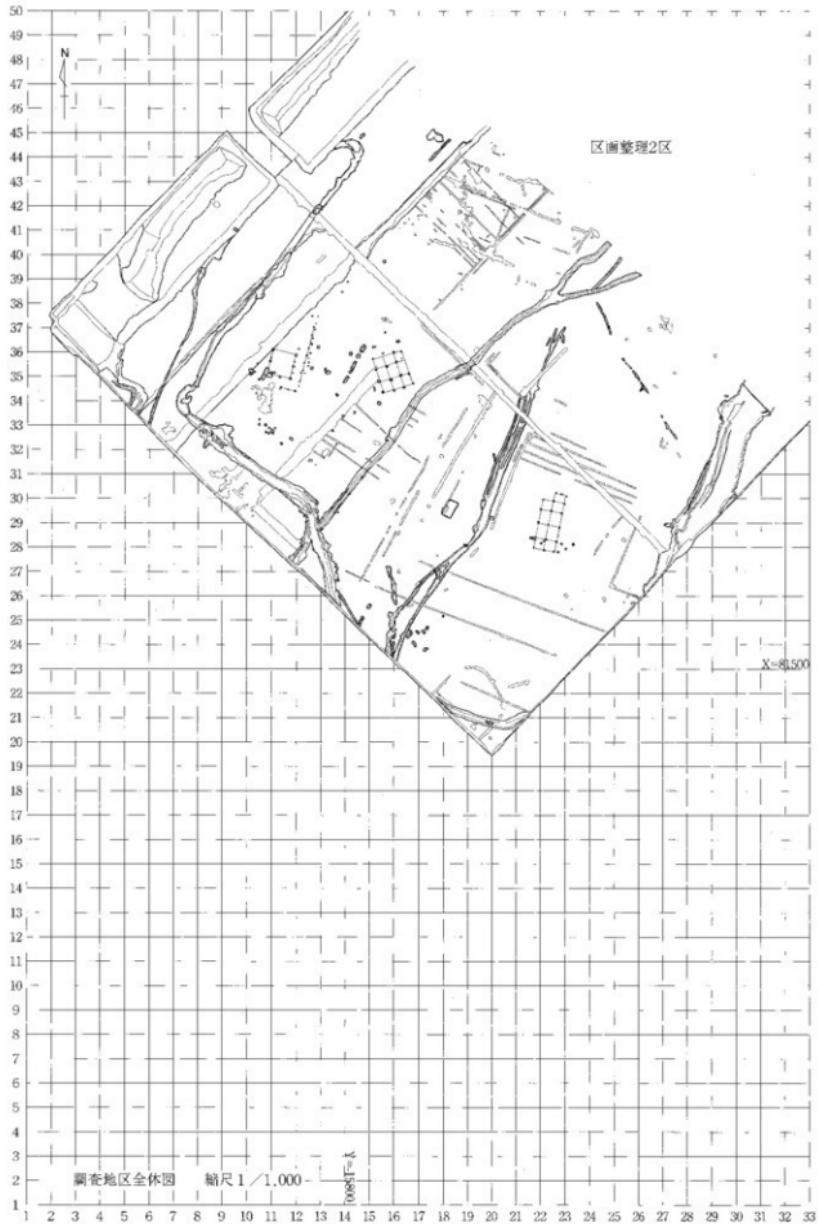
図面〇三 遺構実測図 木津神社遺跡（中木津遺跡）試掘調査



遺構実測図 D区 土坑 S X07 実測図

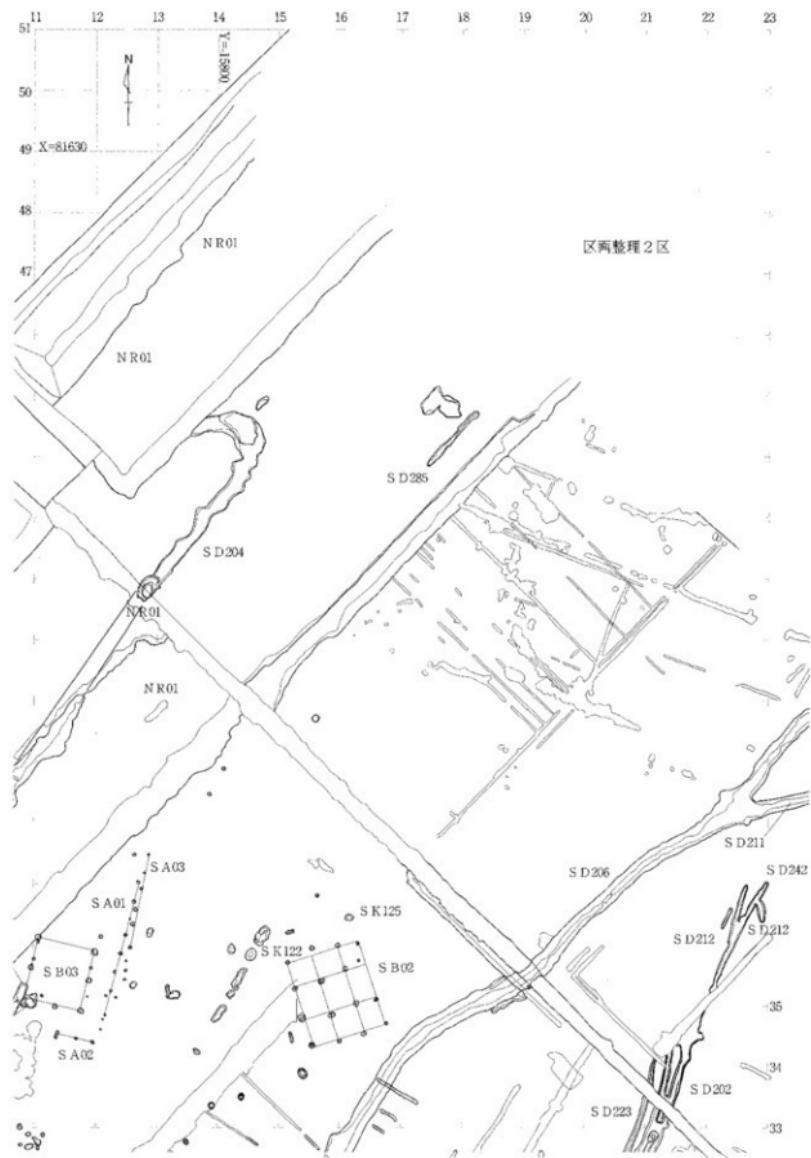
縮尺 1/40, 1/60

図面〇四
遺構実測図
中木津遺跡
区画整理1区



遺構実測図 区画整理1区遺構全体図

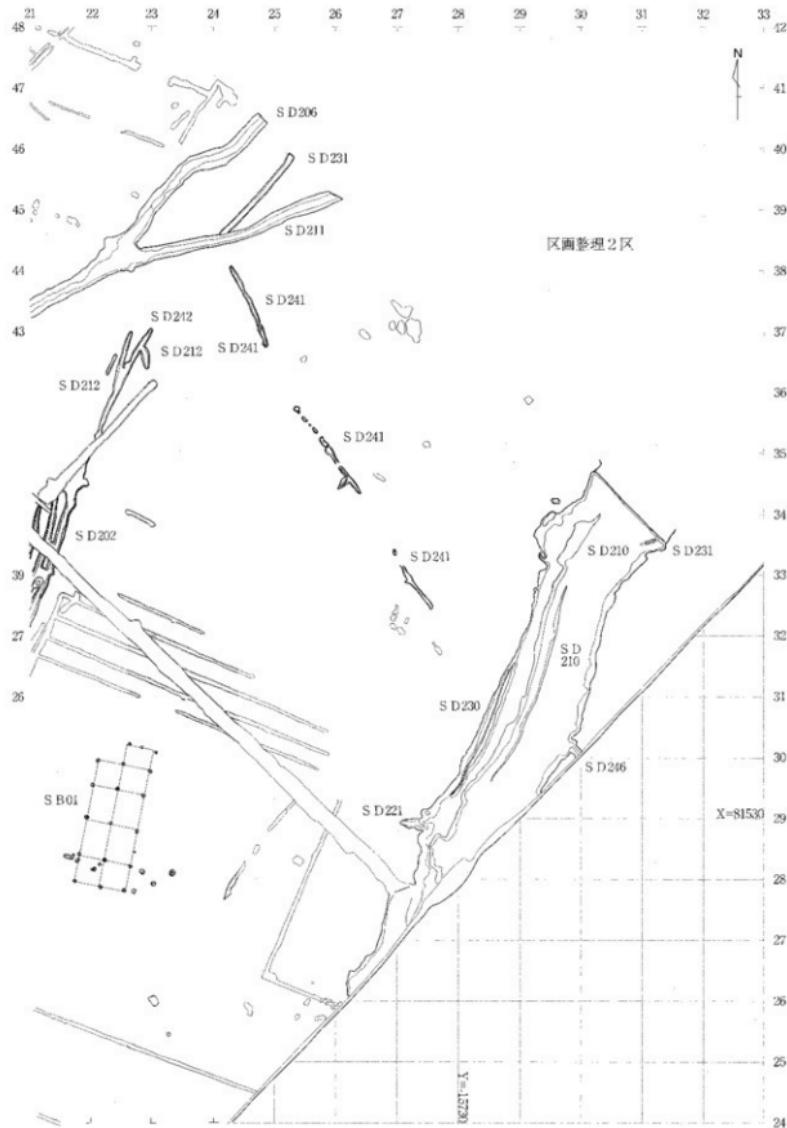
縮尺1/1,000



遺構実測図 区画整理1区遺構全体図 1

縮尺 1/400

図面〇六 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理1区



遺構実測図 区画整理1区遺構全体図2

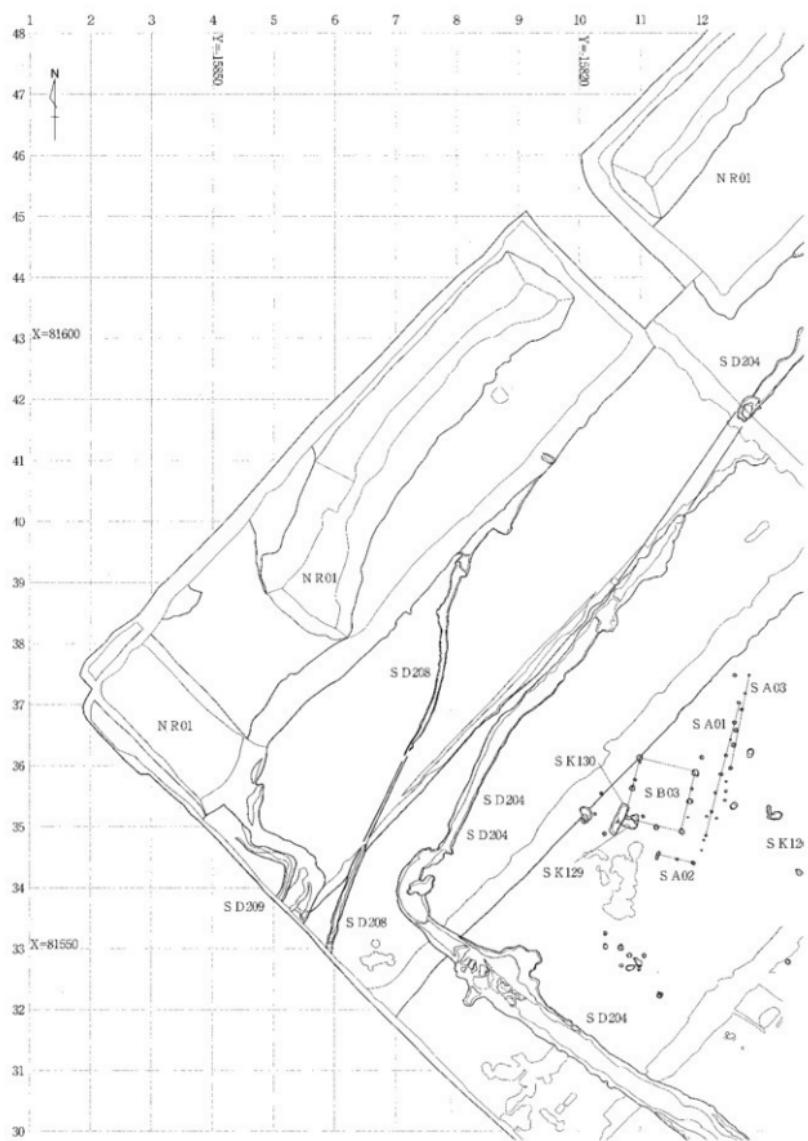
縮尺 1/400

図面〇七

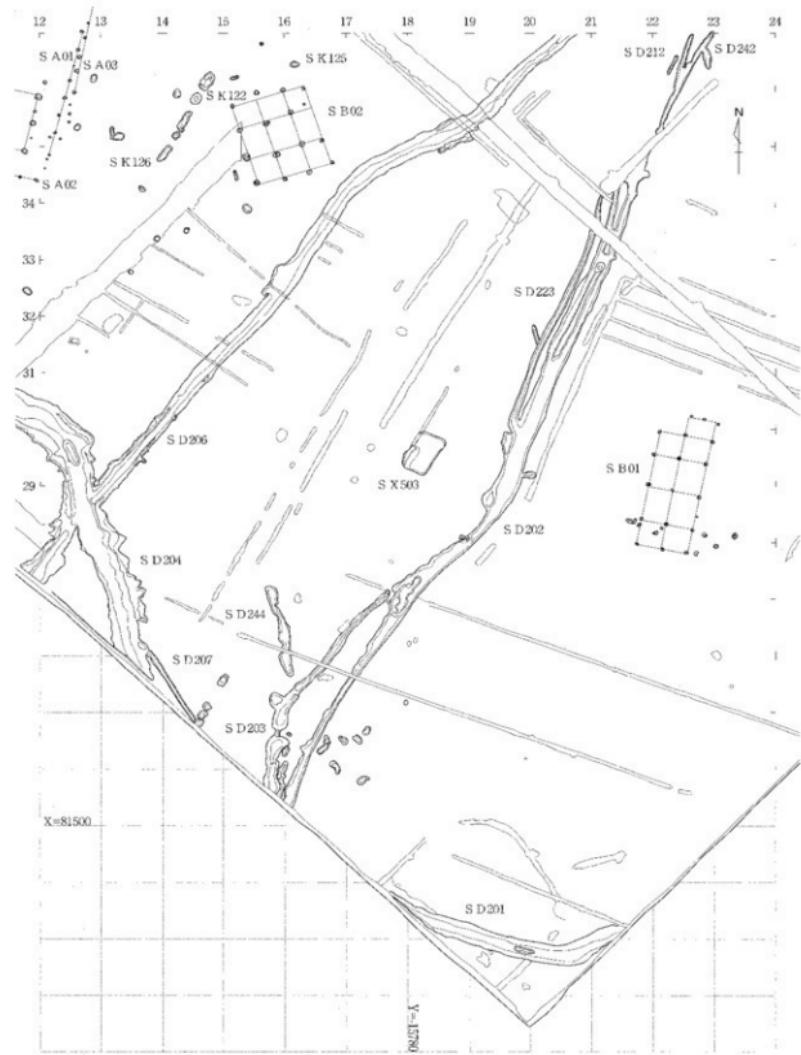
遺構実測図

中木津遺跡

区画整理1区

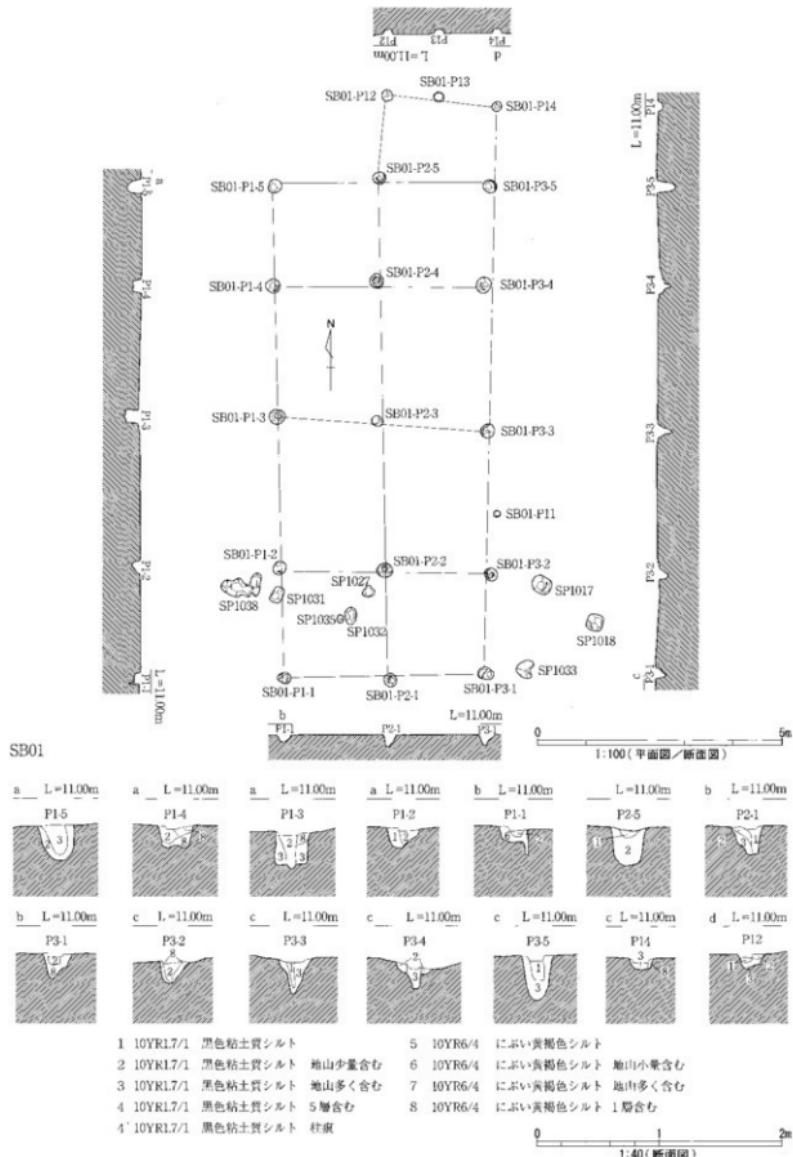


図面〇八 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理1区

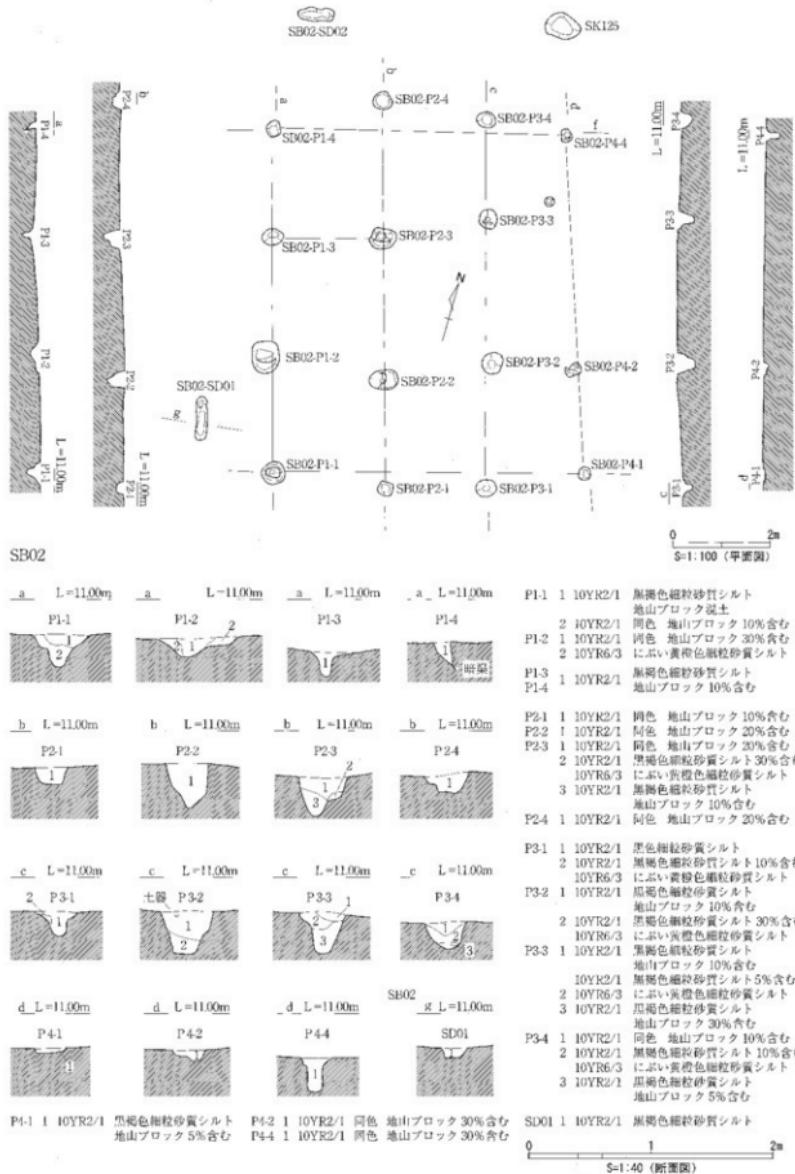


遺構実測図 区画整理1区遺構全体図4

縮尺 1/400

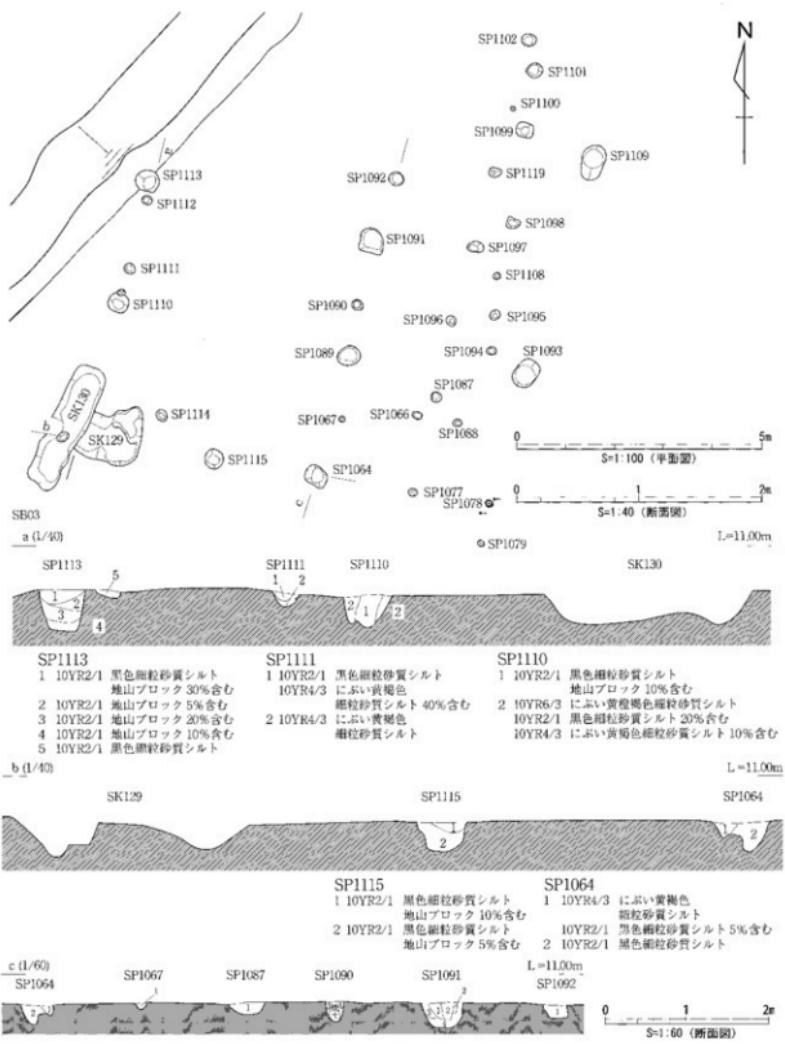


図面一〇 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理1区



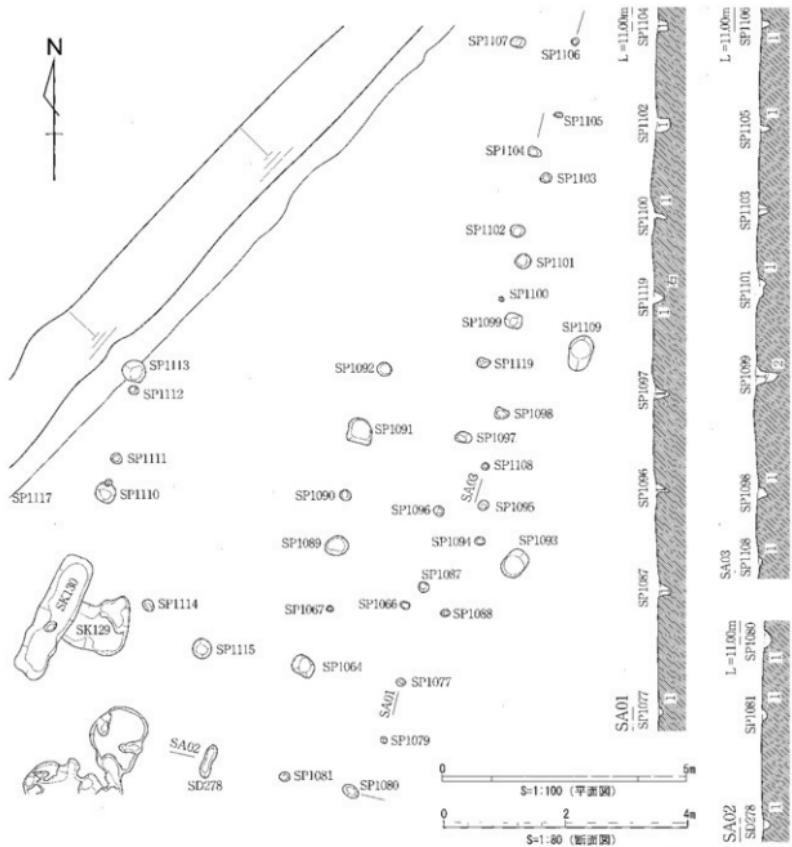
遺構実測図 区画整理1区 据立柱建物 S B02実測図

縮尺 1/80・1/40



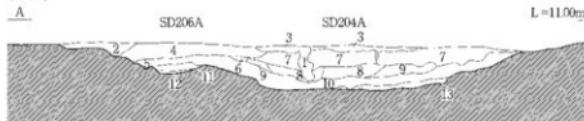
遺構実測図 区画整理1区 振立柱建物S B03実測図

縮尺 1/80・1/40・1/60



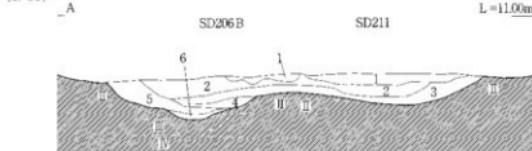
SA01	SA02	SA03
SP1077 1 黒褐色細粒砂質シルト	SD278 1 黒褐色細粒砂質シルト	SP1099 1 黒褐色細粒砂質シルト にぶい黄褐色細粒砂質シルト
SP1087 1 10YR3/3 にぶい黄褐色細粒砂質シルト	SP1081 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト	10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト 10%含む
SP1096 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト	SP1090 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト	2 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト (山地フロック 5%含む)
SP1097 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト		SP1101 1 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂質シルト 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト 10%含む
SP1119 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト		
SP1100 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト	SP1108 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト (山地フロック 1%含む)	SP1103 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト
SP1102 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト		SP1105 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト
SP1104 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト	SP1098 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト (山地フロック 1%含む)	SP1106 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト

S D 204・206 (1/60)



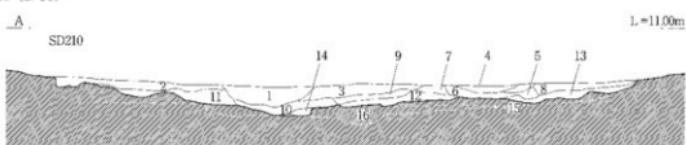
1 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂	8 10YR2/2 黒褐色粘土地山ブロック・炭化物含む
2 10YR2/2 黒褐色粘土地山ブロック含む	9 10YR2/2 黒褐色粘土 炭化物含む
3 10YR2/2 黒褐色粘土	10 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト・地山ブロック含む
4 10YR2/1 黒色粘土	11 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂質シルト
5 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂質シルト	12 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂黒褐色粘土・炭化物含む
6 10YR2/2 黒褐色粘土	13 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂黒褐色粘土・炭化物含む
7 10YR2/3 黑褐色粘土	

S D 206・211 (1/60)



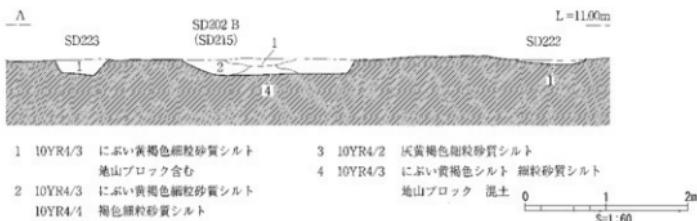
1 10YR2/1 黒色粘土質シルト	4 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト 炭化物含む
2 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト	5 10YR2/1 黒色粘土質シルト 炭化物含む
地山ブロック含む	6 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト
3 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂 炭化物含む

S D 210 (1/60)

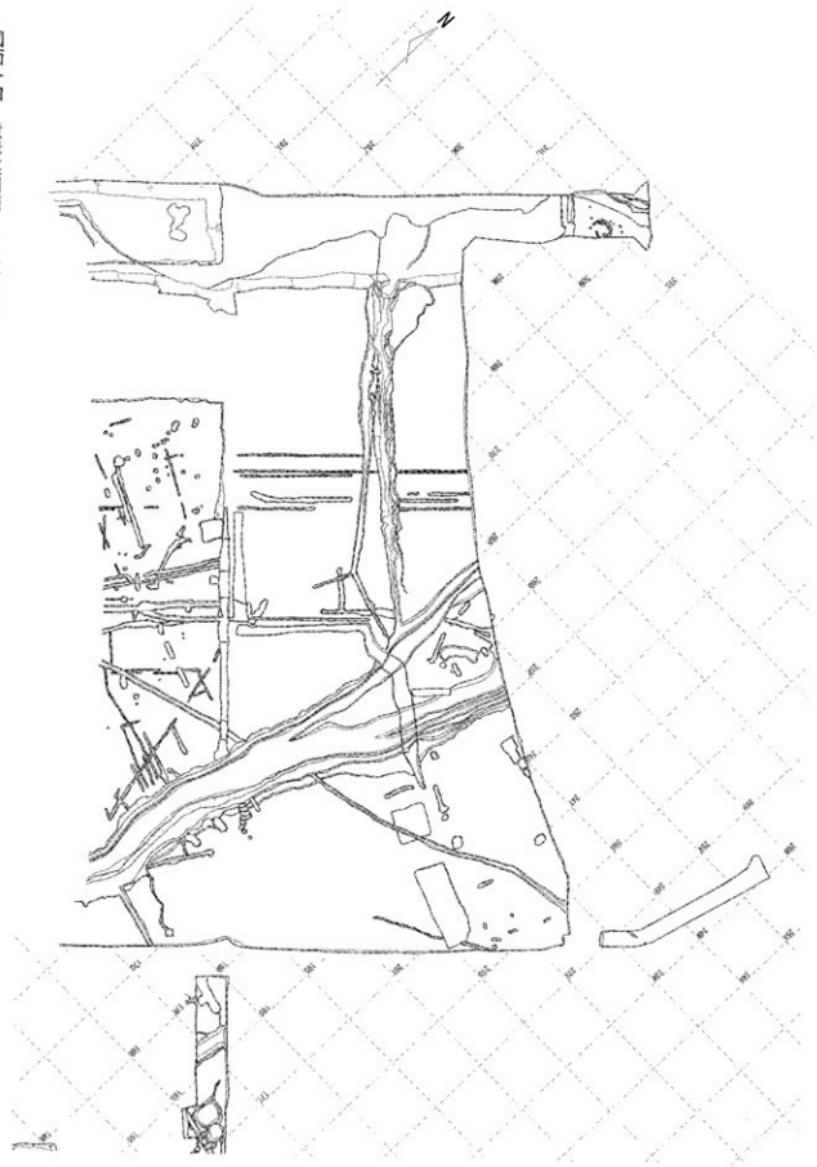


1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト	6 10YR4/3 にぶい黄褐色	11 10YR4/1 黒灰色中粒砂
2 10YR2/3 砂褐色細粒砂質シルト	7 10YR4/1 黒灰色中粒砂	12 10YR3/1 黑褐色粘土質シルト
3 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂質シルト	8 10YR3/1 黑褐色粘土質シルト	13 10YR3/1 黑褐色粘土質シルト
4 10YR6/3 にぶい黄褐色中粒砂	9 10YR3/1 黑褐色粘土質シルト	14 75Y3/1 オリーブ黒色粘土
5 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト	10 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト	15 75Y5/1 黑褐色粘土質シルト

S D 202・222・223 (1/60)



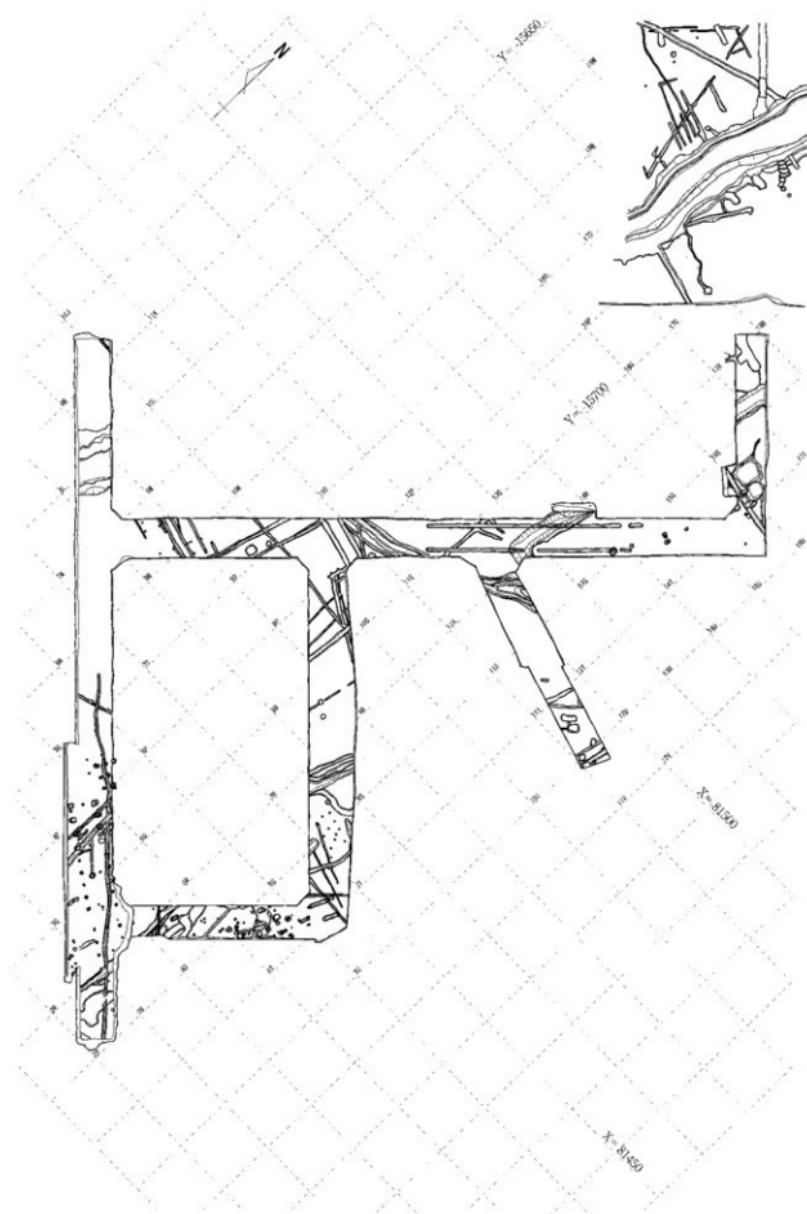
図面一四 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区



遺構実測図 区画整理2区 遺構全体図北側

縮尺 1/800

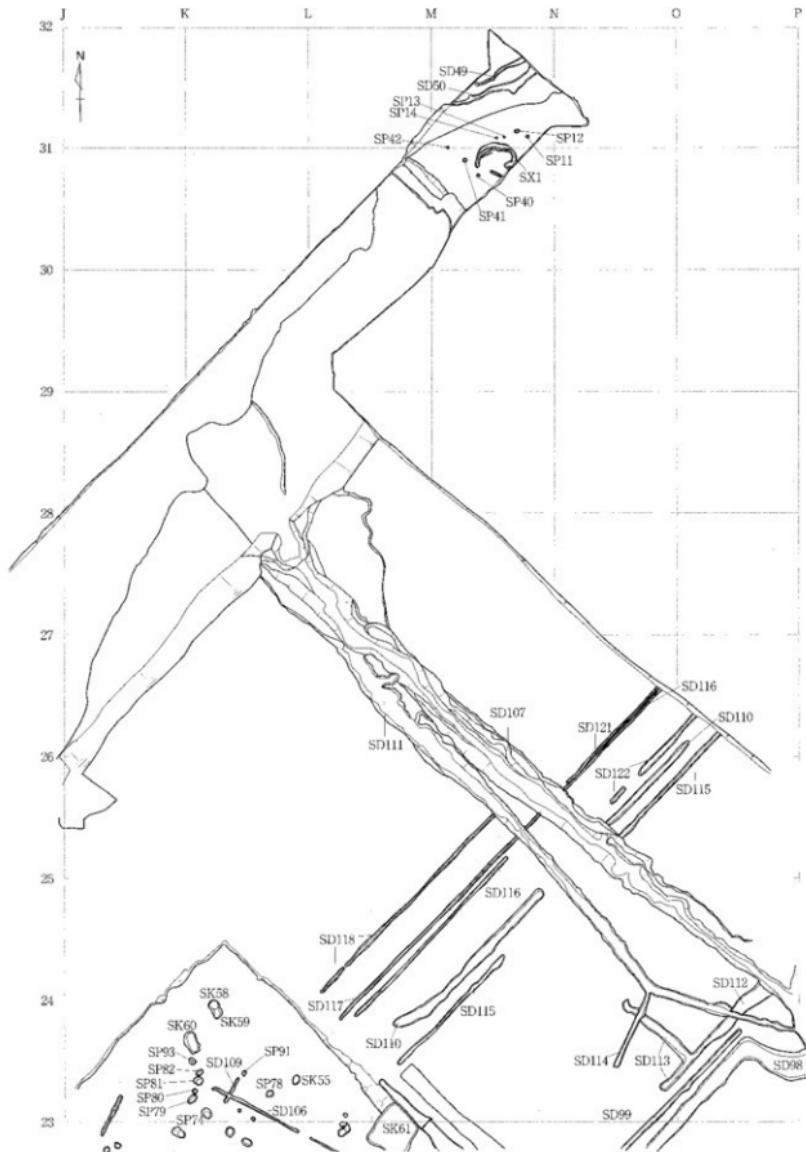
図面一五 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区



遺構実測図 区画整理2区 遺構全体図南側

縮尺 1/800

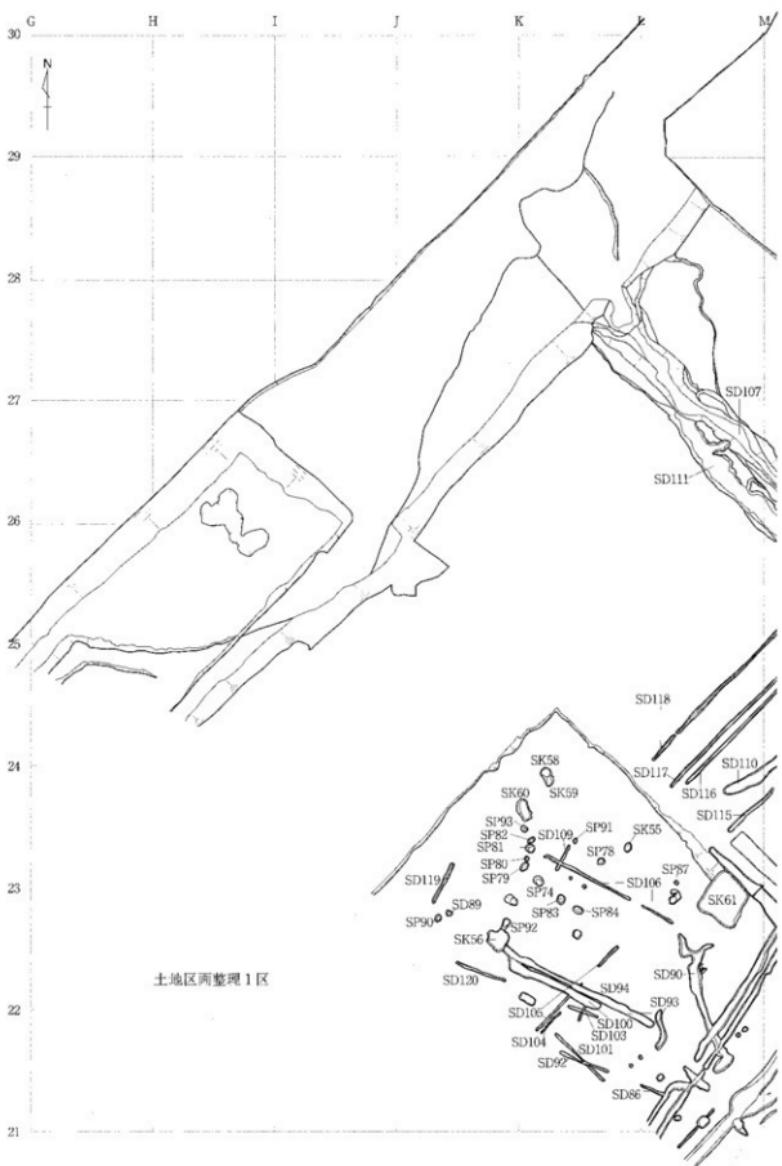
図面一六 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区

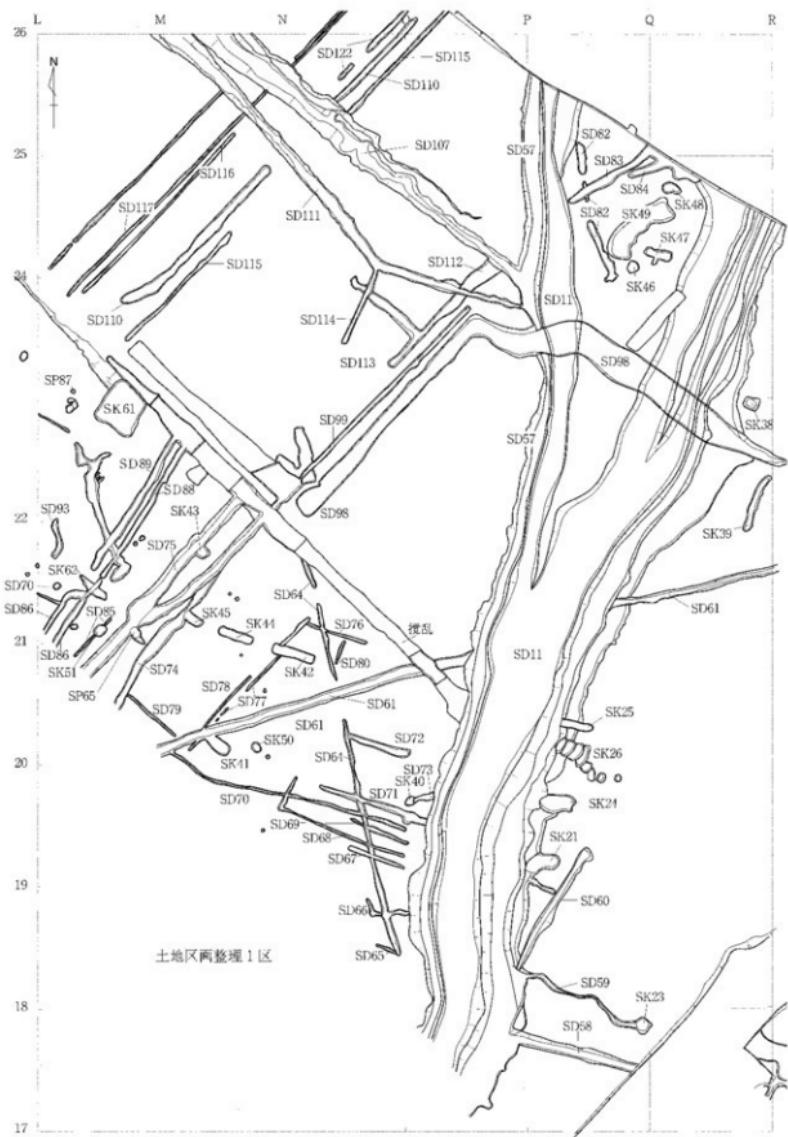


遺構実測図 区画整理2区 遺構全体図1

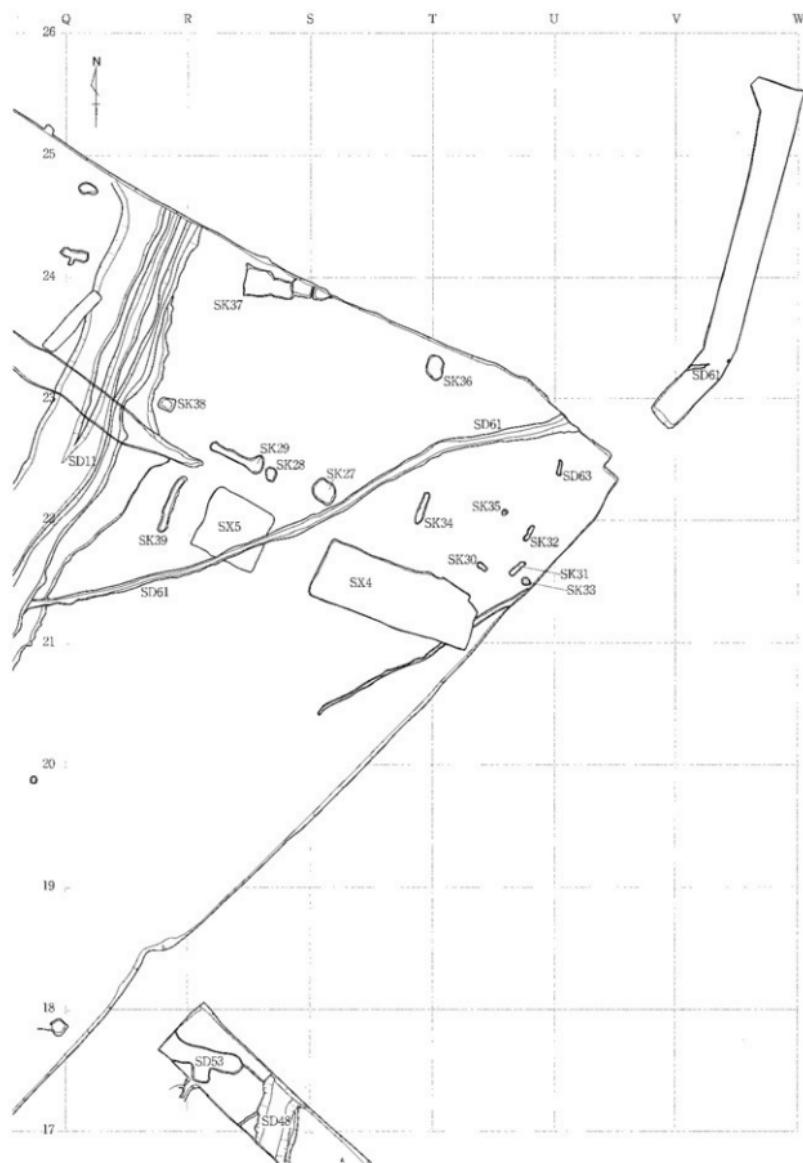
縮尺 1 / 400

図面一七 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区





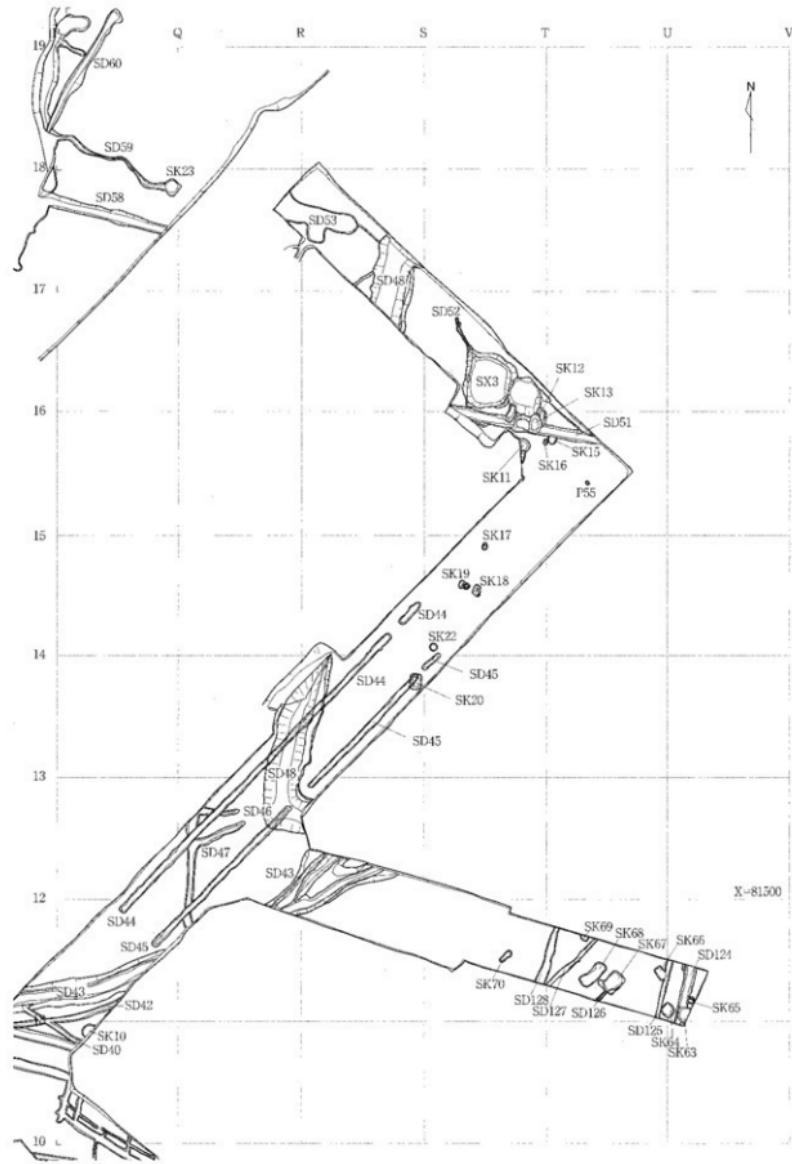
図面九 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区



遺構実測図 区画整理2区 遺構全体図4

縮尺1/400

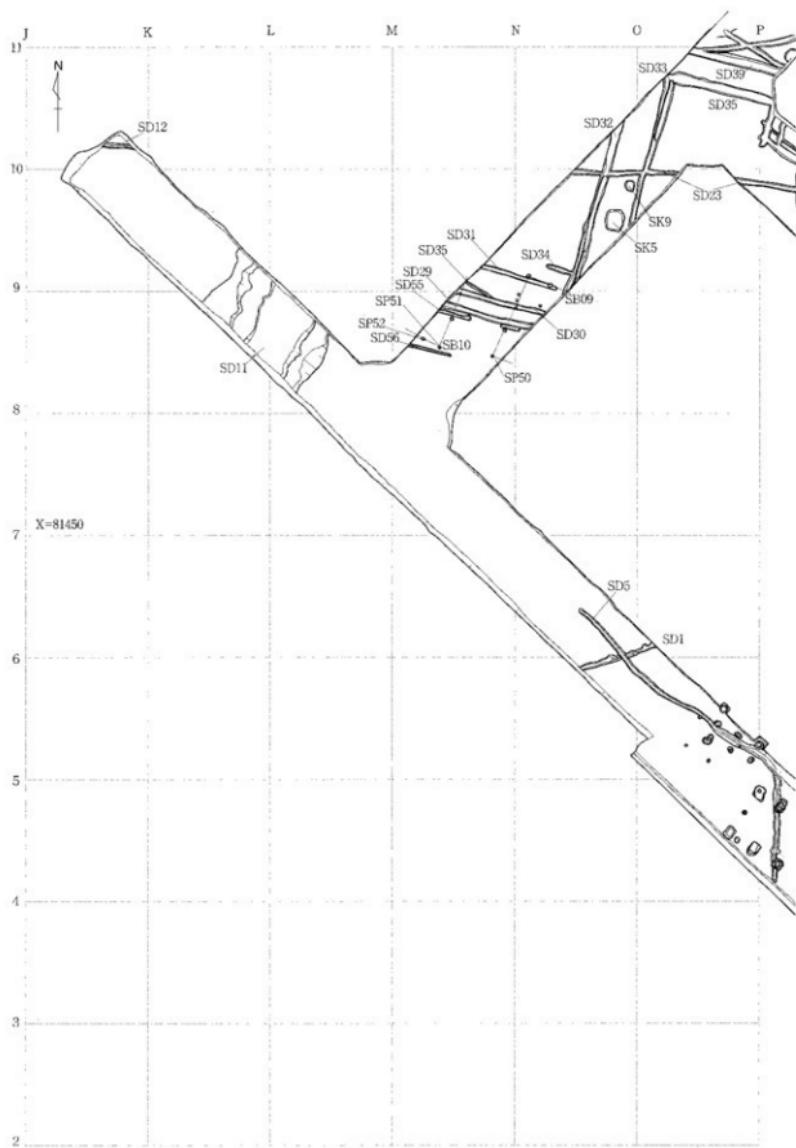
図面二〇 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区

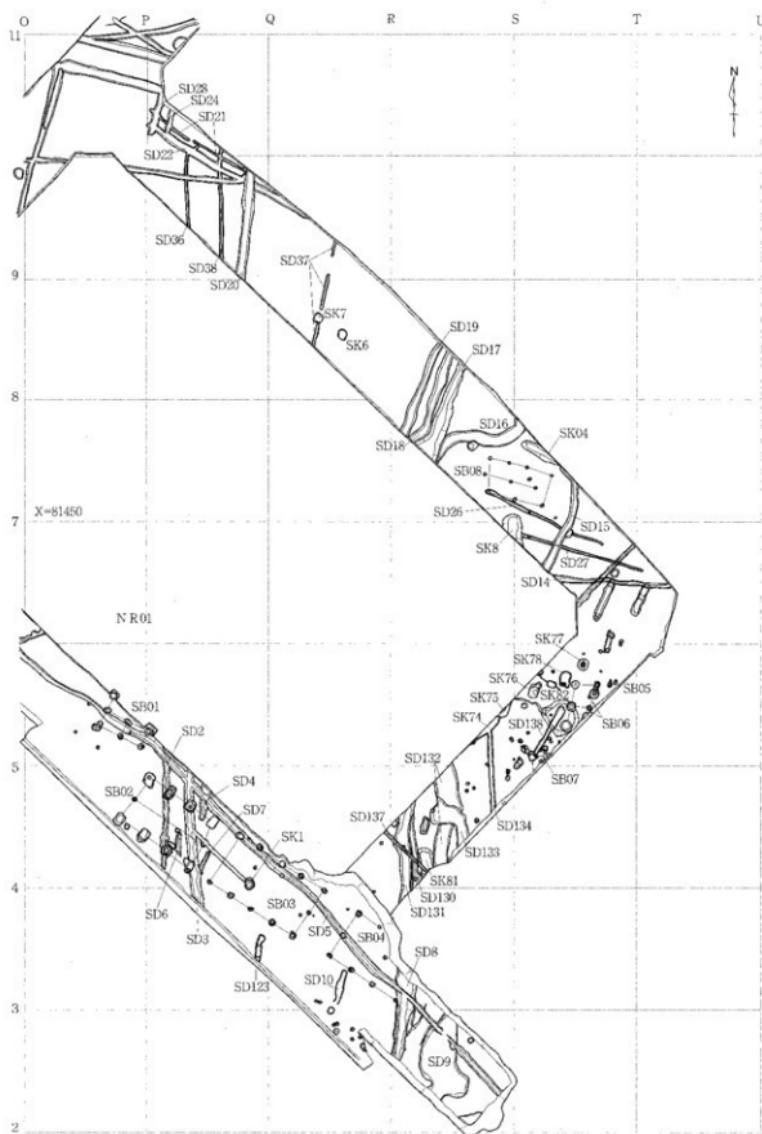


遺構実測図 区画整理2区 遺構全体図5

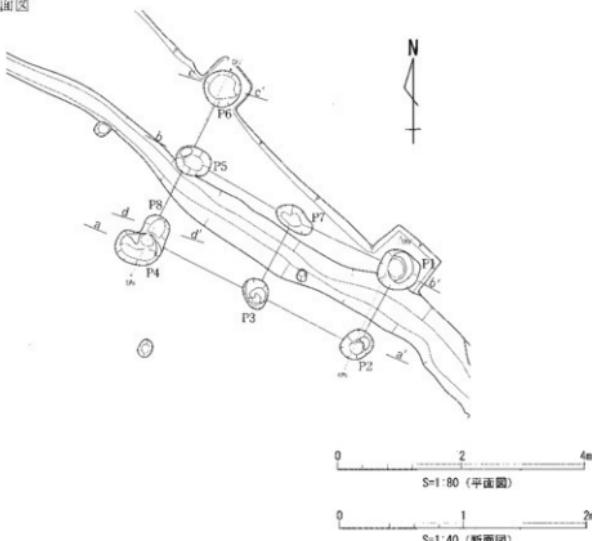
縮尺 1/400

図面二一 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区

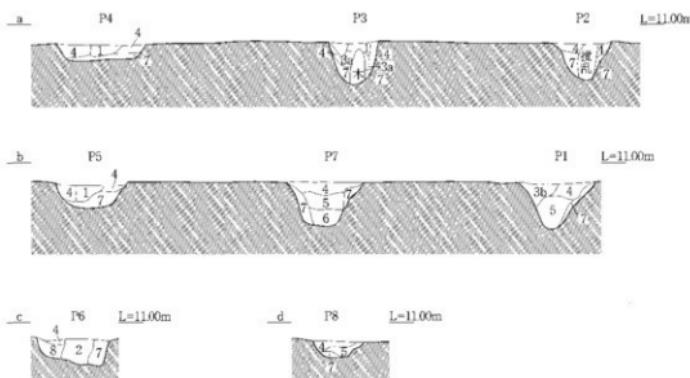




SB01 平面図

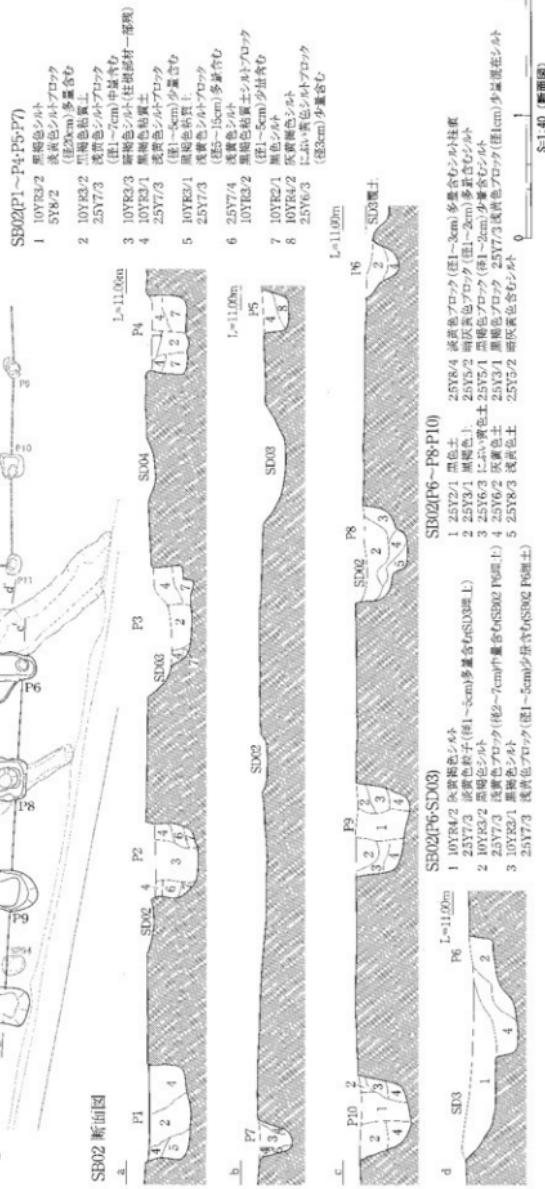
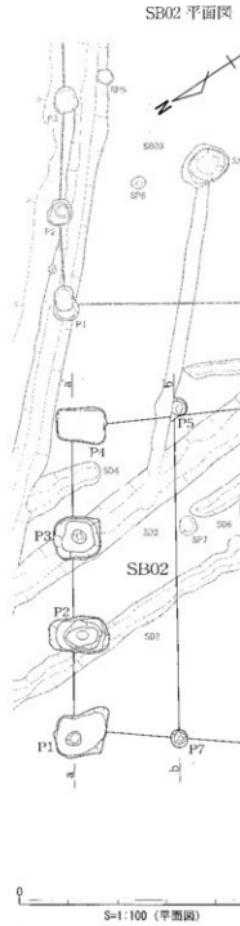


SB01 断面図



SB01(P1~8)	1 25Y2/1	黑色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)微量含む 柱状シルト
	2 10YR4/1	褐灰色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)多量含む 同色ブロック(径10~20mm)多量含む 柱状シルト
	3a 10YR4/1	灰黃褐色土	25Y8/4	淡黄色粒子(径1~5mm)少量含む 柱状食土シルト
	3b 10YR4/1	褐灰色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)多量含む 柱状シルト
	4 10YR2/1	黑色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)多量含む 同色ブロック(径10~20mm)少量含むシルト
	5 10YR1L7/1	黑色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)少量含む 粘質シルト
	6 25Y2/1	黑色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径10~20mm)少量含む 粘質シルト
	7 25Y8/3	淡黄色土	25Y5/1	黒土を含む層シルト
	8 25Y2/1	黑色土	25Y8/3	淡黄色粒子(径1~5mm)多量含む 同色ブロック(径10~20mm)多量含むシルト

図一一 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区



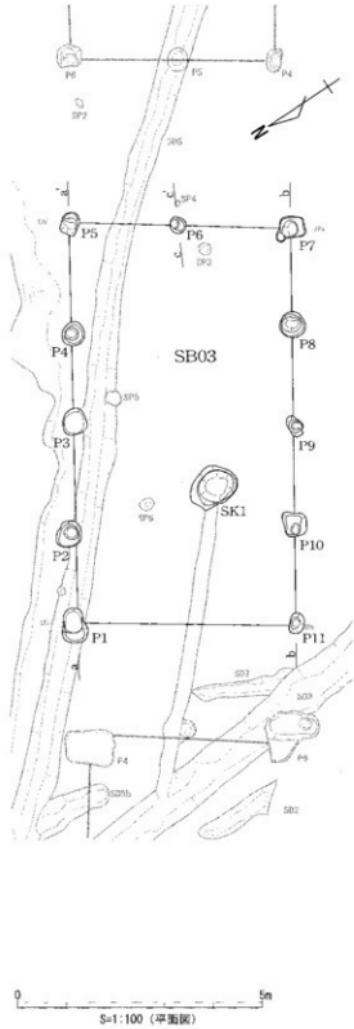
遺構実測図 区画整理2区 掘立柱建物S B02実測図

- 70 -

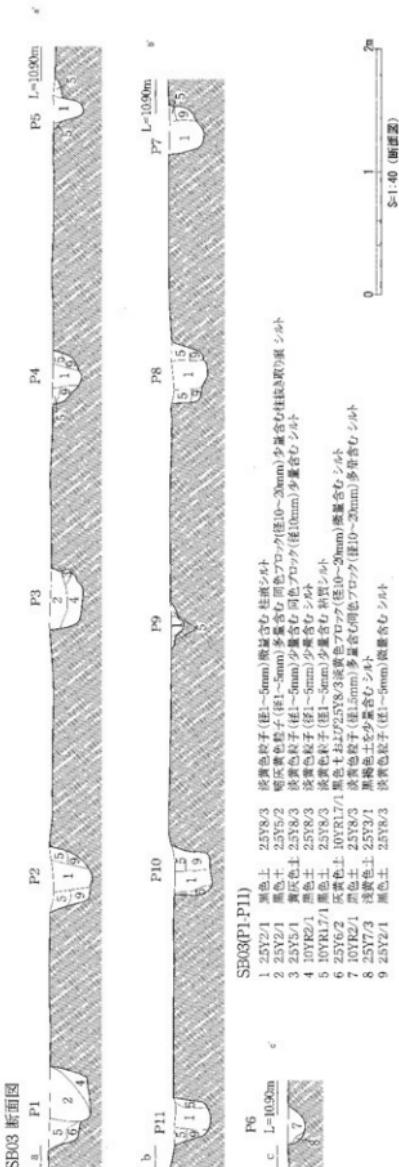
縮尺 1/100・1/40

五 圖一 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区

SB03 平面図



SB03断面図

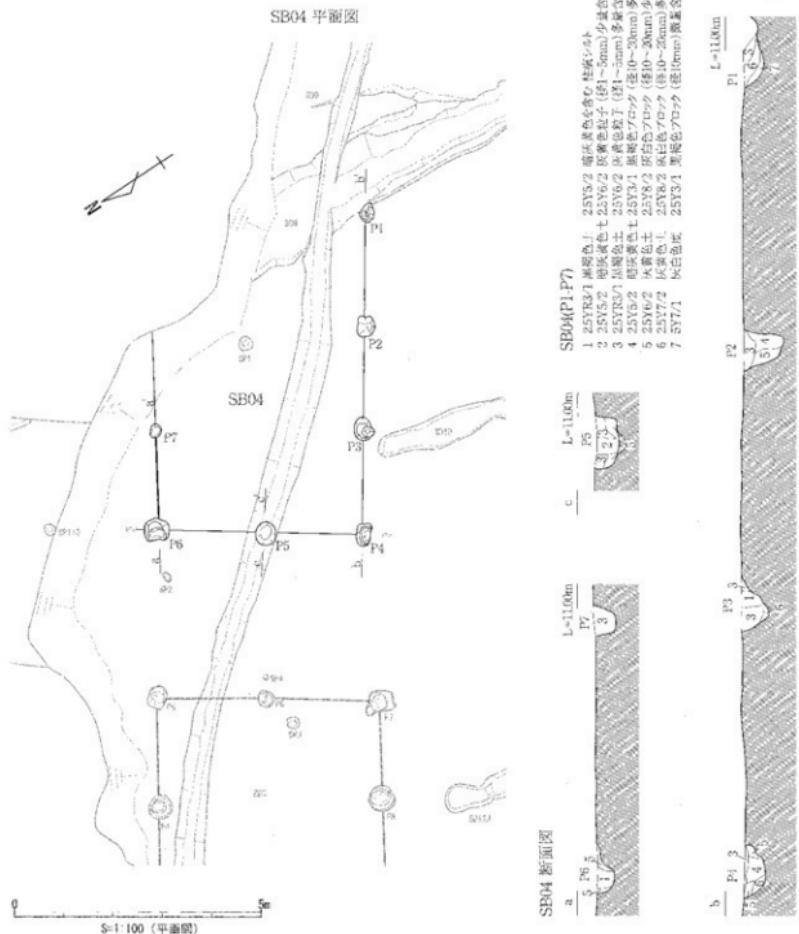


図面一六

遺構実測図

中木津遺跡

区画整理2区



遺構実測図 区画整理2区 建立物SB04実測図

縮尺 1/100・1/40

圖一 遺構実測図 中木津遺跡 四区画整理区

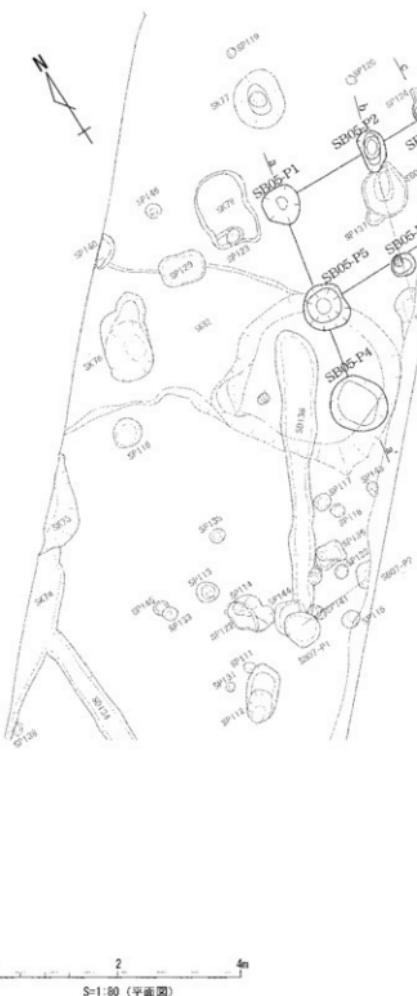


S=1:40 (断面図)

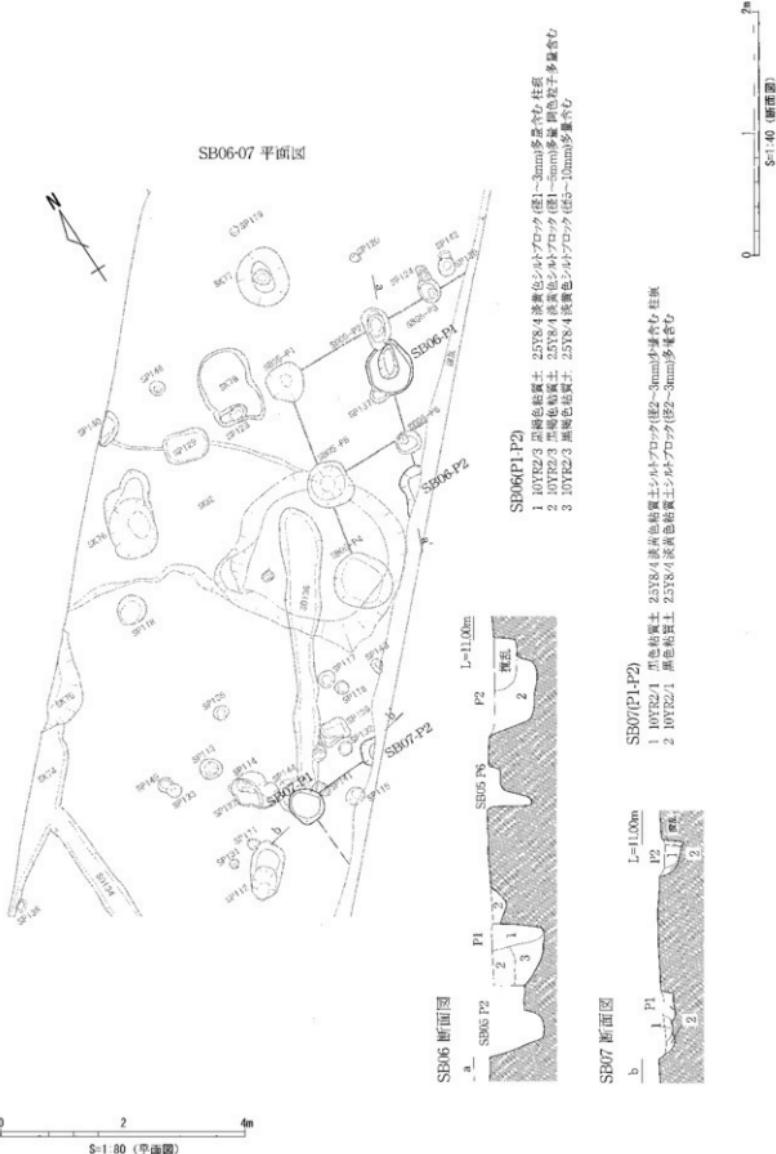


S=1:40 (断面図)

SB05 断面図	$L=11.00m$		P_4		P_5		P_6		P_7	
	a	P1	b	P2	c	P3	SP124	P3	SP124	P3
SB05P1-P2-P4-P5-P6										
1 25Y2/2.5層褐色土	10YR6/6 明黄色粘子 (径1~5mm)少量含む									
2 25Y3/3弱オーラー褐色土	10YR6/6 明黄色粘子 (径1~5mm)多量含む									
3 5Y4/1灰褐色土	同色ブロック (径10~20mm)多量含むシルト									
4 5Y4/1灰褐色土	浅黄色ブロック (径1~5mm)多量含むシルト									
5 5Y4/1灰褐色土	浅黄色粘子 (径1~5mm)少量含むシルト									
6 5Y3/2+4アープ灰褐色土	同色ブロック (径1~5mm)少量含むシルト									
7 5Y8/2灰白色土	同色ブロック (径10~20mm)多量含むシルト									
8 5Y3/11+4アープ灰褐色土	灰白色ブロック (径10~20mm)多量含むシルト									
9 10YR2/2灰褐色土	浅黄色粘子 (径1~10mm)少量含むシルト									
10 10YR2/1灰褐色土	浅黄色粘子 (径1~10mm)少量含むシルト									
11 10YR1/1黑色土	浅黄色粘子 (径1~10mm)少量含むシルト									
SB05P3 SP124										
1 25Y2/2.5層褐色土	10YR6/6 明黄色粘子 (径1~5mm)少量含む									
2 25Y3/3弱オーラー褐色土	同色ブロック (径10~20mm)多量含むシルト									
3 25Y3/2灰褐色土	25Y7/4 浅黄色粘子 (径1~5mm)少量含む									



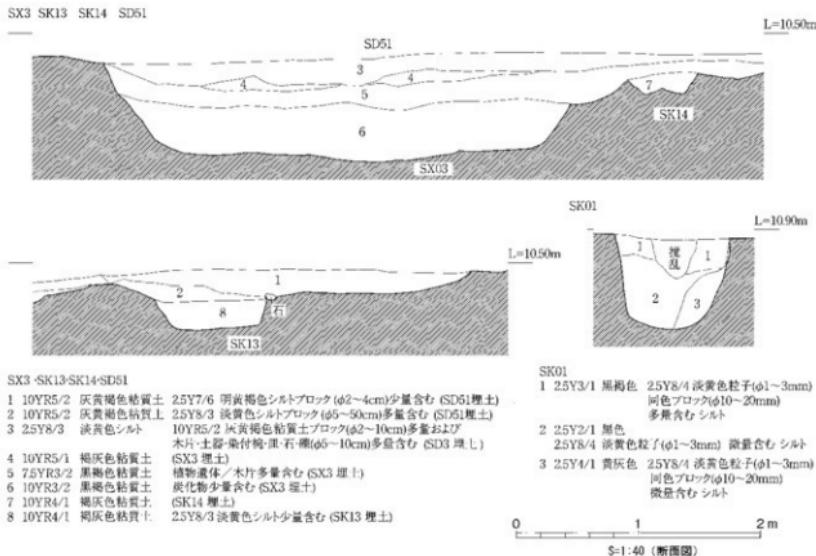
SB05 平面図



構造実測図 区画整理2区 据立柱建物SB06・07実測図

縮尺 1/80・1/40

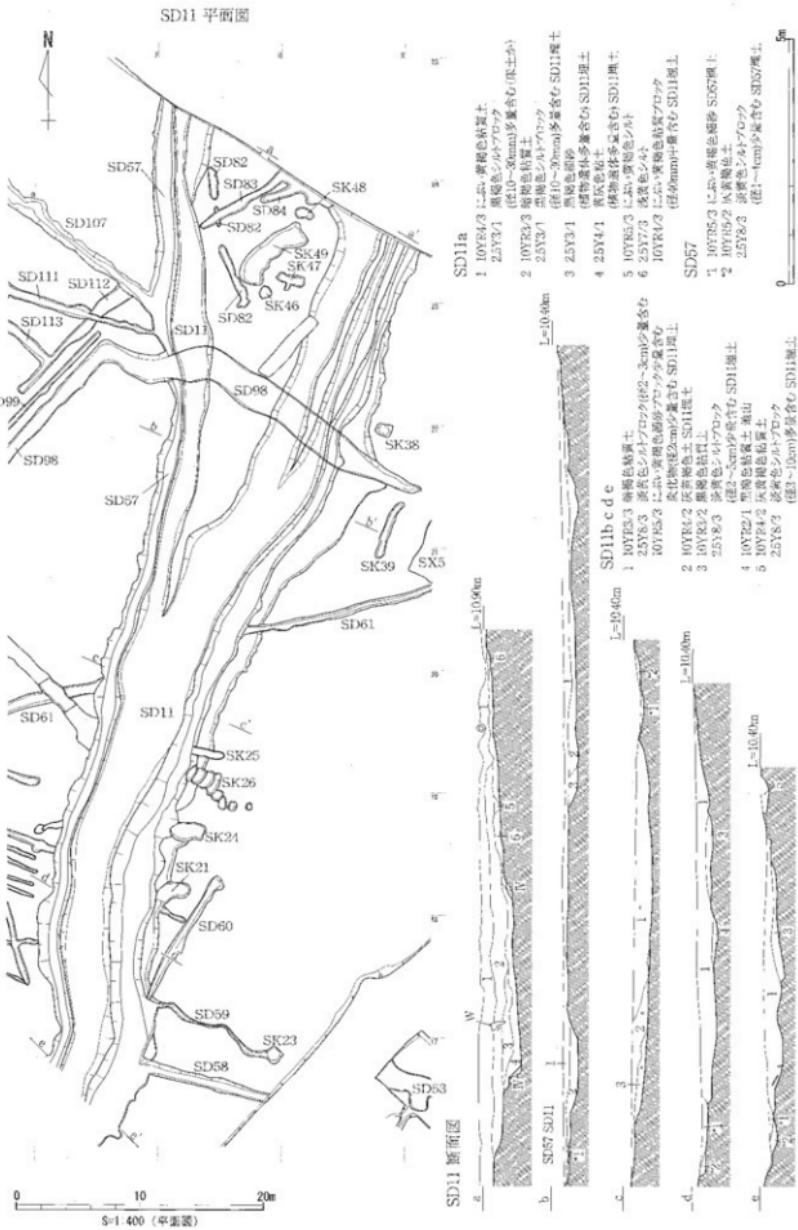
図面二九 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理2区

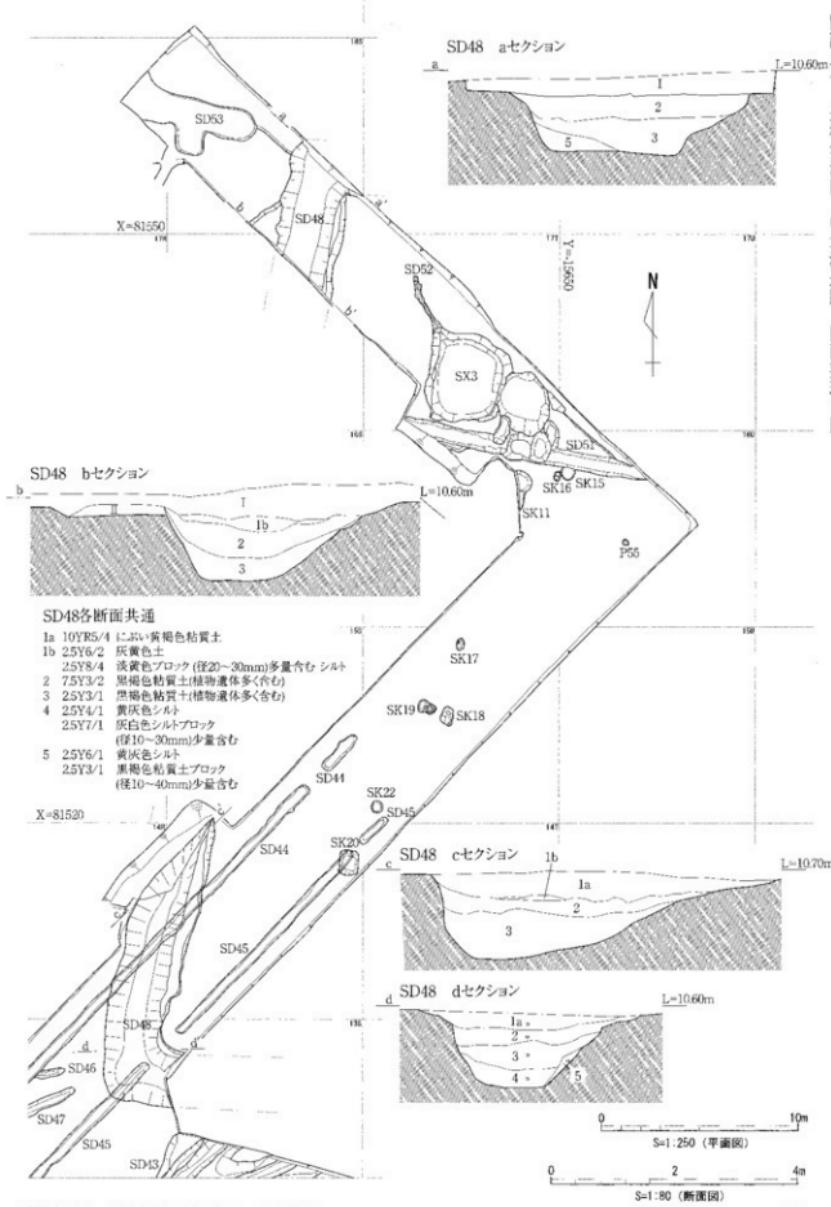


遺構実測図 区画整理2区 握立柱建物S B08実測図

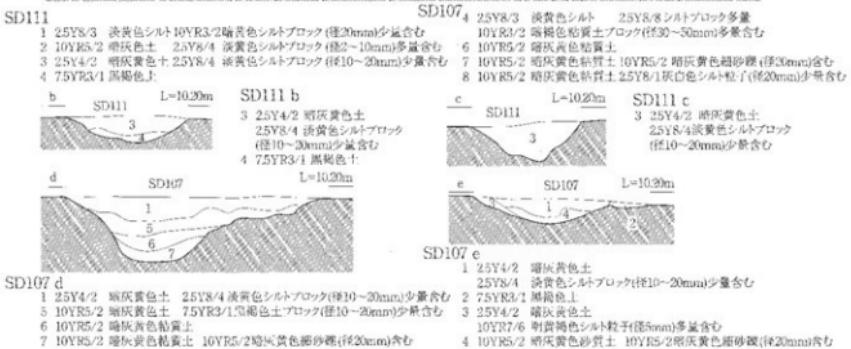
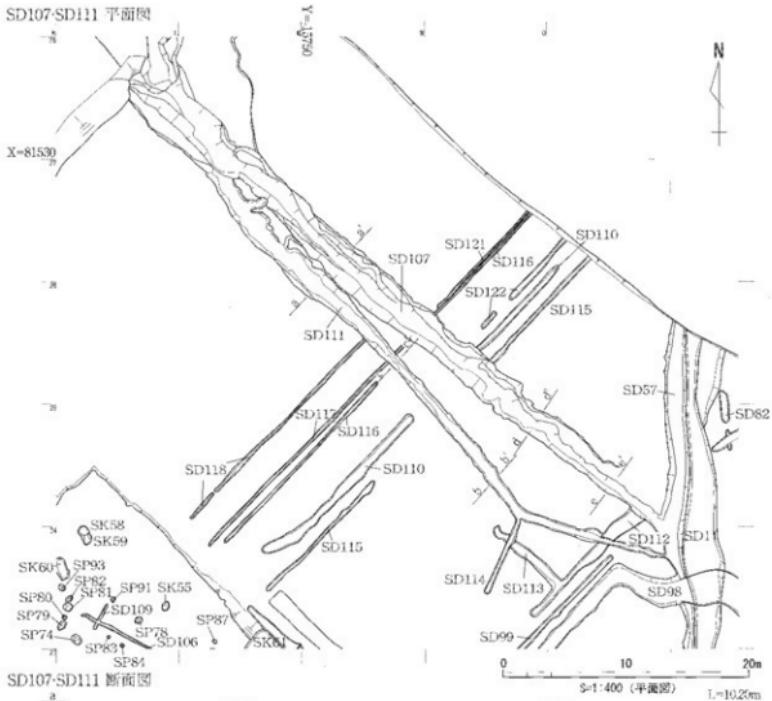
縮尺 1/100 · 1/40

図面三〇 遺構実測図
中木津遺跡
区画整理2区





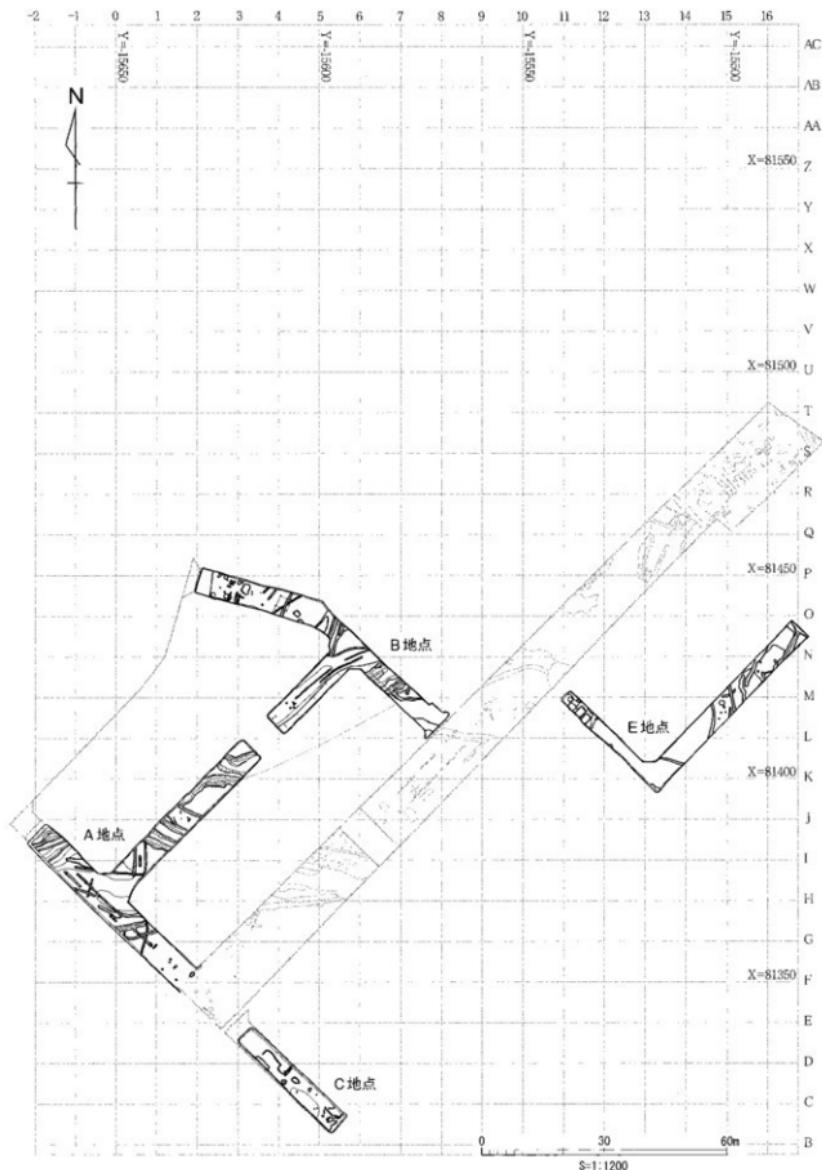
遺構実測図 区画整理2区 滝S D48実測図



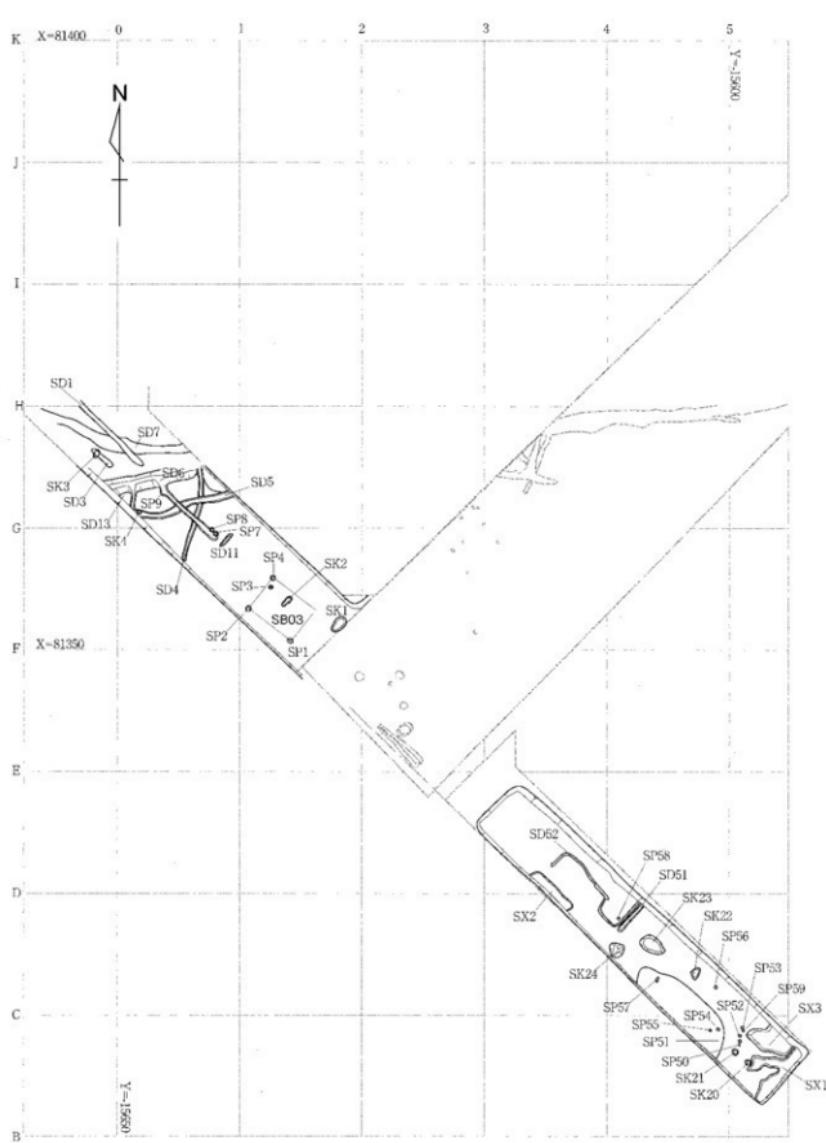
遺構実測図 区画整理2区 清 S D107・111実測図

縮尺 1/400, 1/40

図面三三 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理3区



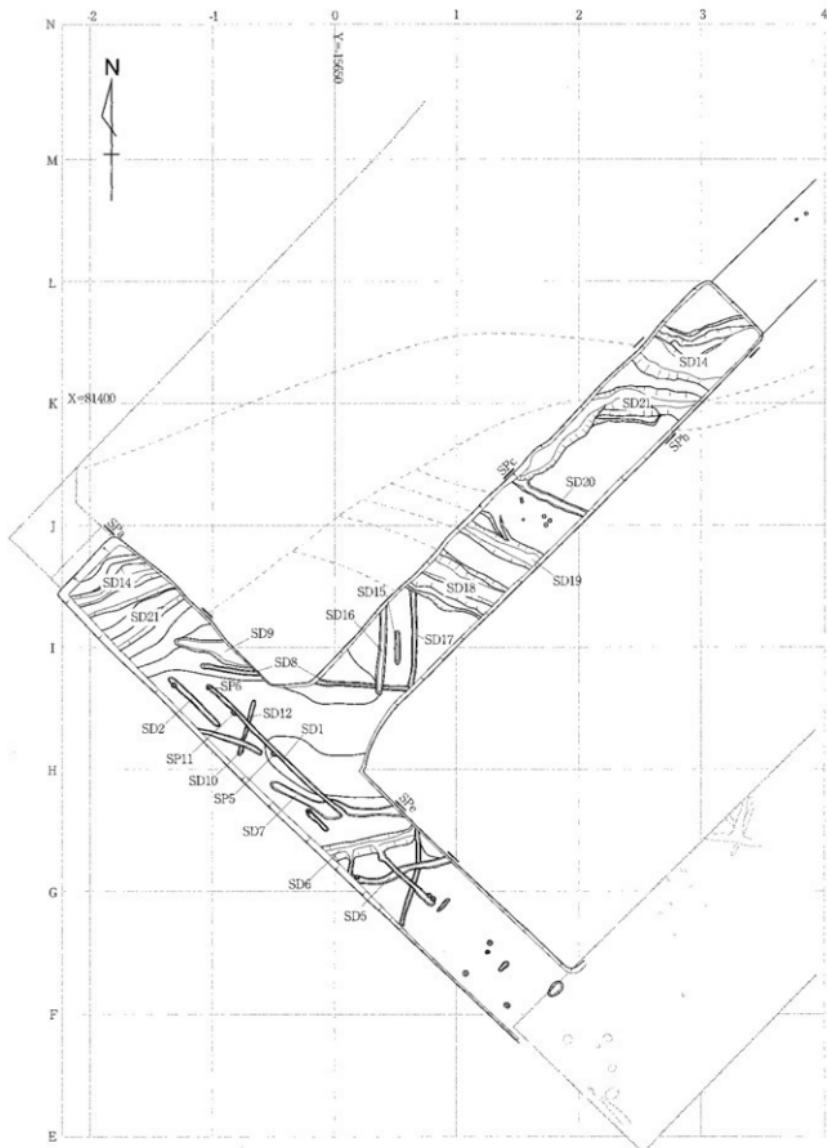
図面三四 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理3区



遺構実測図 区画整理3区 遺構全体図1

縮尺 1/400

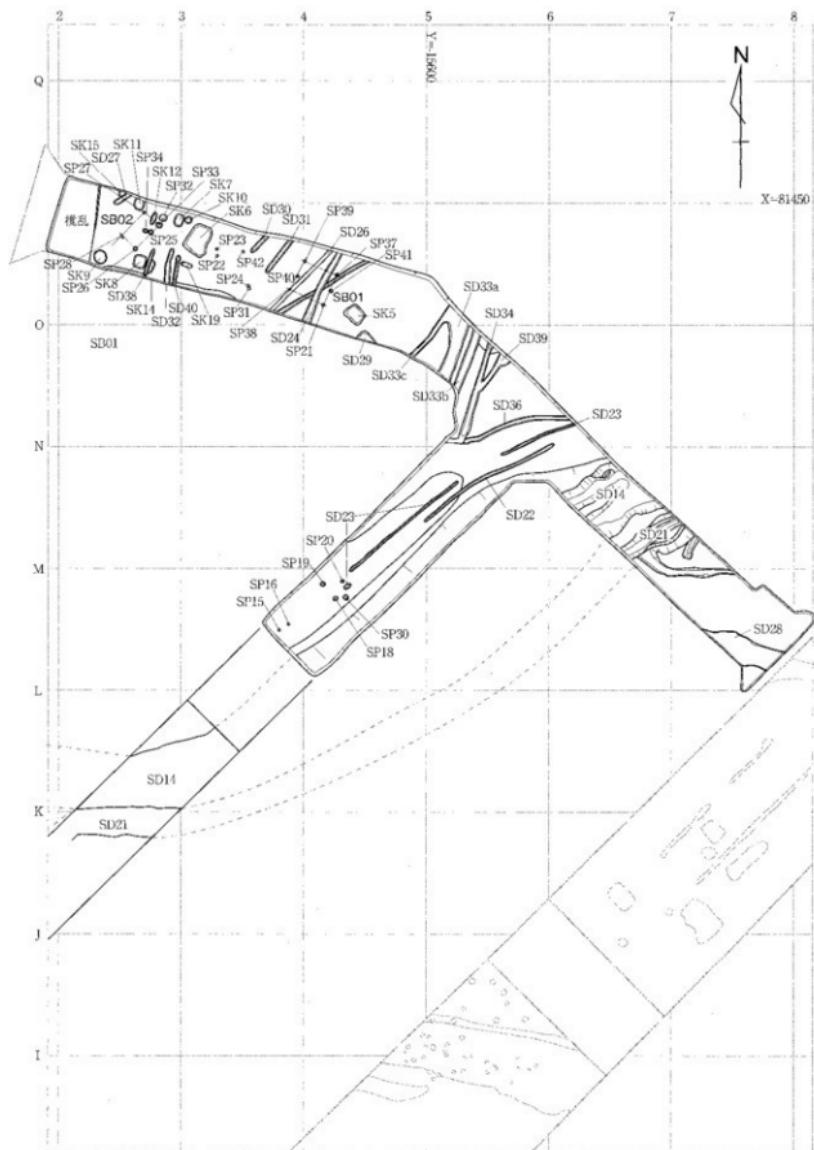
図面三五 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理3区



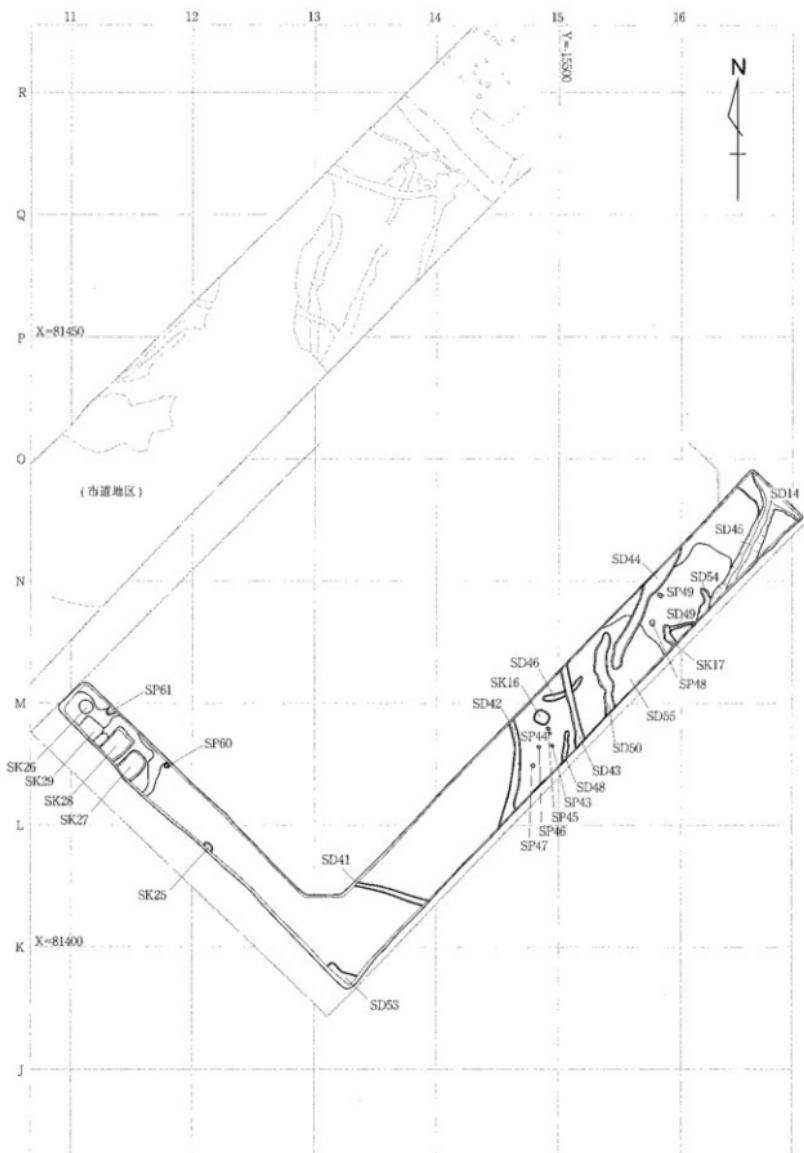
遺構実測図 区画整理3区 遺構全体図2

縮尺 1/400

図面三六 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理3区



圖面三七 遺構実測図 中木津遺跡 区画整理3区



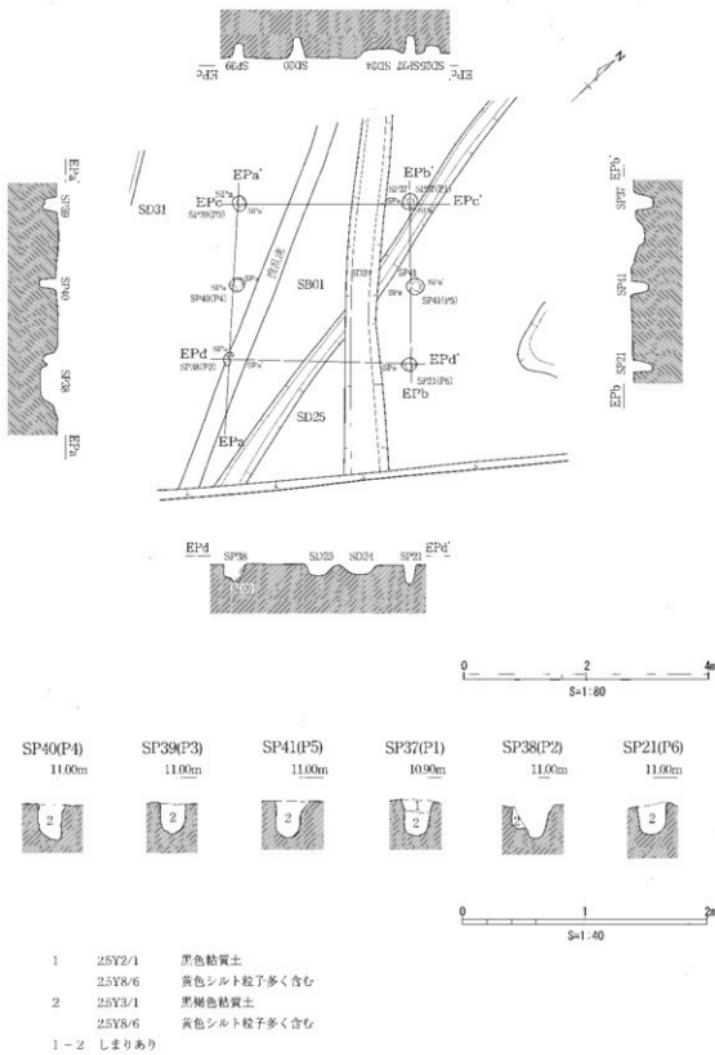
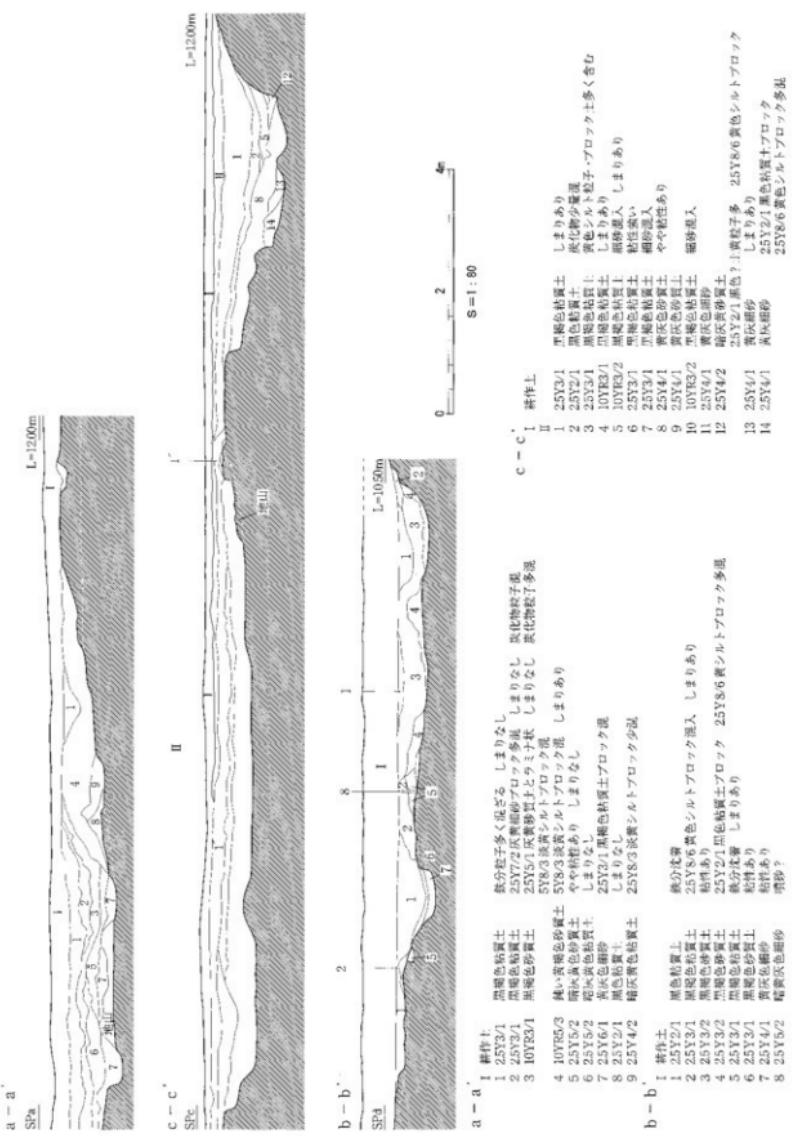
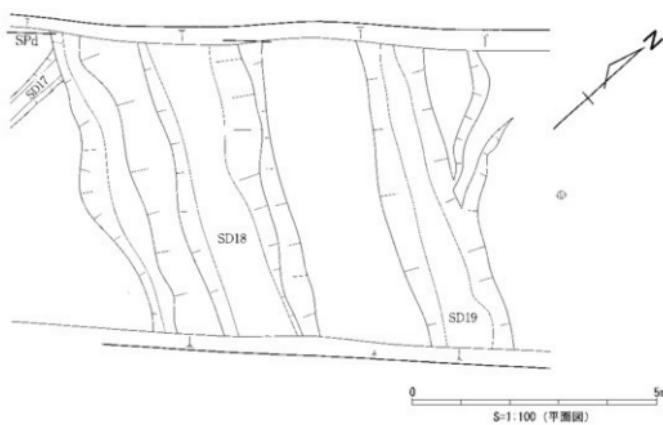


図3面九 遺構実測図 区画整理3区 溝S D14・21実測図

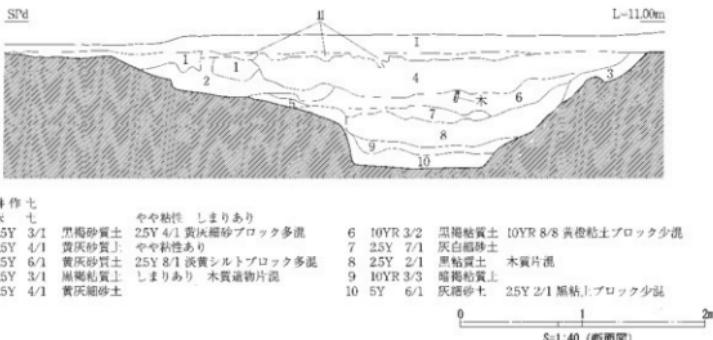


遺構実測図 区画整理3区 溝S D14・21実測図

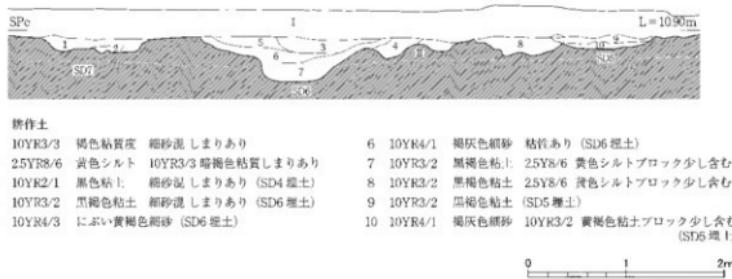
縮尺 1 / 80



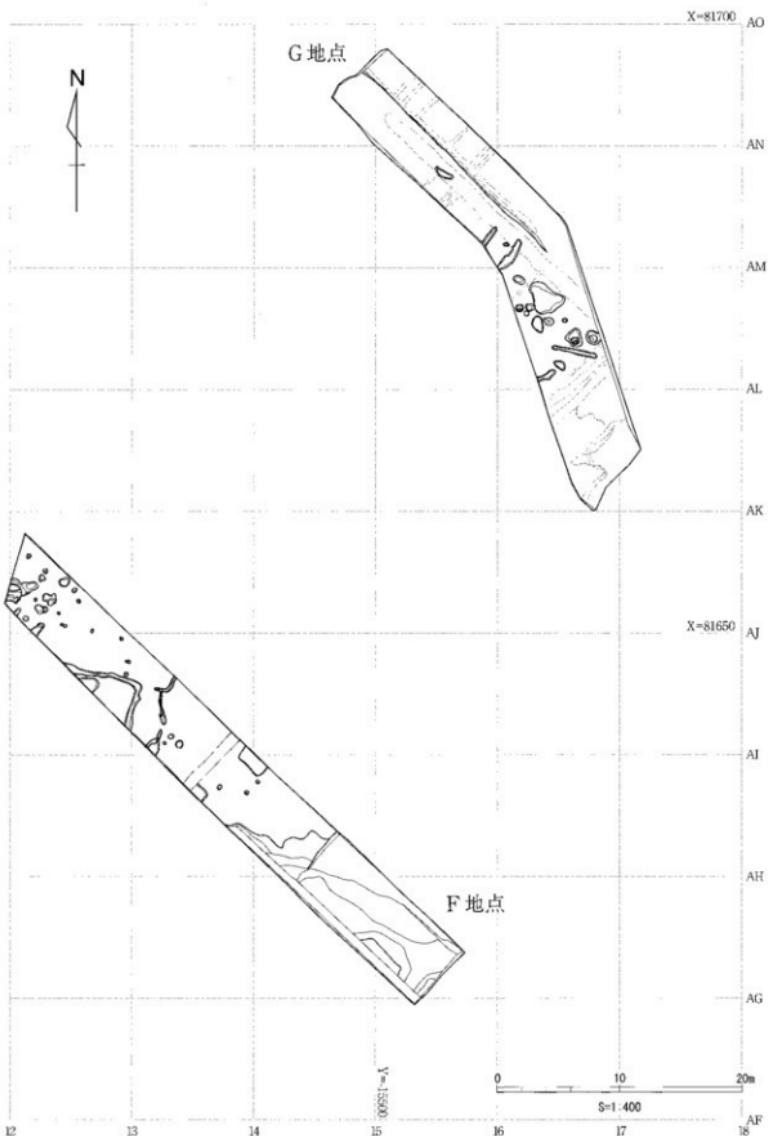
SD18



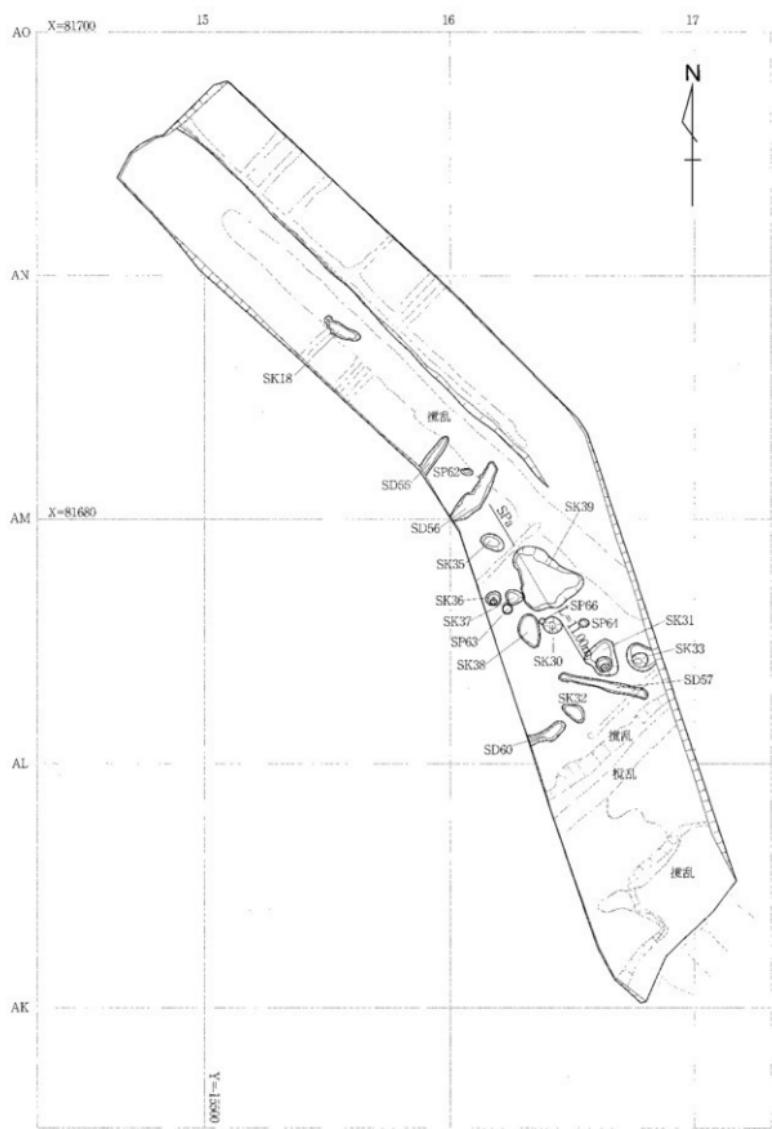
SD5・6・7



図面四一 遺構実測図 西木津遺跡 区画整理区

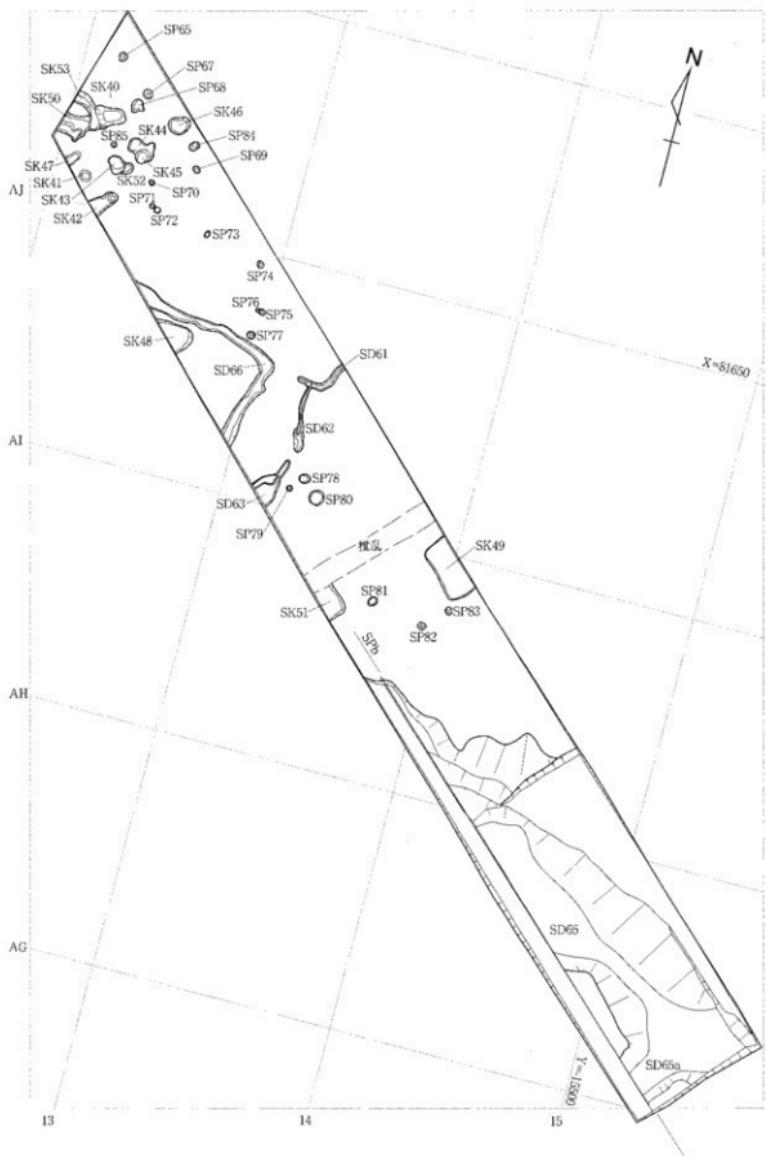


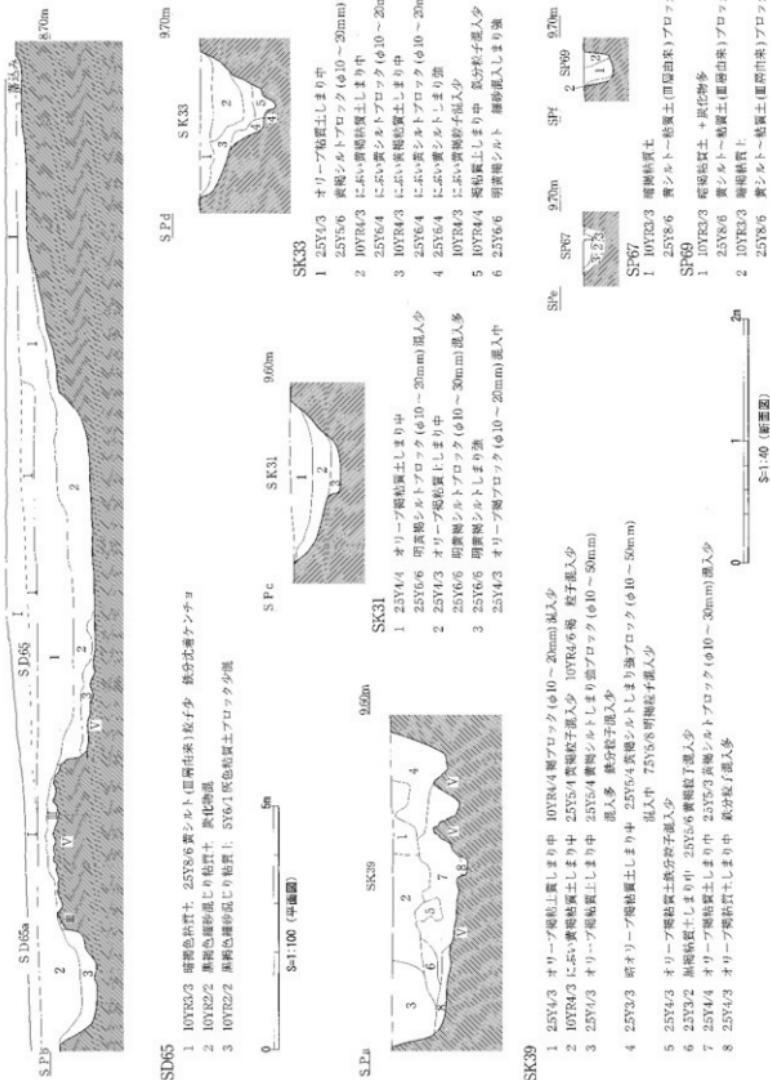
図面四二 遺構実測図 西木津遺跡 区画整理区



遺構実測図 区画整理区 G地点遺構概略図

縮尺 1/200





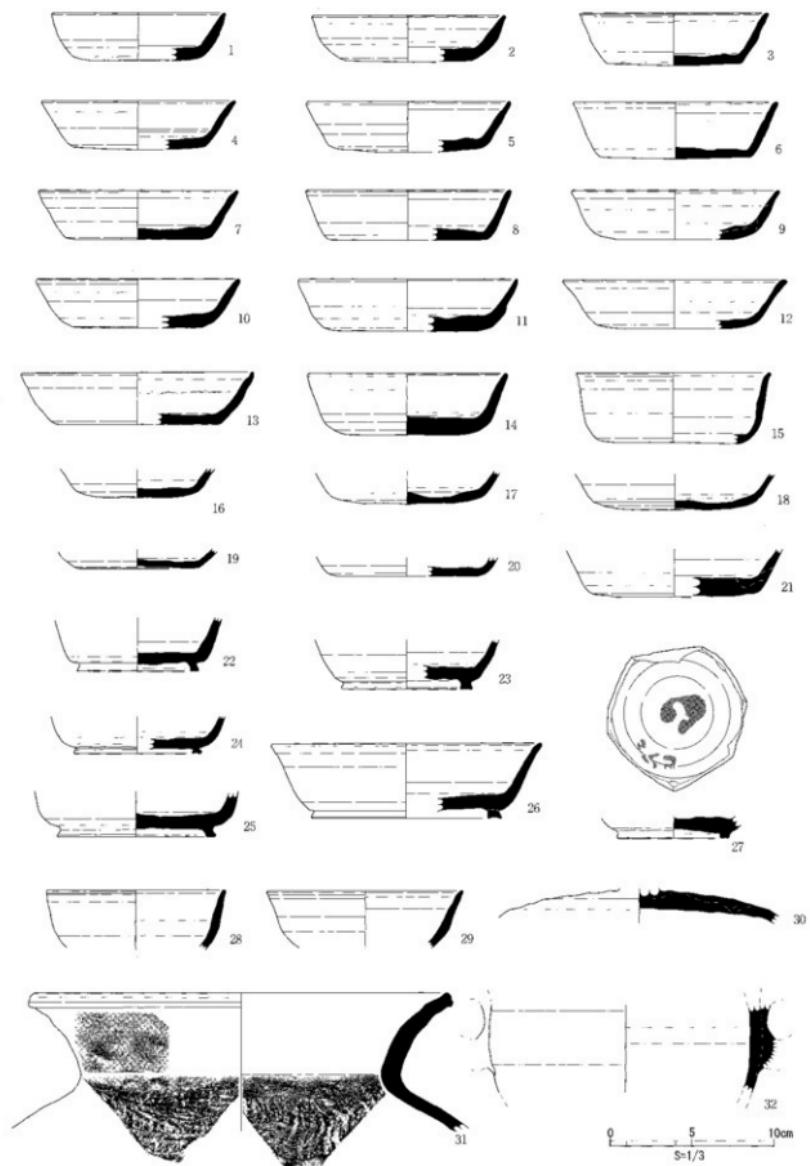
遺構実測図 区画整理区 溝S D65、土坑S K31・33・39、柱穴S P67・69実測図

縮尺 1/40

図面四五

遺物実測図

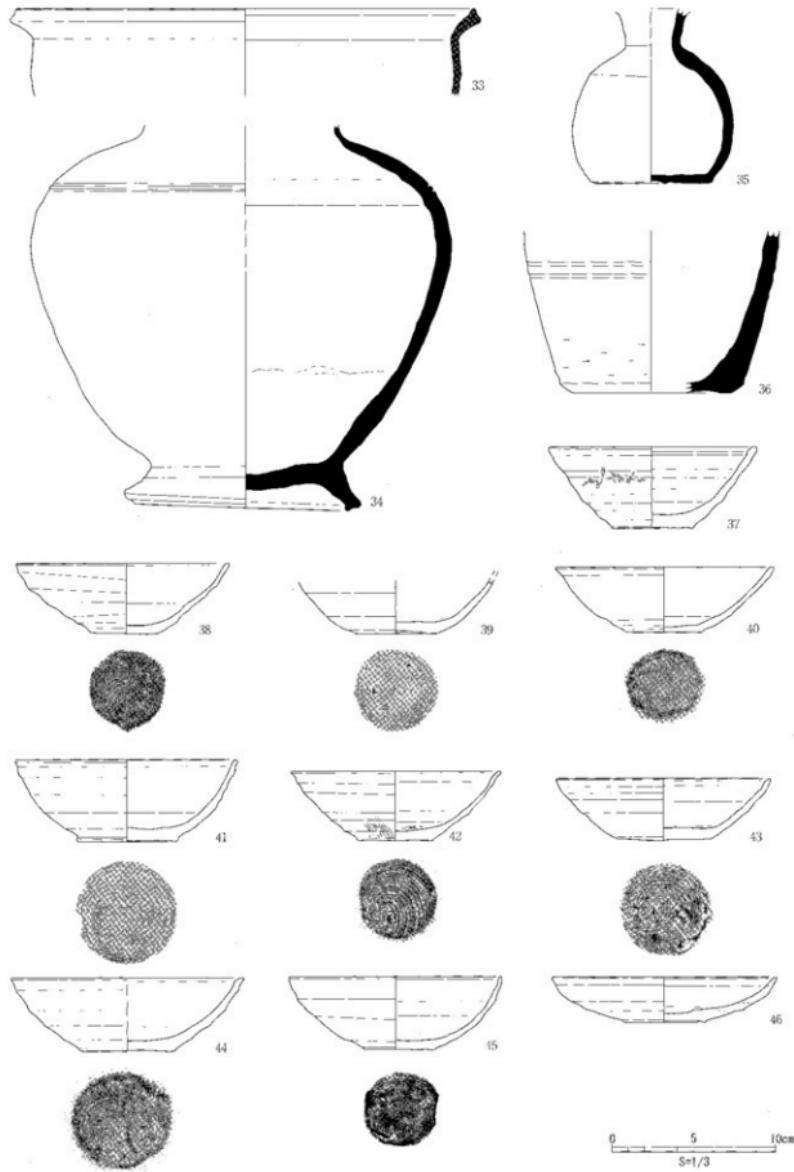
中木津遺跡



遺物実測図 1区 溝SD204〔1〕出土遺物

縮尺1/3

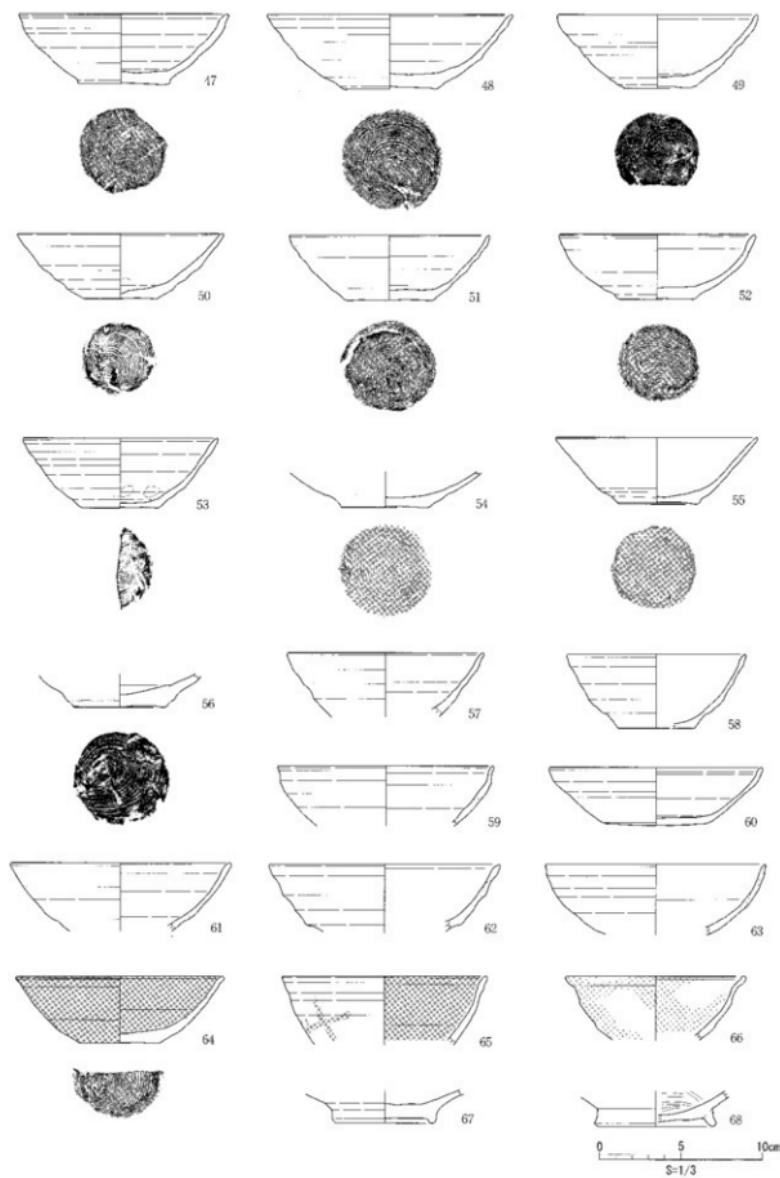
圖面四六 遺物実測図 中木津遺跡

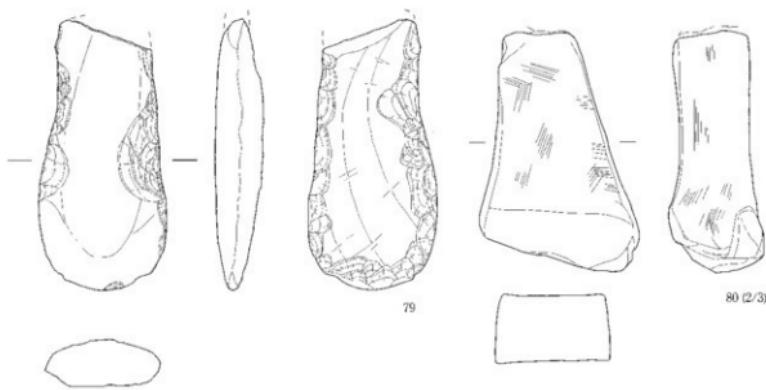
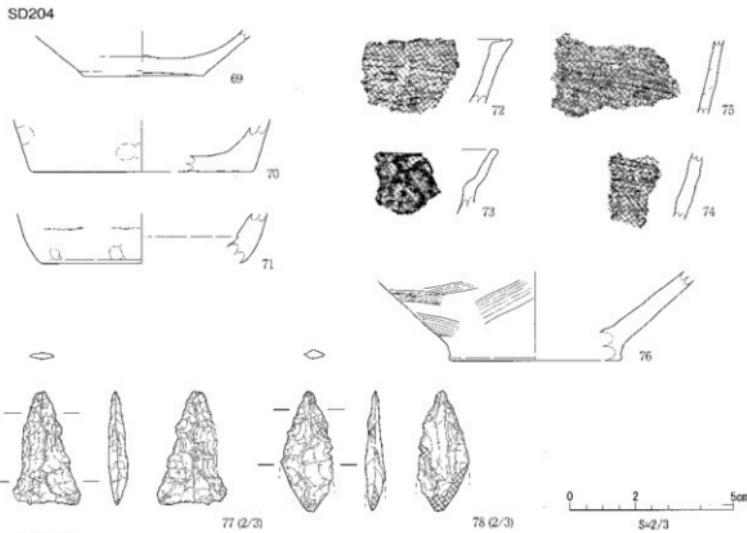


遺物実測図 1区 溝S D204〔2〕出土遺物

縮尺1/3

図面四七 遺物実測図
中木津遺跡





NR01

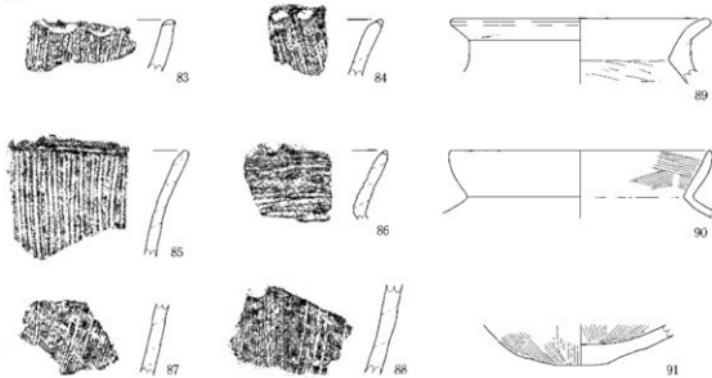


SD203

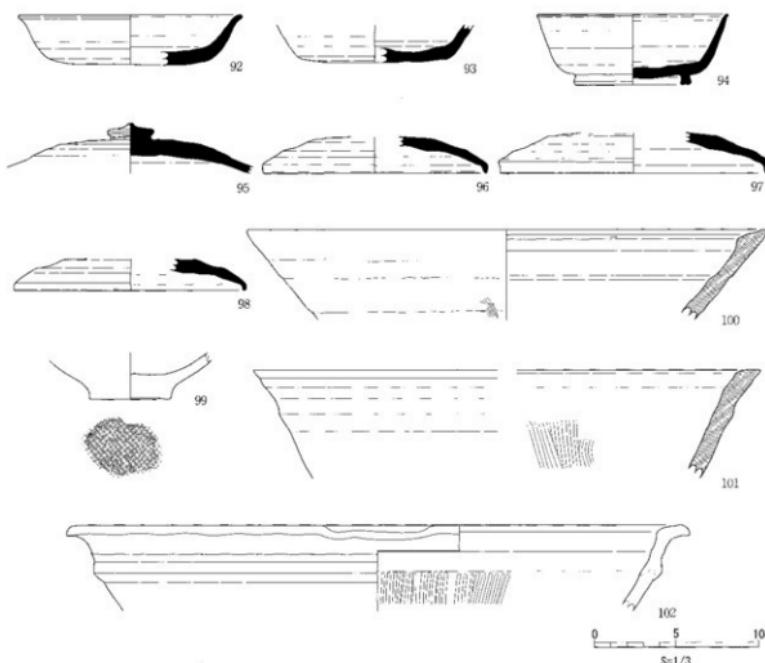


0 5 10cm
S=1/3

SD206

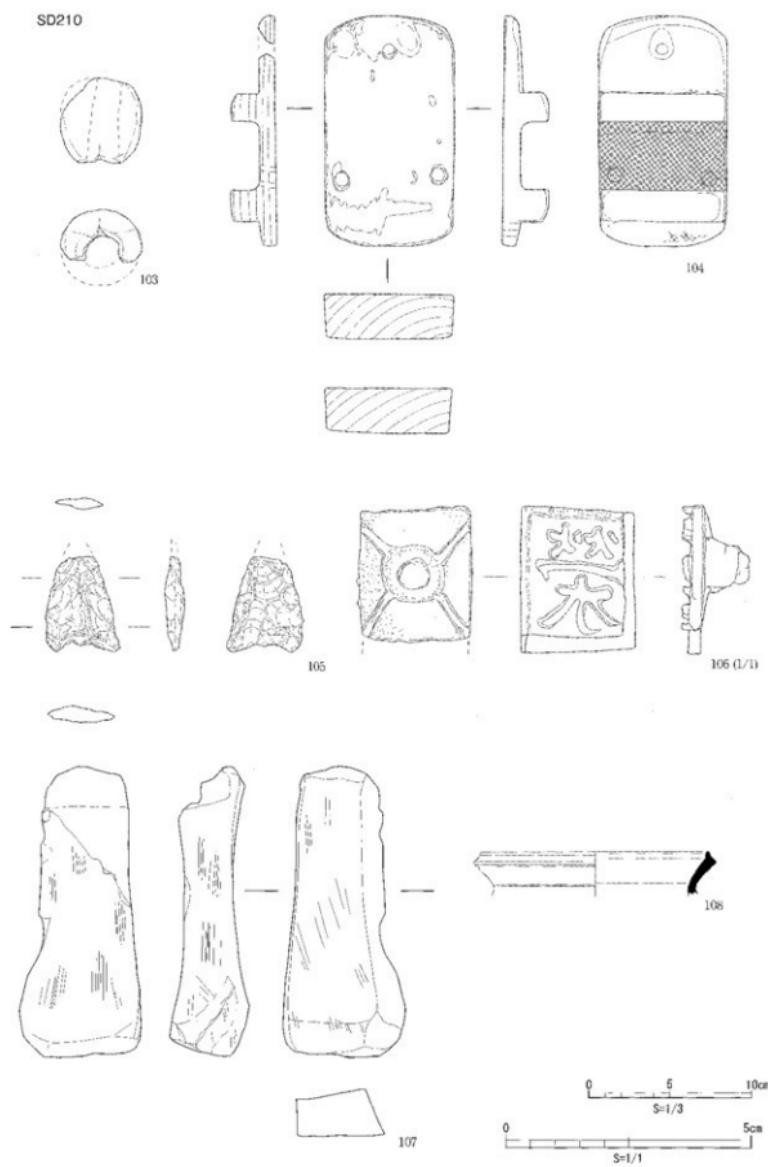


SD210



遺物実測図 1区 溝SD206、SD210〔1〕出土遺物

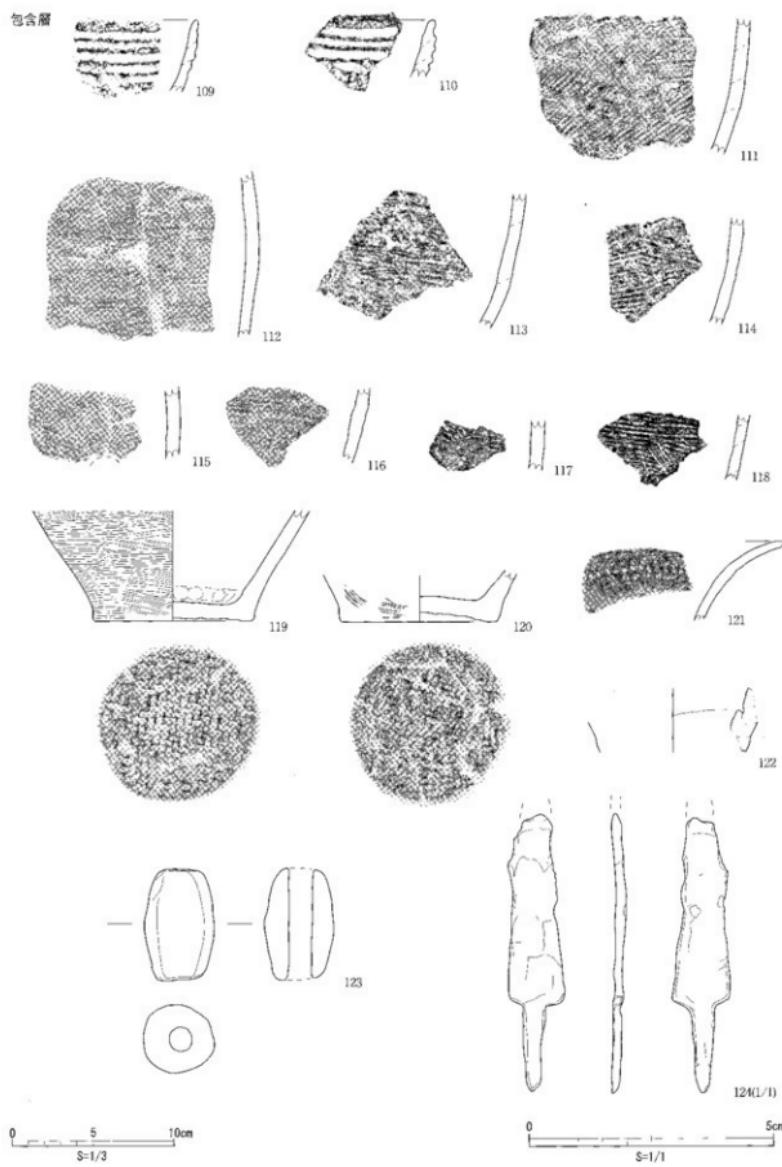
縮尺1/3・1/4



遺物実測図 1区 溝SD210〔2〕、SD214・237、SX505、SP1119出土遺物

縮尺1/1・1/3

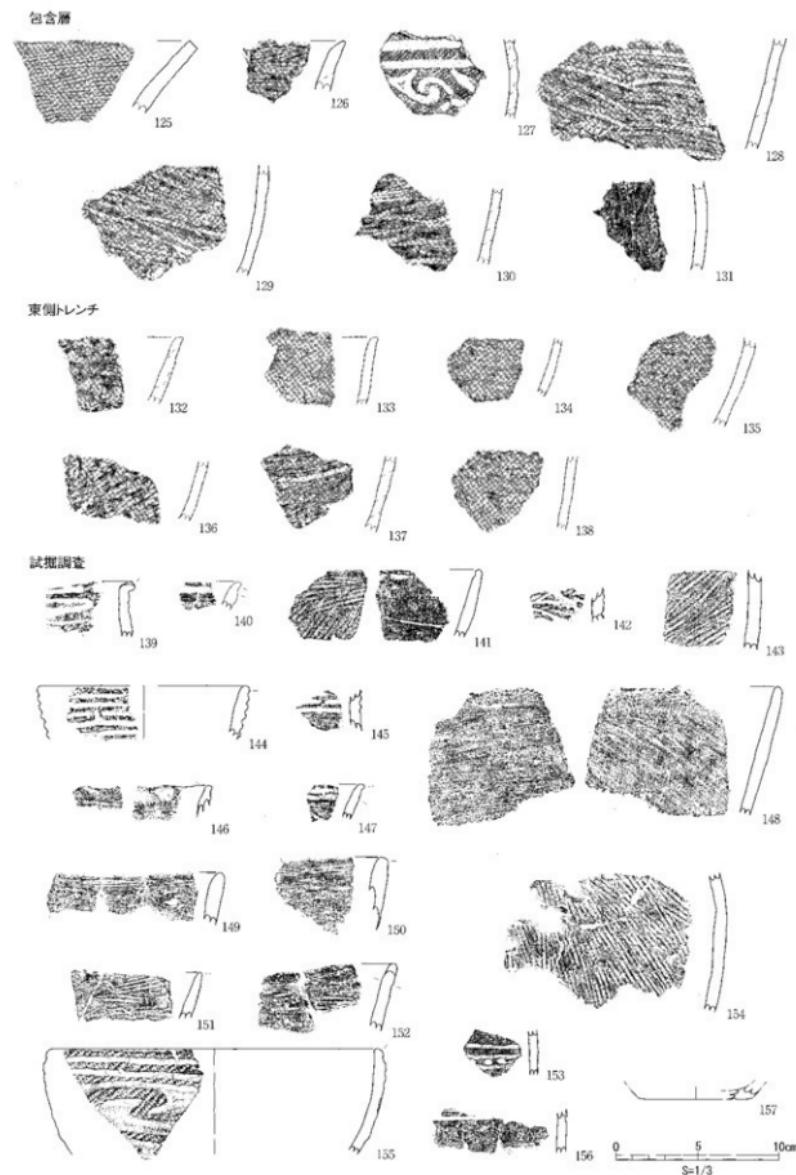
図面五一 遺物実測図
中木津遺跡



遺物実測図 1区 遺構外出土遺物〔1〕

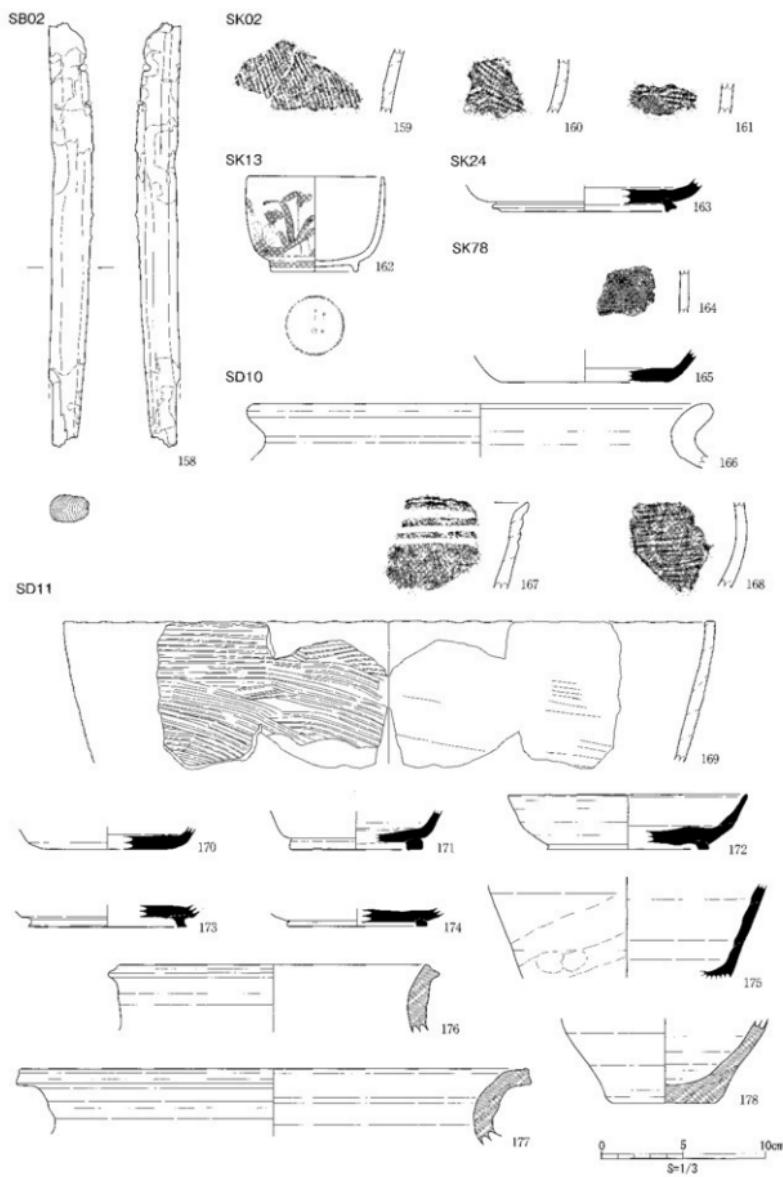
縮尺1／1・1／3

図面五二 遺物実測図 中木津遺跡



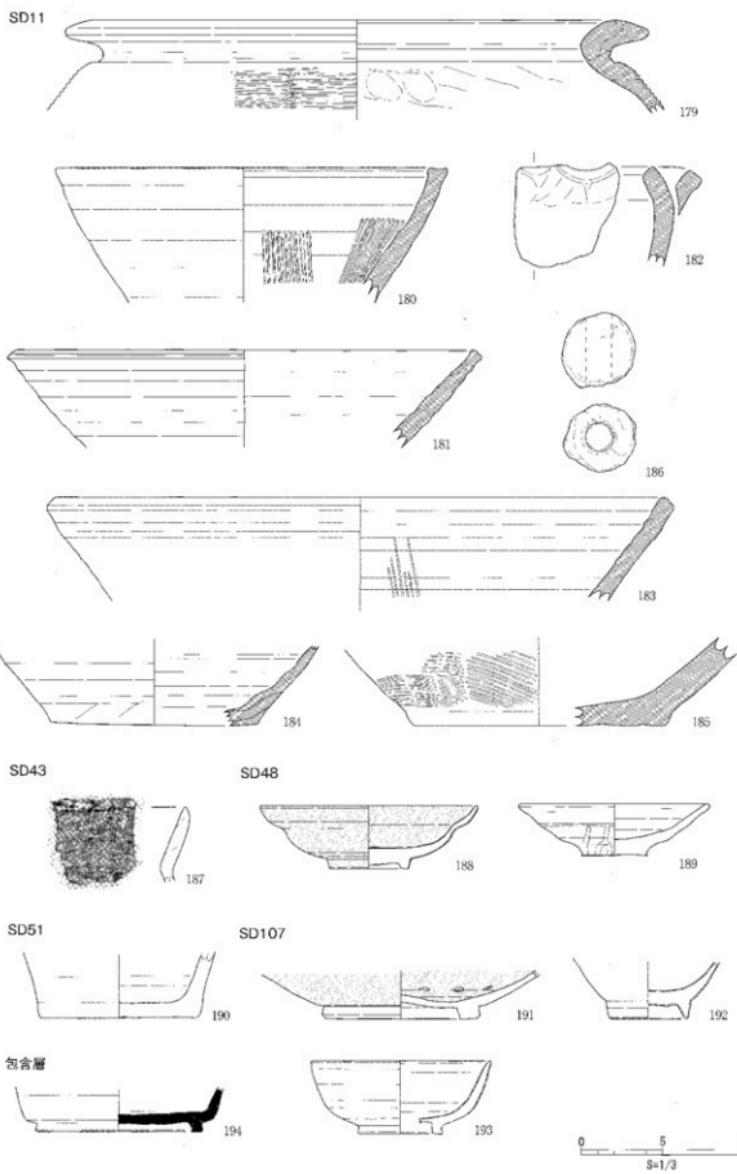
遺物実測図 1区 道構外出土遺物〔2〕、下層トレンチ、試掘S X07能出土遺物

縮尺1/3



遺物実測図 2区 建物・溝出土遺物

縮尺 1 / 3



遺物実測図 2区 溝SD11・43・51・107出土遺物

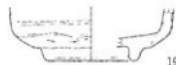
縮尺 1/3

図面五五

遺物実測図

中木津遺跡

SD57



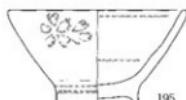
196



197



198



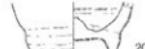
195



199



200



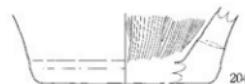
201



202



203



204



205



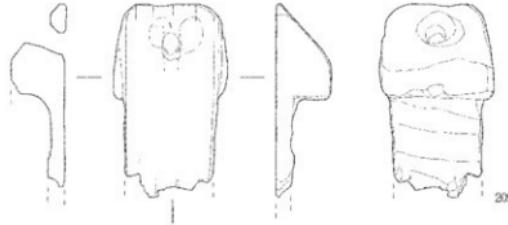
206



207



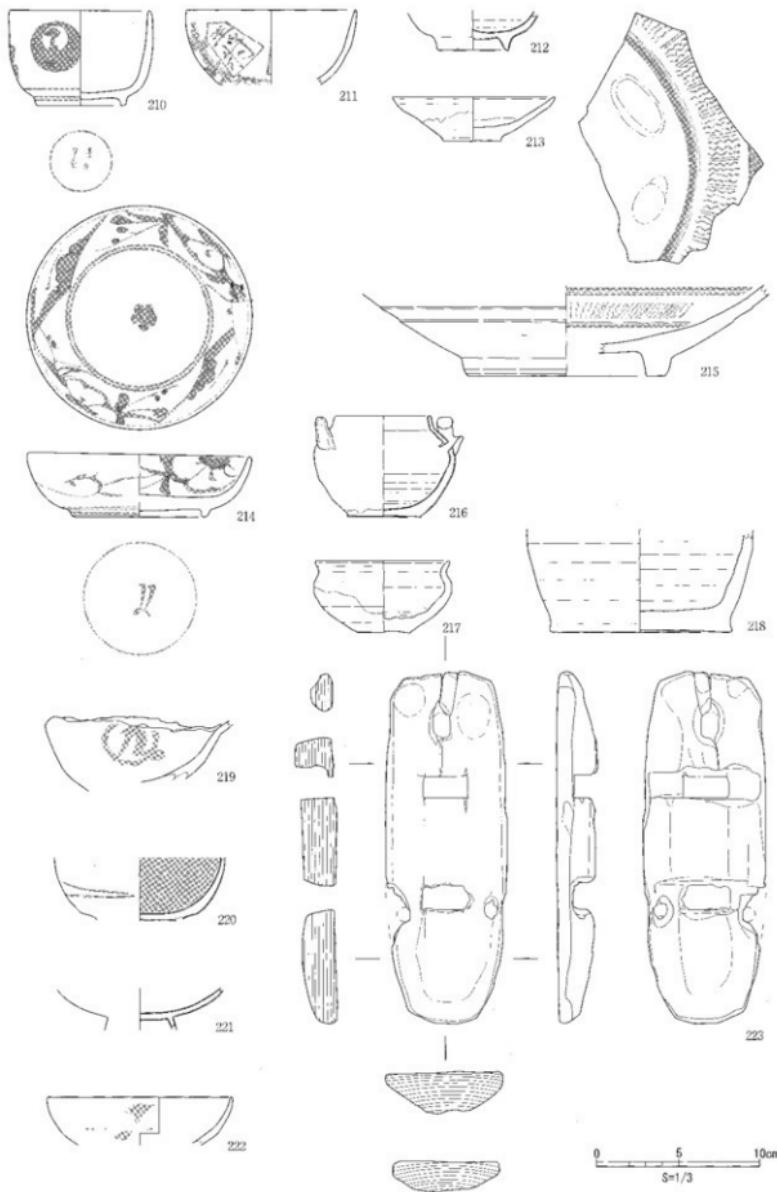
208



209



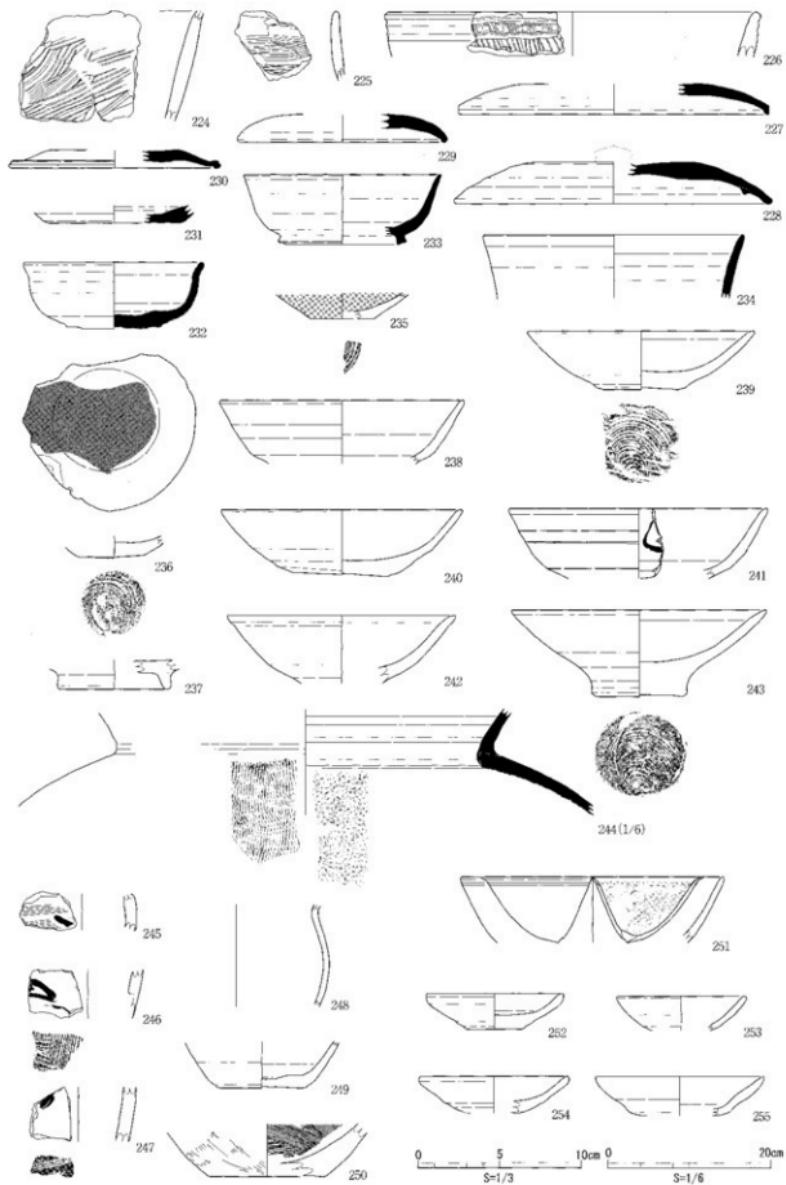
0 5 10cm
S=1/3



遺物実測図 2区 不明土坑 S X03出土遺物

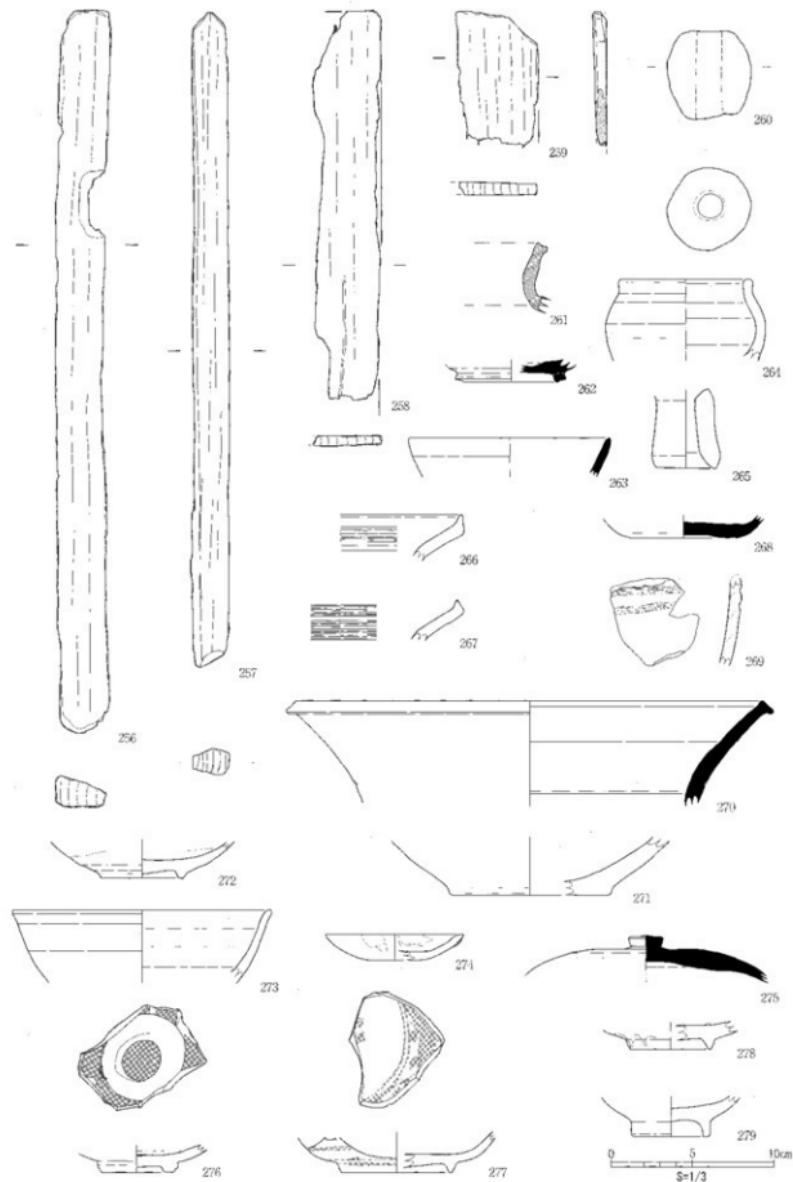
縮尺 1 / 3

図面五七 遺物実測図 中木津遺跡



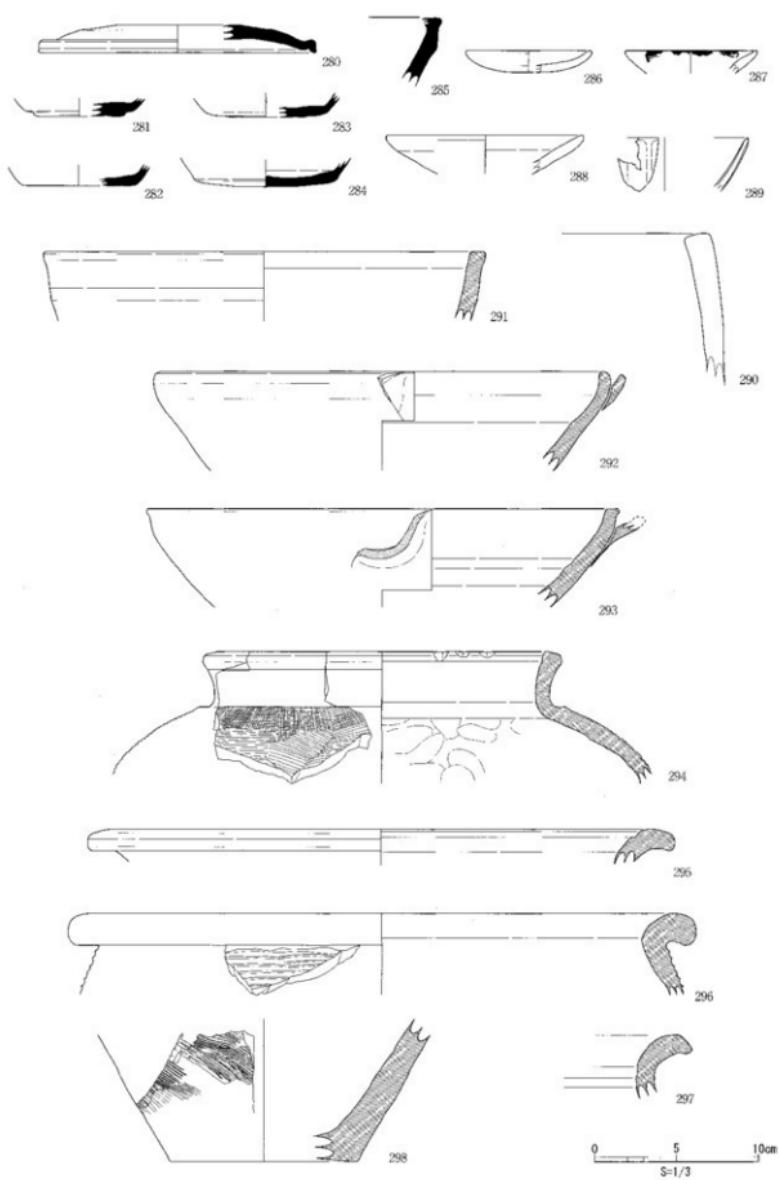
遺物実測図 3区 溝SD14出土遺物

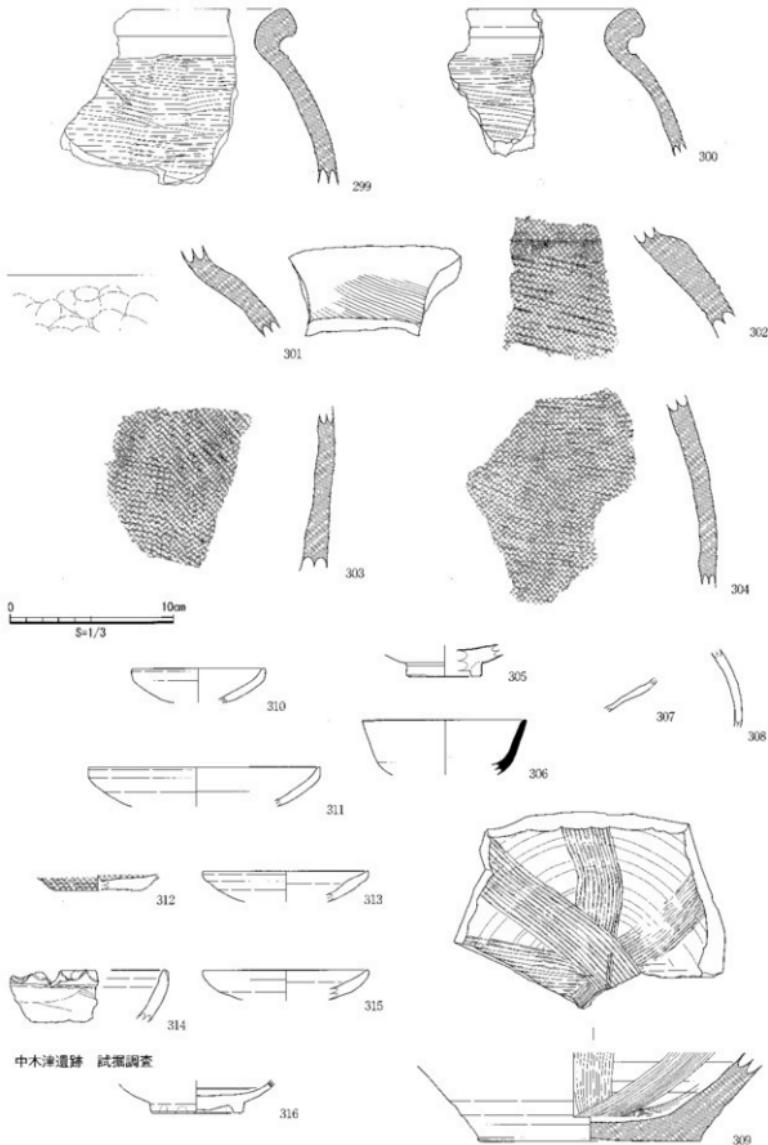
縮尺1/3・1/6



遺物実測図 3区 柱穴S P43・50・51、土坑S K7・27、溝S D6・18・21・33出土遺物

縮尺1/3





中木津遺跡 試掘調査

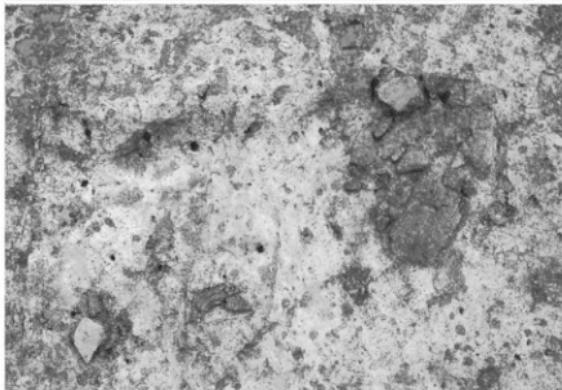
図 版



1. D区 第4トレンチ北東
遺構検出状況（南）



2. D区 第4トレンチ
土坑S X07検出状況（北）



3. D区 第4トレンチ
土坑S X07
縄文七器出土状況（南）

図版〇二　遺構写真　木津神社遺跡（中木津遺跡）試掘調査

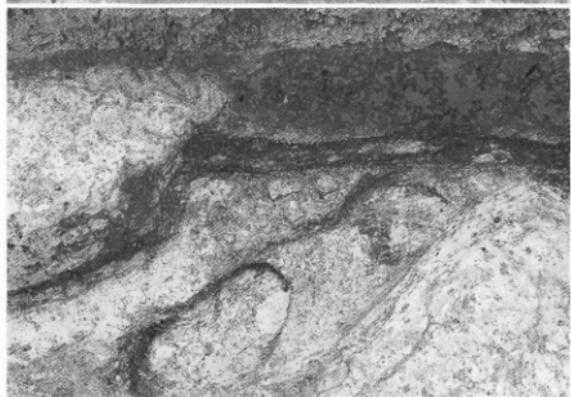
1. D区 第8トレンチ
土層確認断面（西）



2. D区 第8トレンチ
縄文土器出土状況1（西）



3. D区 第8トレンチ
縄文土器出土状況2（西）





1. 遺跡遠景（南）



2. 区画整理1-1区全景（南東）



1. 1-2区全景(南)



2. 1-3区西侧全景(北西)



1. 掘立柱建物 S B01全景（南）



2. 掘立柱建物 S B02全景（南東）



1. 捩立柱建物 S B03・櫛址 S A01・02全景（南）



2. 溝 S D210全景（北）



1. 溝S D201全景(東)



2. 溝S D206全景(南)



1. 潟 S D204南側全景（北西）



2. 潟 S D204西側全景（南西）



1. 潟 S D204遺物出土状況
(西)



2. 潟 S D204遺物出土状況
(北西)



3. 潟 S D204遺物出土状況
(南)



1. 調査区北側垂直写真（上が北東）



2. 調査区南側垂直写真（上が北西）



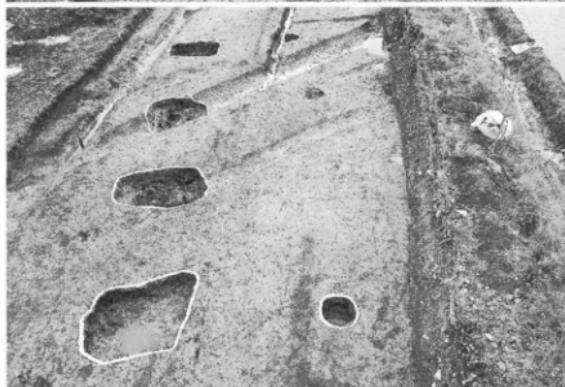
1. 挖立柱建物SB02～04南側拡張部全景（北東）



2. 挖立柱建物SB01～04全景（南東）



1. 堀立柱建物SB01
完掘状況（西）



2. 堀立柱建物SB02
完掘状況（西）



3. 堀立柱建物SB02
抜張船完掘状況（西）



1. 挖立柱建物 S B03
完掘状况（西）



2. 挖立柱建物 S B04
完掘状况（西）



3. 挖立柱建物 S B05
完掘状况（北）



1. 挖立柱建築 S B06
完掘状況（北）



2. 挖立柱建築 S B07
完掘状況（南）



3. 坑 S D11完掘状況
(南)



1. 清SD43完掘状況
(東)



2. 清SD43分岐部
完掘状況 (南)



3. 清SD48全景
(北)



1. 調査区全景
(南西)



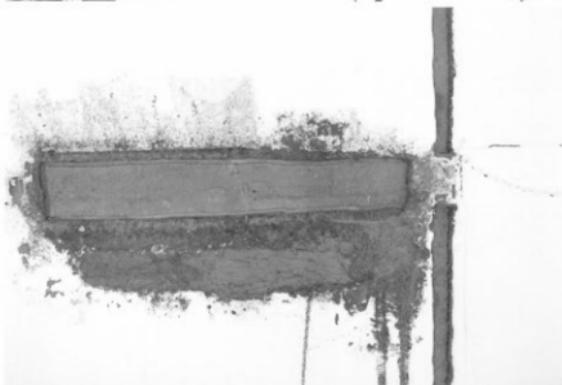
2. A地点垂直写真
(上が南西)



3. 調査区北側全景
(北東)



1. B地点垂直写真
(上が北東)



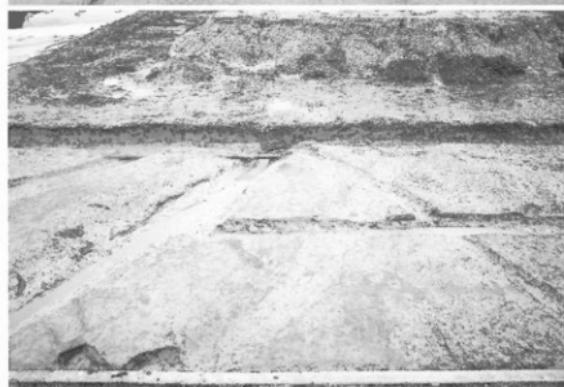
2. C地点垂直写真
(上が南西)



3. E地点垂直写真
(上が南東)



1. C地点掘立柱建物 SB01
完掘状況（北東）



2. A地点溝 SD 4・5・6
完掘状況（南西）



3. A地点溝 SD 16・17
完掘状況（南）



1. B地点溝S D14・21
完掘状況（南西）



2. E地点土坑SK27・28・29
完掘状況（北東）



3. E地点北壁土層断面
(南)



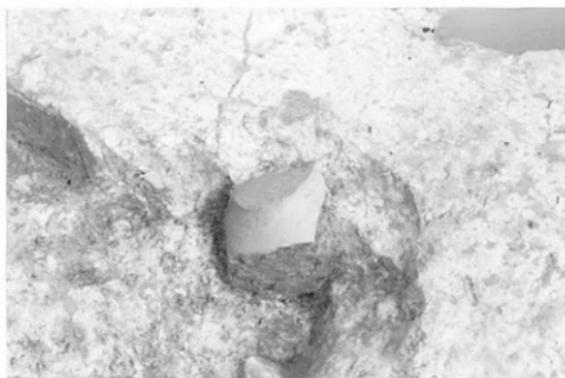
1. 遺跡遠景（北）



2. F・G地点垂直写真
(上が南東)



3. G地点土坑SK39完掘状況
(南)



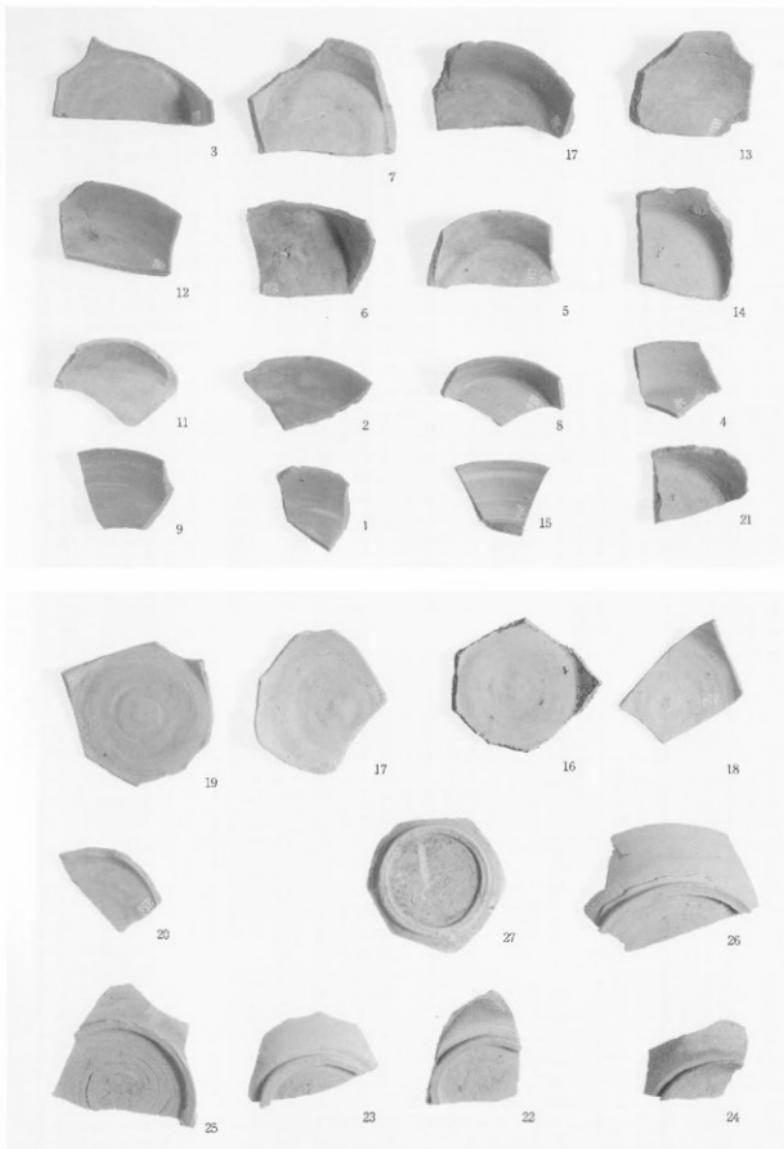
1. F地点土坑SK52
遺物出土状況（南）



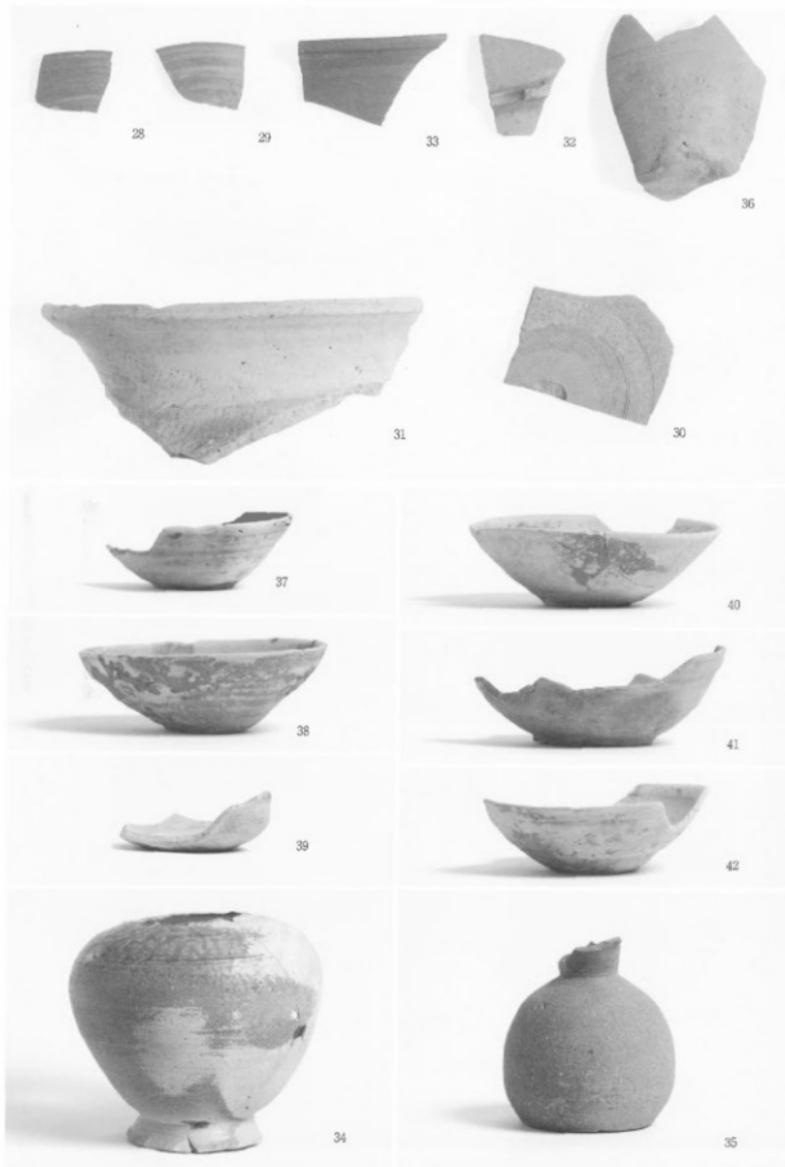
2. F地点溝SD65発掘状況
(西)



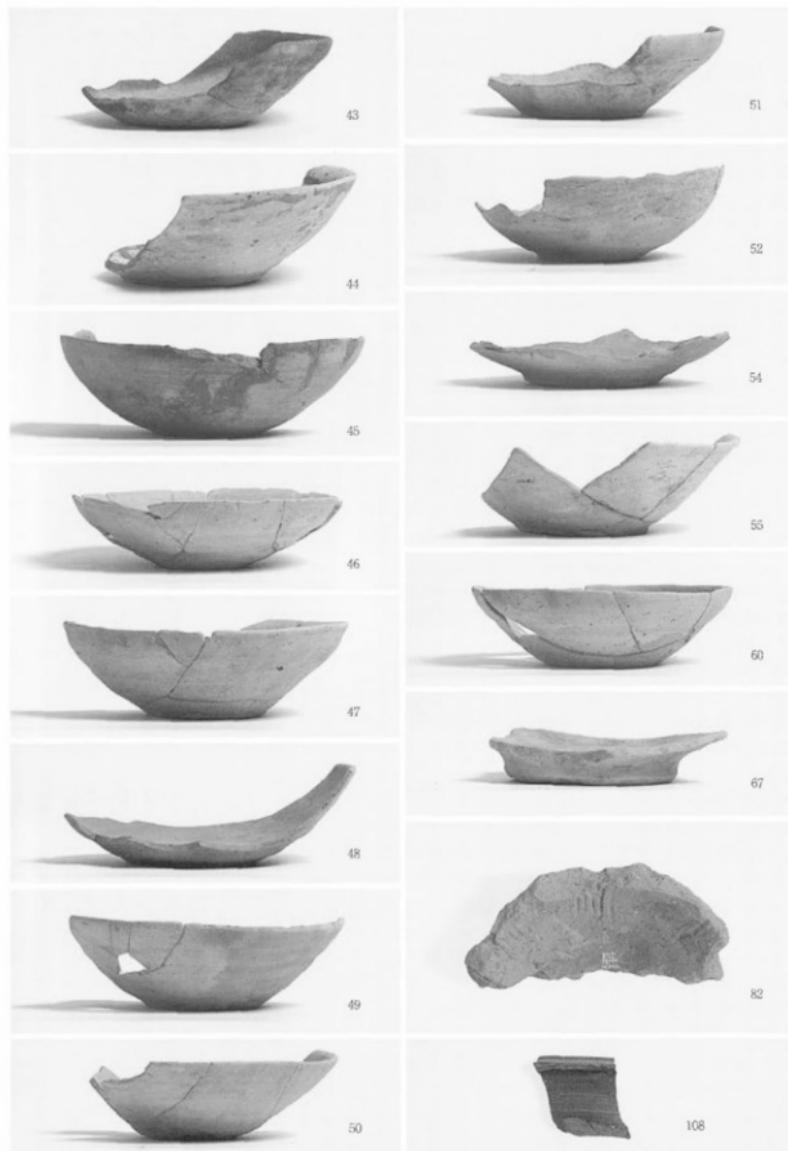
3. F地点溝SD65
遺物出土状況（北東）



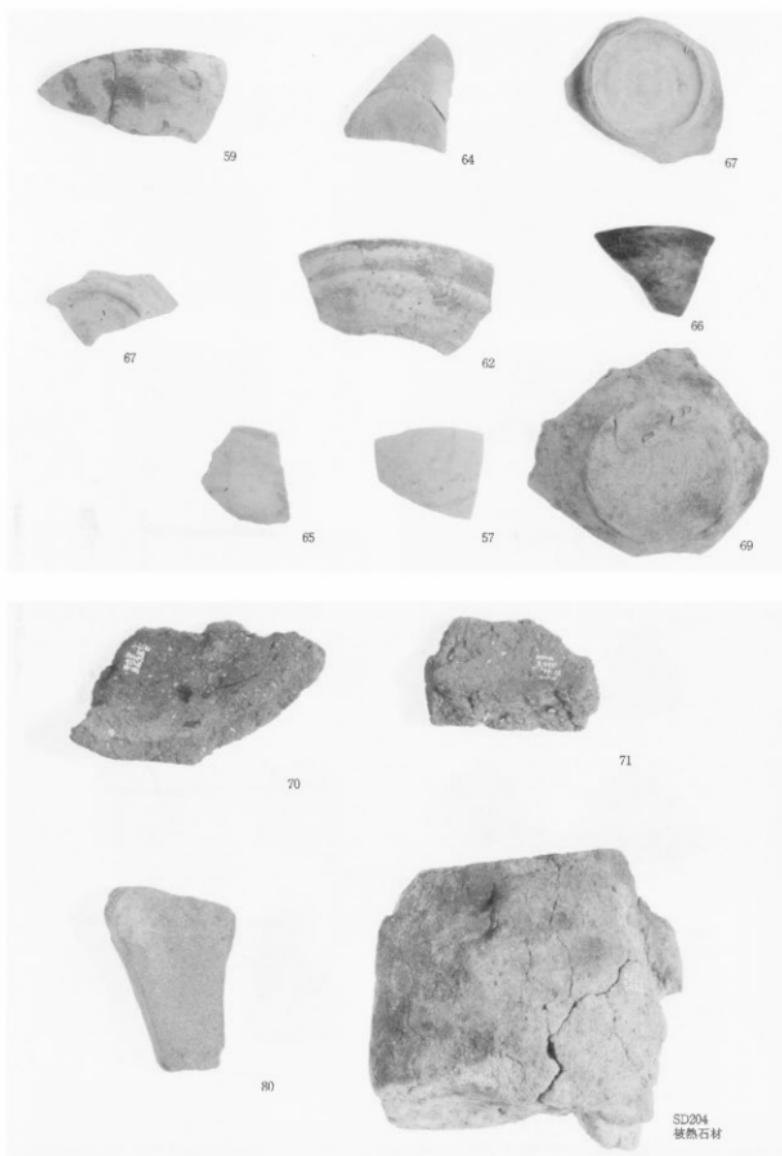
土器類 古代



土器類 古代

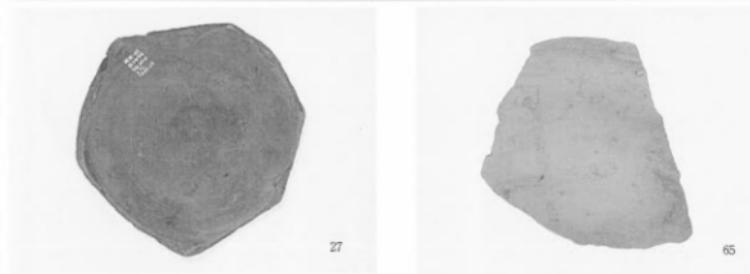


土器・陶器類 古代・中世



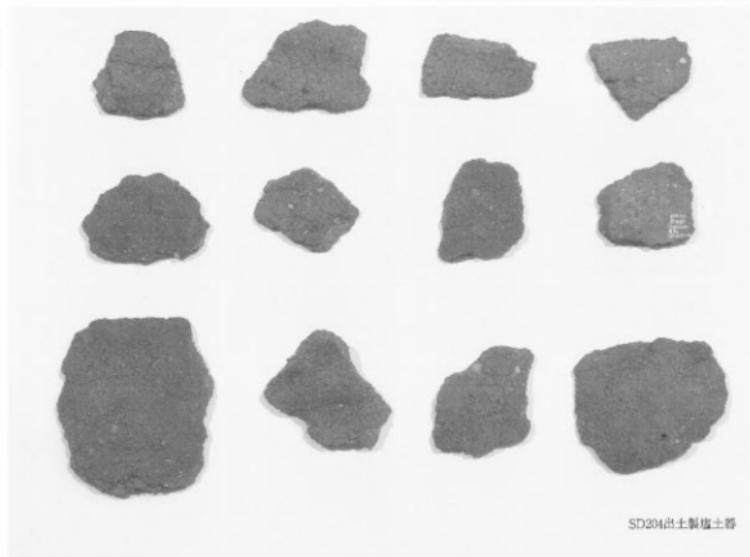


37



27

65



SD204出土 製塙土器



72



73



74



75



76



77



83



84



85



85



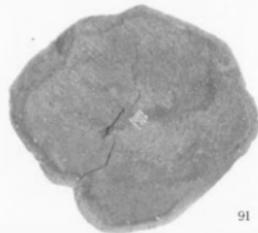
86



87

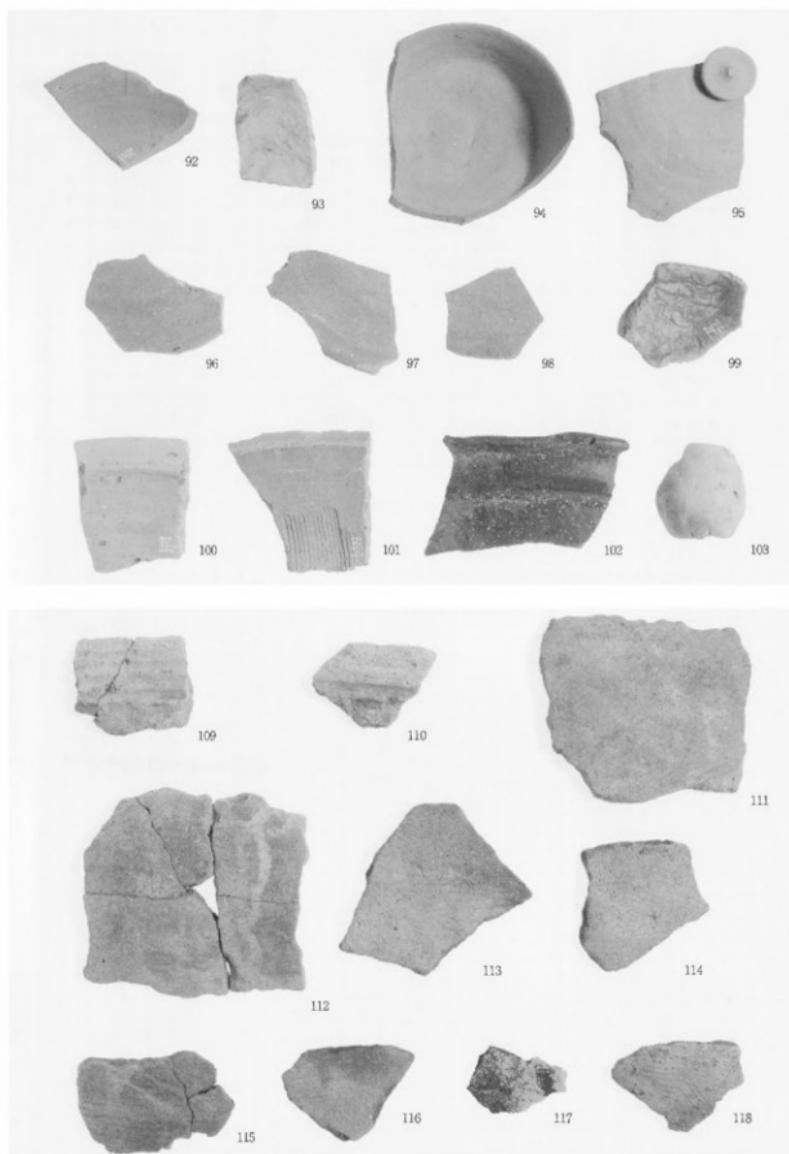


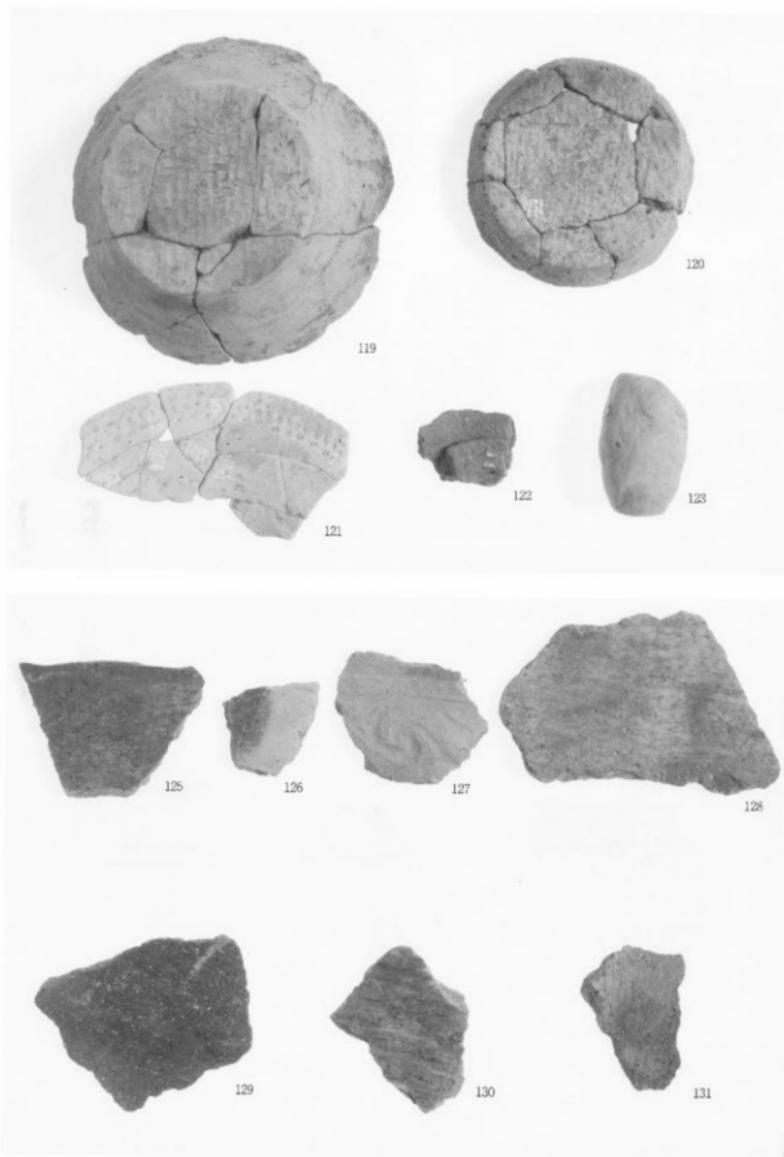
88

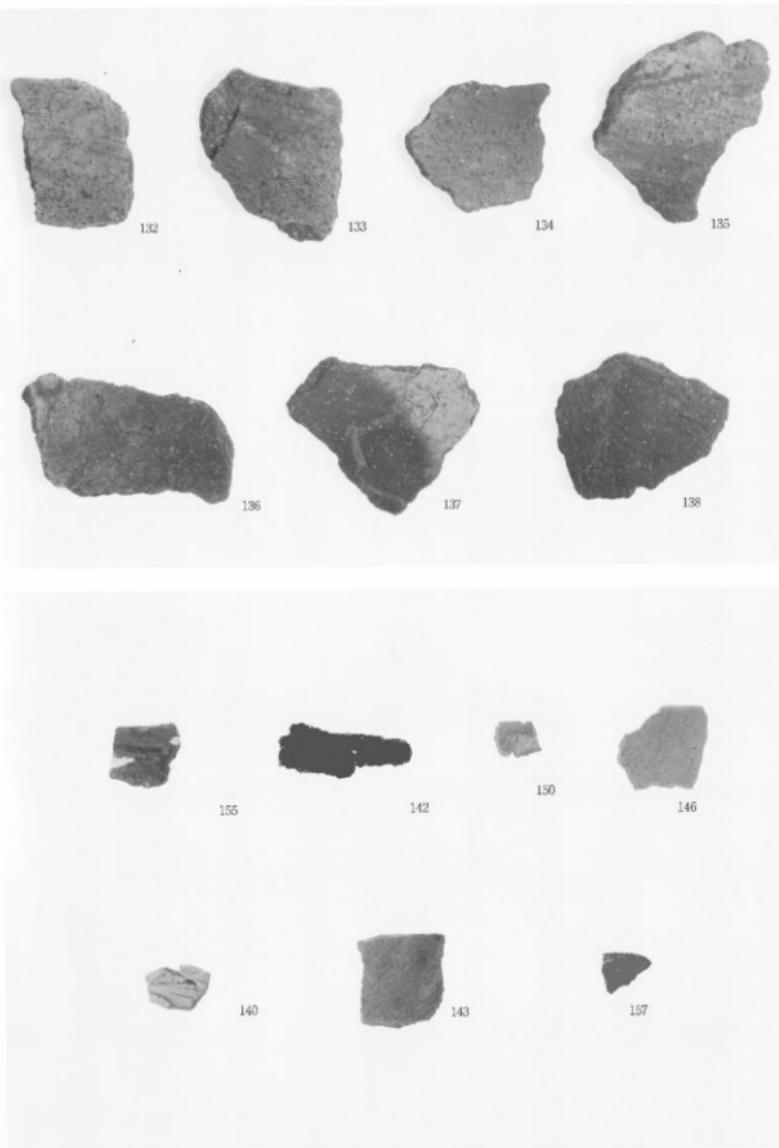


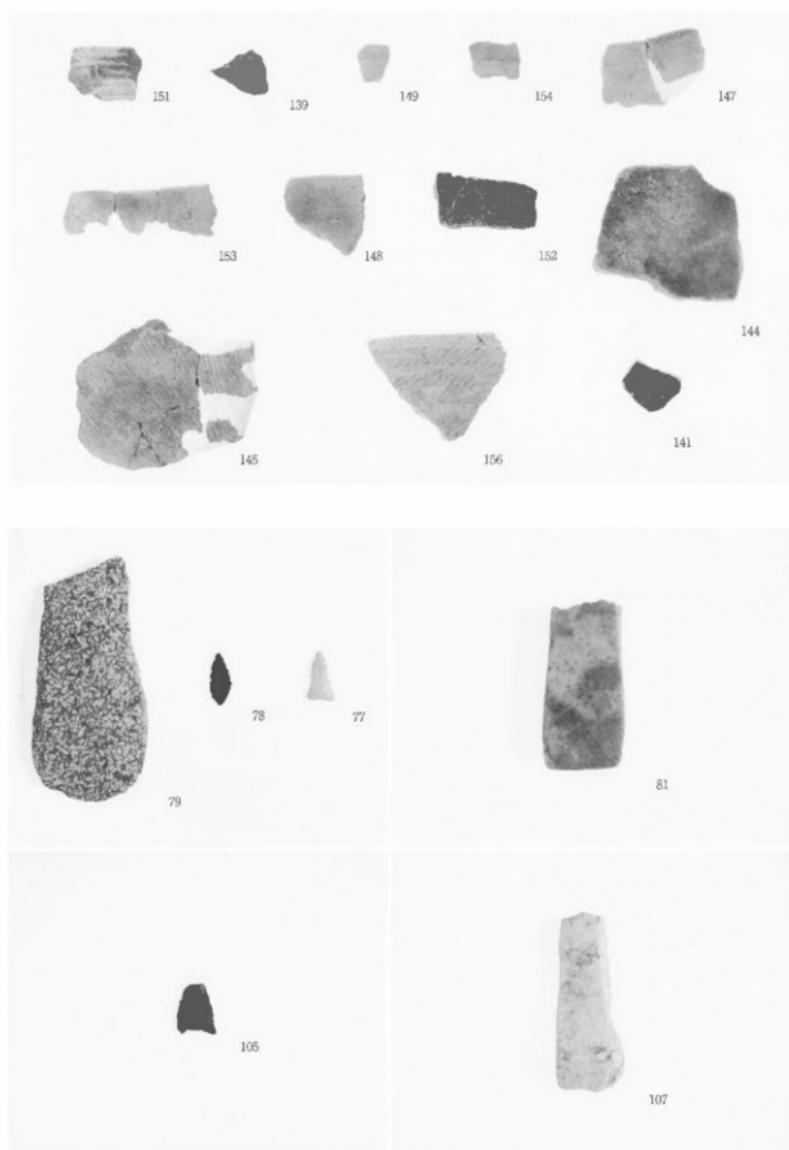
89

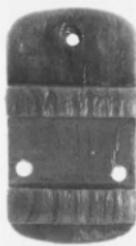
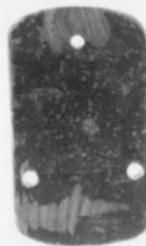
91











104



106



124



159



160



161



162



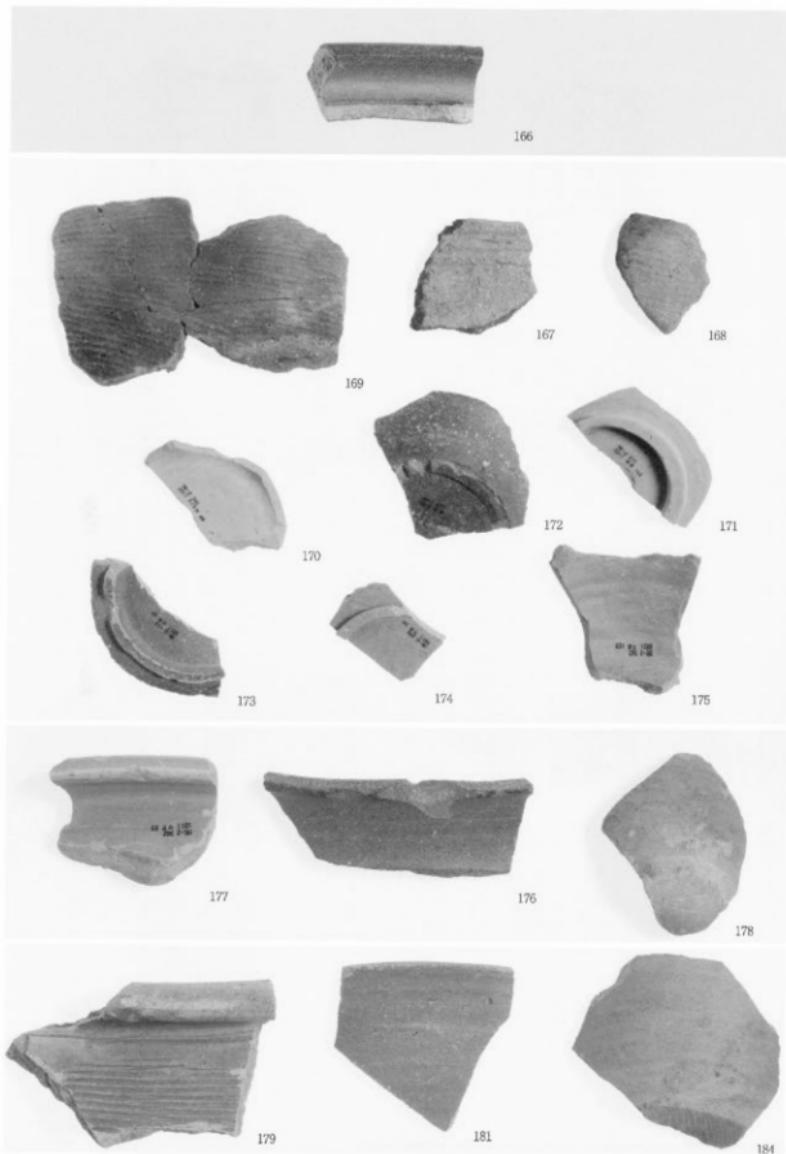
163

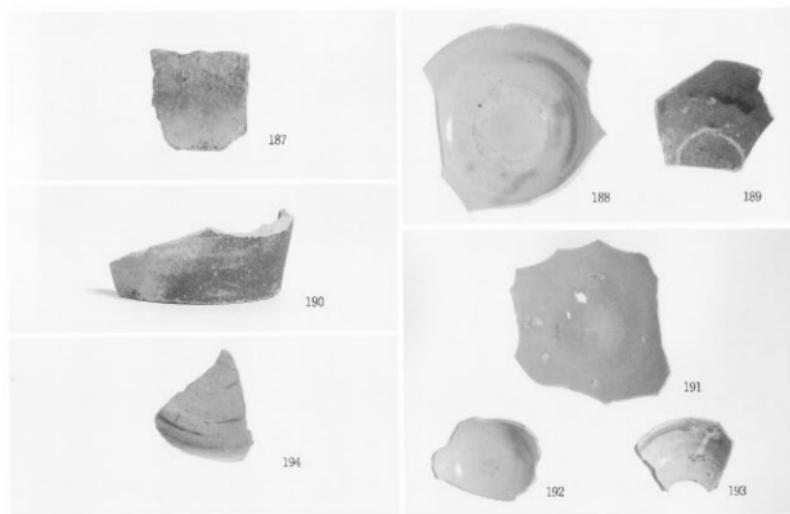
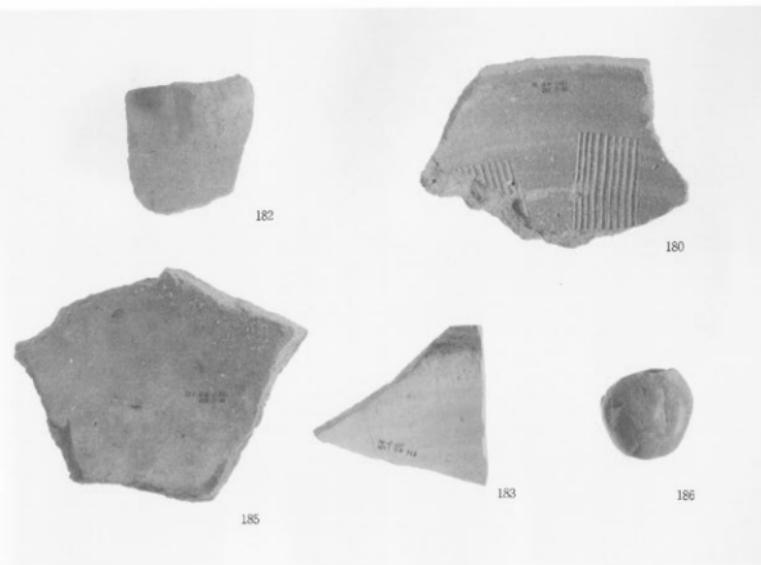


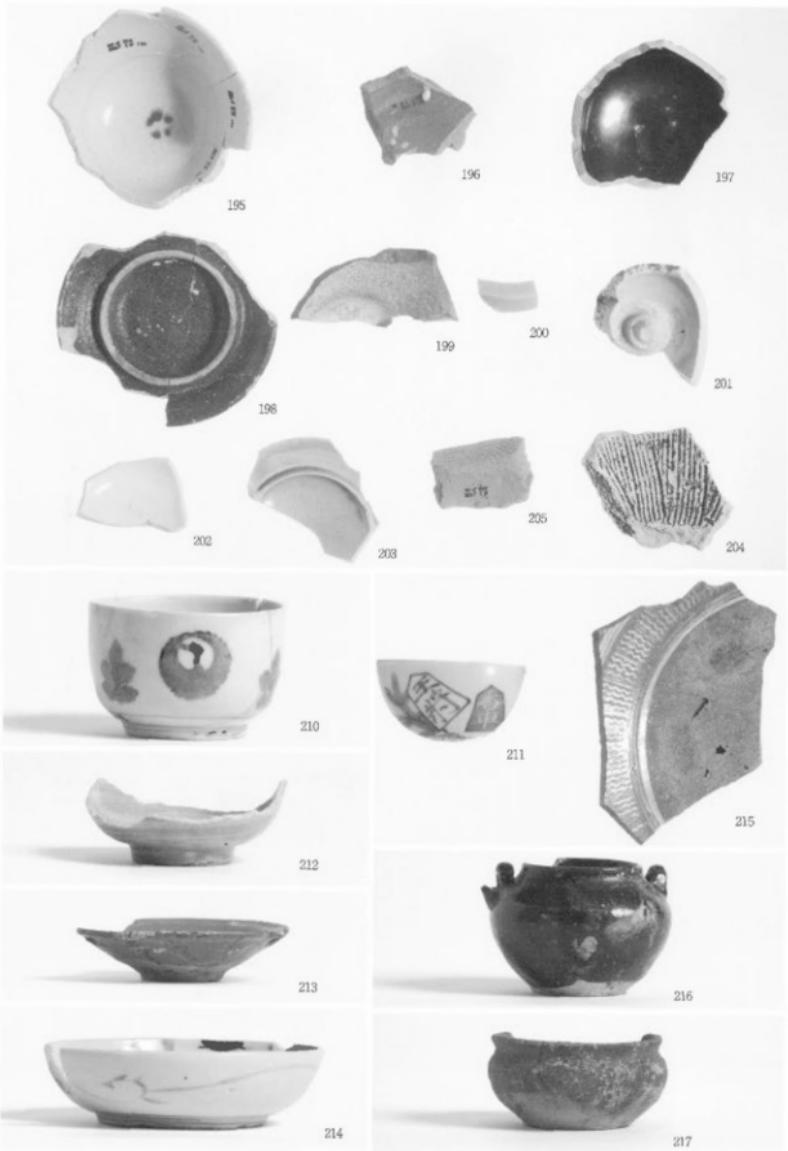
164



165









218



220



219



221



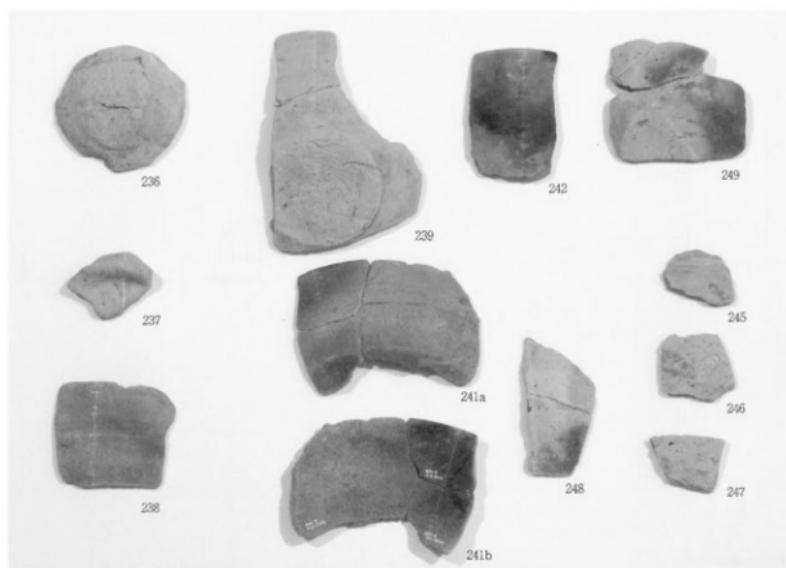
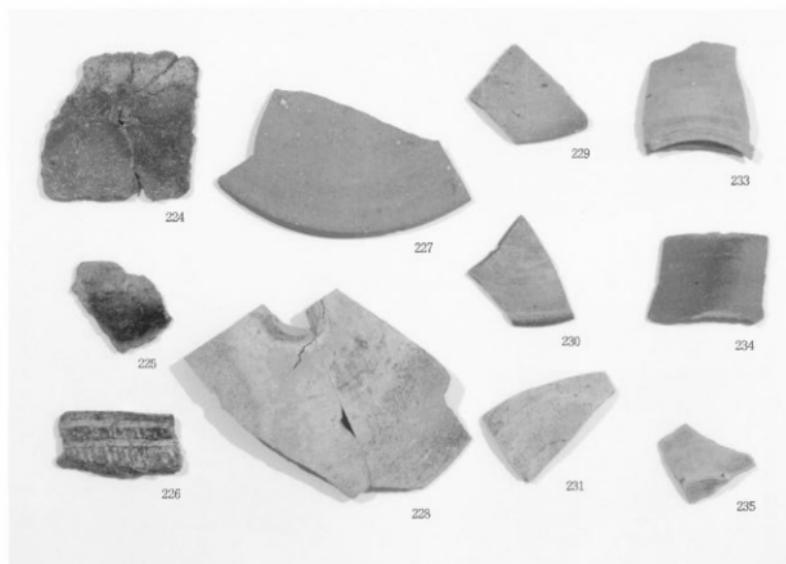
158

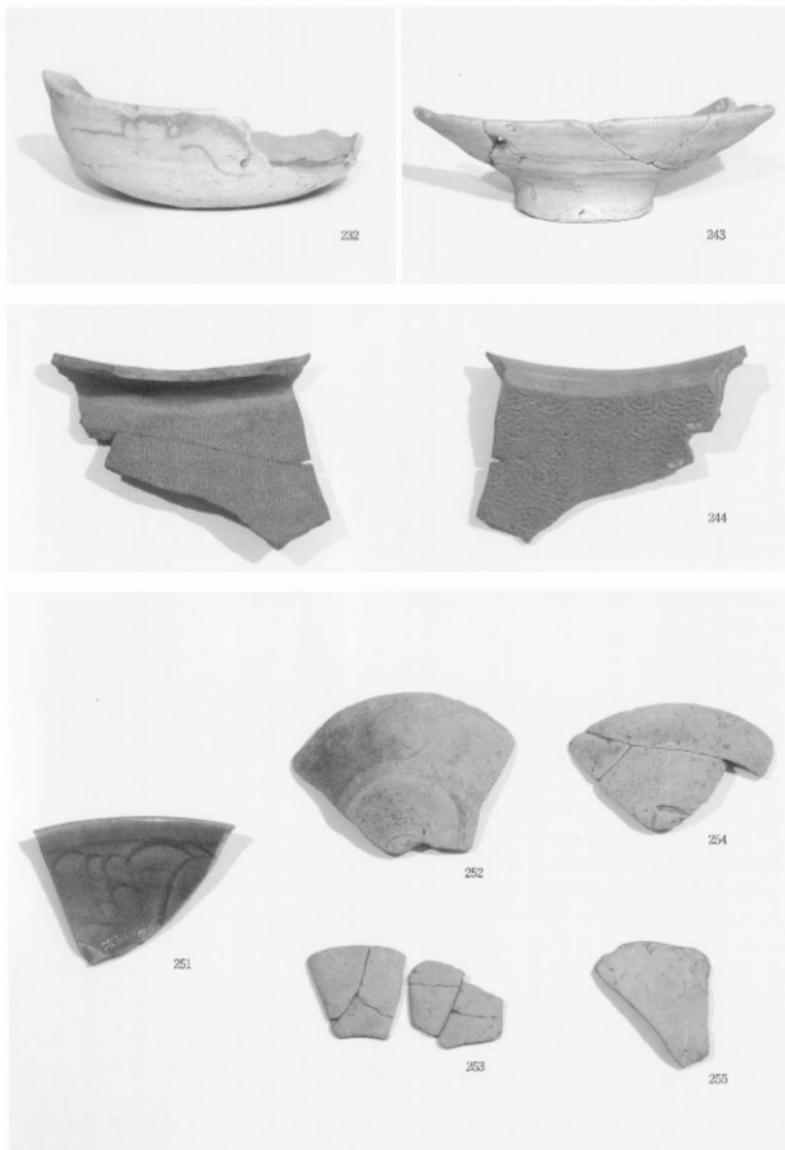


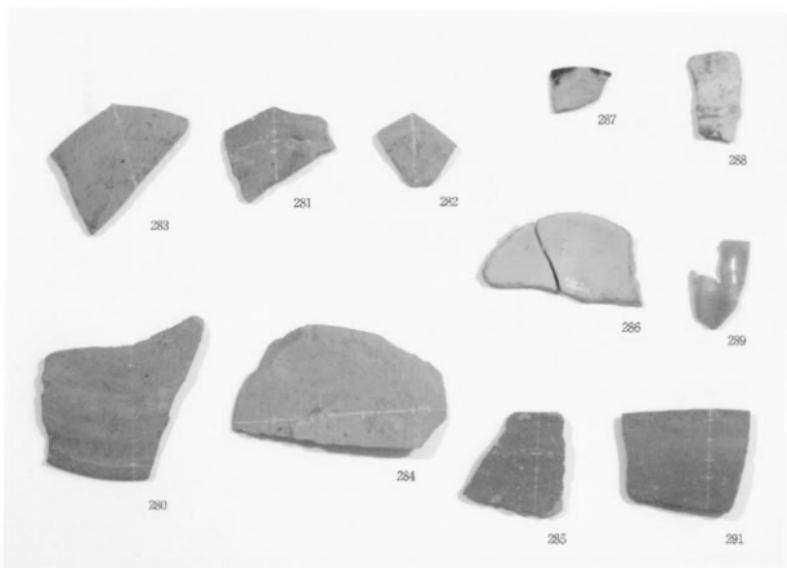
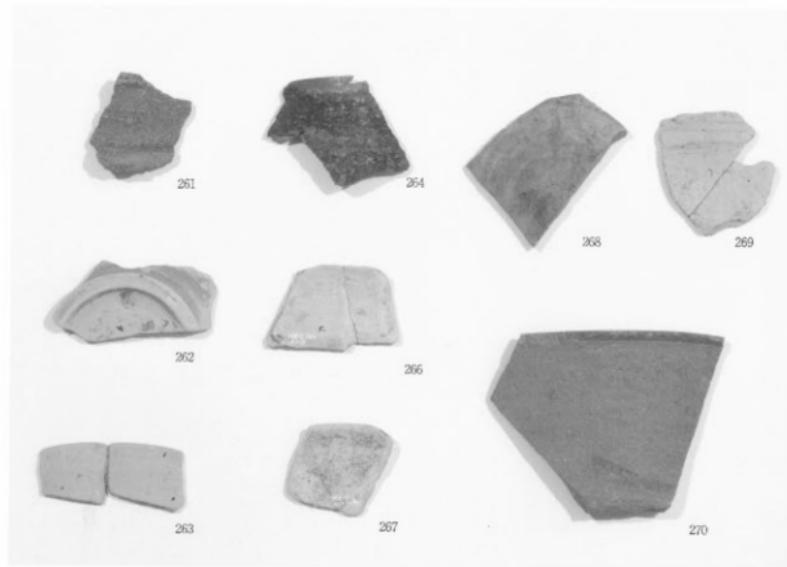
209



223







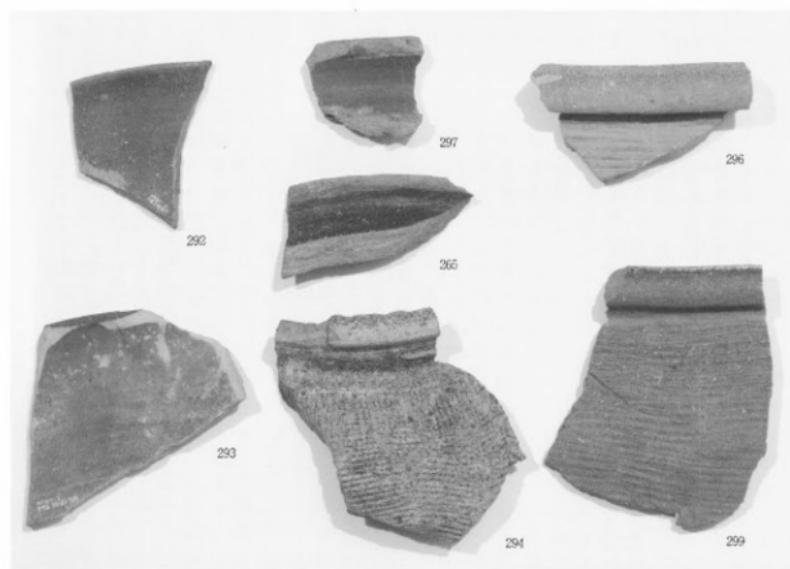


表2 遺構一覽

区画整理 1 区

掘立建物址					
遺構名	グリッド	規模	構造・方位・平面形態	出土遺物	備考
S-B01	Q1-23- 27-36	約行間(8.28m)× 乗行間(4.3m)以上	南北棟、壁際の建物。 南北窓に對して13.7m東～偏る。 内陣なし不整面。	—	北東側に受付1回の底を持つ。 社穴S-3-2とP-3-3の間に開け柱 穴がある。
S-B02	Q5-16- 34-36	約行間(7.2m)× 乗行間(6.14m)	南北棟、壁際の建物。 南北窓に對して17.4m西～偏る。 内陣なし不整面。	—	往通りが悪い。半室に満喰式。
S-B03	O-11- 34-36	約行間(8.08m)× 乗行間(4.7m)	南北棟、壁際の建物。 南北窓に對して13.7m東～偏る。 小間は四面柱式の土間。	土器類、漆器等	S-B01に沿っている。S-B01・02と繋が ており複数。

標註

遺物名	グリッド	規模	墳形・方向・平面形状	出土品	備考	図面
S A01	(18, 24-37)	7間(11.2m)	南北に向、埴生土に芯はし、東に偏る。 横幅なし。不整地円形。	上部器 磐石	S A02・S B03と棒を繋げており重複する。	図版(1)も 図版(2)も
S A02	(11, 24-38)	2間(2.9m)	南北に向、埴生土に芯はし、西に偏る。 不整地円形。	—	S A01・S B02と棒を繋げており重複する。	図版(1)も 図版(2)も
S A03	(12, 26-37)	5間(7.8m)	南北に向、埴生土に芯はし、東に偏る。 不整地円形なし。不整円形。	—	S A01とは棒軸を測える。	図版(1)も 図版(2)も

十一

遺物名	グリッド	平面形	特徴	出土遺物	調査	図面%
S K101 (8, 41 - 42)		不整規円形	長軸 : 1.32m 短軸 : 1.10m 厚さ : 5cm	—	近現代	
S K104 (17, 31)		不整規円形	長軸 : 0.88m 短軸 : 0.64m 厚さ : 10cm	伊万里	近現代	
S K106 (16 - 16, 29)		不整規円形	長軸 : 1.12m 短軸 : 0.80m 厚さ : 7cm	—	近現代	
S K108 (25, 25)		小幣形	長軸 : 0.90m 短軸 : 0.25m 厚さ : 25cm	—	近現代	
S K107 (26, 32)		不整形	長軸 : 0.62m 短軸 : 0.34m 厚さ : 15cm	—	古墳時代	
S K108 (24, 25)		不整形	長軸 : 1.90m 短軸 : 0.50m 厚さ : 21cm	—	近現代	
S K109 (26 - 27, 37)		不整形	長軸 : 1.90m 短軸 : 1.06m 厚さ : 11cm	土師器	近現代	
S K110 (26, 34)		橢円形	長軸 : 1.64m 短軸 : 0.21m 厚さ : 20cm	—	近現代	
S K111 (27, 31)		不整規円形	長軸 : 0.72m 短軸 : 0.30m 厚さ : 25cm	—	近現代	
S K112 (27, 30)		不整形	長軸 : 0.61m 短軸 : 0.42m 厚さ : 9cm	—	近現代	
S K114 (19, 43)		橢円形	長軸 : 1.02m 短軸 : 0.56m 厚さ : 23cm	—	S D1025と同一	
S K121 (14, 35 - 36)		不整形	長軸 : 1.74m 短軸 : 0.88m 厚さ : 17cm	—	S D277と同一	
S K122 (14, 36)		不整規円形	長軸 : 0.90m 短軸 : 0.56m 厚さ : 17cm	—		
S K125 (16, 36)		不整形	長軸 : 0.72m 短軸 : 0.52m 厚さ : 9cm	—		
S K126 (13, 34)		不整形	長軸 : 0.62m 短軸 : 0.42m 厚さ : 9cm	—		
S K129 (19 - 21, 34 - 35)		不整形	長軸 : 1.28m 短軸 : 1.17m 厚さ : 20cm	瓦質土解	S B01を削り、SK103に切られる。	
S K130 (19)		不整規円形	長軸 : 2.70m 短軸 : 0.63m 厚さ : 27cm	—	S B01・SK129を削る。	

操作流程

S D210w 2区50t	(27~34, 27~31)	西北	長さ31.0cm以上 幅0.92~0.46m 深さ32~54cm	高文士器、土師器、漆器 等、陶器、新石器時代の 土器、瓦器、灰陶器、 骨器、貝器、伊万里、 有田器、本阿弥 (漆器)、萩原、 村、白山器、石器品 (灰石)、漆器	GSI40を分離する。SD221・230・231と 重複する。2区50tへ繋ぎ、南側は調 査区外に延びる。	図面一二
S D211	(22~26, 28~39)	南西~北東	長さ16.5cm 幅0.76~1.28m 深さ14~30cm	土師器、漆器	S D206から分離する。北東側の2区 S D61に接する。	図面一三
S D212	(22, 25~37)	南西~北東	長さ10.22m 幅0.26~1.00m 深さ1~11cm	漆器、青磁	S D202と重複する。北側は調査区外に 延びる。	
S D214	(17~20, 29~34)	南西~北東	長さ25.20m 幅0.42~1.18m 深さ3~15cm	土師器、灰陶器、漆器、 骨器、灰陶器、伊万里、 有田器(石器)	カクランに切られる。 近現代の漆。	
S D216	(29~21, 31~32)	南西~北東	長さ4.40m 幅0.3~0.4m 深さ3~5cm	—	近現代の漆。	
S D217	(17, 29~30)	西~北東	長さ3.90m 幅0.18~0.28m 深さ4~6cm	漆器	S X403を切る。近現代の漆。	
S D218	(16~17, 30~31)	南西~北東	長さ8.80m 幅0.14~0.35m 深さ6~21cm	—	S D219・225と同様。近現代の漆。	
S D219	(17, 32)	南西~北東	長さ1.14m 幅0.22~0.32m 深さ8cm	—	S D218・225と同様。近現代の漆。	
S D221	(27, 28~29)	東西	長さ3.70m 幅0.46~0.90m 深さ2~5cm	—	S D210と重複する。	
S D222	(19~21, 29~32)	南北~北東	長さ21.60m 幅0.34~0.62m 深さ8cm	—	S D229・233~236と重複する。近現代 の漆。	図面一三
S D223	(19~21, 29~32)	西~北東	長さ22.25m 幅0.24~0.84m 深さ2~21cm	土師器	S D202と分離する。	図面一三
S D224	(13~16, 27~29)	山西~北東	長さ15.30m以上 幅0.22~0.42m 深さ2~25cm	漆器、細中瓶、伊万里	近現代の漆。	
S D225	(14~16, 26~30)	山西~北東	長さ19.00m 幅0.06~0.36m 深さ3~4cm	—	S D218・219と同様。近現代の漆。	
S D226	(21, 32)	南北	長さ2.12m 幅0.38~0.51m 深さ10~26cm	—	S D233と重複する。近現代の漆。	
S D229	(21~25, 30~32)	南東~西北	長さ24.46m 幅0.14~0.47m 深さ2~25cm	土師器	S D222と重複する。近現代の漆。	
S D230	(27~28, 29~31)	南北	長さ12.18m 幅0.36~0.74m 深さ3~18cm	—	S D210と重複する。	
S D231	(30~31, 33)	南北	長さ5.19m 幅0.76~0.80m 深さ2~9cm	—	S D210と重複する。	
S D232	(24~26, 25~29)	南北から西~西偏南	長さ21.70m以上 幅0.22~0.40m 深さ2~22cm	—	東側は調査区外に延びる。近現代の 漆。	
S D233	(21~24)	東東~北西	長さ17.10m 幅0.18~0.36m 深さ3~6cm	細中瓶	S D222・223と重複する。カクランに 延びれる。近現代の漆。	
S D234	(21~25, 29~31)	南東~北西	長さ24.95m 幅0.34~0.44m 深さ2~12cm	—	S D222と重複する。カクランに切られ る。近現代の漆。	
S D235	(21~25, 29~31)	南東~北西	長さ24.46m 幅0.14~0.32m 深さ2~12cm	—	S D222と重複する。カクランに切られ る。近現代の漆。	
S D236	(16~24, 21~27)	山西~北東	長さ41.46m以上 幅0.18~0.40m 深さ2~15cm	—	S D302を切る。東側は調査区外に延び る。近現代の漆。	
S D237	(20~21, 32)	東西	長さ5.54m 幅0.44~0.80m 深さ2~4cm	印押、敷器	近現代の漆。	
S D238	(14~22, 23~27)	南東~北西	長さ6.60m以上 幅0.22~0.56m 深さ2~30cm	粗底器、通中瀬戸、伊万里	S D202・203・214を切る。近現代の 漆。	
S D239	(18~20, 21~23)	南東~西北	長さ12.62m 幅0.34~0.88m 深さ3~10cm	肥前	S D240と切れる。	
S D240	(18~21, 21~23)	南東~北西	長さ15.12m以上 幅0.26~0.46m 深さ3~16cm	—	S D239を切る。東側は調査区外に延び る。近現代の漆。	
S D241	(24~27, 25~28)	南東~北東	長さ32.04m 幅1.2~1.22m 深さ2~17cm	—	—	
S D242	(22, 36)	山西~北東	長さ1.96m 幅0.16~0.28m 深さ4~8cm	—	—	
S D243	(22~23, 31~32)	南東~北西	長さ7.70m 幅0.18~0.40m 深さ2~20cm	粗底器	近現代の漆。	
S D244	(24~26, 25~27)	南北	長さ12.62m 幅0.34~0.88m 深さ3~10cm	—	—	
S D245	(29~30, 32~34)	南東~北西	長さ6.60m以上 幅0.40~0.91m 深さ2~21cm	—	S D330に切られる。	
S D247	(14~15, 31)	東東~北西	長さ5.64m 幅0.16~0.26m 深さ3~5cm	—	S D210と重複する。	
S D248	(16, 22~33)	南東~北西	長さ5.12m 幅0.18~0.26m 深さ2~5cm	—	—	近現代の漆。
S D249	(16, 33)	南東~北西	長さ1.58m 幅0.18~0.24m 深さ2~4cm	—	—	近現代の漆。
S D250	(16~17, 33)	南東~北西	長さ3.84m 幅0.2~0.29m 深さ4~10cm	土師器	S D206を切る。近現代の漆。	
S D251	(21~25, 41~43)	南東~北西	長さ28.06m 幅0.28~0.54m 深さ2~19cm	伊万里	S P1045~1046を切り、S D363~296 に接続する。近現代の漆。	
S D252	(20~22, 42~43)	南東~北西	長さ8.40m以上 幅0.92~1.04m 深さ3~20cm	伊万里	東側は調査区外へ延びる。S D227・ S K115・S P1061と2区SK112が同一 になるか。近現代の漆。	
S D253	(23, 40)	山西~北東	長さ2.04m 幅0.22~0.38m 深さ2~9cm	—	近現代の漆。	
S D254	(23~24, 40~41)	山西~北東	長さ10.10m以上 幅0.22~0.46m 深さ2~9cm	—	近現代の漆。	
S D255	(21~23, 29~40)	山西~北西	長さ10.04m 幅0.10~0.28m 深さ2~3cm	—	近現代の漆。	
S D256	(18~20, 41~42)	山西~北西	長さ13.46m 幅0.14~0.36m 深さ2~10cm	細中瓶	S D205・206に切られる。近現代の 漆。	
S D257	(21, 42)	南東~北東	長さ3.38m 幅0.24~0.62m 深さ2~25cm	—	—	
S D258	(17~19, 22~29)	南東~北西	長さ14.46m 幅0.18~0.47m 深さ2~16cm	—	S D269・271・275と重複する。近現代 の漆。	
S D262	(18~19, 41~43)	山西~北東	長さ13.64m 幅0.07~0.21m 深さ2~18cm	瓶戸美濃	S D251・267を切り、S D264と重複す る。近現代の漆。	
S D264	(20~22, 40~42)	山西~北東	長さ13.50m 幅0.06~0.36m 深さ2~9cm	—	S D265・266と重複する。近現代の 漆。	

S D266	(18~21, 49~43)	南東~北西	長さ21.62m 幅0.07~0.32m 高さ1~15cm	—	S D266・287を切り、S D264・265と重複する。近現代の遺。
S D267	(20, 41)	南東~北西	長さ1.66m 幅0.10~0.22m 高さ3~11cm	土器類、煮豆器	近現代の遺。
S D268	(17~20, 40~43)	南東~北西	長さ16.84m 幅0.12~0.35m 高さ3~11cm	—	S D287を切り、S D264と重複する。近現代の遺。
S D269	(19, 40)	南東~北西	長さ3.76m 幅0.16~0.24m 高さ1~16cm	—	S X504と重複する。近現代の遺。
S D270	(17~19, 40~42)	南東~北西	長さ517.49m 幅0.14~0.21m 高さ2~15cm	—	S X504と重複する。近現代の遺。
S D271	(18~19, 41)	南東~北西	長さ1.99m 幅0.12~0.26m 高さ2~12cm	—	近現代の遺。
S D272	(18~19, 43)	南東~北西	長さ4.50m 幅0.19~0.31m 高さ3~24cm	—	北側は調査地区外へ延びる。S D239・S K14・S P188と共にSK545と同一になるか。古墳時代の遺。
S D274	(16~19, 39~42)	南東~北西	長さ17.40m 幅0.14~0.23m 高さ1~6cm	—	S D206と重複する。近現代の遺。
S D275	(17~19, 39~41)	南東~北西	長さ16.61m 幅0.11~0.22m 高さ1~15cm	—	S D206と重複する。近現代の遺。
S D276	(17~18, 40)	東西	長さ4.35m 幅0.38~0.86m 高さ3~22cm	—	S D206と重複する。近現代の遺。
S D277	(13~14, 34~39)	南西~北東	長さ51.66m 幅0.35~0.56m 高さ1~15cm	—	S D121と同一。
S D278	(11, 38)	—	長さ8.96m 幅0.15~0.22m 高さ10~15cm	—	S A02 P1~1
S D279	(14~17, 31~33)	南東~北西	長さ18.12m 幅0.14~0.24m 高さ1~8cm	—	S D206を切り。古墳時代の遺。
S D280	(13~14, 32~33)	南東~北西	長さ5.20m 幅0.12~0.26m 高さ1~8cm	—	近現代の遺。
S D281	(11~15, 36~32)	南東~北西	長さ14.34m 幅0.12~0.34m 高さ1~12cm	—	S D206を切り、S D263と重複する。古墳時代の遺。
S D282	(13~14, 31~32)	南東~北西	長さ5.7.00m 幅0.21~0.30m 高さ1~7cm	—	S D206を切り、S D262と重複する。古墳時代の遺。
S D283	(13, 31~32)	南西~北東	長さ3.46m 幅0.16~0.20m 高さ1~12cm	—	S D281・282と重複する。近現代の遺。
S D285	(17~18, 47~50)	南西~北東	長さ8.60m 幅0.18~0.36m 高さ3~7cm	土器類	—
S D286	(21~25, 39~48)	南北	長さ8.60m 幅0.17~0.62m 高さ5~6cm	—	S D206・212と同一。北側は調査地区外に延びる。
S D287	(20, 49~41)	南西~北東	長さ6.64m 以上 幅0.22~0.32m 高さ3~32cm	—	S D233・236・238に切られる。近現代の遺。

団地

遺構名	グリッド	平面形	幅員	出土遺物	備考	団地No.
S X501	(0, 9, 30~31)	不整形	長軸：6.80m 幅軸：6.40~1.60m 高さ：5~45cm	陶文片、瓦類、焼成物、瓦片、 陶片、瓦類、青磁、瓶中骨灰、 瓦片、烧泥、瓦器、伊万里	植カクランか。	
S X502	(6~7, 32)	不整形	長軸：5.80m 幅軸：6.54m 高さ：45cm	—	植カクランか。	
S X503	(17~19, 29)	楕丸長方形	長軸：3.46m 幅軸：2.24m 高さ：19cm	植中窓戸		
S X504	(19~20, 39~40)	不整形	長軸：7.70m 幅軸：0.48m 高さ：45cm	—	S D269・270に切られる。植カクランか。	
S X505	(10~14, 33~34)	不整形	長軸：5.94m 幅軸：1.06m 高さ：47cm	陶文器、土器部品、煮豆器、 瓦片、瓦器、陶片、瓶中骨灰、瓦器	植カクランか。	

自然流路

遺構名	グリッド	規模	山上遺物	方向	切り合ひ	団地No.
N R01	(1~14, 38~50)	長さ：94.71m以上 幅：4.78~6.85m 高さ：47~220cm	土器類、蒸器器、伊万里、 石器品（砾石）	南西~北東	鹿島帶御前の自然流路。此跡は3区に 統合し、削除に延びる。	

区画整理2区

遺構名	グリッド	規模	構造・方位・平面形態	方向	切り合ひ	団地No.
S B01	(6, 0, P)	航行2箇所(2.8m)× 航行1箇所(3.8m)以上	舟形・舟底・船体構造	木製品	P1はS D1を切り、P2はS D2に重複する。 北側は河岸の遺存とする。 北側は調査地区外へ延びる。S D1とP1は接する。	団地二 回廊一
S B02	(6, O, 1')	航行3箇所(7.0m)× 航行2箇所(4.6m)	舟形・舟底・船体構造	航路沿・木製品	S D3を切り、S D2に重複する。P2 はD2無形埋蔵物となる可能性あり。 P1は方舟なし・小型円筒。	団地二 回廊一
S B03	(4~6, P, Q, 1')	航行4箇所(8.2m)× 航行3箇所(4.5m)	舟形・舟底・船体構造	—	S D5を切り、S D6に重複する。	団地二 回廊一
S B04	(4, Q, N)	航行1箇所(6.6m)以上 ×渠行1箇所(4.1m)	舟形・舟底・船体構造、 渠行部分に付して河岸に張る。 渠行部分なし・大型円筒。	土器類、蒸器器、陶輪器	P 5はS D5を切り、P 1はS D4に重複する。 渠行部分無く、渠行部分無く。	団地二 回廊一
S B05	(3, S)	航行2箇所(3.5m)以上 ×渠行1箇所(4.4m)	舟形・舟底・船体構造	土器類	P 6はS D6~E~1を切り、P 4~5 はS D5を切り、S D6より無形埋蔵物が 付く。東側は調査地区外へ延びる。	団地二 回廊一
S B06	(6, S)	航行または航行2箇所 以上(6.6m)	舟形・舟底・船体構造	土器類	S D10~P1はS D02~P2に重複する。 南側は河岸の遺存とする。	団地二 回廊一
S B07	(6, S)	航行または航行1箇所以上 (4.5m以上)	舟形・内軸・建物構造不明。 不整筋縫なし・不整円筒。	土器類	P 1はS D13~P 1を切り、P 1~4 はS D12を切り、S D10より無形埋蔵物が 付く。東側は調査地区外へ延びる。	団地二 回廊一
S B08	(8, R, S)	航行1箇所(3.5m) ×渠行1箇所(2.5m)	舟形・舟底・船体構造	—	S D14~P1はS D02~P2に重複する。 S D14より無形埋蔵物がある。	団地二 回廊一
S B09	(9, R, S)	航行1箇所(2.7m) ×渠行1箇所(3.4m以上)	舟形・舟底・船体構造	—	S D43~46はS D31を切り、S F53~2 S 130に付く。S 110と船を同じくす S。	団地二

S B10	(G, R + S)	横円筒 (0.5m以上) 又葉型1箇所 (0.1m以上)	骨灰庫、骨壺の堆积。 法螺瓦に付して石の表面に砾。	—	S D64とS D30を切る。S B19と縫を 同じくする。北西と東側へ延びる。	図面二一
土坑 振乱を除く						
被埴名	グリッド	平面形	規模	出土物	備考	図面No.
S K1	(P, 4・5)	隅丸方形	長軸：0.9m 短軸：0.7m 深さ：77cm	土器質土器		図面二九
S K2	(R, 10)	円形	長軸：0.9m 短軸：0.7m 深さ：60cm	陶文土器、土師器、漆器 器、麻袋、陶器、食器	S D36を切り。	
S K3	(S, 2)	隅丸方形	長軸：0.90m 短軸：0.4m 深さ：5cm	—	S D36を切り。S D15に切られる。	
S K4	(S, 8)	隅丸方形	長軸：4.5m 短軸：0.8m 深さ：57cm	—		
S K5	(N, 10)	隅丸方形	長軸：1.9m 短軸：1.6m 深さ：23cm	磁器、陶器、合製品		
S K6	(Q, 9)	円形	長軸：0.9m 短軸：0.6m 深さ：10cm	磁器、陶器、合製品		
S K7	(Q, 9)	円形	長軸：0.7m 短軸：0.7m 深さ：12cm	—	S D27に切られる。	
S K8	(R・S, 7・8)	隅丸方形	長軸：2.5m 短軸：1.6m 深さ：71cm	—	S D27に切られる。	
S K9	(N, 10)	横円形	長軸：1.6m 短軸：0.8m 深さ：15cm	—		
S K10	(P, 11)	方形	長軸：1.2m 短軸：0.7m 深さ：14cm	—		
S K11	(S, 16)	横円形	長軸：1.0m 短軸：0.6m 深さ：35cm	—		
S K12	(S, 16・17)	横円形	長軸：1.1m 短軸：1.0m 深さ：27cm	陶器、磁器、木製品、敷石	S K13・S D51を切る。	
S K13	(S, 16・17)	横円形	長軸：1.2m 短軸：0.7m 深さ：30cm	—	S D36を切り、S K12に切られる。	図面二九
S K14	(S, 16)	横円形	長軸：1.4m 短軸：0.6m 深さ：20cm	—	S D36の下部で移出。	図面二九
S K15	(T, 15)	円形	長軸：0.7m 短軸：0.2m 深さ：6cm	—	S D41に切られる。	
S K16	(S・T, 16)	横円形	長軸：0.5m 短軸：0.3m 深さ：16cm	—		
S K17	(S, 15)	横円形	長軸：0.7m 短軸：0.4m 深さ：22cm	—		
S K18	(S, 15)	横円形	長軸：0.9m 短軸：0.6m 深さ：47cm	—		
S K19	(S, 15)	横円形	長軸：0.9m 短軸：0.6m 深さ：9cm	—		
S K20	(R, 14)	方形	長軸：1.2m 短軸：1.0m 深さ：44cm	—		
S K21	(P, 20)	横円形	長軸：2.2m 短軸：1.0m 深さ：25cm	—	S D11を切る。	
S K22	(S, 15)	円形	長軸：0.6m 短軸：0.6m 深さ：2cm	—		
S K23	(P, 18)	隅丸方形	長軸：1.0m 短軸：0.6m 深さ：7cm	—	S D50を切る。	
S K24	(P, 20)	方形	長軸：2.0m 短軸：1.7m 深さ：10cm	磁器類、木製品	S D11を切る。	
S K25	(P, 21)	方形	長軸：1.2m 短軸：0.6m 深さ：28cm	—	S D11に切られる。	
S K26	(P, 20・21)	隅丸方形	長軸：1.4m 短軸：1.2m 深さ：15cm	—	S D11に切られる。	
S K27	(S, 23)	隅丸方形	長軸：2.1m 短軸：1.7m 深さ：27cm	—		
S K28	(R, 23)	円形	長軸：1.2m 短軸：0.9m 深さ：6cm	—		
S K29	(R, 23)	隅丸方形	長軸：1.0m 短軸：0.6m 深さ：7cm	—		
S K30	(T, 22)	横円形	長軸：0.9m 短軸：0.4m 深さ：11cm	—		
S K31	(T, 22)	隅丸方形	長軸：1.7m 短軸：0.4m 深さ：21cm	磁器		
S K32	(T, 22)	横円形	長軸：1.6m 短軸：0.4m 深さ：6cm	—		
S K33	(T, 22)	円形	長軸：0.8m 短軸：0.5m 深さ：8cm	—		
S K34	(S, 22・23)	隅丸方形	長軸：2.6m 短軸：0.6m 深さ：8cm	—		
S K35	(T, 23)	円形	長軸：0.8m 短軸：0.6m 深さ：7cm	—		
S K36	(S・T, 20)	隅丸方形	長軸：1.8m 短軸：1.4m 深さ：19cm	磁器		
S K37	(R, 24・25)	隅丸方形	長軸：5.1m 短軸：2.1m 深さ：19cm	磁器類、陶器、磁器、石製品（枕石）		
S K38	(Q, 23・24)	隅丸方形	長軸：1.2m 短軸：1.0m 深さ：14cm	—		
S K39	(Q, 22・23)	隅丸方形	長軸：4.9m 短軸：0.6m 深さ：9cm	土器質土器、陶器		
S K40	(N・O, 26)	方形	長軸：1.6m 短軸：1.0m 深さ：8cm	陶器類	S D73に切られる。	
S K41	(M, 21)	隅丸方形	長軸：1.9m 短軸：1.0m 深さ：5cm	—	S D64に切られる。	
S K42	(M・N, 21)	隅丸方形	長軸：4.1m 短軸：0.7m 深さ：6cm	—	S D77を切る。	
S K43	(M, 21・22)	隅丸方形	長軸：0.8m 短軸：0.6m 深さ：16cm	—	S D75に切られる。	
S K44	(M, 21・22)	隅丸方形	長軸：2.8m 短軸：0.7m 深さ：4cm	—		
S K45	(M, 22)	隅丸方形	長軸：1.5m 短軸：0.6m 深さ：5cm	—	S D74を切る。	
S K46	(P, 25)	円形	長軸：1.2m 短軸：0.7m 深さ：15cm	—		

SK47	(P, Q, 25)	楕円形	長軸 : 2.4m 短軸 : 0.7m 深さ : 13cm	—	
SK48	(Q, 25)	楕円形	長軸 : 1.3m 短軸 : 0.7m 深さ : 14cm	—	
SK49	(P, Q, 25)	圓丸方形	長軸 : 5.4m 短軸 : 1.6m 深さ : 1cm	—	
SK50	(M, 21)	円形	長軸 : 0.7m 短軸 : 0.6m 深さ : 4cm	—	
SK51	(L, 22)	円形	長軸 : 0.9m 短軸 : 0.8m 深さ : 9cm	—	S D85を切る。
SK52	(M, 22)	圓丸方形	長軸 : 1.6m 短軸 : 1.4m 深さ : 6cm	須應器	
SK53	(L, 22)	楕円形	長軸 : 1.5m 短軸 : 0.7m 深さ : 36cm	—	S D86に切られる。
SK54	(K, 23)	圓丸方形	長軸 : 1.3m 短軸 : 0.7m 深さ : 10cm	—	
SK55	(K, 24)	楕円形	長軸 : 0.7m 短軸 : 0.4m 深さ : 22cm	—	
SK56	(J, 23)	圓丸方形	長軸 : 1.5m 短軸 : 1.5m 深さ : 45cm	—	S D94を切る。
SK57	(M, N, 22)	圓丸方形	長軸 : 4.6m 短軸 : 3.1m 深さ : 8cm	—	S D95に切られる。
SK58	(K, 24)	円形	長軸 : 0.8m 短軸 : 0.7m 深さ : 37cm	須應	S K59を切る。
SK59	(K, 24)	円形	長軸 : 0.8m 短軸 : 0.6m 深さ : 43cm	—	
SK60	(J, K, 24)	圓丸方形	長軸 : 1.8m 短軸 : 0.9m 深さ : 45cm	—	
SK61	(L, 23~24)	方形容	長軸 : 3.7m 短軸 : 3.2m 深さ : 40cm	—	
SK62	(I, 22)	椭円形	長軸 : 2.8m 短軸 : 0.7m 深さ : 30cm	—	S D87を切る。
SK63	(U, 11~12)	圓丸方形	長軸 : 1.4m 短軸 : 0.8m 深さ : 30cm	—	S D124を切る。
SK64	(T, U, 12)	方形容	長軸 : 1.0m 短軸 : 1.0m 深さ : 15cm	—	
SK65	(U, 12)	円形	長軸 : 0.8m 短軸 : 0.4m 深さ : 1cm	—	S D124を切る。
SK66	(T, 12)	方形容	長軸 : 1.2m 短軸 : 0.7m 深さ : 17cm	歯製品	S D125を切る。
SK67	(T, 12)	方形容	長軸 : 1.8m 短軸 : 1.2m 深さ : 17cm	—	S D126を切る。
SK68	(T, 12)	方形容	長軸 : 2.0m 短軸 : 0.9m 深さ : 16cm	—	
SK69	(T, 12)	圓丸方形	長軸 : 0.8m 短軸 : 0.4m 深さ : 13cm	—	
SK70	(S, 12)	楕円形	長軸 : 1.2m 短軸 : 0.4m 深さ : 14cm	—	
SK71	—	楕円形	長軸 : -m 短軸 : -m 深さ : 27cm	—	丁寧で抜取。
SK72	(K, 5)	圓丸方形	長軸 : 1.4m 短軸 : 0.6m 深さ : 36cm	—	
SK73	(Q, R, 5)	楕円形	長軸 : 0.4m 短軸 : 0.4m 深さ : 11cm	—	
SK74	(R, 6)	椭円形	長軸 : 3.0m 短軸 : 0.6m 深さ : 30cm	—	S D134を切り、S K75に切られる。
SK75	(R, 6)	椭円形	長軸 : 1.7m 短軸 : 0.5m 深さ : 40cm	—	S K75を切る。
SK76	(S, 6)	椭円形	長軸 : 1.4m 短軸 : 0.7m 深さ : 60cm	—	
SK77	(S, 6)	円形	長軸 : 0.9m 短軸 : 0.7m 深さ : 46cm	—	
SK78	(S, 6)	方形容	長軸 : 1.2m 短軸 : 0.8m 深さ : 7cm	—	
SK79	(S, 7)	椭円形	長軸 : 3.8cm 短軸 : 0.6m 深さ : 37cm	—	
SK80	(S, 7)	圓丸方形	長軸 : 0.7m 短軸 : 0.4m 深さ : 13cm	—	
SK81	(R, 8)	椭円形	長軸 : 1.4m 短軸 : 0.7m 深さ : 25cm	—	S D132を切り、S D13~137に切られる。
SK82	(R, S, 8)	椭円形	長軸 : 1.2m 短軸 : 0.8m 深さ : 32cm	—	S D132に切られる。

満状況機

満状況名	グリッド	方向	概要	出土遺物	歴史	因縁
SD1	(N+Q, 6~7)	南西~北東	長さ: 6m以上 幅: 0.4m 深さ: 9cm	土師器、須應器	S D1を切り、東端・南端は調査区外に延びる。	
SD2	(P, S~6)	南北	長さ: 9.7m以上 幅: 0.5m 深さ: 8cm	土荷質土器	S D1を切り、北端・南端は調査区外へ延びる。	
SD3	(P, 4~5)	南北	長さ: 10.7m以下 幅: 0.6m 深さ: 24cm	陶器、須應器、須應	S D5~7を切り、北端・南端は調査区外に延びる。	
SD4	(P, 5)	南西~北東	長さ: 2.0m以上 幅: 0.5m 深さ: 13cm	須應器	S D6を切り、北端は調査区外に延びる。	
SD5	(N+R, 4~7)	南東~北西	長さ: 47.4m以上 幅: 0.6m 深さ: 26cm	須應器	S D1~4・8に切られる。南側は調査区外に延びる。	
SD6	(P, 5)	南北	長さ: 2.0m 幅: 0.4m 深さ: 3cm	—		
SD7	(P, 5)	南西~北東	長さ: 8m以上 幅: 0.3m 深さ: 8cm	—	S D5に切られる。	
SD8	(Q+R, 3~4)	南北	長さ: 7.6m以下 幅: 1.1m 深さ: 24cm	須應器、土荷質土器、陶器	S D5に切られる。北側はS D139~141と北側の須應器に、南側は調査区外に延びる。	
SD9	(R, 3~4)	南北	長さ: 8.0m以上 幅: 1.5m 深さ: 18cm	土荷器、須應器		
SD10	(Q, 4)	北北東~南南西	長さ: 2.8m 幅: 0.7m 深さ: 29cm	須應		

S D11	(K・L, O~R, 9~16, 17~26)	南内~北東	長さ173.8m 深さ40~56m	高文上層 土質層、漂砾 層、砂層、粘土層、石塊 层、石礫層、砂製品、土質 質土層、千枚屋、木製品 層、化石層	S D67~61・66・71・73・89・107、S K24~26を切り、S K21に切られる。 S D57と共にする。南側は区 S D26 等に並び、北側は調査区外に並び。	画面二〇
S D12	(J, 11)	東西	長さ9.0m以上 幅0.6m 深さ6cm	—	東端、西端は調査区外に並びる。	
S D13	(K, 3~4)	南北	長さ8.0m以上 幅1.2m 深さ27cm	—	北端、南端は調査区外に並びる。	
S D14	(S・T, 7)	東西	長さ9.3m以上 幅0.4m 深さ4cm	上部部	東端、西端は調査区外に並びる。	
S D15	(S, 7~8)	北北東~西南西	長さ7.4m以上 幅0.7m 深さ7cm	—	S D29・27・S K5を切る。北端、南端 は調査区外に並びる。	
S D16	(K・S, 8)	西南~北東(断石)	長さ7.9m以上 幅1.1m 深さ6cm	漂洪	S D17を切り、S K5に並ぶ。東 端、西端は調査区外に並びる。	
S D17	(K, 8~9)	北北東~西南西	長さ7.0m以上 幅0.9m 深さ11cm	漂砾層	S D16・18Cを切らる。北端、南端は 調査区外に並びる。	
S D18	(B, 8~9)	北北東~西南西	長さ7.9m以上 幅0.6m 深さ25cm	土質部	S D17を切る。北端、南端は調査区外 に並ぶ。	
S D19	(B, 8~9)	北北東~西南西	長さ7.9m以上 幅0.6m 深さ19cm	—	北端、南端は調査区外に並ぶ。	
S D20	(I', 9~10)	南北	長さ8.6m以上 幅1.0m 深さ27cm	漂砾層、陶器、磁器	S D21・23を切り。北端、南端は調査 区外に並びる。	
S D21	(P, 10~11)	南北	長さ9.4m以上 幅0.7m 深さ10cm	陶器	S D20を切り、S D24・26Cが切られ る。東端、西端は調査区外に並び。	
S D22	(P・Q, 10~11)	南東~北西	大きさ12.8m以上 幅0.6m 深さ5cm	陶器	S D20・38を切り、S D20・23・28・ 32Cが切られる。東端、内側は調査区外 に並ぶ。	
S D23	(N~P, 10)	東西	長さ23.1m以上 幅0.9m 深さ10cm	—	S D20・38を切り、S D20・22・32・ 33Cが切られる。	
S D24	(P, 11)	北北東~西南西	長さ2.0m以上 幅0.4m 深さ11cm	—	S D21を切る。北端は調査区外に並び る。	
S D25	(S, 6)	南北	長さ5.0m 幅0.3m 深さ3cm	上部部	—	
S D26	(S, R, 2~8)	南東~北西	長さ10.6m 幅0.5m	—	S K8・S D15に切られる。	
S D27	(S・T, 7)	東南東~西北西	長さ10.3m以上 幅0.3m 深さ16cm	—	S D15・S K8に切られる。	
S D28	(O・P, 11)	北北東~西南西	長さ3.5m以上 幅0.5m 深さ16cm	—	S D21・22・33Cが切られる。北端は調 査区外に並び。	
S D29	(M・N, 9)	東南東~西北内	長さ6.9m以上 幅0.5m 深さ12cm	陶器	S D16に切れる。東端、西端は調査 区外に並び。	
S D30	(M・N, 9~10)	東南東~西北西	長さ7.1m以上 幅0.4m 深さ10cm	—	S D20を切る。東端、西端は調査区外 に並ぶ。	
S D31	(M・N, 10)	東南東~西北西	長さ6.4m以上 幅0.4m 深さ10cm	—	S D16に切られる。内側は調査区外に 並び。	
S D32	(N, 10~11)	北北東~西南西	長さ13.2m以上 幅0.6m 深さ29cm	陶器、磁器、木製品 層	S D20・34Eが切る。北端、南端は調査 区外に並び。	
S D33	(N・O, 10~11)	北北東~西南西	長さ17.6m以上 幅0.6m 深さ7cm	陶器、木製品 層	S D21・35Cが切る。北端、南端は調査 区外に並び。	
S D34	(N, 10)	東南東~西北西	長さ2.2m以上 幅0.4m 深さ4cm	—	S D20に切られる。	
S D35	(O・P, 11)	南東~北西	長さ1.1m以上 幅0.3m 深さ1~5cm	—	S D20・30・33Cが切られる。東端は調 査区外に並び。	
S D36	(P, 10~11)	南北	長さ6.0m以上 幅0.2m 深さ10cm	—	S D21・32Cが切られる。南端は調査区 外に並び。	
S D37	(Q, 9~10)	南南東~西北西	長さ8.5m以上 幅0.2m	—	S K7に切られる。北端、南端は調査 区外に並び。	
S D38	(I', 10~11)	南北	長さ9.0m以上 幅0.3m 深さ4cm	—	S D21~24Cが切られる。北端、南端は調 査区外に並び。	
S D39	(O・P, 11)	東南東~西北内	長さ27.3m以上 幅0.8m 深さ22cm	—	S D4を切る。東端、西端は調査区外 に並び。	
S D40	(O・P, 11~12)	南東~北西	長さ4.8m以上 幅0.6m 深さ8cm	—	S D4を切る。東端は調査区外に並び。	
S D41	(O~H, 11~13)	南西~東北	長さ32.8m以上 幅0.5m 深さ70cm	—	S D45を切り、S D29・39に切られる。 東端、西端は調査区外に並び。	
S D42	(O~R, 12~13)	南西~北東	長さ2.9m以上 幅0.5m 深さ61cm	高文、土崎部、珠洲、陶器、海螺 層	S D14に切れる。東端、西端は調査 区外に並び。	
S D43	(P~K, 12~13)	南西~北東	長さ35.1m 幅0.5m 深さ10cm	下部土質層、高文	S D40・48を切る。	
S D44	(P~K, 12~13)	南西~東北	長さ33.4m 幅0.5m 深さ10cm	下部土質層、陶器、磁器	S D40・48、S K5を切る。	
S D45	(P~S, 12~15)	南西~東北	長さ33.4m 幅0.5m 深さ10cm	—	S D44・45Cが切られる。北端、南端は 調査区外に並び。2方向の溝は別の 塊のものと思われる。	
S D46	(Q, 12~13)	東西、南北	長さ17.8m 幅0.6m 深さ17cm	—	—	
S D47	(Q, 13)	西内~北東	長さ4.1m 幅0.5m 深さ10cm	—	S D46の南北方向の溝に合流する。	
S D48	(Q~R, 13~15)	北北東~南南西	長さ49.6m以上 幅3.2m 深さ141cm	土崎部、珠洲部、床層、陶器、 磁器、木製品、動物骨 体	S D44・45Cが切られる。南側例、北側 は倒伏骨に並び。	画面二一
S D49	(M, 13)	南内~北東	長さ2.2m 幅0.5m	—	北端は調査区外に並ぶ。	
S D50	(M, 13)	南西~北東	長さ6.9m以上 幅0.6m	—	北端、南端は調査区外に並ぶ。	
S D51	(S・T, 16)	東南東~西北西	大きさ6.3m以上 幅1.0m 深さ526cm	漂砾層、陶器、磁器、石製品 層、木製品	S K16を切り、S K12・13Cが切られ る。東端、内側は調査区外に並び。	画面二二
S D52	(S, 17)	南東~北東	長さ3.0m 幅0.4m 深さ314cm	—	S K30に切られる。	
S D53	(Q~R, 18)	東南東~西北内	長さ7.0m 幅1.5m 深さ30cm	—	西側は調査区外に並ぶ。	
S D54	(M・N, 9)	東南東~西北西	長さ2.2m 幅0.3m 深さ4cm	—	S D20を切る。S D55と同一の塊か。	
S D55	(M, 9)	東南東~西北西	長さ2.2m以上 幅0.3m 深さ56cm	—	S D50と同一の塊か。内側は調査区外 に並ぶ。	
S D56	(M, 9)	東南東~西北内	長さ3.2m以上 幅0.2m 深さ8cm	—	西側は調査区外に並ぶ。	

S D57	(O・P. 18~26)	西北	長さ78.9m以上、幅1.6m、深さ17cm 鉄文土器、I・II類、陶器 器、朱漆器、骨器、鐵器、金 器、玉類質土器、木製品、 陶製品	鉄文土器、I・II類、陶器 器、朱漆器、骨器、鐵器、金 器、玉類質土器、木製品、 陶製品	S D11に切られる。北側は調査区外に 延びる。西側は1区S D20ないしS D 21に延びる。
S D58	(O・P. 18~26)	東西南~西北西	長さ9.9m以上、幅0.9m、深さ19cm 陶器	陶器	S D11に切られる。西側は調査区外に 延びる。
S D59	(O・P. 18~26)	東西(航行)	長さ9.9m 幅0.4m 深さ5cm	—	S D11・3区23に切られる。
S D60	(P. 19~20)	南北~北東	長さ8.7m 幅0.8m 深さ12cm	—	S D11に切られる。
S D61	(L~V. 20~24)	南西~北東	長さ102.4m以上、幅0.9m 深さ22cm	陶文土器	S D64・70・SK41を切り、S D7. 71~76に切られる。西側は1区S D 21に延びる。北側は調査区外に延びる。
S D62	(R~T. 21~22)	南西~北東	長さ20.6m以上、幅0.4m 深さ5cm	—	東側は調査区外に延びる。
S D63	(U. 23)	南北	長さ1.2m 幅0.3m 深さ13cm	—	—
S D64	(N. 19~22)	南西~北東	長さ33.2m 幅0.4m 深さ6cm 土塁跡、鐵器群	—	S D65・66・71~72を切り、S D61・ 67~68・69・70~74に切られる。
S D65	(N. 19)	南北~北西	長さ2.7m 幅0.3m	—	S D64に切られる。
S D66	(N・O. 19)	東内(航行)	長さ4.4m 幅0.4m	—	S D57・64に切られる。東側はS D11 に延びる。
S D67	(N・O. 19)	北北東~南南西	長さ4.4m 幅0.4m	—	S D57~64に切られる。
S D68	(M~O. 20)	北北東~南南西	長さ14.4m 幅0.2m 深さ6cm	—	S D57~65に切られる。西側の一帯が 船形方位盤に延びる。
S D69	(N・O. 20)	北北東~南南西	長さ6.3m 幅0.2m 深さ6cm	—	S D64に切られる。
S D70	(M・N. 20~21)	北北東~南南西	長さ20.6m 幅0.2m 深さ6cm	—	S D61・64を切り、S D66に切られ る。
S D71	(N・O. 20)	北北東~南南西	長さ8.7m 幅0.4m	—	S D57~64に切られる。
S D72	(N. 21)	北北東~南南西	長さ5.1m 幅0.4m	—	S D164に切られる。
S D73	(O. 21)	南西~北東	長さ1.9m 幅0.4m	—	S D57・SK40に切られる。
S D74	(L~M. 21~22)	南西~北東	長さ18.4m 幅1.1m 深さ9cm	日焼	S D91を切り、S D79~SK40に切ら れる。南側は1区S D28Eに延び、北側 はS D31に延びる。
S D75	(L~M. 21~22)	南西~北東	長さ18.6m以上、幅1.0m 深さ41cm	—	S D91・SK42を切り。南側は1区S D28Eに延びる。
S D76	(N. 21~22)	南東~北西	長さ3.4m 幅0.2m 深さ3cm	—	S D64~72を切り。
S D77	(M~N. 21~22)	南内~北東	長さ14.8m 幅0.2m 深さ6cm	—	S D61を切り、S D76~SK43に切ら れる。
S D78	(M. 21)	南西~北東	長さ8.0m 幅0.2m 深さ4cm	—	S D61に切られる。
S D79	(L~M. 21)	南東~北西	長さ5.1m 幅0.3m 深さ7cm	—	S D74に切られる。
S D80	(N. 21)	南西~北東	長さ1.1m 幅0.2m 深さ4cm	—	—
S D81	(L~M. 22)	南西~北東	長さ10.1m 幅0.9m 深さ32cm	—	S D74~76に切られる。北側はS D99 と同様。
S D82	(P. 24~26)	南東~北西	長さ12.2m 幅0.7m 深さ6cm	—	S D83を切り。
S D83	(P. 25~26)	南西~北東	長さ7.6m以上、幅0.7m 深さ6cm	—	S D82を切り。北側は調査区外に延び る。
S D84	(P・Q. 23)	南西~北東	長さ2.6m以上、幅0.7m 深さ6cm	—	北側は調査区外に延びる。
S D85	(L. 21~22)	南西~北東	長さ4.6m 幅0.2m 深さ2cm	—	S D57に切られる。
S D86	(I. 22)	南西~北東	長さ5.7m以上、幅0.4m 深さ15cm	—	S D91を切り、S D87に切られる。南 側は1区S D26Eに延び、北側はS D87 に延びる。
S D87	(I. 22)	南内~北東	長さ6.7m以上、幅0.5m 深さ9cm	鉄器、陶器、漆器	S D96~SK42を切り。南側は1区調 査区に延びる。北側はS D88に延 びる。
S D88	(L. 22)	南西~北東	長さ12.6m 幅0.8m 深さ7cm	—	S D89~90・SK43を切り。南側はS D87に延びる。
S D89	(L. 22)	南内~北東	長さ12.7m 幅0.7m 深さ6cm	—	S D90を切り、S D88に切られる。
S D90	(L. 22~23)	南東~北西	長さ12.6m 幅0.3m 深さ34cm	—	S D96~96・97を切り、S D88~89に 切られる。
S D91	(K~L. 22)	南東~北西	長さ2.2m 幅0.3m	—	S D96に切られる。
S D92	(K. 22)	南東~北西	長さ5.1m 幅0.2m 深さ5cm	—	S D96に切られる。東側はS D91に延 びる。
S D93	(L. 22)	南北(航行)	長さ2.1m 幅0.2m 深さ25cm	—	—
S D94	(J~L. 22~23)	南東~北西	長さ16.6m 幅0.6m 深さ7cm	—	S D100~105・S D96に切られる。

S D95	(L, 23)	南西～北東	長さ1.0m 幅0.2m	—	S D96に切られる。	
S D96	(L, 23)	南西～北東	長さ1.1m 幅0.2m	—	S D96に切られる。	
S D97	(L, 23)	南西～北東	長さ1.2m 幅0.2m	—	S D96に切られる。	
S D98	(N・P, 23・24)	南東～北東 北東～南東	長さ25.7m 幅1.5m 高さ1.17m	—	S D97に切られる。北東方向に調査範囲(1)。	
S D99	(N・P, 23・24)	南西～北東	長さ29.9m 幅0.2m 深さ4cm	—	S D97に切られる。	
S D100	(J・K, 23)	南東～北西	長さ7.8m 幅0.7m 深さ7cm	古墳	S D98を切り、S D102・105に切られる。	
S D101	(K, 22)	南東～北西	長さ3.1m 幅0.2m 深さ5cm	—	S D96に切られる。	
S D102	(K, 22・23)	南東～北西	長さ8.1m 幅0.2m 深さ6cm	—	S D100・103を切る。	
S D103	(K, 22・23)	南東～北東	長さ3.8m 幅0.2m 深さ9cm	—	S D103に切られる。	
S D104	(K, 22・23)	南西～北東	長さ2.6m 幅0.2m 高さ3cm	—	南側は1区 S D98に接ぐ。	
S D105	(K, 22・23)	南西～北東	長さ9.6m 幅0.2m 深さ5cm	—	S D94・100を切る。南側は1区 S D26に接ぐ。	
S D106	(J・Z, 23・24)	南東～北西	長さ15.3m 幅0.2m 深さ4cm	—	S D109に切られる。	
S D107	(L～O, 24・27)	南東～北西	長さ58.6m 幅2.6m 深さ9cm	調査12号・塙地帯・機械 塙地帯・植物・干草・小湊 路・新規局	S D107・112・115に切り、S D107に切 られる。またはD 077・117に接し内では D 105に合流。自然消滅へ接ぐ。	調査三二
S D108	(K, 24)	南西～北東	長さ3.2m 幅0.2m 深さ4cm	—	S D07を切る。	
S D109	(L～O, 24・27)	南西～北東	長さ32.4m 幅0.8m 深さ6cm	砂岩	S D107に切れる。	
S D111	(L～O, 24・27)	南東～北西	長さ46.6m 幅1.0m 深さ6cm	調査帶・塙地・機械・植 物・木製品	S D110を切り、S D117・118に切られ る。またはS D57・111に接しS D110に 合流。	調査三一
S D112	(N・O, 24・25)	南西～北東	長さ41.2m 幅1.0m 深さ5cm	—	S D113を切り、S D107・111に切られ る。	
S D113	(N・O, 24)	南西～北東 北東～南東	長さ6.9m 幅0.6m 深さ14cm	透水層	S D112・114に切られる。	
S D114	(N, 24・25)	南東～北東	長10.0m 幅0.3m 深さ10cm	—	S D113を切る。	
S D115	(L～O, 24・27)	南西～北東	長さ36.9m以上 幅0.2m 深さ2cm	—	S D107に切られる。北側は調査区外に 接げる。	
S D116	(L・M, 24・27)	南西～北東	長さ17.9m 幅0.2m 深さ12cm	調査	—	
S D117	(L～N, 24・27)	南東～北東	長さ36.7m以上 幅0.2m 深さ10cm	—	S D107・114を切る。北側は調査区外 に接げる。	
S D118	(L・M, 25・26)	南西～北東	長さ25.7m 幅0.1m 深さ4cm	—	S D112を切る。	
S D119	(J, 23・24)	南西～北東	長さ3.5m 幅0.2m 深さ6cm	—	—	
S D120	(J, 23)	南東～北西	長さ4.7m 幅0.2m 深さ6cm	—	—	
S D121	(N, 26・27)	南東～北東	長さ10.7m以上 幅0.2m 深さ1cm	—	S D116と並行する。	
S D122	(N・O, 26・27)	南西～北東	長さ11.8m 幅0.3m 深さ5cm	—	北側は調査区外に延びる。	
S D123	(P, 4)	南北	長さ1.8m以上 幅0.6m 深さ6cm	—	南側は調査区外に延びる。	
S D124	(U, 11・12)	北東～南西	長さ4.8m以上 幅0.8m 深さ20cm	—	S D106・107に切られる。北側・南側は 調査区外に延びる。	
S D125	(T・U, 12)	北東～南西	長さ4.5m以上 幅0.6m 深さ6cm	—	—	
S D126	(T, 12)	南東～北東	長さ1.6m以上 幅0.6m 深さ12cm	—	—	
S D127	(S・T, 12)	南東～北東	長さ5.0m以上 幅0.6m 深さ4cm	—	北側・南側は調査区外に延びる。	
S D128	(S・T, 12)	北東～南西	長さ4.7m以上 幅0.7m 深さ9cm	—	北側・南側は調査区外に延びる。	
S D129	(下欄)	—	長さ~4m 幅4.3m 深さ42cm	—	下層で鉄山。	
S D130	(R, 4・5)	南北	長さ8.7m以上 幅0.8m 深さ18cm	—	S K10を切り、S D131・132に切られ る。北側・南側は調査区外に延びる。 S D131を切り、S D132に接する。	
S D131	(R, 4・5)	南北	長さ7.1m以上 幅1.1m 深さ26cm	—	—	
S D132	(R, 5・6)	南北	長さ7.7m以上 幅1.1m 深さ11cm	—	S D130・S D131に接される。北側・南 側は調査区外に延びる。	
S D133	(R, 5・6)	南北	長さ4.7m以上 幅1.0m 深さ12cm	—	S D132を切り。南側は調査区外に 延びる。	
S D134	(R, 5・6)	西北	長さ6.3m以上 幅0.4m 深さ0.2cm	—	S K14に切られる。南側は調査区外に 延びる。	
S D135	(S, 7)	南西～北東	長さ6.7m以上 幅0.4m 深さ0.2cm	—	—	
S D136	(S・T, 7)	南西～北東	長さ2.7m 幅0.6m 深さ33cm	—	—	
S D137	(Q・R, 5)	南東～北西	長さ4.8m以上 幅0.5m 深さ23cm	—	S D130・131を切り。S K10を切る。 北側・南側は調査区外に延びる。	
S D138	(S, 6)	南西～北東	長さ4.6m 幅0.5m 深さ7cm	—	S K12を切る。	
S D139	(M, 9・10)	—	長さ4.7m 幅0.3m 深さ8cm	—	—	

回収

遺物名	グランド	平面形	概観	出土遺物	参考	回収No.
S X93	(T, 46)	馬頭人形・不銹鈍円錐	長軸: 6.80m 短軸: 6.7m 高さ: 90cm	鍔面有磨耗・鋸歯状陶器・ 漆器・扇形鏡・漆器・木製品 (漆盒下部)ほか	S K12・13とS 135を切り。S K14に 切られる。近世のゴミ穴か。	調査三一

区画整理3区

鋼立柱建物

遺構名	グリッド	規模	構造・方位・平面形態	方向	限り合い	回復%
S-B01	(3+4, O)	航行2間(2.8m)×奥行2間(3.8m)以上	南北北、廻柱の建物。 廻柱2間(2.8m)以上で南北東西に張る。 木脚柱なしで半圓形	木脚柱	P112 S103を切る。 P3は柱頭の重合する。	回復三八 回復三八
S-B02	(3+4, O)	航行2間(2.9m)×奥行1間(1.8m)	南北北、廻柱の建物。 南北2間(2.9m)以上で東西に張る。 木脚柱なしで半圓形	—	S-D27とほぼ軸を被る。	回復三六
S-B03	(3+5, O)	航行1間(4.3m)×奥行1間(3.3m)	南北北、廻柱の建物。 南北2間(4.3m)以上で東西に張る。 木脚柱なしで半圓形	—	—	回復三四

土坑 捩乱を除く

遺構名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	備考	回復%
S-K1	(F~H, -1~6)	橢円形	長軸：1.5m 幅軸：0.9m 深さ：19cm	—	—	—
S-K2	(F, -1)	不整椭円形	長軸：1.0m 短軸：0.4m 深さ：20cm	—	—	—
S-K3	(G, -1)	橢円形	長軸：1.3m 短軸：0.5m 深さ：22cm	—	S-D3を切る。	—
S-K4	(G, 0)	橢円形	長軸：0.4m 短軸：0.3m 深さ：20cm	—	S-D5を切る。	—
S-K5	(N, 0, 4)	楕丸形	長軸：1.6m 短軸：1.2m 深さ：20cm	小銅器	—	—
S-K6	(O, 2)	不整椭円形	長軸：1.6m 短軸：1.7m 深さ：10~35cm	小銅、陶器	—	—
S-K7	(O, 2)	椭円形	長軸：1.0m 短軸：0.7m 深さ：31cm	小銅、陶器	—	—
S-K8	(O, 2)	楕丸形	長軸：1.1m 短軸：1.0m 深さ：13cm	小銅、陶器	—	—
S-K9	(O, 2)	橢円形	長軸：1.1m 短軸：1.1m 深さ：25cm	—	—	—
S-K10	(O, 3)	橢円形	長軸：0.8m 短軸：0.5m 深さ：15cm	—	—	—
S-K11	(O, P, 2)	橢円形	長軸：0.9m以上 短軸：0.8m 深さ： 8cm	—	東側は調査区外に延びる。	—
S-K12	(O, 2)	不整椭円形	長軸：0.9m 短軸：0.4m 深さ：10cm	—	—	—
S-K14	(O, 2)	楕円形	長軸：1.2m 短軸：0.4m以上	—	S-D3に切られる。	—
S-K15	(P, 2)	橢円形	長軸：0.6m 短軸：1m 深さ：5cm	—	S-D27に切られる。東側は調査区外に 延びる。	—
S-K16	(L, 15)	不整形	長軸：1.2m 短軸：1.1m 深さ：13cm	—	—	—
S-K17	(M, 15)	不整形	長軸：1.7m以上 短軸：0.6m 深さ：20cm	土器部	S-D49を切る。	—
S-K19	(O, 3)	不整椭円形	長軸：1.0m 逆軸：0.3m 深さ：8cm	—	—	—
S-K20	(B, D)	橢円形	長軸：0.5m 短軸：0.4m 深さ：5cm	—	—	—
S-K21	(B, 5)	橢円形	長軸：0.6m 短軸：0.6m 深さ：6cm	儀器部	—	—
S-K22	(C, 4)	不整椭円形	長軸：1.0m 短軸：0.6m 深さ：5cm	—	—	—
S-K23	(C, 4)	不整椭円形	長軸：2.2m 短軸：1.3m 深さ：5cm	—	—	—
S-K24	(C, 4)	橢円形	長軸：1.2m 逆軸：1.1m 深さ：36cm	—	—	—
S-K25	(K, 12)	楕円形	長軸：0.9m 短軸：0.4m以上 深さ：16cm	—	北側は調査区外に延びる。	—
S-K26	(L~M, 11)	橢円形	長軸：1.1m 短軸：1.1m 深さ：33cm	—	—	—
S-K27	(L, 11)	不整椭円形	以軸：2.5m以上 逆軸：1.8m 深さ：26cm	七脚器	先端は調査区外に延びる。	—
S-K28	(L, 11)	不整椭円形	長軸：2.5m以上 逆軸：1.8m 深さ：22cm	—	先端は調査区外に延びる。	—
S-K29	(L, 11)	不整椭円形	長軸：1.8m以上 逆軸：1.3m 深さ：24cm	—	北側は調査区外に延びる。	—

溝状構築 捩乱を除く

遺構名	グリッド	方向	規模	出土遺物	備考	回復%
S-D1	(P~H, -1~6)	南西～北東	長さ：26.3m以上 幅：1m 深さ：26cm	土器、磁器	—	—
S-D2	(H, -2~4)	南西～北東	長さ：8.7m 幅：0.4m 深さ：17cm	—	—	—
S-D3	(G, -1)	南東～北西	長さ：2.4m 幅：0.5m 深さ：5cm	—	—	—
S-D4	(F, G, 0)	南北	長さ：8.1m以上 幅：0.65m 深さ： 10cm	—	S-D1・4に切られる。北側は調査区外 に延びる。	—
S-D5	(G, 0)	南東～北西	長さ：8.1m以上 幅：0.65m 深さ： 10cm	—	S-D1・4に切られる。北側は調査区外 に延びる。	回復四〇
S-D6	(G, -1~0)	南東～北西	長さ：7.2m以上 幅：1.4m 深さ：40cm	土器部	S-D4に切られる。南側、東側は調査区 外に延びる。	回復四〇
S-D7	(G, -1~0)	南東～北西	長さ：10.4m以上 幅：0.8m 深さ： 10cm	—	S-D1・4に切られる。北側は調査区外 に延びる。	回復四〇
S-D8	(H, -2~0)	東西	長さ：17.0m以上 幅：0.4m 深さ：9cm	土器部、磁器部	S-D16・17に切られる。東側は調査区 外に延びる。	—
S-D9	(H, -1~1)	東西	長さ：6.5m以上 幅：0.3~2.0m	—	東側は調査区外に延びる。	—
S-D10	(H, -2~1)	南東～北西	長さ：15.6m以上 幅：0.5m 深さ：10cm	土器、磁器	S-D12を切る。南側は調査区外に延び る。	—

SD11	(F, 0)	南北~北東	長さ：1.6m 幅：0.3m 深さ：5cm	—		
SD12	(H, 1)	南北~北東	長さ：4.7m 幅：0.4m 深さ：4cm	—	SD11・16に切られる。	
SD14	(G) (全量)	東西 (鉛鉄)	長さ：約210mm幅：幅：2.5~3.0m 高さ：1.5m以上 幅：0.6m 深さ：—cm	鉛鉄、歩道・公園、野鳥 （野鳥、草花器、「製品（土 石製品）重量」28kg	SD4に切られる。北側は調査区内に延びる。	調査区九
SD15	(H+1, 0)	南北	長さ：2.8m 幅：0.4m 深さ：—cm	—	—	
SD16	(H+1, 0)	南北	長さ：2.7m以上 幅：0.6m 深さ：—cm	—	SD4に切られる。北側は調査区内に延びる。	
SD17	(H+1, 0)	南北	長さ：2.7m以上 幅：0.5m 深さ：15cm	—	SD16と切り、SD4に切られる。南 側、北側は調査区外に延びる。	
SD18	(I, 0~1)	北西~南東	長さ：40m以上 幅：2.9m	動器	—	調査区〇
SD19	(I, 1)	北西~南東	長さ：42m以上 幅：0.7m	—	—	調査区〇
SD20	(J, 1)	北西~南北	長さ：6.5m以上 幅：0.7m	—	—	
SD21	(J) (全量)	東西 (焼付)	長さ：約210mm幅：幅：1.6m	土瓶器、瓦器、墨書き	—	調査区九
SD22	(M, 5~6)	南北~北東	長さ：12.2m 幅：0.4m 深さ：3cm	—	—	
SD23	(M+N, 4~6)	南北~北東	長さ：21.7m±2.6 幅：幅：0.3m 深さ：5cm	—	—	
SD24	(O, 3~4)	南北~北東	長さ：6.2m以上 幅：幅：0.4~0.7m 深さ：12cm	—	SD3を切る。南側・北側は調査区内に延びる。	
SD25	(O, 3~4)	南北~北東	長さ：8.5m以上 幅：0.4m 深さ：25cm	—	SD3と切り。南側・北側は調査 区内に延びる。	
SD27	(P, 2)	南北~北東	長さ：1.5m以上 幅：0.4m 深さ：20cm	—	SK16を切り。南側は調査区外に延びる。	
SD28	(L, 7)	東西	長さ：6.9m以上 幅：2.9m 深さ：3cm	—	東側・内側は南側区外に延びる。	
SD29	(N, 4)	—	長さ：1.3m以上 幅：0.7m以上	—	西側は調査区外に延びる。	
SD30	(O, 3)	南北~北東	長さ：1.9m以上 幅：0.4m 深さ：5cm	—	東側は調査区外に延びる。	
SD31	(O, 3)	南北~北東	長さ：3.4m以上 幅：0.4m 深さ：5cm	—	東側は調査区外に延びる。	
SD32	(O, 3)	南北	長さ：3.0m以上 幅：0.4m 深さ：6cm	—	南側は調査区外に延びる。	
SD33a	(N, O, 5)	南北~北東	長さ：5.0m以上 幅：1.1~2.3m 深さ：10cm	土瓶器、陶器、陶器、罐 （土瓶器、陶器、罐）	SD3と合流し、南側・北側は調査 区外に延びる。	
SD33b	(N, O, 5)	南北~北東	長さ：4.8m以上 幅：0.6m 深さ：10cm	土瓶器、瓦器、陶器、罐	南側・北側は調査区外に延びる。	
SD33c	(N, 5)	南北~北東	長さ：4.0m以上 幅：0.4m 深さ：14cm	—	SD23と合流し、南側・北側は調査 区外に延びる。	
SD34	(K, 5)	南北~北東	長さ：3.0m以上 幅：0.4~0.7m 深さ：20cm	土瓶器、陶器、陶器、罐	SD23と合流し、南側・北側は調査 区外に延びる。	
SD36	(N, S, 6)	東西	長さ：9.0m以上 幅：0.4m 深さ：6~10cm	土瓶器	—	
SD38	(O, 3)	南北	長さ：2.4m 幅：0.5m 深さ：10cm	—	SK16を切り。	
SD39	(N, 5)	南北~北東	長さ：2.8m以上 幅：0.4m 深さ：10cm	—	SD34から分離する。北側は調査区外に延びる。	
SD40	(O, 2)	南北	長さ：2.6m以上 幅：0.3m 深さ：2cm	—	南側は調査区外に延びる。	
SD41	(K, 13)	南北~北東	長さ：6.0m以上 幅：0.5m 深さ：10cm	—	南側・北側は調査区外に延びる。	
SD42	(L, 1)	東西	長さ：8.4m以上 幅：0.7m	陶器、罐器	東側・内側は南側区外に延びる。	
SD43	(L-M, 13)	南北	長さ：6.2m以上 幅：0.6m 深さ：17cm	陶器、陶器、罐器	SD16を切り。南側・北側は調査区外に延びる。	
SD44	(M-N, 15)	南北~北東	長さ：11.5m以上 幅：1.0m以上 深さ：10~25cm	土瓶器、陶器、罐器、陶器	北側は調査区外に延びる。南側はSD14 を分離する。	
SD45	(M-N, 16)	南北~北東	長さ：9.7m以上 幅：0.9m 深さ：25cm	—	南側は調査区外に延びる。	
SD46	(M, 14~15)	南北~北東	長さ：5.7m 幅：0.5m 深さ：29cm	土瓶器、陶器、罐器	SD45を切り。	
SD48	(L, 15)	南北	長さ：2.6m以上 幅：0.4m 深さ：6cm	—	南側は調査区外に延びる。	
SD49	(M, 15~16)	東西	長さ：2.4m以上 幅：0.3m 深さ：12cm	—	SK16に切られ。SD45を分離す。	
SD50	(L-M, 13)	南北	長さ：1.5~25cm	土瓶器、陶器、罐器	南側は調査区外に延びる。	
SD51	(C, 4)	南北~北西	長さ：3.6m以上 幅：0.7m 深さ：20~25cm	陶器、罐器	—	
SD52	(C-D, 3)	南北~北東	長さ：6.0m以上 幅：0.2m 深さ：8cm	—	—	
SD53	(J, 13)	南北~北西	長さ：7cm	—	南側は調査区外に延びる。	
SD54	(M, 16)	南北	長さ：2.6m以上 幅：0.6m 深さ：16cm	—	SD45を切り。南側は調査区外に延びる。	

西木津遺跡 区画整理区

査定名						
査定名	グリッド	規模	出土遺物	出土遺物	切り合い	回収%
S A81 (A L, 17)	2m以上(3.0m)	南北方向。東西北に対して2~3度傾いてる。 不整地内ないし不整形	—	—	—	回収率2
土坑						
査定名	グリッド	平面形	規模	出土遺物	参考	回収%
S K18 (AM, 16)	不整地内	長軸：1.7m、短軸：0.6m、深さ：10cm	土師器	—	—	—
S K30 (A L, 17)	不整地内	長軸：0.8m、短軸：0.7m、深さ：30cm	—	S A1柱穴、S P6を切る。	—	—
S K31 (A L, 17)	不整形	長軸：1.4m、短軸：1.0m、深さ：40cm	土師器	—	—	回収率2
S K32 (A L, 17)	不整地内	長軸：1.1m、短軸：0.6m、深さ：25cm	—	—	—	—
S K33 (A L, 17)	不整地内	長軸：1.2m、短軸：1.0m以上 深さ：6cm	—	S A1柱穴。本標は調査区外に並び。 S 5	—	回収率2
S K35 (A L, 17)	椭円形	長軸：1.0m、短軸：0.6m、深さ：25cm	—	—	—	—
S K36 (A L, 17)	椭円形	長軸：0.6m、短軸：0.6m、深さ：40cm	土師器	S A1柱穴。	—	—
S K37 (A L, 17)	不整地内	長軸：0.7m、短軸：0.6m、深さ：15cm	—	—	—	—
S K38 (A L, 17)	不整地内	長軸：1.4m、短軸：0.9m、深さ：10cm	土師器	—	—	—
S K39 (A L, 17)	不整地内	長軸：3.8m、短軸：2.4m	青磁塊、土師器	—	—	回収率2
S K40 (A J, 12)	不整地内	長軸：1.1m、短軸：0.9m、深さ：30cm	土師器、陶器器	S K33を切る。	—	—
S K41 (A J, 12)	椭円形	長軸：0.6m、短軸：0.4m、深さ：10cm	—	—	—	—
S K42 (A J, 12)	不整形	長軸：1.1m以上、短軸：0.7m 深さ：15cm	—	東側は調査区外に並びる。	—	—
S K43 (A J, 12)	不整形	長軸：0.8m、短軸：0.6m、深さ：15cm	—	S K40を切る。	—	—
S K44 (A J, 12)	不整形	長軸：1.2m、短軸：0.6m、深さ：20cm	—	S K45を切る。	—	—
S K45 (A J, 12)	小型円形	長軸：0.6m、短軸：0.55m、深さ：35cm	土師器、須恵器	S K44に並られる。	—	—
S K46 (A J, 12)	椭円形	長軸：0.9m、短軸：0.75m、深さ：28cm	—	—	—	—
S K47 (A J, 12)	不整形	長軸：0.65m、短軸：0.4m、深さ：15cm	—	素例は調査区外に並びる。	—	—
S K48 (A J, 12)	四角形	長軸：1.0m、短軸：1.0m以上 深さ：12cm	—	東側は調査区外に並びる。	—	—
S K49 (A J, 15~16)	楕丸形方舟	長軸：2.4m以上、短軸：1.2m、深さ： 7cm	—	西側は調査区外に並びる。	—	—
S K50 (A J, 12)	不整形	長軸：1.3m以上、短軸：0.5m 深さ：17cm	—	S K51に並られる。東側は調査区外に 並びる。	—	—
S K51 (A H, 13)	楕丸形方舟	長軸：0.9m、短軸：0.8m、深さ：20cm	珠磨	南側・北側は調査区外に並びる。	—	—
S K52 (A J, 13)	不整形	長軸：0.9m以上、短軸：0.35m 深さ：22cm	珠磨	S K45に並れる。	—	—
S K53 (A J, 13)	不整形	从軸：1.8m以上、短軸：0.5m 深さ：25cm	—	S K50を切り、S K46に切られる。東 側は調査区外に並びる。	—	—
構造状況						
査定名	グリッド	方向	規模	出土遺物	参考	回収%
S D66 (AM, 16)	南西～北東	長さ：1.8m以上、幅：0.4m	—	南側は調査区外に並びる。	—	—
S D66 (AM, 17)	南西～北東	長さ：2.9m以下、幅：0.5~0.8m	—	南側は調査区外に並びる。	—	—
S D69 (A L, 17)	南西～北東	長さ：1.7m以上、幅：0.4m	—	西側は調査区外に並びる。	—	—
S D67 (A L, 13)	南西～北東	長さ：2.5m以上、幅：0.3m	—	S D65と合流する。北側は調査区外に 並び。	—	—
S D62 (A L, 13)	南東～北西	長さ：2.8m、幅：0.2m	土師器	S D61と合流する。S D63につながる。	—	—
S D63 (A L, 13)	南西～北東	長さ：2.1m以上、幅：0.2m	—	S D64を切る。S D63につながる。	—	—
S D65 (A J, 15~16)	北西～南東	長さ：約22m、幅：4.0m、深さ：180cm	土師器、宋磁器、珠磨、銅器、錫器、木製品	—	—	回収率2
S D66 (A L, 12~13)	南西～北北東 (鉢)	幅：0.4~0.6m	土師器、珠磨	南側・東側は調査区外に並び。区高 15cm	—	—

表3 遺物一覧

第六章 資本主義

報告書抄録

ふりがな	なかきづいせき・にしきづいせきちようさほうこく							
書名	中木津遺跡・西木津遺跡調査報告							
副署名	高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う調査							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第26冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 富山県富山市広小路7番50号 TEL 0766-20-1463							
調査担当者	根津 明義 田上 和彦 道振 弘明							
編集者	杉山 大晋 根津 明義							
発行年月日	西暦 2014年3月14日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中木津遺跡 区画整理地区	富山県 高岡市木津	016202	202149	36° 44' 06"	136° 59' 26"	100414 ～ 120316	24,967 m ²	区画整理
西木津遺跡 区画整理地区	富山県 高岡市木津	016202	202148	36° 44' 08"	136° 59' 35"	120221 ～ 120316	546 m ²	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
中木津遺跡 区画整理地区	散布地	奈良 ～ 近世	古代獨立柱建物 時期不明土坑 中世 溝状遺構 時期不明 溝状遺構	縄文土器 黒色土器 製塙土器 世上師器 記前陶磁器 斧 石鎚	土師器 須恵器 珠洲 越前 中 土鍋 打製石 金屬製品 木製品	墨書き土器 製塙土器 記前陶磁器 土鍋 打製石 金屬製品 木製品		
西木津遺跡 区画整理地区	散布地	中世 ～ 近世	時期不明土坑 中世 溝状遺構 時期不明 溝状遺構	縄文土器 土師器 須恵器 珠洲 戸美濃 肥前系陶磁器	土鍋 打製石 金屬製品 木製品	墨書き土器 土鍋 打製石 金屬製品 木製品		

高岡市埋蔵文化財調査報告第26冊 中木津遺跡・西木津遺跡調査報告

— 高岡市木津土地区画整理組合による区画整理事業に伴う調査 —

2014(平成26)年3月14日 発行

編集・発行

高岡市教育委員会

〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号
TEL 0766-20-1463

印 刷

平田印刷株式会社

〒933-0014 高岡市野村1485
TEL 0766-23-0061

